YAMAHA



DSP AVアンプ

DSP-Z9

取扱説明書



準備・接続編

本機を使用するにあたって必要な準備(設置・接続・調整)について説明しています。

ヤマハ DSP AVアンプDSP-Z9をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

安全上のご注意(安全に正しくお使いいただくために)

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例

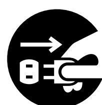

気をつけなければならない内容を表しています。
たとえば⚠は「感電注意」を示しています。


してはいけない行為を表しています。
たとえば🛇は「分解禁止」を示しています。


必ずしなければならない行為を表しています。
たとえば●は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。

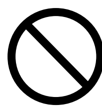

警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。


プラグを抜く

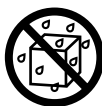
下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

● 異常なにおいや音がする。 ● 煙が出る。
● 内部に水や異物が混入した。
そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。


禁止

電源コードを傷つけない。

● 重いものを上に載せない。 ● ステープルで止めない。 ● 加工をしない。
● 熱器具には近づけない。 ● 無理な力を加えない。
芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因となります。


水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

● 浴室・台所・海岸・水辺 ● 加湿器を過度にきかせた部屋
● 雨や雪、水がかかるところ
水滴の混入により火災や感電の原因となります。


接触禁止

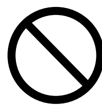
雷がなりはじめたら電源プラグには触れない。

感電の原因となります。


分解禁止

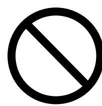
分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因となります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。


禁止

放熱のため本機を設置する際には：

● 布やテーブルクロスをかけない。 ● じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
● あおむけや横倒しには設置しない。 ● 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。
本機の内部に熱がこもり火災の原因となります。


禁止

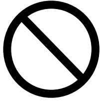
本機のACアウトレットに、指定された供給電力を超えた機器を接続しない。また、供給電力内であっても電熱器・ドライヤー・電子調理器等は接続しない。

火災の原因となります。



警告

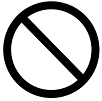
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因となります。



禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。



必ず行う

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検を依頼してください。

そのまま使用すると火災や感電の原因となります。



必ず行う

必ずAC100V(50/60Hz)の電源電圧で使用する。

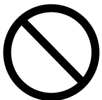
それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。



必ず行う

電源プラグのゴミやほこりは定期的にとり除く。

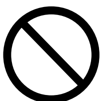
ほこりがたまったまま使用を続けるとプラグがショートして火災や感電の原因となります。



禁止

本機にものを入れたり、落としたりしない。

火災や感電の原因となります。



禁止

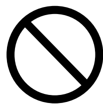
本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

- 水や異物が中に入ると、火災や感電の原因となります。
- 接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因となります。



注意

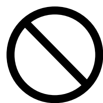
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒してけがの原因となることがあります。



禁止

直射日光のあたる場所や温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。

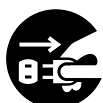
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因となることがあります。



必ず行う

再生を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。

突然大きな音が出て聴力障害等の原因となることがあります。



プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

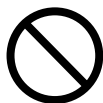
火災や感電の原因となることがあります。



ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

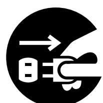
感電の原因となることがあります。



禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

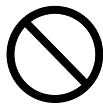
コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。



プラグを抜く

移動をするときには、本機(または接続機器)の電源スイッチを切り、すべての接続をはずす。

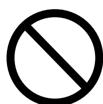
- 接続機器が落下や転倒してけがの原因となることがあります。
- コードが傷つき火災や感電の原因となることがあります。



禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。



禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。

聴力障害の原因となることがあります。

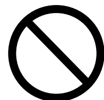


注意

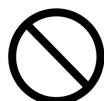
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。


必ず行う

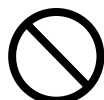
電池は極性表示(プラス⊕とマイナス⊖)に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。


禁止

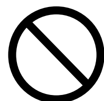
指定以外の電池は使用しない。また種類の異なる電池や新しい電池と古い電池をいっしょに混ぜて使用しない。
破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。


禁止

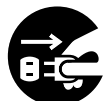
電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。


禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。


禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となることがあります。


プラグを抜く

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜いて行う。
感電の原因となることがあります。


注意

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。
それらの製品とはできるだけ離して設置してください。


必ず行う

必ず付属の専用電源コードを使用する。
専用コード以外の使用は、火災や感電の原因となることがあります。

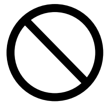

必ず行う

電源プラグはコンセントに根もとまで確実に差し込む。
差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因となることがあります。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



禁止

電源プラグを差し込んだときゆるみがあるコンセントは使用しない。

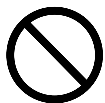
感電や発熱・火災の原因となることがあります。



注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れたまましばらく放置してください。



禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。



注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご依頼ください。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因となることがあります。



必ず行う

重いので、開梱や持ち運びは必ず2人以上で行う。

けがの原因となることがあります。



音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。



ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」、「Surround EX」およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。



DTS、DTS-ES Extended Surround、Neo:6およびDTS 96/24はデジタルシアターシステムズの登録商標です。



AACロゴマークはドルビーラボラトリーズの商標です。以下はパテントナンバーです。

08/937,95	5,583,962	98/03037	08/039,478	5,490,170
5848391	5,274,740	97/02875	08/211,547	5,264,846
5,291,557	5,633,981	97/02874	5,703,999	5,268,685
5,451,954	5 297 236	98/03036	08/557,046	5,375,189
5 400 433	4,914,701	5,227,788	08/894,844	5,581,654
5,222,189	5,235,671	5,285,498	5,299,238	05-183,988
5,357,594	07/640,550	5,481,614	5,299,239	5,548,574
5 752 225	5,579,430	5,592,584	5,299,240	08/506,729
5,394,473	08/678,666	5,781,888	5,197,087	



THXとTHXロゴはTHXの登録商標です。サラウンドEXはTHXとドルビーラボラトリーズの共同開発による技術で、ドルビーラボラトリーズの商標です。不許複製。許可のもとに使用されています。



DCDiはGenesis Microchip社の事業部門であるFaroudjaの登録商標です。

i.LINKとi.LINKロゴはソニー株式会社の商標です。

「サイレントシアター/SILENT THEATER」はヤマハ株式会社の登録商標です。

もくじ

はじめに

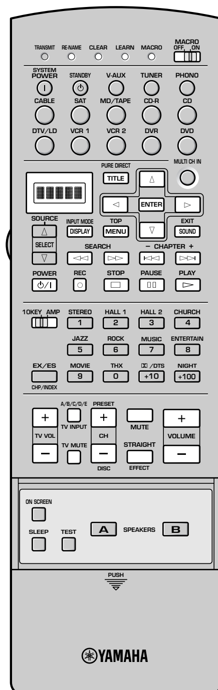
接続する

接続後の基本設定

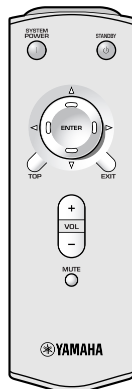
付属品を確認する

同梱されている付属品を確認してください。

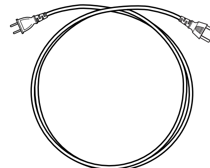
リモコン



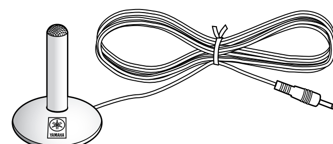
GUIリモコン



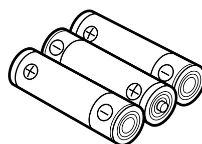
電源コード



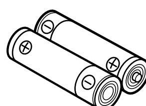
オプティマイザーマイク



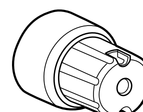
単3乾電池×3本



単4乾電池×2本



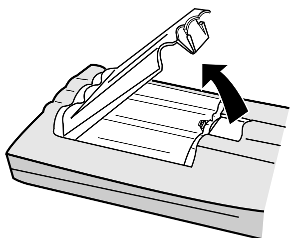
スピーカーターミナルレンチ



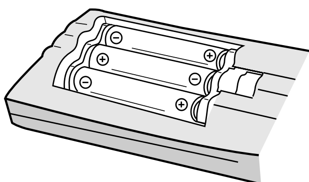
リモコンを準備する

リモコンに電池を入れる

1 リモコンの裏蓋を開ける

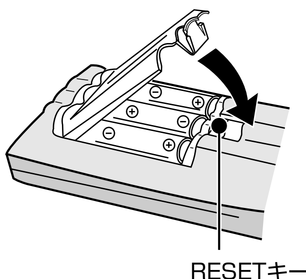


2 付属の単3乾電池(3本)を、リモコンの電池ケース内の表示に合わせて、プラス(+)とマイナス(−)の向きを間違えないように、正しく入れる



3 裏蓋をカチッと音がするまで押して、閉じる

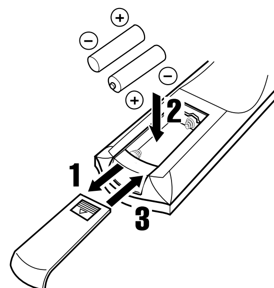
乾電池を交換したときは、RESETキーを押してから、裏蓋を閉じます。



ご注意

- リモコンで操作しづらくなったり、キーを押してもTRANSMITインジケーターが光らない場合は、乾電池が消耗しています。このような場合は、すべての乾電池を新しいものに変えてください。

GUIリモコンに電池を入れる



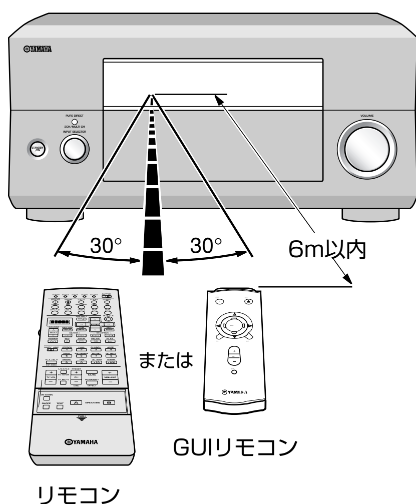
1 GUIリモコンの裏蓋を開ける

2 付属の単4乾電池(2本)を、リモコンの電池ケース内の表示に合わせて、プラス(+)とマイナス(−)の向きを間違えないように、正しく入れる

3 裏蓋をカチッと音がするまで押して、閉じる

リモコンの使用範囲

リモコンは直進性の強い赤外線を使用しています。本体のリモコン受光窓に向けて正しく操作してください。



ヒント

- リモコンでうまく操作ができないときは、以下のことを確認してください。
  －本体のリモコン受光窓が、布などで覆われていませんか？
  →布などを取り除いてください。
  －本体のリモコン受光窓に、直射日光や強い照明(インバーター蛍光灯など)が当たっていませんか？
  →照明の向きを変えるか、本体を置く場所を変えてください。
  －乾電池が消耗しています。
  →すべての電池を新しいものに変えてください。

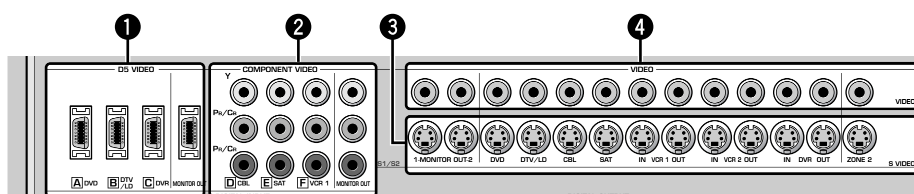
ご注意

- 新しい乾電池と、古い乾電池を混ぜて使わないでください。
- 乾電池には、形状が同じでも性能が異なるものがあります。種類の異なる乾電池(アルカリとマンガンなど)を混ぜて使わないでください。
- 水やお茶をこぼしたり、落としたりしないでください。
- 冷暖房器具のそばなど、極端に温度が低くなったり高くなるところや、風呂場など、湿度が高くなるところには置かないでください。
- 乾電池が液漏れした場合は、液に触れないよう注意して破棄してください。液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。

接続の基礎知識

ビデオ端子について

本機は4種類のビデオ端子を装備しています。



❶ D5ビデオ端子
コンポーネントビデオ信号とコントロール信号(走査線、アスペクト比などの情報)を伝送します。

❷ コンポーネントビデオ端子
コンポーネントビデオ信号を伝送します。

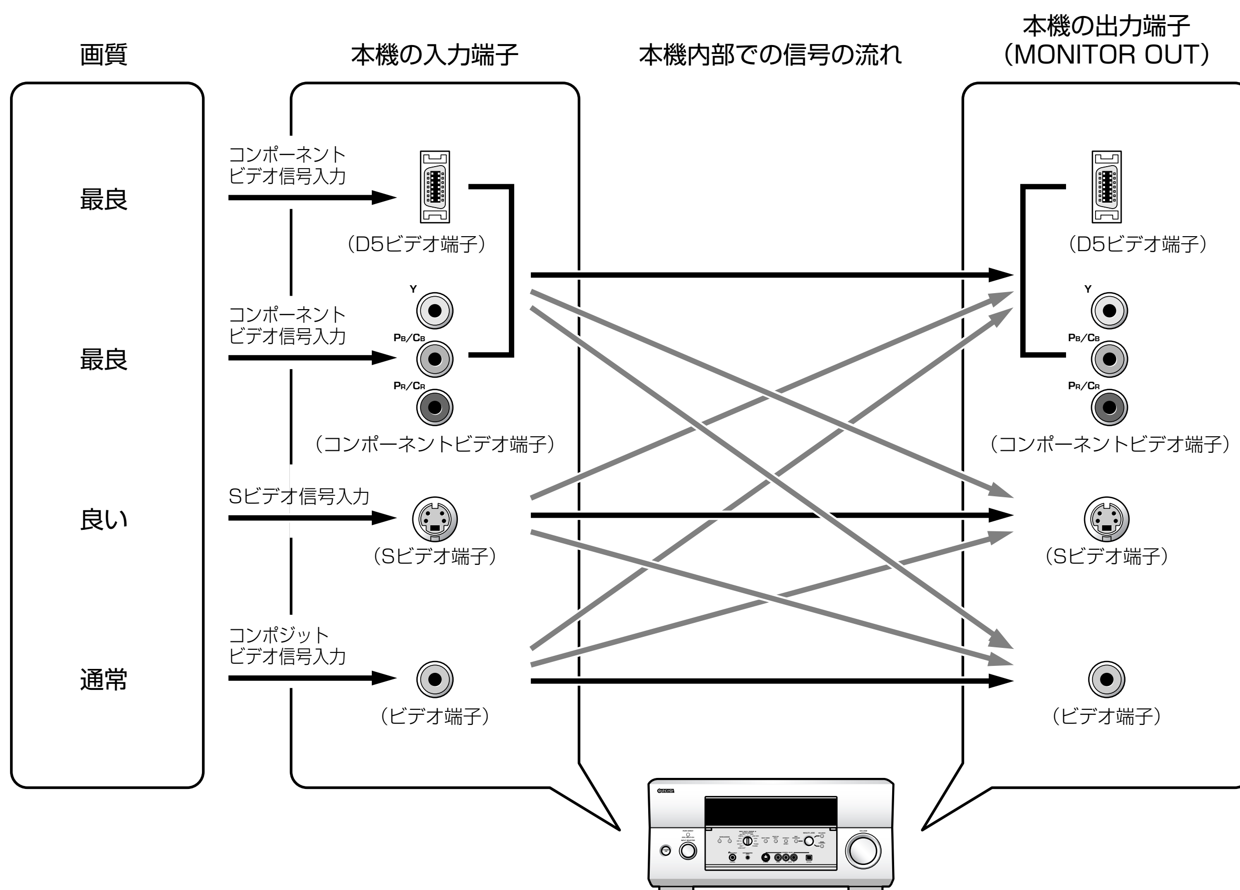
❸ Sビデオ端子
Sビデオ信号を伝送します。

❹ ビデオ端子
コンポジットビデオ信号を伝送します。

ご注意
- すべての端子に同時に接続している場合、コンポーネントビデオ端子に入力された信号が最優先で出力されます。

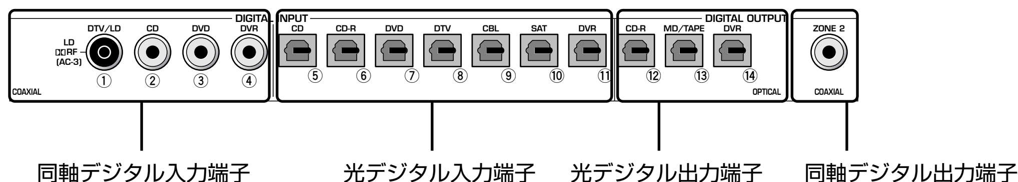
ビデオコンバージョン機能

本機では、入力されたコンポジットビデオ信号、Sビデオ信号、コンポーネントビデオ信号(解像度が480i/576iのときのみ)を相互に変換します。MONITOR OUT端子とテレビを、どれかひとつの形式のケーブルで接続すれば、どのようなフォーマットの信号が入力されても、テレビ側で入力を切り替えることなく、映像を楽しめます。



デジタル端子について

本機は、デジタル信号を直接伝送できるデジタル端子(COAXIAL：同軸/OPTICAL：光)を装備しています。



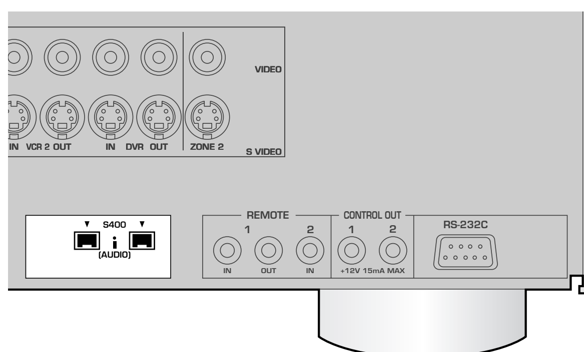
- デジタル端子は、PCM、ドルビーデジタル、DTS、AAC兼用です。
- 同軸デジタル入力端子と光デジタル入力端子に、同時にデジタル信号が入力されると、同軸デジタル入力端子に入力されたデジタル信号が優先されます。
- 本機のデジタル入力端子は、以下のサンプリング周波数に対応しています（192kHzは同軸デジタル入力端子のみ対応）。
  - －32kHz：　BSアナログ放送(Aモード)
  - －44.1kHz：　CD、MD、DVDオーディオ
  - －48kHz：　DVD、DVDオーディオ、BSアナログ放送(Bモード)、BSデジタル放送
  - －88.2kHz：　DVDオーディオ
  - －96kHz：　DVD(PCM 96kHz)、DVDオーディオ
  - －192kHz：　DVDオーディオ
- 本機のデジタル信号回路とアナログ信号回路は独立しています。デジタル入力端子に入力されたデジタル信号は、デジタル出力端子からのみ出力されます。

ご注意

- 本機の光デジタル端子は、EIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファイバーケーブルを使うと、正常に動作しないことがあります。

i.LINK端子について

本機には、2チャンネルPCM信号やマルチチャンネルの圧縮オーディオ信号に加え、DVDオーディオ/スーパーオーディオCDのマルチチャンネル音声をデジタルで伝送できるi.LINK端子を装備しています。



- i.LINKは接続した機器との双方向のデータ転送が可能なインターフェースです。本機には2つのi.LINK端子が装備されていますが、入力/出力の区別はありませんので、どちらに接続しても同じはたらきをします。
- 本機のi.LINK端子は、4ピン形状です。
- 本機のi.LINK端子は、最大400Mbpsのデータ転送速度に対応しています。

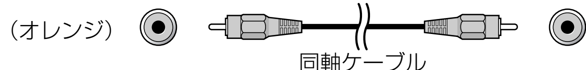
i.LINK機器の接続の詳しい解説については、応用操作編83ページをご覧ください。

接続に使うケーブルの種類

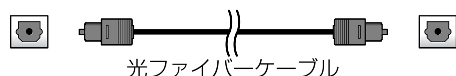
お使いになる機器に合わせて、ケーブルをご用意ください。

音　声

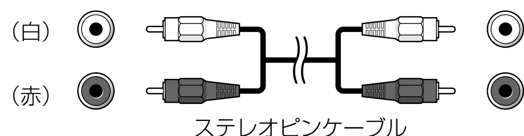
同軸デジタル端子



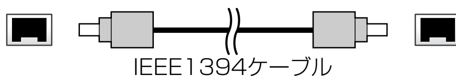
光デジタル端子



アナログ端子

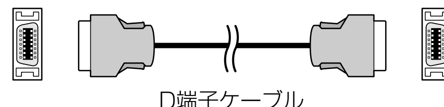


i.LINK端子

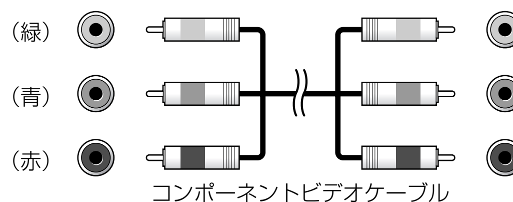


映　像

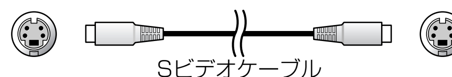
D端子



コンポーネントビデオ端子



Sビデオ端子



ビデオ端子



ご注意

- 接続する前に、本機および接続する機器の電源コードが、ACコンセントに接続されていないことを確認してください。

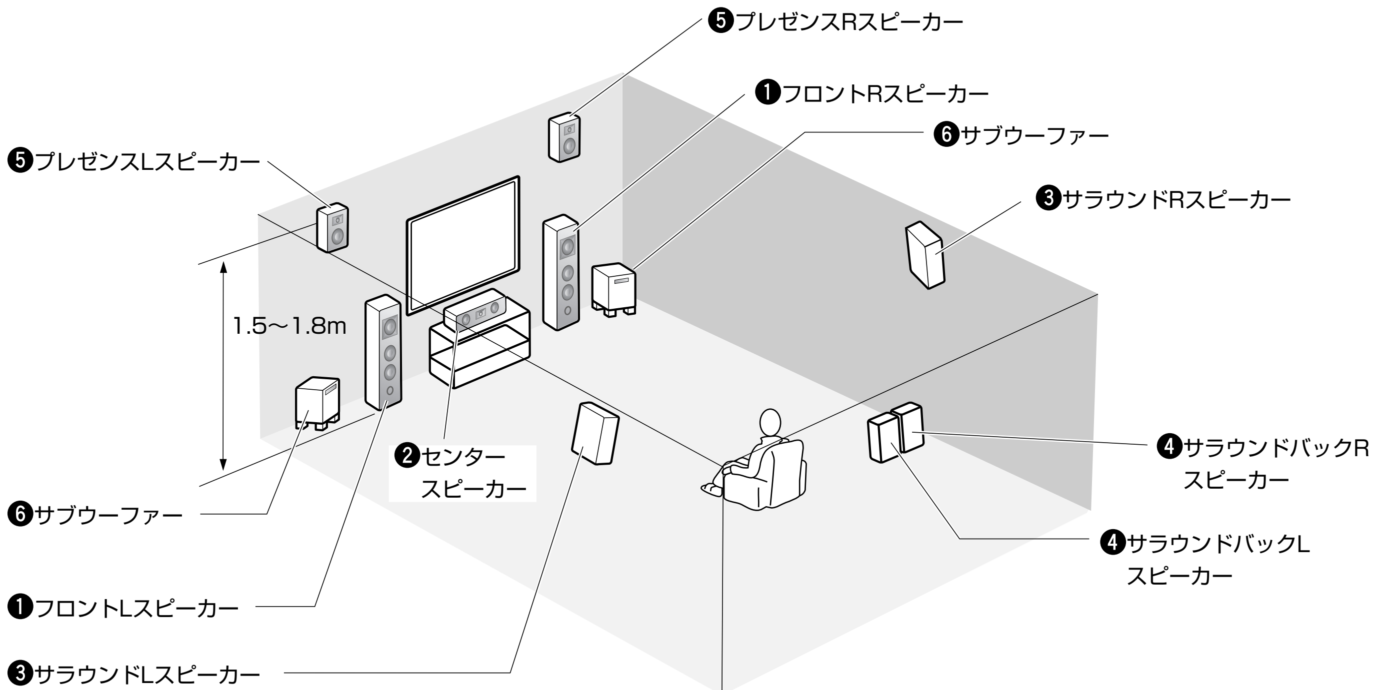
スピーカーを接続する

スピーカーを設置する

スピーカーは下図のように設置します。

ご注意

- スピーカーは防磁型スピーカーをご使用ください。防磁型以外のスピーカーをご使用になりますと、テレビの画像が乱れる場合があります。特に画面近くに設置するセンタースピーカーやサブウーファーには、防磁型スピーカーの使用をおすすめします。防磁型スピーカーをご使用の場合でも画像が乱れるときは、テレビとスピーカーを離して設置してください。



❶ フロントL/Rスピーカー

左右のスピーカーを、リスニングポジションから等距離に設置します。
スクリーンをお使いの場合は、スクリーンの下辺から1/4位の高さが適当です。

❷ センタースピーカー

フロントL/Rスピーカーの中間に設置します。
スクリーンをお使いの場合は、スクリーンと真下中央に設置します。
テレビをお使いの場合は、画面とスピーカー前面とを揃えます。テレビの上や下など、できるだけ画面に近いところに設置します。

❸ サラウンドL/Rスピーカー

後方斜めに、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床から1.5～1.8mの高さで設置します。

❹ サラウンドバックL/Rスピーカー

リスニングポジションの後方に、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床から1.5～1.8mの高さで設置します。2本のサラウンドバックL/Rスピーカーを設置する場合は、2本を近づけて設置します。

❺ プレゼンスL/Rスピーカー

フロントL/Rスピーカーの外側0.5～1mの範囲に、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床から1.5～1.8mの高さで設置します。

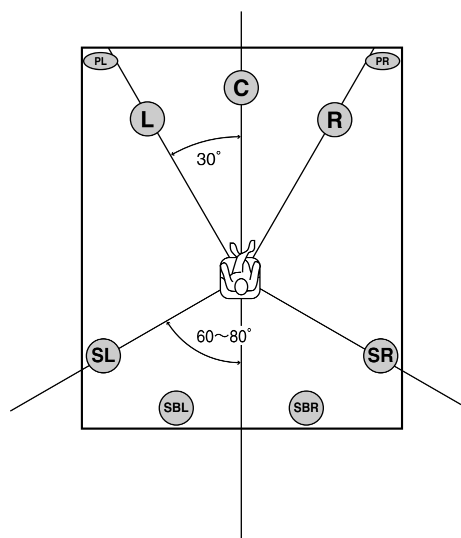
❻ サブウーファー

フロント側に設置する場合は、フロントL/Rスピーカーの外側に設置します。壁の反射を防ぐために、少し内向きにして設置します。
リア側に設置する場合は、リスニングポジションの後方に設置します。

スピーカーシステムの構成

ムービーシアタープログラムでは、70mmマルチトラックの迫力と臨場感をリアルに再現し、会話は画面上に定位し、効果音は画面後方、音楽はさらにその後方に広がりを持って再現されます。
右図は最も本機の性能を発揮できるスピーカー配置を示したもので、*ITU-R基準配置に対応しています。シネマDSPの音場効果から、DVDオーディオやスーパーオーディオCDなどのマルチチャンネルオーディオ、THXサラウンドモード再生までお楽しみいただけます。

* ITU-R基準配置：マルチチャンネルオーディオのミキシングスタジオで採用されている、国際的な基準配置です。

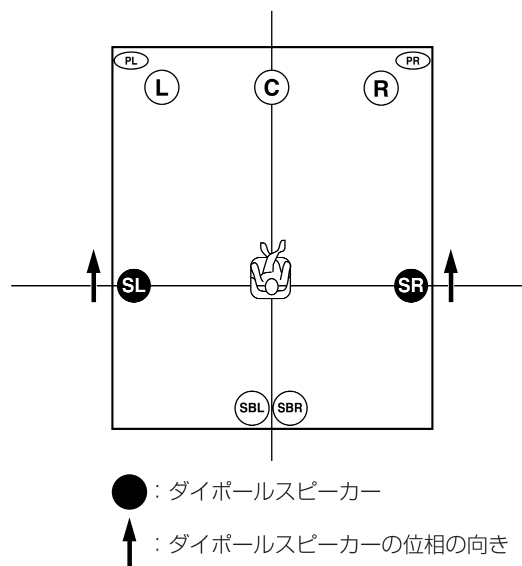


使用するスピーカー

- フロントL/Rスピーカー(L/R)
- センタースピーカー(C)
- プレゼンスL/Rスピーカー(PL/PR)
- サラウンドL/Rスピーカー(SL/SR)
- サラウンドバックL/Rスピーカー(SBL/SBR)

ダイポールスピーカーの使用例

ダイポールスピーカーを使用して、THXサラウンドモードで再生する場合は右図のように配置してください。



使用するスピーカー

- フロントL/Rスピーカー(L/R)
- センタースピーカー(C)
- サラウンドL/Rスピーカー(SL/SR)
- サラウンドバックL/Rスピーカー(SBL/SBR)

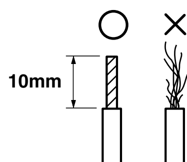
スピーカーを接続する

スピーカーケーブルを接続する

左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、＋(赤)、－(黒)をよく確認して、正しく接続してください。

1 スピーカーケーブル先端の絶縁部(被覆)を、10mmぐらいはがす

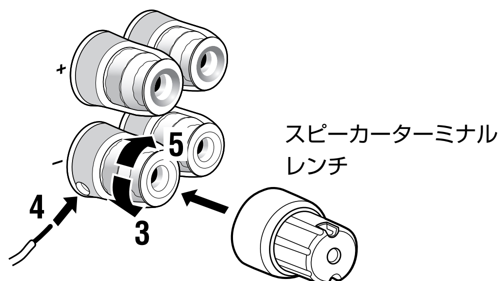
2 芯線をしっかりよじる



3 スピーカー端子を左に回して、ゆるめる

4 スピーカー端子の穴に、スピーカーケーブルの芯線を差し込む

5 スピーカー端子を右に回して、しめる



ヒント

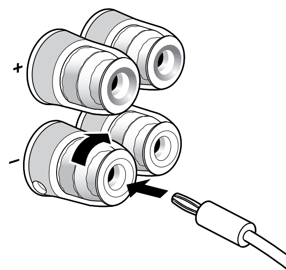
- 付属のスピーカーターミナルレンチを使うと、端子を回しやすくなります。

ご注意

- スピーカーは、インピーダンスが6Ω以上のものを使ってください。フロントL/RスピーカーをA、B同時に鳴らす場合は、1台につき12Ω以上のものを使ってください。
- スピーカーコードの芯線はしっかりよじり、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルに接触したり、＋側と－側が接触すると、保護回路がはたらいて電源がスタンバイ状態になることがあります。
- スピーカーと本機の＋端子どうし、－端子どうしを接続してください。間違えて接続すると、音が不自然になります。

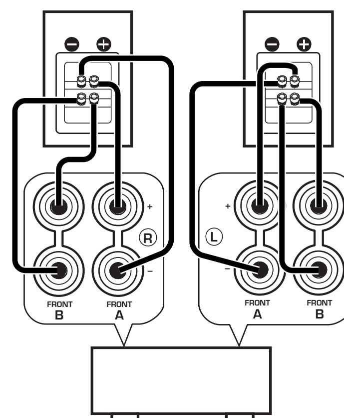
バナナプラグを使用する場合

端子を強くしめてから差し込んでください。



バイワイヤリング接続する場合

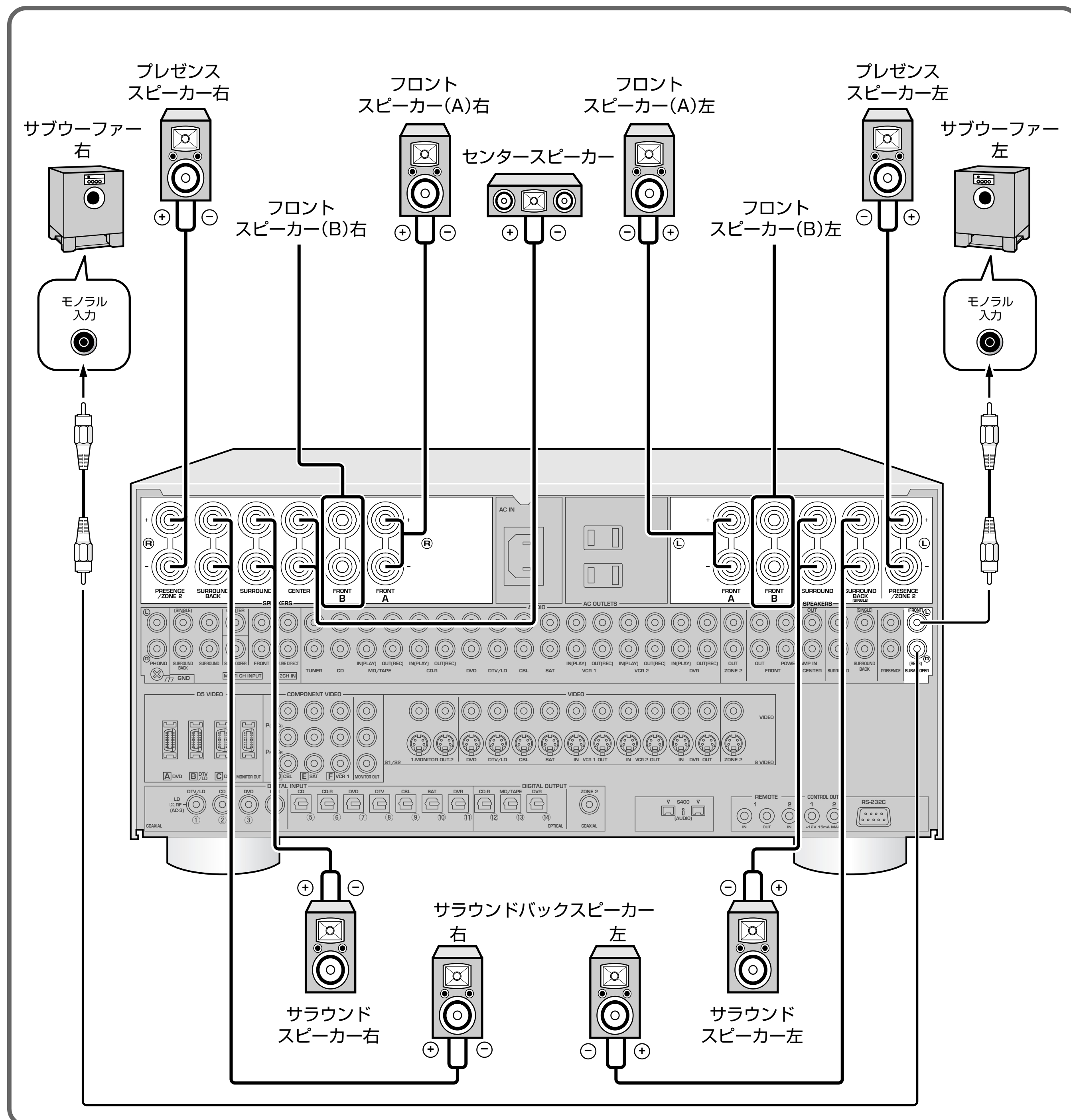
スピーカーのウーファー端子とツィーター端子を、それぞれFRONT A端子とFRONT B端子に接続します。
ご使用になるときは、SPEAKER A/Bスイッチを両方押してください。



サブウーファーを接続する

ヤマハ・アクティブサーボ・サブウーファーシステムなどの、アンプ内蔵サブウーファーを使用するときは、SUBWOOFER端子に接続します。1台のみ接続するときは、SUBWOOFER(L)端子に接続します。

下図のように、スピーカーを接続します。

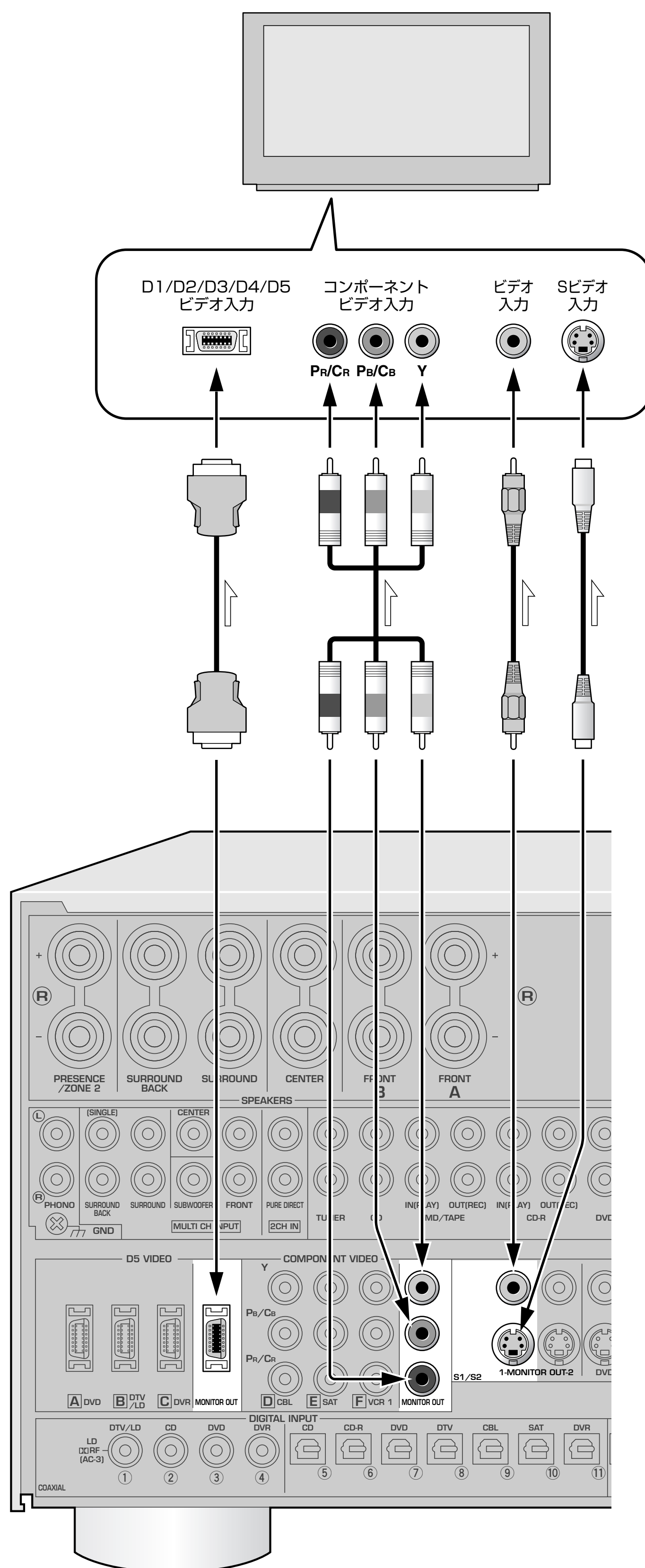


ヒント

- フロントL/Rスピーカーを2組設置したい場合や、1組を別の部屋に置いて音声を楽しみたい場合は、FRONT B端子にもう1組フロントL/Rスピーカーを接続できます。
- サラウンドバックスピーカーを1台のみ使う場合は、SURROUND BACK(SINGLE)端子に接続してください。
- サブウーファーを前後に設置して使う場合は、前側のサブウーファーをSUBWOOFER(FRONT)端子に、後側のサブウーファーをSUBWOOFER(REAR)端子に接続してください。
- PRESENCE/ZONE2端子には、ゾーン2専用スピーカーを接続することもできます（応用操作編80ページ）。

テレビを接続する

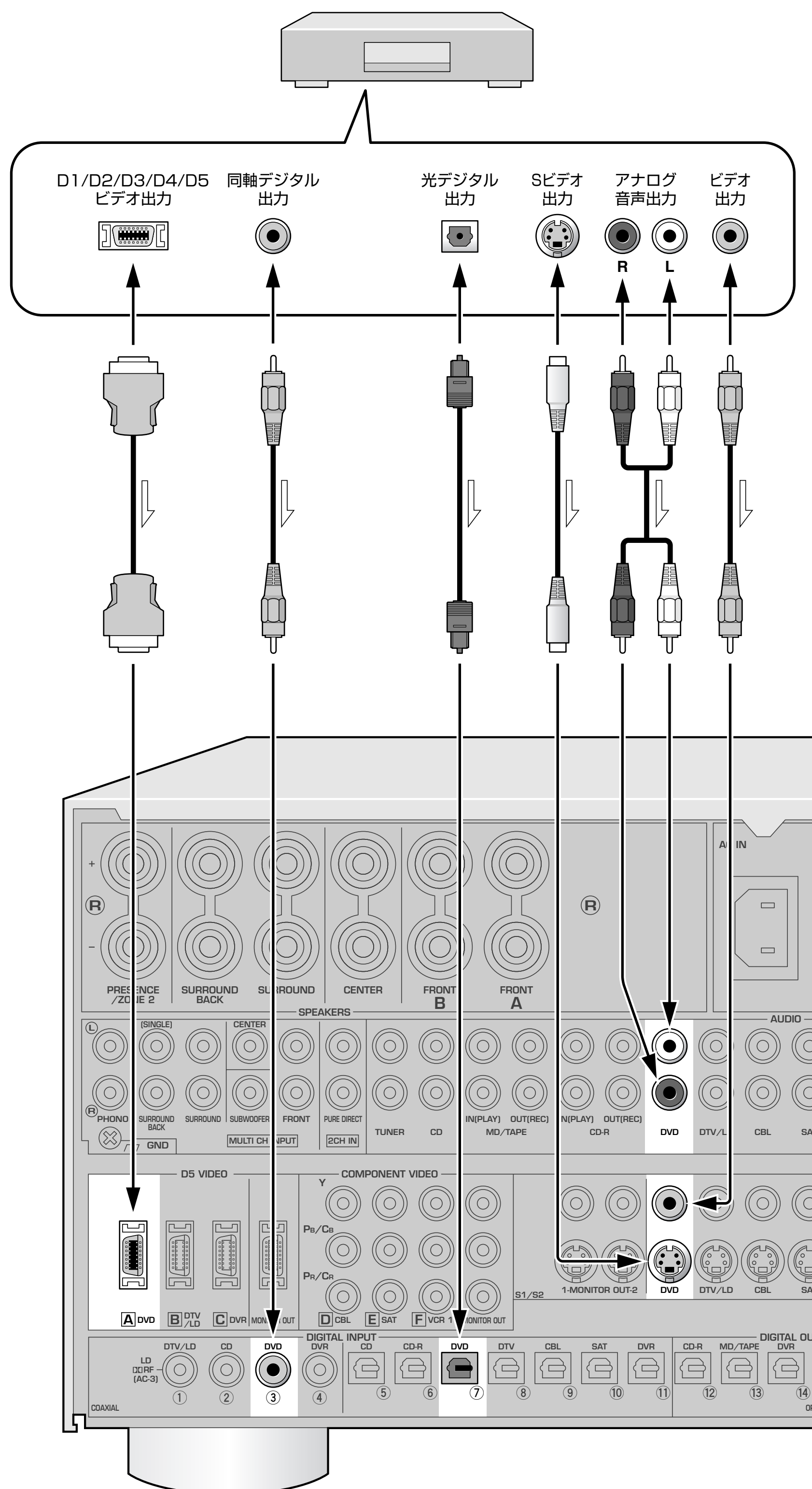
お使いになるテレビに合わせて、下記のうちひとつを選んで接続してください。



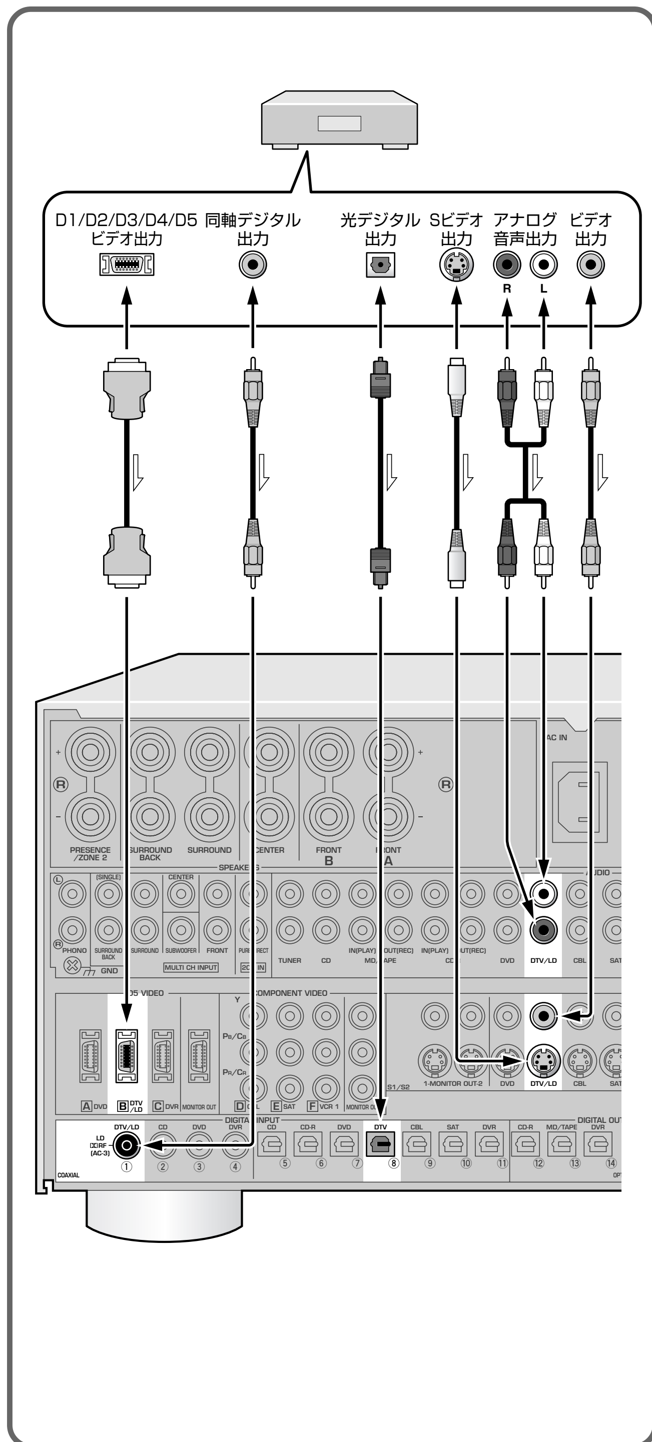
再生機器を接続する

- 左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、入力(IN)、出力(OUT)をよく確認して、正しく接続してください。
- ひとつの機器を示されているすべてのケーブルで接続する必要はありません。映像信号の接続に1種類、音声信号の接続に1種類を選んで接続してください。

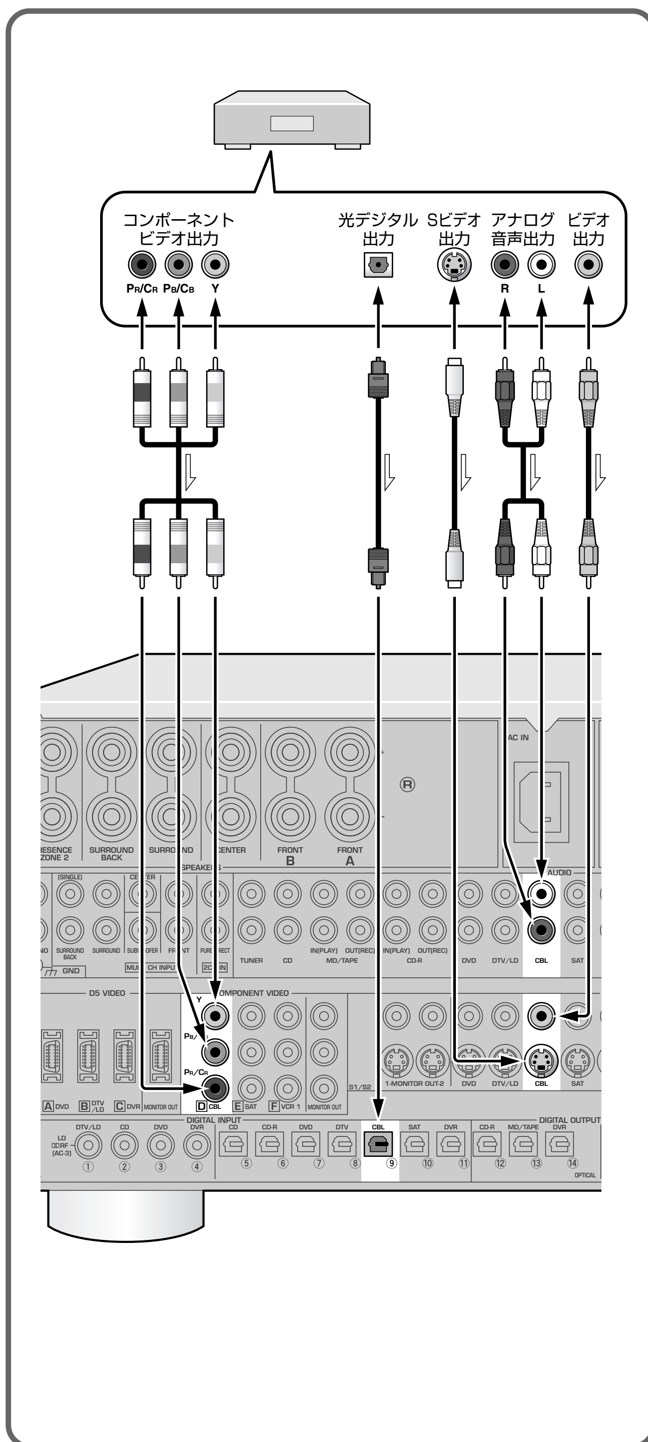
DVDプレーヤーを接続する



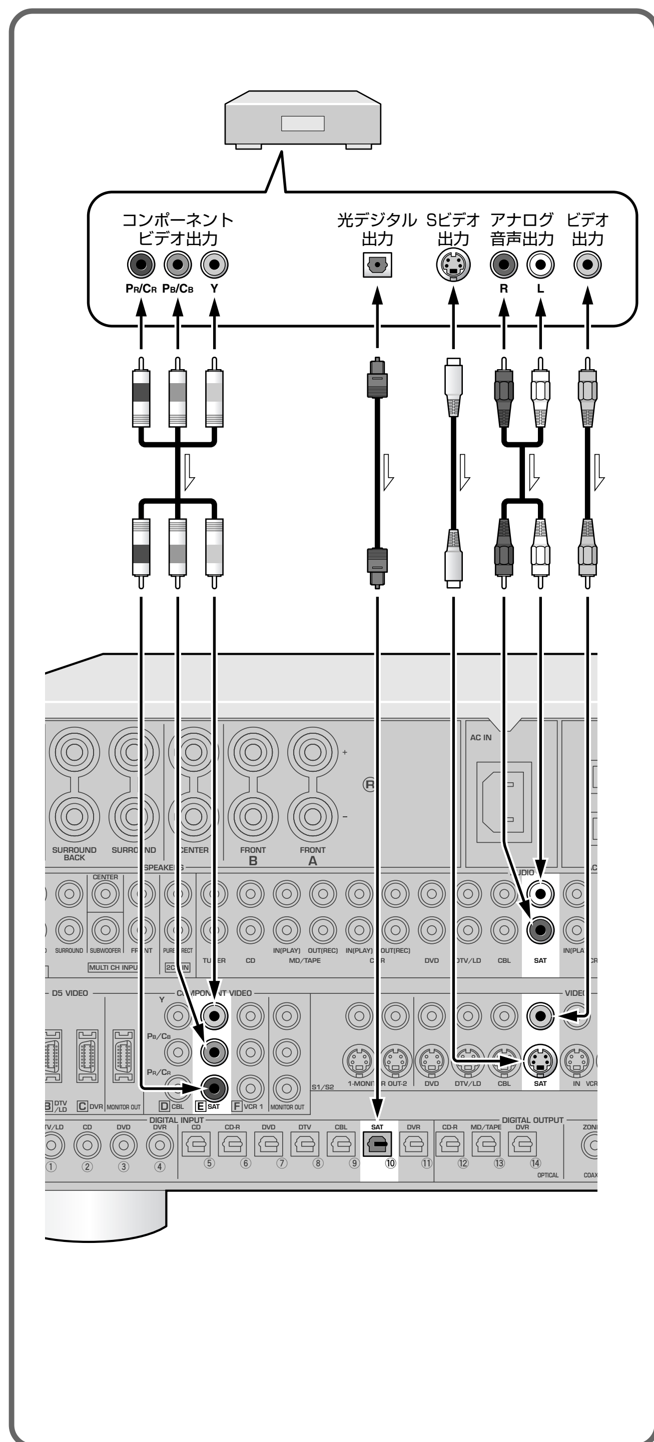
デジタルTVチューナーを接続する



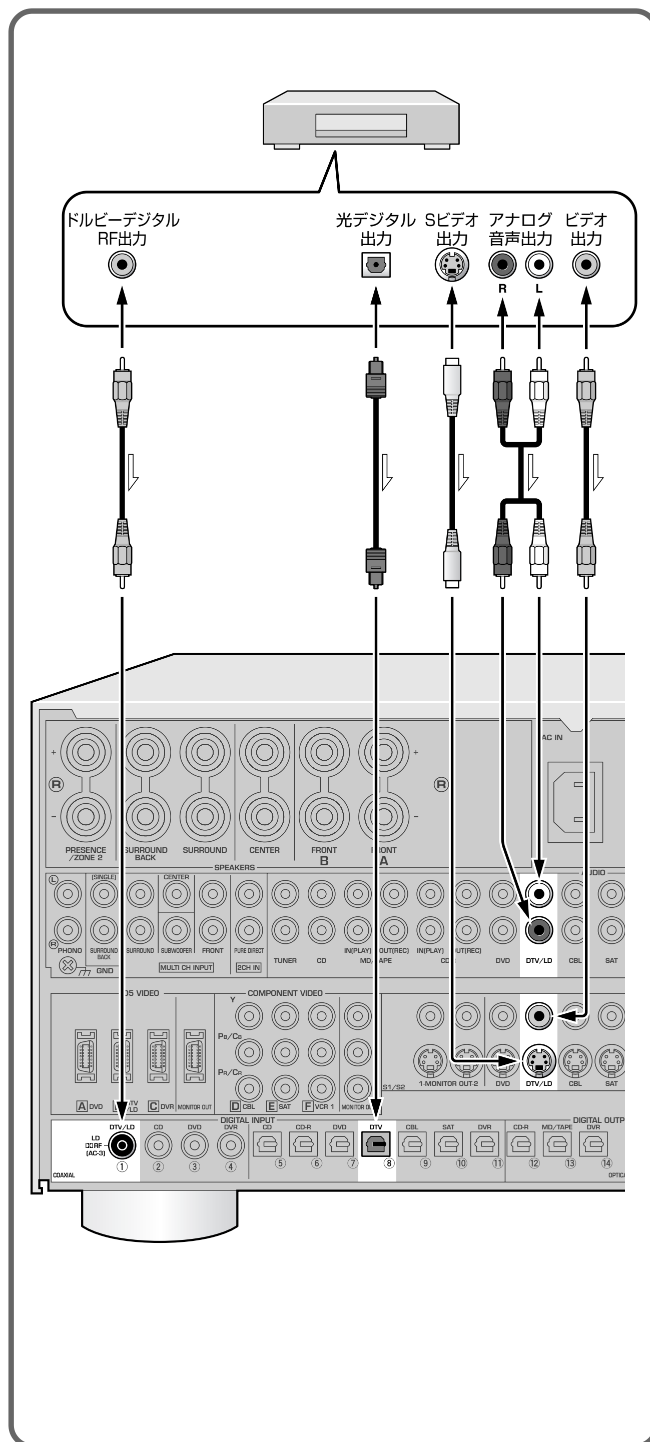
ケーブルTVチューナーを接続する



衛星放送チューナーを接続する



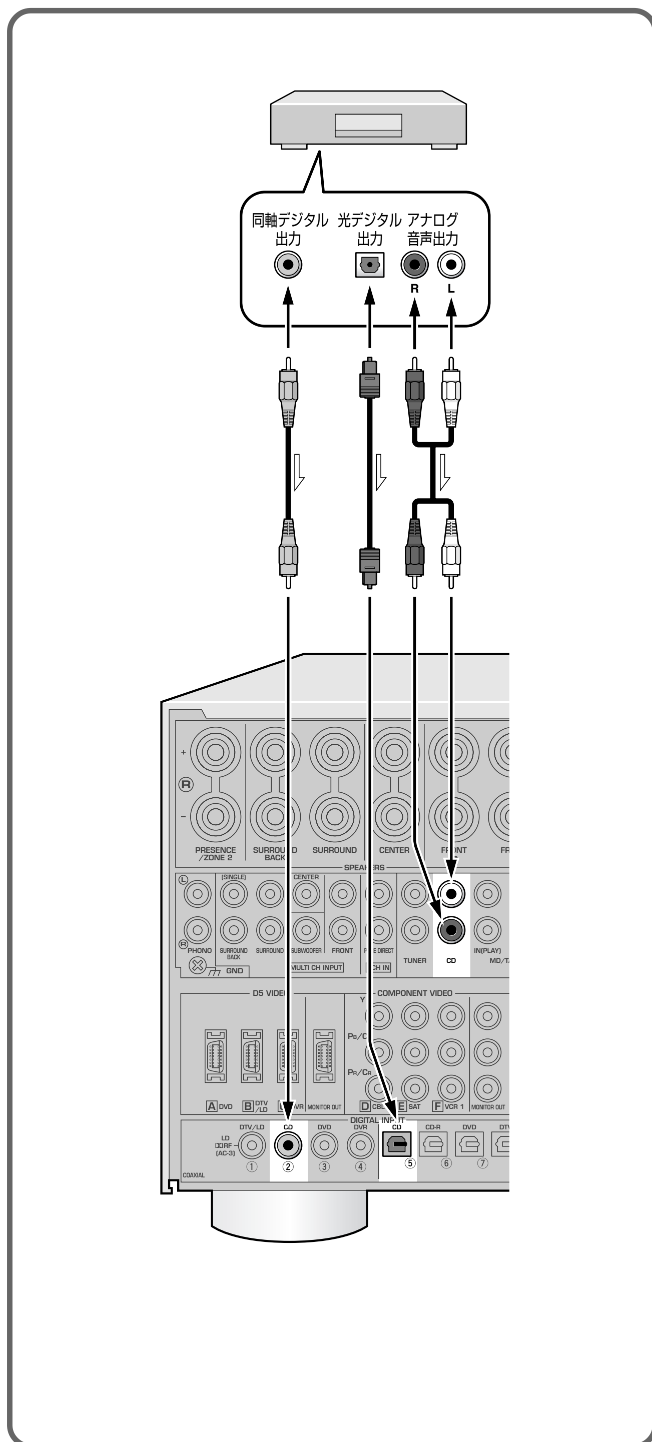
LDプレーヤーを接続する



ヒント

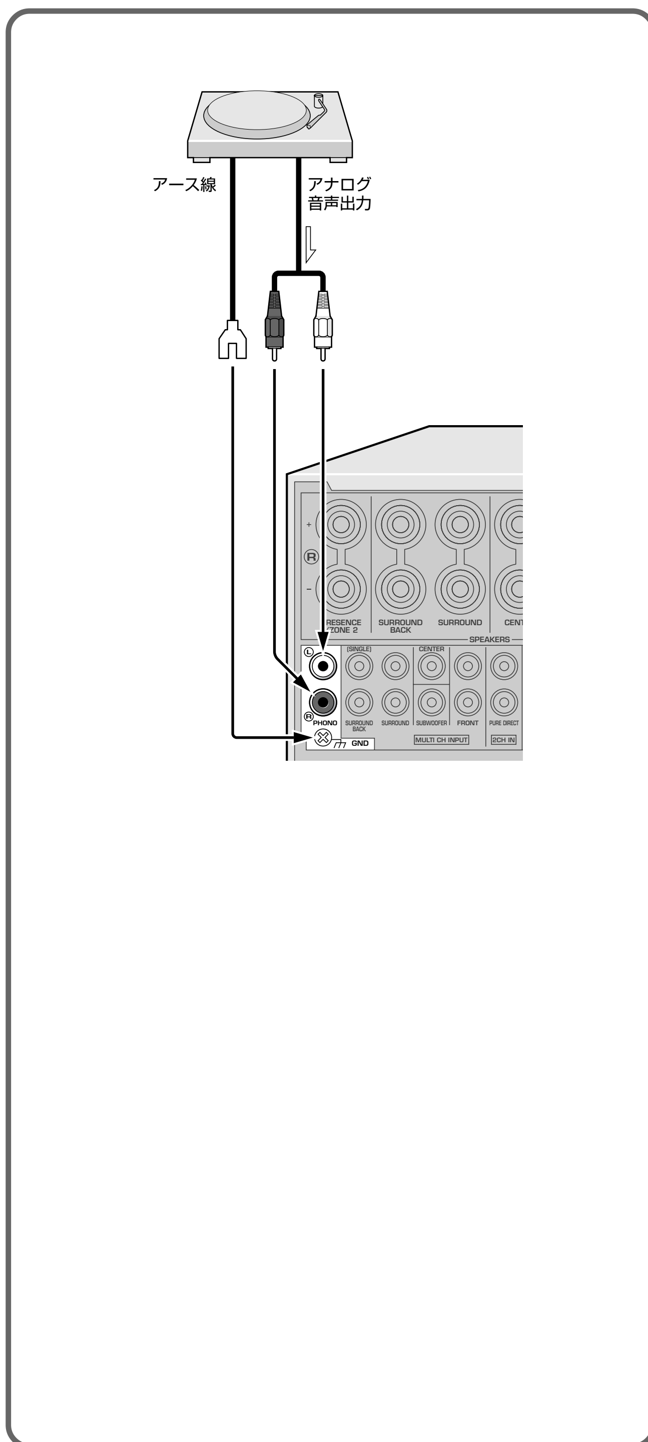
- LDプレーヤーのドルビーデジタルRF出力端子を接続して、ドルビーデジタルRF信号を入力する場合は、同軸デジタル入力端子（DTV/LD）の割り当てを「LD-RF」に指定する必要があります（応用操作編45ページ）。

CDプレーヤーを接続する



ピュアダイレクトモード（応用操作編18ページ）で、高音質な再生を楽しむ場合は、お手持ちのCDプレーヤーを2CH IN端子に接続します（28ページ）。

レコードプレーヤーを接続する

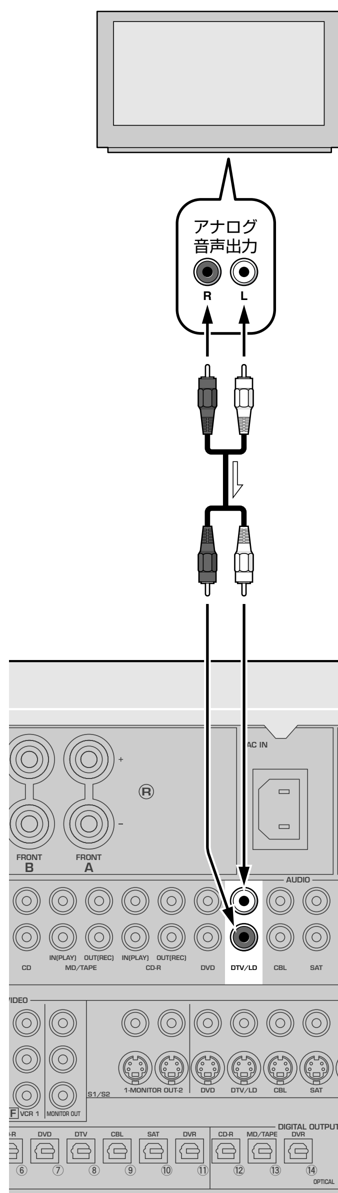


低出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続するときは、昇圧トランスまたはMCヘッドアンプを使って接続します。

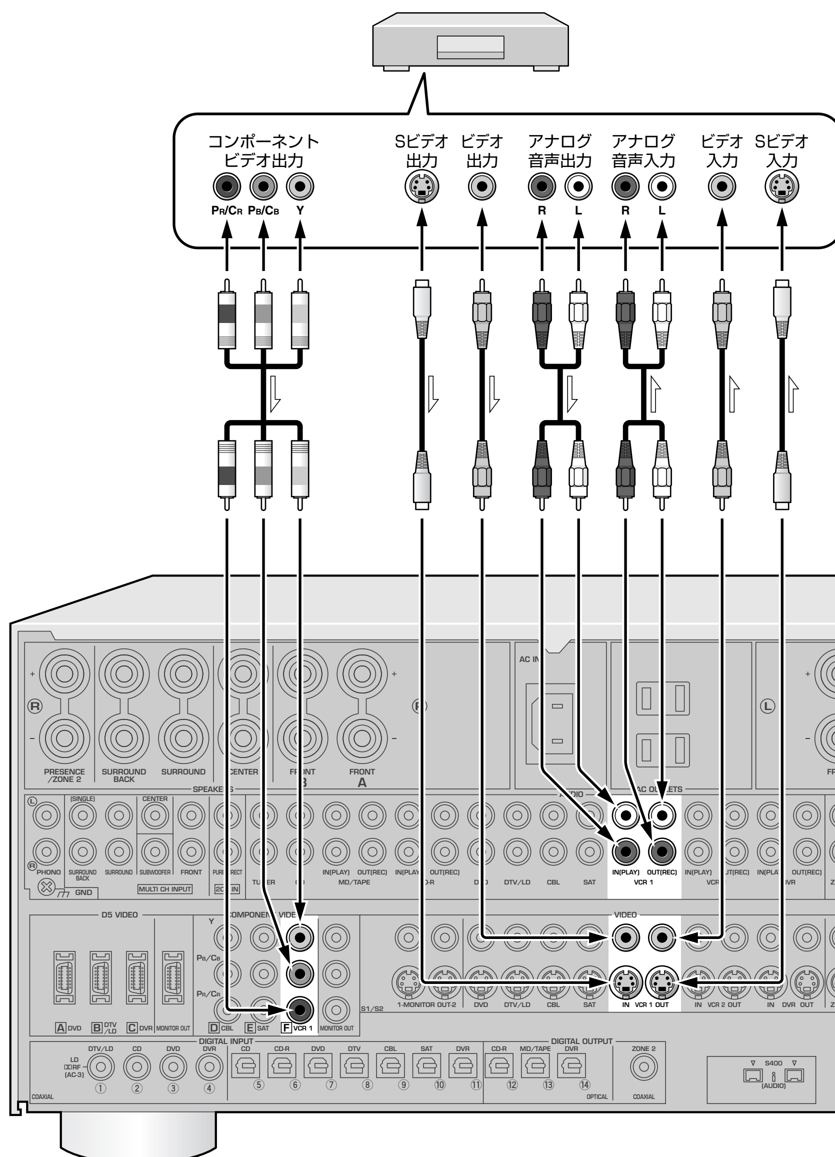
ご注意

- SIGNAL GND端子は安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減することができます。

テレビ(音声)を接続する


アナログ
音声出力
R
L
AC IN
FRONT
B
FRONT
A
AUDIO
CD
IN(PLAY)
OUT(REC)
MD/TAPE
IN(PLAY)
OUT(REC)
CD-R
DVD
DTV/LD
CBL
SAT
VIDEO
VCR 1
MONITOR OUT
S1/S2
1-MONITOR OUT-2
DVD
DTV/LD
CBL
SAT
DIGITAL OUTPUT
DVD
DTV
CBL
SAT
DVR
CD-R
MD/TAPE
DVR
OPTICAL

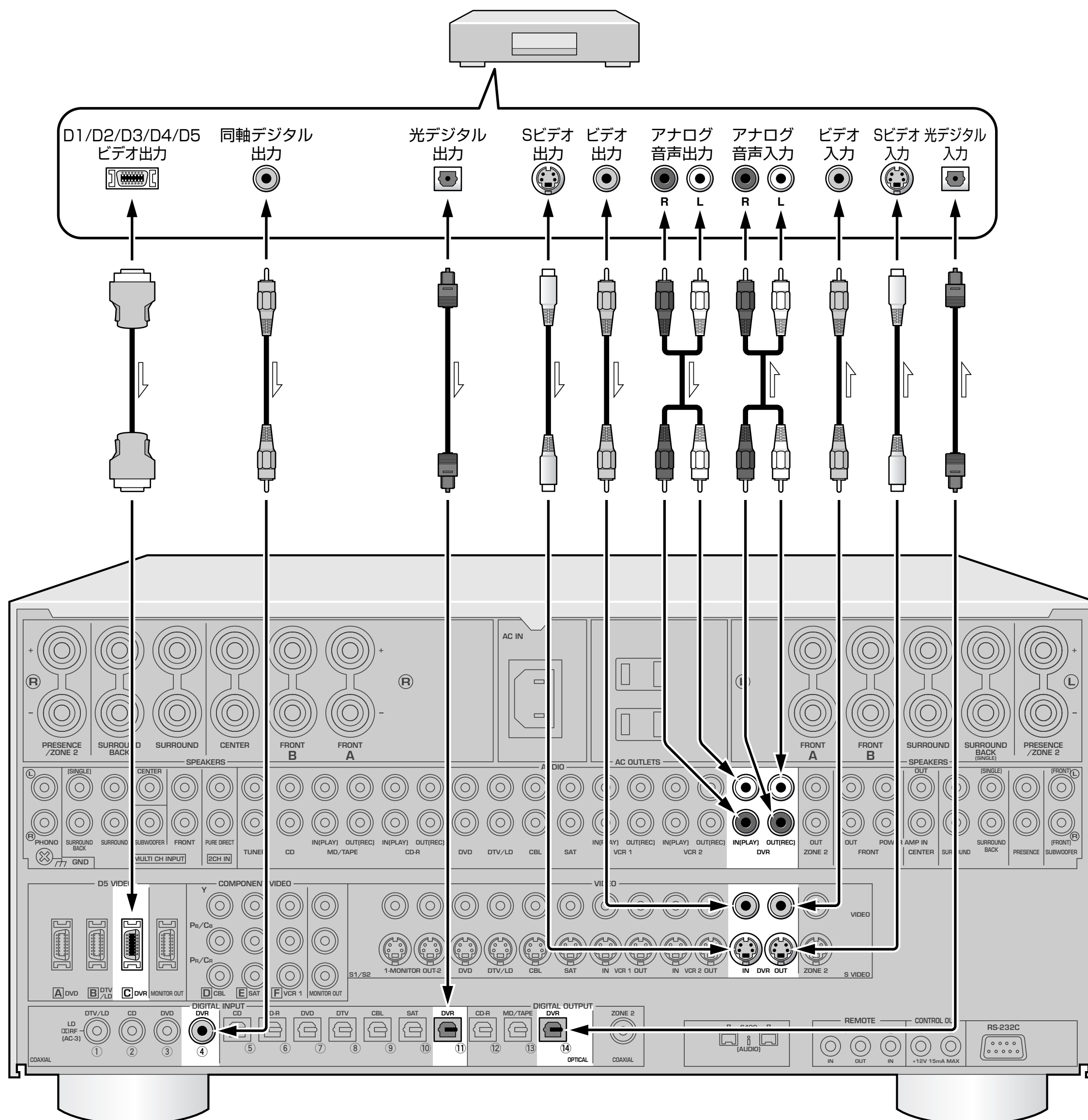
ビデオデッキを接続する



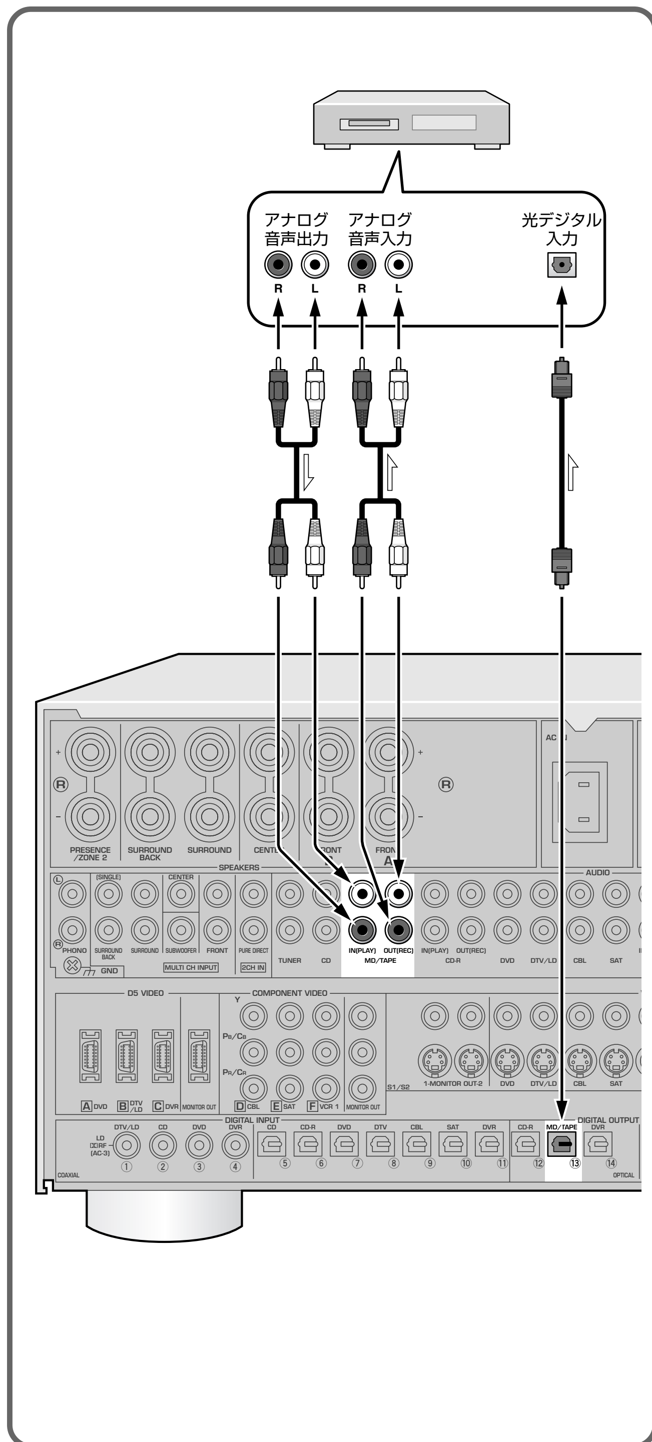


• VCR 2端子を使って、2台目のビデオデッキを接続することもできます。

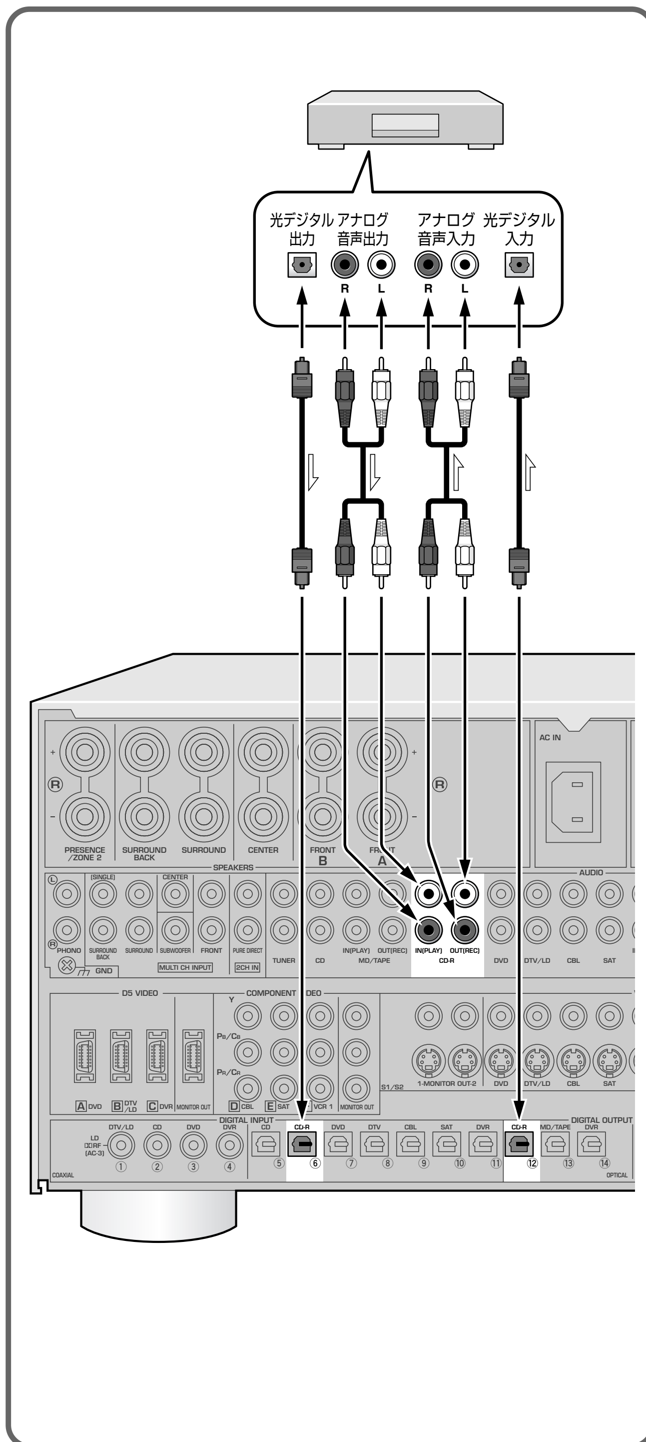
DVDレコーダーを接続する



MDレコーダー/テープデッキを接続する



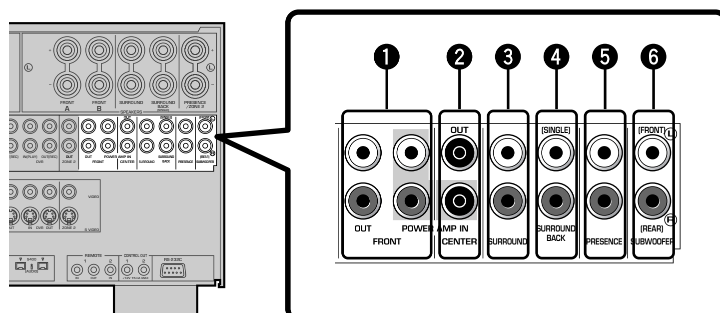
CDレコーダーを接続する



他の機器を接続する

他のアンプを接続する

スピーカー出力をパワーアップするために外部パワーアンプ(プリメインアンプ)を使う場合や、お手持ちのアンプを使う場合などは、PREOUT/MAIN IN端子と接続します。アンプ内蔵のサブウーファーは、SUBWOOFER端子に接続します。



❶ FRONT OUT端子
フロントL/Rチャンネルの出力端子です。外部パワーアンプを接続して、フロントL/Rスピーカーを駆動させる場合に使います。

FRONT IN端子
本機のフロント用パワーアンプの入力端子です。この端子を使うと、本機のフロント用プリアンプ部とメインアンプ部が切り離されます。

❷ CENTER OUT端子
センターチャンネルの出力端子です。外部パワーアンプを接続して、センタースピーカーを駆動させる場合に使います。

CENTER IN端子
本機のセンター用パワーアンプの入力端子です。この端子を使うと、本機のフロント用プリアンプ部とメインアンプ部が切り離されます。

❸ SURROUND端子
サラウンドL/Rチャンネルの出力端子です。外部パワーアンプを接続して、サラウンドL/Rスピーカーを駆動させる場合に使います。

❹ SURROUND BACK端子
サラウンドバックL/Rチャンネルの出力端子です。外部パワーアンプを接続して、サラウンドバックL/Rスピーカーを駆動させる場合に使います。

❺ PRESENCE端子
プレゼンスL/Rチャンネルの出力端子です。外部パワーアンプを接続して、プレゼンスL/Rスピーカーを駆動させる場合に使います。

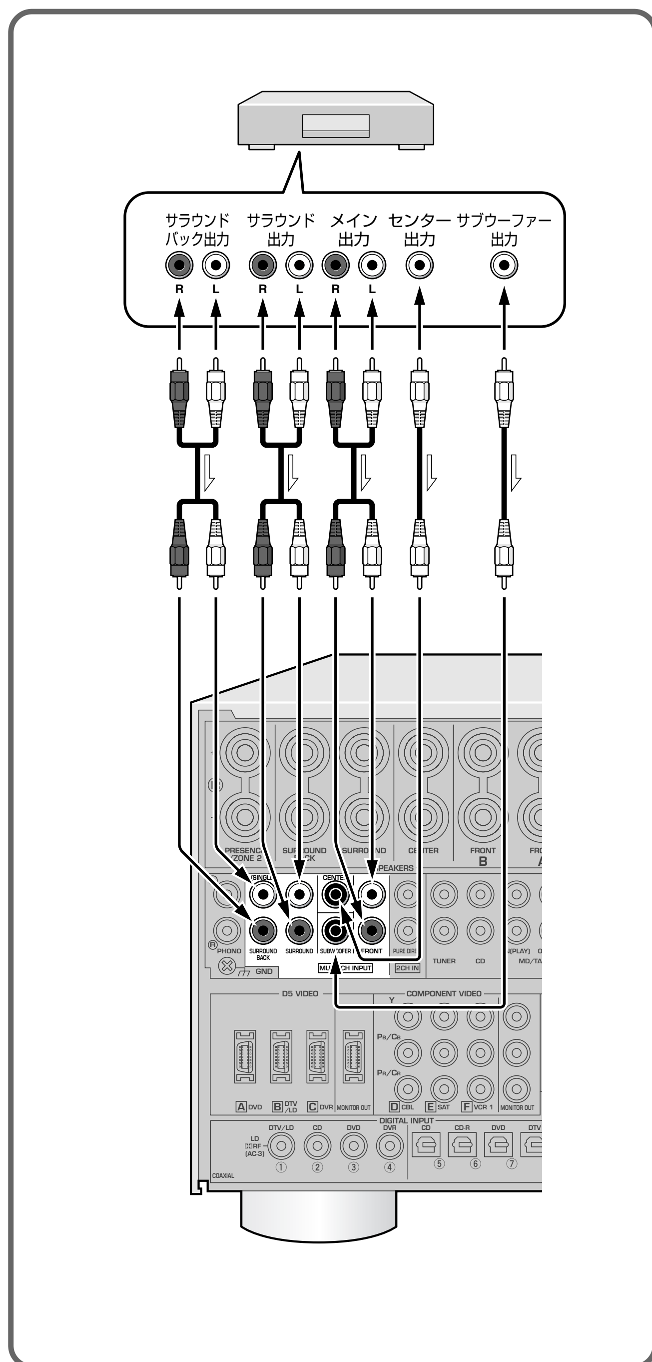
❻ SUBWOOFER端子
ヤマハアクティブサーボサブウーファーシステムなどの、アンプ内蔵サブウーファーを使うときに、この端子に接続します。フロント、センター、サラウンドおよびサラウンドバックチャンネルの低音信号が出力されます。また、ドルビーデジタル、DTSやAACデコード時のLFE信号も、この端子に出力されます。

ご注意

- 他のアンプへ出力するために、RCAピンプラグをPREOUT端子に接続したときは、対応するスピーカー端子を使わないでください。また、接続する外部アンプの音量は最大にしてください。
- マニュアル設定メニュー「その他の設定：マルチゾーン」の「スピーカーB」を、「ゾーンBで使用」に設定して、SPEAKER AスイッチをOFFにした場合、FRONT OUT端子以外のPREOUT端子には信号が出力されません(応用操作編42ページ)。

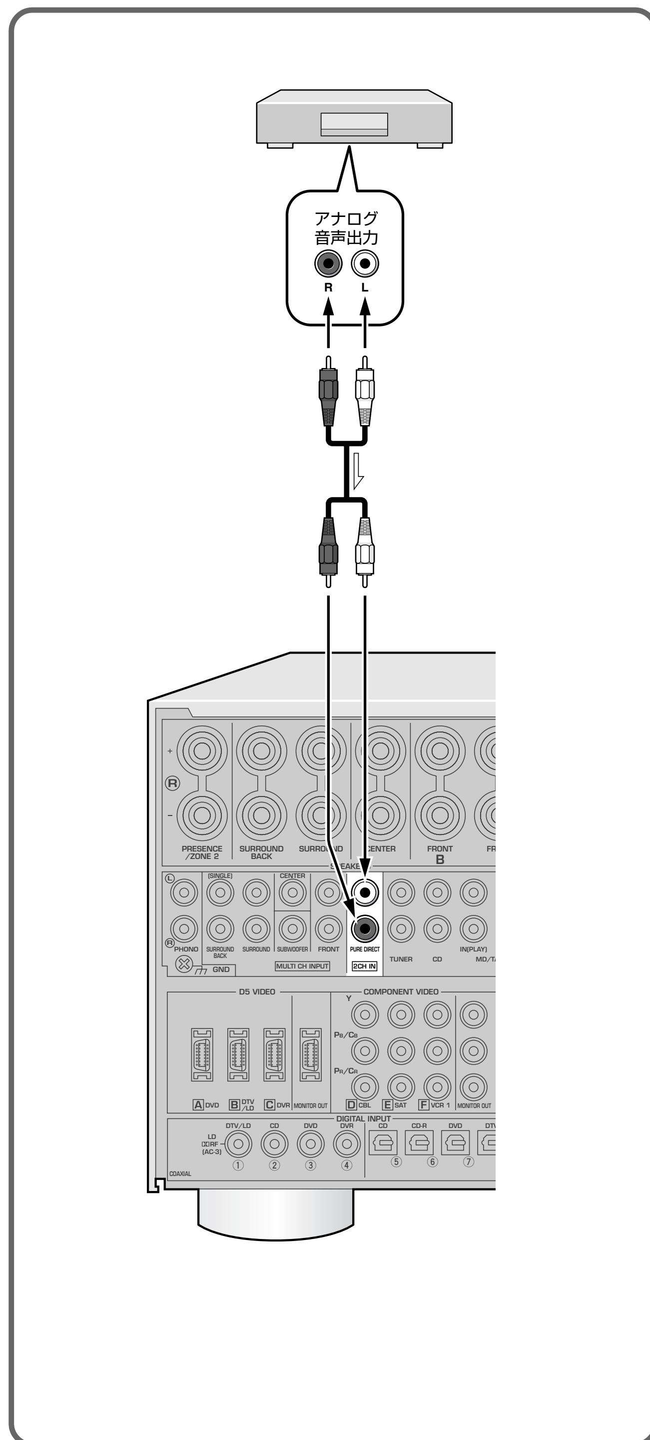
マルチチャンネル出力端子がある機器を接続する

DVDプレーヤーやスーパーオーディオCDプレーヤーなど、マルチチャンネル出力端子がある機器を接続します。



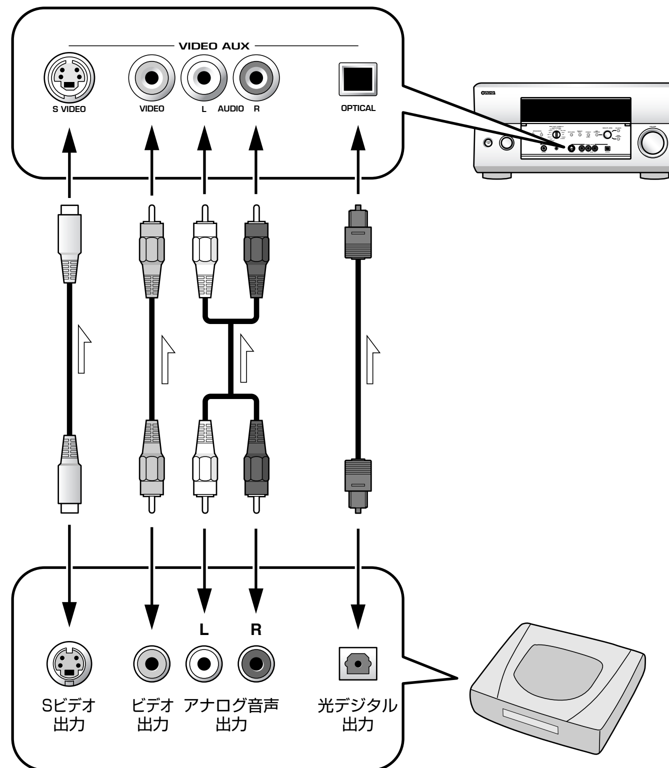
2CH IN端子に接続する

お手持ちのCDプレーヤーなどを2CH IN端子に接続すれば、ピュアダイレクトモードで高音質な再生を楽しむことができます（応用操作編18ページ）。



ゲーム機やビデオカメラなどを接続する

前面のVIDEO AUX端子に接続します。



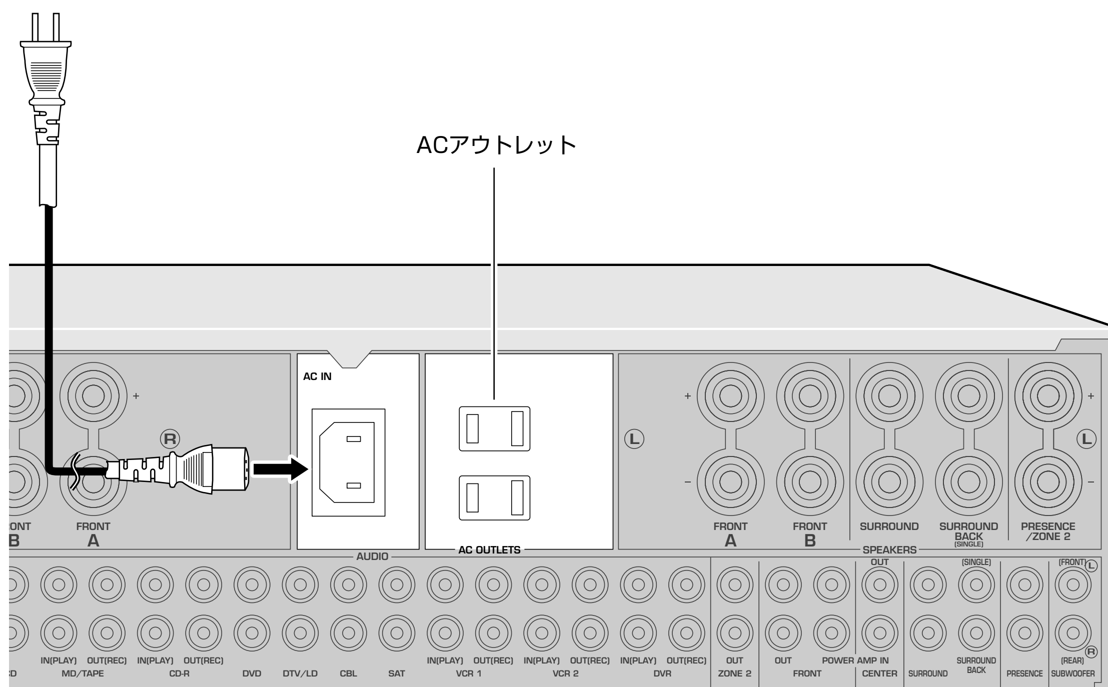
電源コードを接続する

AC アウトレット

外部オーディオ機器に電源を供給するコンセントで、本機のSTANDBY/ONスイッチと連動しています。合計で消費電力120Wまでのオーディオ機器を接続し、電源を供給することができます。
接続するときの電源プラグの向き（極性）によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

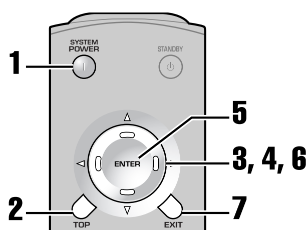
電源コード

すべての接続が終了したら、電源コードを本機のAC IN端子にしっかりと差し込み、家庭用AC100V、50/60HzのACコンセントに電源プラグを接続します。
接続するときの電源プラグの向き（極性）によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。



GUI(グラフィカル・ユーザー・インターフェース)画面を使って操作する

本機にテレビを接続すると、GUI画面を表示させることができます、このGUI画面を見ながら本機を操作したり、設定を変更することができ、便利です。
また操作には、専用のGUIリモコンが用意されています。



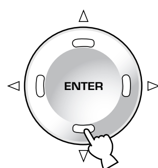
1 本機とテレビの電源を入れる

2 TOPキーを押して、GUI画面を表示する。



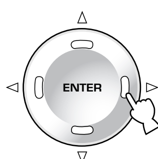


3 ▽キーを押して、設定するカテゴリーを選び、▷キーを押す







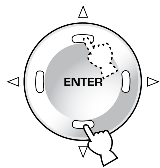




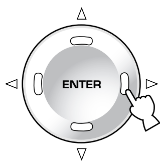
選ぶことができるカテゴリーは以下のとおりです。

- 「i.LINK設定」:
  i.LINK接続の設定(応用操作編86ページ)
- 「サラウンド選択・設定」:
  音場プログラムの選択や、パラメーターの設定(応用操作編52ページ)
- 「入力選択・設定」:
  入力ソースの選択や、ソースごとの設定(応用操作編43ページ)
- 「マニュアル設定」:
  音声出力や映像出力など、本機のシステム設定(応用操作編24ページ)
- 「自動測定メニュー」:
  YPAOによる自動システム設定(33ページ)
- 「設定の保護」:
  本機の設定の保護(応用操作編48ページ)
- 「入力信号の情報」:
  入力信号情報の確認(応用操作編76ページ)

4 △/▽キーを押して、設定するメニューを選び、▷キーを押す

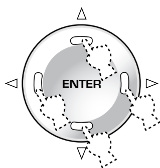
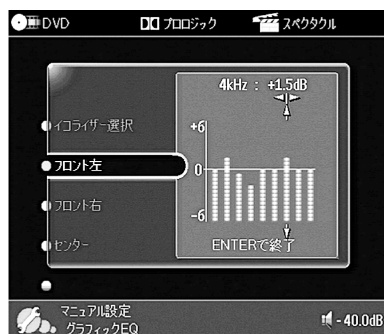





メニューによっては、さらに△/▽/◁/▷キーでサブメニューを選ぶ必要があります。

5 △/▽/◁/▷キーを押して、選んだメニューの設定を変更する

6 変更し終わったら、EXITキーを押して、終了する



- GUIリモコンでの操作を、通常のリモコンで行うこともできます(応用操作編9ページ)。

ご注意

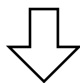
- 解像度が480p、576p、1080i、720pの映像信号が入力されているときにGUI画面を表示させると、GUI画面の背景は、「その他の設定：表示の設定」の「壁紙の選択」で選んだ壁紙になります(41ページ)。

最適な視聴空間を自動的に設定する

本機に搭載の「YPAO(Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer)」により、ご使用になるスピーカーの配置、能力やお部屋の音響特性を測定し、最適な視聴空間を自動的に設定することができます。スピーカーから出力されるテストトーンを、付属のマイク(オプティマイザーマイク)で拾い、自動的に測定、設定します。

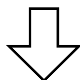
設定の流れ

付属のマイクを準備する 33ページ



測定を開始する 34ページ

- 結線の確認：　スピーカーの極性をチェックします。
- 距離の補正：　リスニングポジションから各スピーカーまでの距離をチェックし、遅延時間を設定します。
- 大きさ判定：　各スピーカーのサイズを設定します。
- 周波数補正：　各スピーカーの周波数特性を調節します。
- 音量の調整：　各スピーカーからの音量を調節します。



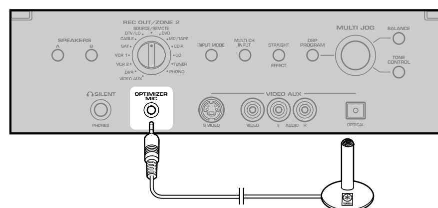
結果を確認する 37ページ

「周波数補正」について

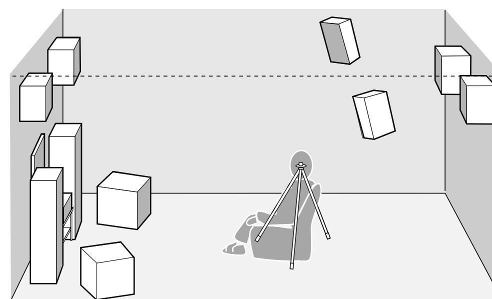
周波数特性の補正は、周波数、レベル、Qファクターの3つのパラメーターがそれぞれ独立して可変するパラメトリックイコライザーを使って行います。これらの組み合わせで、より精度の高い周波数特性の補正を、YPAOにより自動的に行うことができます。

付属のマイクを準備する

本機前面のOPTIMIZER MIC端子に、付属のオプティマイザーマイクを接続します。



オプティマイザーマイクは実際に視聴する位置(リスニングポジション)に、耳と同じ高さで設置します。耳と同じ高さに設置する場合は、水平な台にのせるか、三脚を使います。



ご注意

- オプティマイザーマイクは高温に弱いため、以下の点にご注意ください。
  - －直射日光が当たる場所に置かない。
  - －本体の上に置かない。
- 設定が終わったら、オプティマイザーマイクは外してください。接続されたままの状態では、音が出力されません。

測定を開始する

ご注意

- 各スピーカーとオプティマイザーマイクの間に、障害物がないか確認してください。障害物があると、正しく測定できない場合があります。
- 測定中は大きなテストトーンが出ます。小さなお子様などをリスニングルームに立ち入らせないようご配慮ください。
- 測定中に声を出したり、周囲の騒音が大きいと、正しく測定できなかったり、エラー表示が出る場合があります。測定中はなるべく静かにしてください。

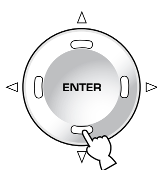
1 本機とテレビの電源を入れる

2 TOPキーを押して、GUI画面を表示する



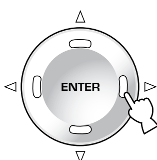


3 ▽キーを押して、「自動測定メニュー」を選び、▷キーを押す



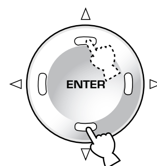






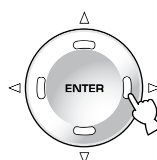


4 △/▽キーを押して、「項目選択」を選び、▷キーを押す











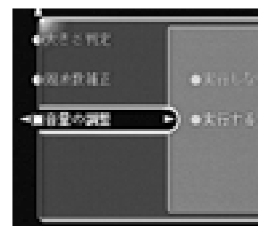
5 △/▽キーを押して、測定項目を選び、▷キーを押す











6 △/▽キーを押して、選んだ項目を測定するかしないかを決める

「結線の確認」、「距離の補正」、「大きさ判定」、「音量の調整」については、それぞれ「実行する」または「実行しない」を決めてください。

「周波数補正」については、下記の補正方法から決めてください。

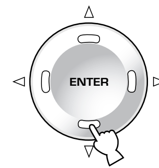
「測定を行わない」: 測定しません。
「全域均等に改善」: 各スピーカーの特性を均一(フラット)にします。
「フロントに近似」: フロントL/Rスピーカーの特性に、各スピーカーの特性を合わせます。
「低音重視で改善」: 低域周波数を重点的に調整して、フラットにします。
「中音重視で改善」: 中域周波数を重点的に調整して、フラットにします。
「高音重視で改善」: 高域周波数を重点的に調整して、フラットにします。

ヒント

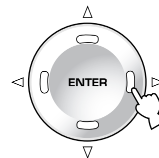
- THX認証スピーカーをご使用の場合は、「大きさ判定」を「実行しない」にして、測定しないようにしてください。また「基本設定: スピーカーの設定」で、すべてのスピーカーが「小」/「小2台」に設定されていることと、「クロスオーバー」が「80Hz(THX)」に設定されていることを確認してください(応用操作編27ページ)。

7 各項目の設定が終わったら、◁キーを押して、「項目選択」に戻る

8 ▽ キーを押して、「手順選択」を選び、▷キーを押す









9 △/▽キーを押して、測定手順を決める

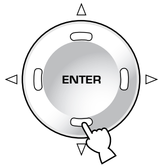
下記の手順から決めてください。

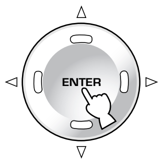
「全選択項目」: 全ての項目を自動的に測定します。
「一項目ずつ」: 各項目ごとに結果を確認しながら測定します。

10 測定手順が決まったら、◁ キーを押して、「手順選択」に戻る

11 ∇ キーを押して、「スタート」を選び、ENTERキーを押す

測定が始まります。



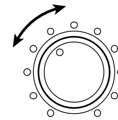

ご注意

- 測定中にエラー表示が出た場合は、38ページ「表示メッセージについて」を確認のうえ、必要な対処をしてから、測定をやりなおしてください。
- 測定中にカーソル(Δ/∇/◁/▷)キーまたはENTERキーを押すと、「ポーズ」と表示され、測定が中断します。
  - 測定をやりなおすには、Δキーを押して、「再測定」を選んでください。
  - 測定を終了するには、◁キーを押して、「終了」を選んでください。
  - 次の項目の測定に進むには、∇キーを押して、「次へ」を選んでください。

測定が終わると、「測定が終了しました。」と表示され、結果が表示されます(37ページ)。

アクティブサブウーファーの設定について

- サブウーファーを接続している場合は電源を入れて、下図の位置(半分または半分よりやや小さめ)にボリュームを設定してください。



- クロスオーバー周波数の設定機能がある場合は、クロスオーバー周波数を最大に設定してください。

結果を確認する

各項目の測定の結果を確認することができます。

「全項目選択」で測定した場合

すべての測定が終わると、「測定が終了しました。」と表示され、結果が表示されます。



- 測定した値で設定するには、∇キーを押して、「設定」を選びます。「最適化完了されました。」と表示され、設定が終わります。
- 測定をやりなおすには、∆キーを押して、「再測定」を選びます。
- 測定結果やエラー/警告メッセージの詳細を見るには、⊳キーを押して、「詳細」を選びます。
- 自動測定メニューから抜けるには、⊲キーを押して、「終了」を選びます。

「一項目ずつ」で測定した場合

各項目の測定が終わるごとに、その項目の結果画面が表示されます。



- 次の項目の測定に進むには、∇キーを押して、「次へ」を選びます。
- 測定をやりなおすには、∆キーを押して、「再測定」を選びます。
- 測定結果やエラー/警告メッセージの詳細を見るには、⊳キーを押して、「詳細」を選びます。
- 自動測定メニューから抜けるには、⊲キーを押して、「終了」を選びます。

すべての測定が終わると、「測定が終了しました。」と表示され、結果が表示されます。

- 測定した値で設定するには、∇キーを押して、「設定」を選びます。「最適化完了されました。」と表示され、設定が終わります。
- 測定をやりなおすには、∆キーを押して、「再測定」を選びます。
- 測定結果やエラー/警告メッセージの詳細を見るには、⊳キーを押して、「詳細」を選びます。
- エラー/警告メッセージの詳細を見るには、⊳キーを押して、「詳細」を選びます。
- 自動測定メニューから抜けるには、⊲キーを押して、「終了」を選びます。



- 設定後は、「設定値情報」で設定値を確認することができます。
- スピーカーやスピーカーの設置場所を変えた場合は、再測定することをおすすめします。
- より細かい設定をしたい場合は、マニュアルで各項目を設定することができます(応用操作編22ページ)。マニュアル設定後に、各項目の設定を自動測定メニューでの設定に戻したい場合は、「設定値情報」で戻せます。∆/∇キーで戻したい項目を選び、ENTERキーを押してください。
- 「距離の補正」では、ご使用のサブウーファーの特性により、サブウーファーの測定値が実際の配置距離よりも長くなることがあります。また、外部アンプ使用時にも、各スピーカーの測定値が実際の配置距離よりも長くなることがあります。
- 「周波数特性」では、周波数をより精密に補正するため、同じ周波数帯域で違うレベル値が測定されることがあります。

表示メッセージについて

測定開始前の表示

エラーメッセージ	原因	対策
「マイク接続確認」	付属のオプティマイザーマイクが接続されていません。	本機前面のOPTIMIZER MIC端子に、オプティマイザーマイクを接続してください。
「HPを抜いてください」	ヘッドホンが接続されています。	本機前面のPHONES端子から、ヘッドホンを抜いてください。
「測定項目 未選択」	すべての項目を、「実行しない」に設定しています。	測定する項目を、「実行する」に設定してください。
「保護されています」	設定が保護されています。	設定の保護メニューで、「自動測定の設定」を「可変」にしてください(応用操作編50ページ)。

測定中のエラーメッセージ

結果表示画面で「詳細」を選ぶと、各メッセージの詳細を表示することができます。各メッセージの内容を確認のうえで「再実行」を選んで、測定をやりなおしてください。

エラーメッセージ	原因	対策
「E01:フロントSP」	フロントL/Rスピーカーが検出されませんでした。	SPEAKER A/Bスイッチで正しくスピーカーを選んでください。
		フロントL/Rスピーカーが正しく接続されているか確認してください。
「E02:サラウンドSP」	サラウンドL/Rスピーカーが検出されませんでした。	サラウンドL/Rスピーカーが正しく接続されているか確認してください。
「E03:プレゼンスSP」	プレゼンスL/Rスピーカーが検出されませんでした。	プレゼンスL/Rスピーカーが正しく接続されているか確認してください。
「E04:SBR→SBL」	サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続している場合に、R側から検出されました。	サラウンドバックスピーカーを１本のみ接続する場合は、L側端子に接続してください。
「E05:雑音大」	暗騒音(部屋の騒音)が大きすぎて、正確な測定ができません。	エアコンなど騒音を発生する機器の電源を一時的に切るか、遠ざけてみてください。
		周囲が静かな時間帯にやり直してみてください。
「E06:サラウンド確認」	サラウンドL/Rスピーカーが接続されておらず、サラウンドバックスピーカーだけが接続されています。	サラウンドバックスピーカーを使うときは、サラウンドL/Rスピーカーを接続する必要があります。正しく接続されているか確認してください。
「E07:マイク未接続」	測定の途中でオプティマイザーマイクが外れました。	本機前面のOPTIMIZER MIC端子に、オプティマイザーマイクを接続してください。
「E08:信号入力無し」	テストトーンが出ているにもかかわらず、オプティマイザーマイクがテストトーンを検知していません。	オプティマイザーマイクが正しく接続されているか確認してください。
		各スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
「E09:測定キャンセル」	音量を調節または消音したり、SPEAKER A/Bスイッチでスピーカーを切り替えた、などのを操作したため、測定をキャンセルしました。	測定の精度が落ちるため、測定中は音量を変えないでください。
「E10:内部エラー」	アンプ内部のエラーが発生しました。	電源を入れなおして、測定を再実行してください。
「E11:複合エラー」	複数のエラーが発生しました。	詳細表示にて、内容をご確認ください。
「E12:全SP無し」	スピーカーがまったく検出されません。	SPEAKER A/Bスイッチで正しくスピーカーを選んでください。
		各スピーカーが正しく接続されているか確認してください。

測定終了後の警告メッセージ

測定は終了しましたが、測定値に問題がある可能性がある場合に表示されます。各メッセージの内容を確認のうえで「再実行」を選んで、測定をやりなおすことをおすすめします。

エラーメッセージ	原因	対策
「W1:SP接続逆相」	表示されたスピーカーの極性が、逆に接続されています。	スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
		スピーカーによっては、正しく接続してもこの表示が出ることがあります。スピーカーの取扱説明書をご覧ください。
「W2:距離補正限界」	表示されたスピーカーとリスニングポジションとの距離が、24m以上あります。	スピーカーの設置場所を確認してください。
「W3:音量調整限界」	各チャンネル間の音量差が大きすぎて、補正ができません。	スピーカーの設置場所を確認してください。
		スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
		なるべく近い性能のスピーカーを使用することをおすすめします。
		サブウーファーの音量を調節してください。




この取扱説明書はエコパルプ(ECF:無塩素系漂白パルプ)を使用しています。



この取扱説明書は大豆油インクで印刷しています。

ヤマハ株式会社

Printed in Japan WC01730-2

YAMAHA

DSP AVアンプ

DSP-Z9

取扱説明書





基本操作編

本機を簡単にお使いいただくためのものです。
基本的な操作について説明しています。

■ 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

安全上のご注意

本機をお使いいただく前に、準備・接続編に記載されている「安全上のご注意(安全に正しくお使いいただくために)」をお読みのうえ、正しくお使いください。

なにを再生しますか？

最初に、本機でお楽しみいただける音場プログラムをご紹介します。見たい/聴きたいものに合わせて、音場プログラムを選び、再生してみましょう。
各機器の操作については、「なにを再生しますか？」から簡単な操作説明を参照できます。

なにを再生しますか？

- DVDを再生する ⇒4ページ
- 衛星放送/ケーブルテレビを見る ⇒8ページ
- CDを再生する ⇒9ページ
- FM/AM放送を聴く ⇒10ページ
- レコードを再生する ⇒11ページ
- スーパーオーディオCD/DVDオーディオを再生する ⇒12ページ
- ゲームを楽しむ ⇒13ページ

見たい/聴きたいものは？

- 映画を見る
- スポーツ/ドラマを見る
- ライブ映像を見る
- 音楽を聴く
- ゲームをする

効果的にお楽しみいただくには・・・音場プログラムを選んでください！

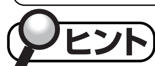
壮大なファンタジー映画には	MOVIE 9	ムービーシアター スペクタクル	70mm大画面のスペクタクルな音場
最新のSFX映画には	MOVIE 9	ムービーシアター サイファイ	最新のSFX映画をクールに楽しめる音場
大迫力のアドベンチャー映画には	MOVIE 9	ムービーシアター アドベンチャー	アドベンチャー映画を大迫力で楽しめる音場
ラブロマンスやコメディには	MOVIE 9	ムービーシアター ジェネラル	情緒的な映画を柔かく再現する音場
映画館の迫力をお部屋で再現するには	THX 0	THX シネマ	あらゆるソースを映画館の迫力で再現
		サラウンドEX	ドルビーデジタルサラウンドEXソフトを、映画館の迫力で再現
		ウルトラ2シネマ	5.1チャンネルの映画ソフトを最良に再生
	DD/DTS +10	サラウンド スタンダード	ドルビーデジタル、DTS、AAC信号を忠実に再現
		エンハンスト	ドルビーデジタル、DTS、AAC信号に音場効果を与える
懐かしのモノラル映画には	ENTERTAIN 8	エンターテイメント モノムービー	往年のモノラル映画を自然に再生する音場

白熱のスポーツ中継やドラマには	ENTERTAIN 8	エンターテイメント TVスポーツ	バラエティやスポーツ中継番組に適用範囲の広い音場

ビッグエンターテイナーのステージには	MUSIC 7	ミュージックビデオ ポップ/ロック	ロック、ジャズなどのライブコンサートを再現する音場
		DJ	DJのトークをクリアに再現する音場
		クラシック/オペラ	ステージの臨場感と、音楽の美しさを演出する音場
		パビリオン	丸天井の大きな空間を持つ音場

華麗なクラシックコンサートには	HALL 1 2	コンサートホール1 ミュンヘンA	広く奥行きのあるホールの音場
		ミュンヘンB	天井が高いシューボックス型ホールの音場
		フランクフルト	縦長で力強い響きがあるホールの音場
		シュトゥットガルト	大胆な左右非対称形のホールの音場
		ウィーン	響きが豊かな古典的な中ホールの音場
		アムステルダム	響きが豊かな古典的な大ホールの音場
	HALL 2 3	コンサートホール2 USAホールA	中高域の響きが豊かな大ホールの音場
		USAホールB	半円形のドーム型天井を持つ大ホールの音場
		ライブコンサート	響きが豊かな、広大な円形ホールの音場
壮大なゴスペルコンサートには	CHURCH 4	チャーチ 東京	適度な残響感を伴う教会の音場
		フライブルグ	非常に長い残響時間を持つ教会特有の音場
		ロワイヨーモン	中世の美しいゴシック建築の修道院食堂大広間の音場
雰囲気のあるジャズライブには	JAZZ 5	ジャズクラブ ビレッジゲート	広いフロアを持つニューヨークの著名なライブハウスの音場
		ビレッジバンガード	ニューヨークの著名なジャズクラブの音場
		ボトムライン	ニューヨークで話題のライブハウス「ザ・ボトム・ライン」の音場
熱気あふれるロックコンサートには	ROCK 6	ロックコンサート ロキシーシアター	ロサンゼルスのホットなロックライブハウスの音場
		ロフト	コンクリート造りの倉庫の音場
		アリーナ	広大なアリーナの音場
ステレオ音声を楽しむには	STEREO 1	ステレオ 2chステレオ	ステレオ音声で再生
		ダイレクト	高音質のステレオ音声で再生（アナログ/PCM）
マルチチャンネルの臨場感を再現するには	THX 0	THX ミュージック	5.1チャンネルの音楽ソフトを最良に再生
	STEREO 1	ステレオ ダイレクト	高音質のマルチチャンネル音声で再生（PCM/DSD）
楽しいホームパーティを演出するには	ENTERTAIN 8	エンターテイメント ディスコ	ホットなディスコの雰囲気を再現する音場
		パーティー	ホームパーティーでのBGMを、自然に演出する音場
	STEREO 1	ステレオ 9chステレオ	広いエリアで音楽を楽しめる音場

ゲームの世界に浸るには	ENTERTAIN 8	エンターテイメント ゲーム	TVゲームの軽快なノリをさらに加速させる、痛快なテンポの音場
	DD/DTS +10	サラウンド スタンダード	サラウンド感に包まれる大迫力の音場（PLIIxゲーム、PLIIゲーム）



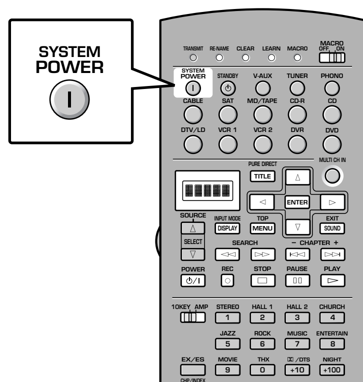
・実際に再生してみて、ちょっと違うなと感じたら他の音場プログラムも試してみてください。
・音場プログラムの詳しい解説については、応用操作編をご覧ください。

DVDを再生する

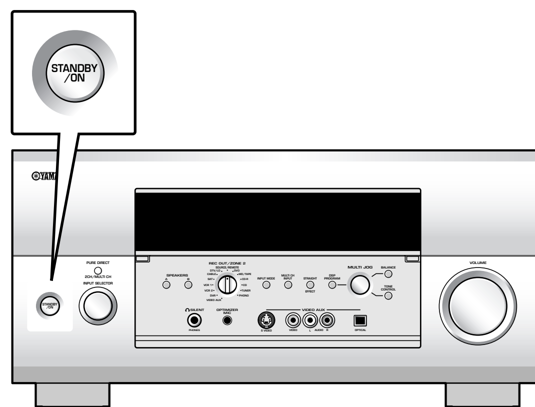
1 本機の電源を入れます

リモコンのSYSTEM POWERキー、または本体のSTANDBY/ONスイッチを押して電源を入れます。

リモコンの操作



本体の操作



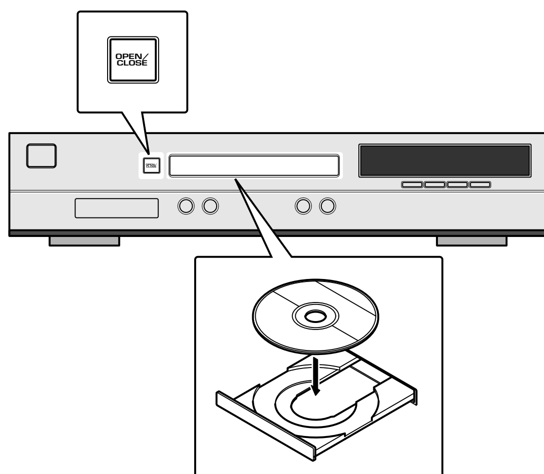
2 テレビの電源を入れます

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

3 DVDプレーヤーの電源を入れます

詳しくはDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

4 DVDディスクをセットします

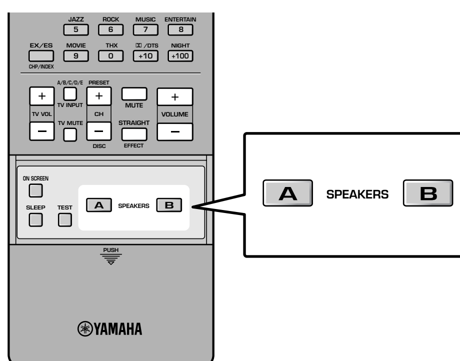


DVDプレーヤーのディスクトレイを開き、ディスクレーベル(印刷面)のある面を上にして、ディスクをディスクトレイにのせます。
ディスクをのせたら、ディスクトレイを閉めます。
DVDプレーヤーのディスクトレイの開け方について詳しくは、DVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

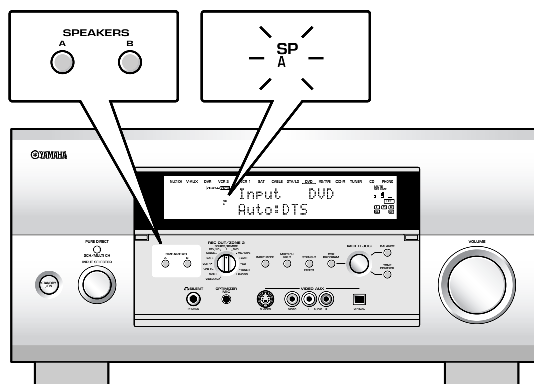
5 スピーカーを選びます

リモコンのSPEAKER A/Bキー、または本体のSPEAKERS A/Bスイッチを押し、音を出すフロントスピーカーを選択します。A、Bの両方を使用する場合は、AとBをそれぞれ押します。選択しているスピーカーは、SP A/Bインジケーターで表示されます。

リモコンの操作



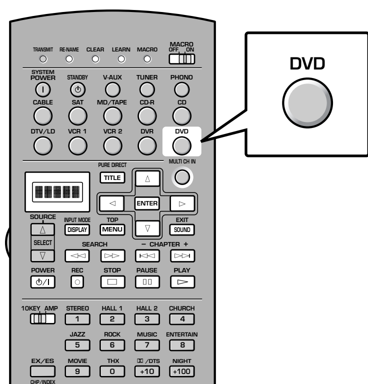
本体の操作



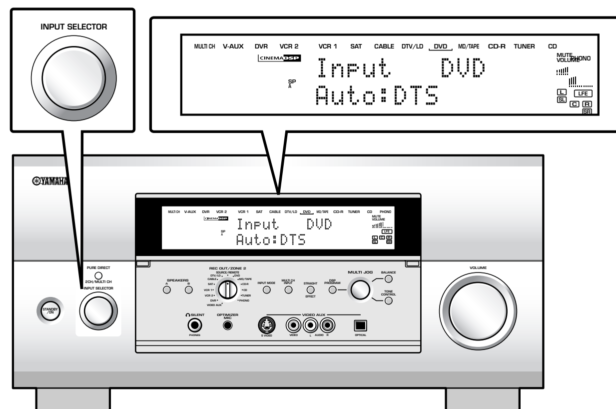
6 本機の入力を切り替えます

リモコンのDVDキー（入力選択キー）を押す、または本体のINPUT SELECTORを回します。入力を切り替えると、本体のディスプレイに選んだ入力名と入力モードが数秒間表示されます。

リモコンの操作



本体の表示



7 テレビの入力を切り替えます

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。



・ 例えば、本機がテレビのビデオ入力端子2に接続されている場合はビデオ入力2を選びます。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

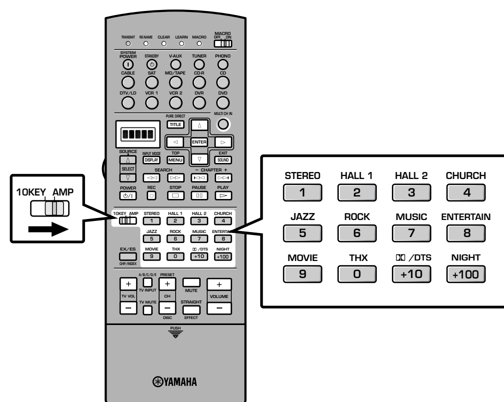
8 再生を始めます

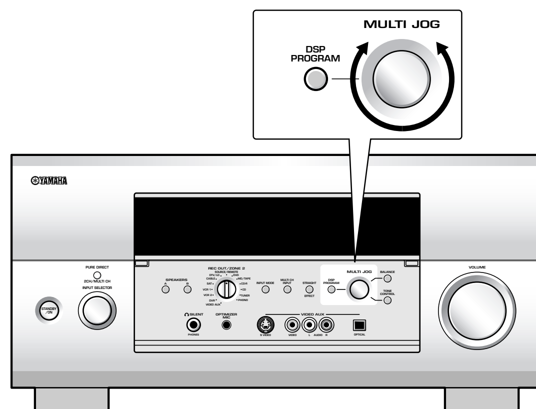
詳しくはDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

9 音場プログラムを選びます

お好みの音場プログラムを呼び出して、臨場感と効果をお楽しみください。リモコンの10KEY/AMPスイッチを「AMP」に切り替え、音場プログラムキーを押してお好みの音場プログラムを選びます。
本体のDSP PROGRAMキーとMULTI JOGで音場プログラムを選ぶことができます。

リモコンの操作 **本体の操作**





おすすめ！

おすすめの音場プログラムについて、ご紹介します(3ページ)。なお、それぞれの音場の特長など、詳しくは応用操作編91～101ページをご覧ください。

・映画を見るとき
- MOVIE 9 ムービーシアター
- THX 0 THX
- /DTS +10 サラウンド

・ライブ映像を見るとき
- MUSIC 7 ミュージックビデオ

・音楽を聴くとき
- HALL 1 2 コンサートホール1
- HALL 2 3 コンサートホール2
- CHURCH 4 チャーチ
- JAZZ 5 ジャズクラブ
- ROCK 6 ロックコンサート
- STEREO 1 ステレオ
- THX 0 THX/ミュージック
- ENTERTAIN 8 エンターテイメント/ディスコ
- ENTERTAIN 8 エンターテイメント/パーティー

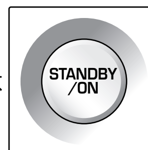


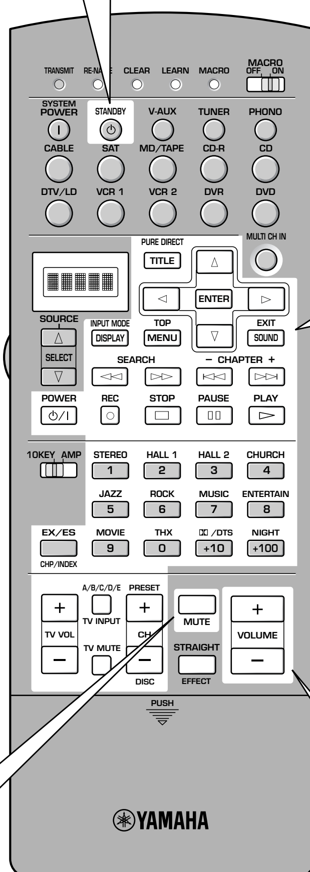
- 音の大きさを調節するには？(7ページ)
- メーカーコードを設定すると、本機のリモコンでDVDプレーヤーを操作することができます。詳しくは応用操作編57ページをご覧ください。

こんなときは・・・

●使い終わった！

STANDBYキー、または本体のSTANDBY/ONスイッチを押すと電源が切れて、本機の使用を終了できます。

本体では




●本機のリモコンで他の機器を操作したい！

メーカーコードを設定すると、本機のリモコンでテレビやDVDプレーヤーなど他の機器を操作することができます。詳しくは応用操作編57ページをご覧ください。

●一時的に音を下げたい！

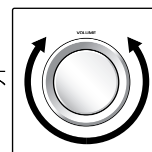
MUTEキーを押します。もう一度MUTEキーを押すと解除されます。


お知らせ

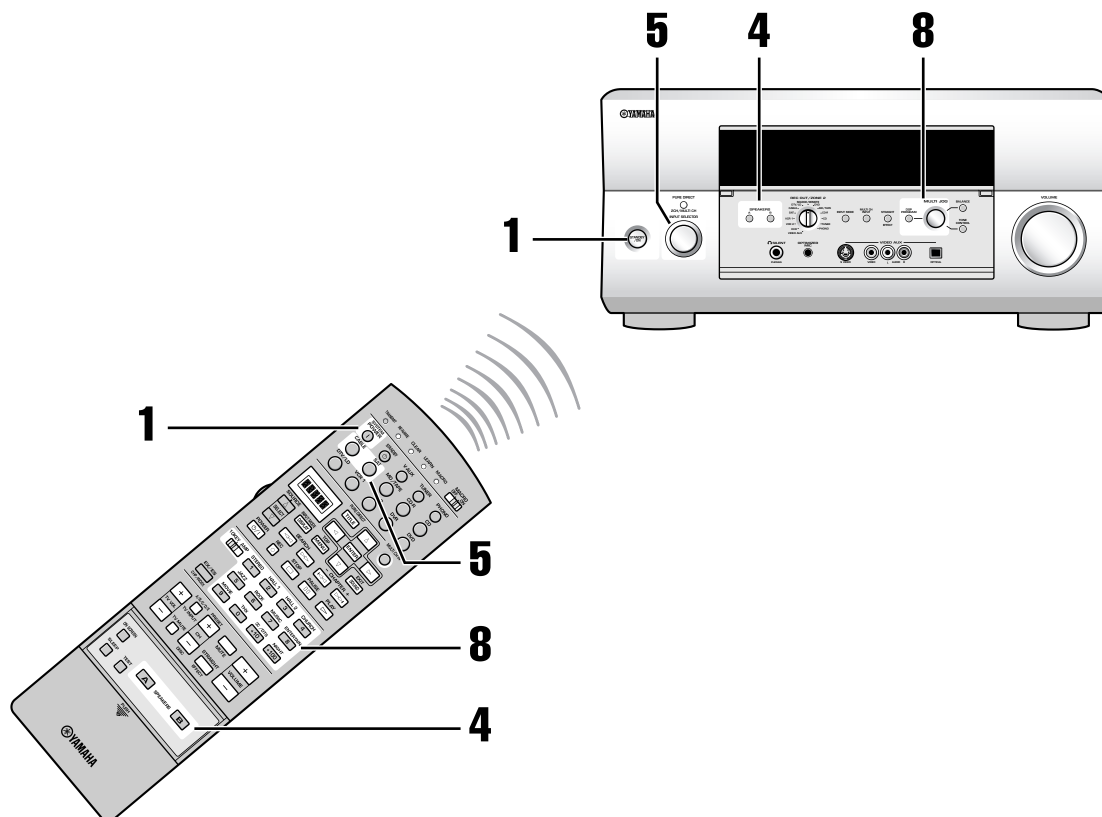
・VOLUMEキーや音場プログラムキーなどを押しても解除されます。
・音を下げている間は、本体のディスプレイに「MUTE　ON」と表示されます。

●音の大きさを調節したい！

VOLUME＋/－キーを押します。または本体のVOLUMEコントロールを回します。

本体では


衛星放送/ケーブルテレビを見る



1 本機の電源を入れます

2 テレビの電源を入れます

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

3 衛星放送チューナー/ケーブルTVチューナーの電源を入れます

詳しくは衛星放送チューナー/ケーブルTVチューナーの取扱説明書をご覧ください。

4 スピーカーを選びます

5 本機の入力を切り替えます

衛星放送チューナー/ケーブルTVチューナーを接続した端子に応じた入力に切り替えます。
入力を切り替えると、本体のディスプレイに選んだ入力名と入力モードが数秒間表示されます。

6 テレビの入力を切り替えます

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

7 チャンネルを選びます

詳しくは衛星放送チューナー/ケーブルTVチューナーの取扱説明書をご覧ください。

8 音場プログラムを選びます

おすすめ！

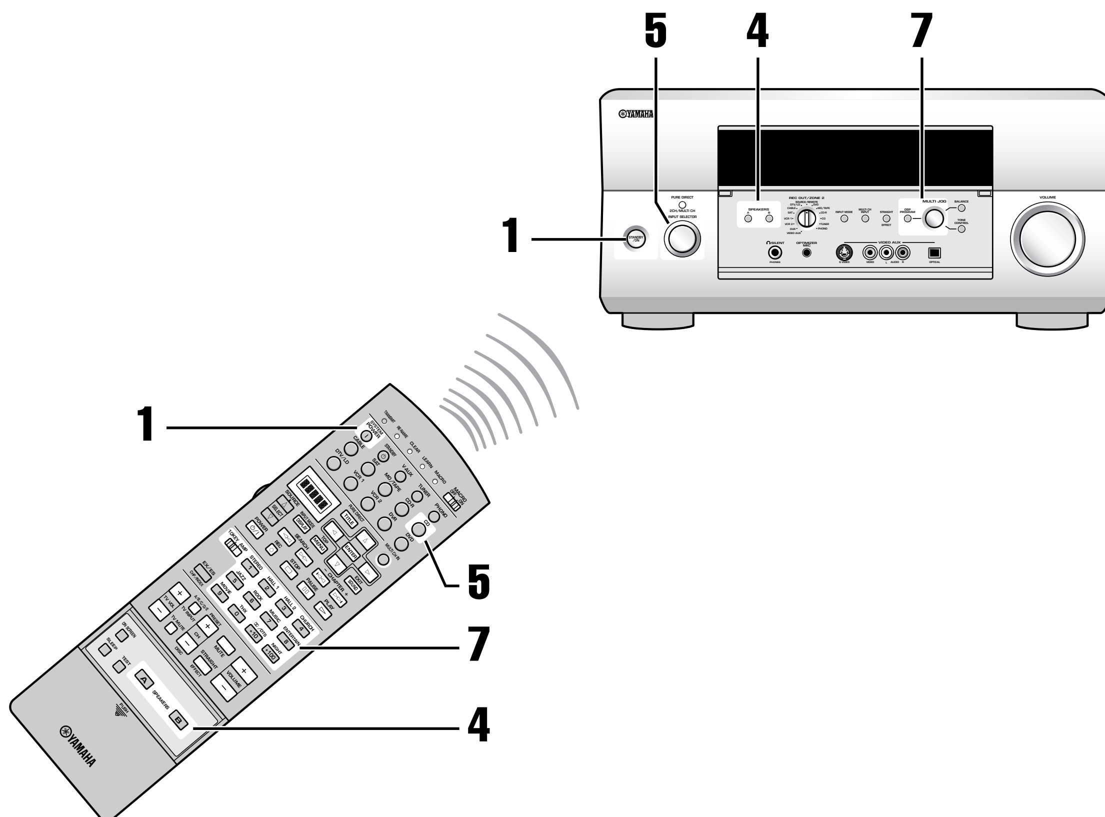
おすすめの音場プログラムについて、ご紹介します(3ページ)。なお、それぞれの音場の特長など、詳しくは応用操作編91～101ページをご覧ください。

- **映画を見るとき**
  - MOVIE 9 ムービーシアター
  - THX 0 THX
  - DD/DTS +10 サラウンド
- **スポーツ/ドラマを見るとき**
  - ENTERTAIN 8 エンターテイメント/TVスポーツ
- **ライブ映像を見るとき**
  - MUSIC 7 ミュージックビデオ

ヒント

- 音の大きさを調節するには？(7ページ)
- 本機の使用を終了するには？(7ページ)
- メーカーコードを設定すると、本機のリモコンで衛星放送チューナー/ケーブルTVチューナーを操作することができます。詳しくは応用操作編57ページを参照してください。

CDを再生する



1 本機の電源を入れます

2 CDプレーヤーの電源を入れます

詳しくはCDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

3 CDをセットします

CDプレーヤーのディスクトレイを開き、ディスクレーベル(印刷面)のある面を上にして、ディスクをディスクトレイにのせます。ディスクをのせたら、ディスクトレイを閉めます。
一部のプレーヤーでは、セット方法が違う場合があります。詳しくは、CDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

4 スピーカーを選びます

5 本機の入力を切り替えます

CDプレーヤーを接続した端子に応じた入力に切り替えます。
入力を切り替えると、本体のディスプレイに選んだ入力名と入力モードが数秒間表示されます。

6 再生を始めます

詳しくはCDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

7 音場プログラムを選びます

おすすめ！

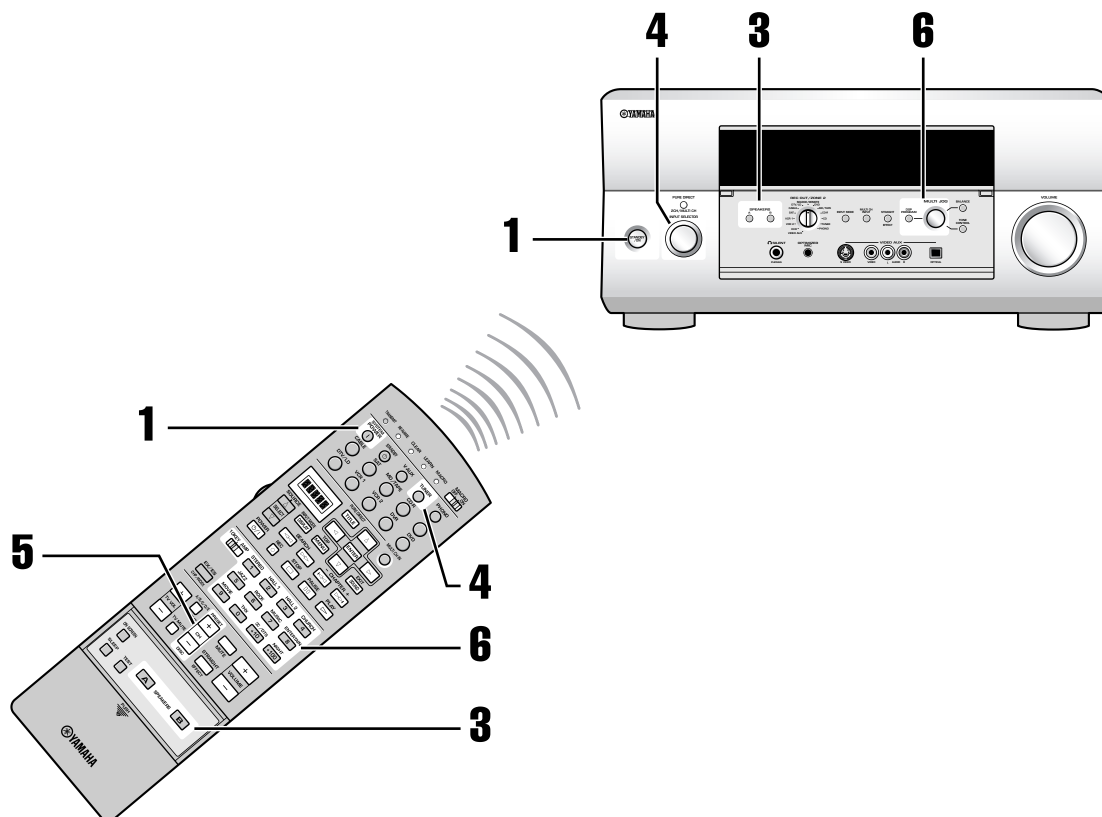
おすすめの音場プログラムについて、ご紹介します(3ページ)。なお、それぞれの音場の特長など、詳しくは応用操作編91～101ページをご覧ください。

HALL 1 [2]	コンサートホール1
HALL 2 [3]	コンサートホール2
CHURCH [4]	チャーチ
JAZZ [5]	ジャズクラブ
ROCK [6]	ロックコンサート
STEREO [1]	ステレオ
ENTERTAIN [8]	エンターテイメント/ディスコ
ENTERTAIN [8]	エンターテイメント/パーティー

ヒント

- 音の大きさを調節するには？(7ページ)
- 本機の使用を終了するには？(7ページ)
- メーカーコードを設定すると、本機のリモコンでCDプレーヤーを操作することができます。詳しくは応用操作編57ページをご覧ください。

FM/AM放送を聴く



1 本機の電源を入れます

2 FM/AMチューナーの電源を入れます

詳しくはFM/AMチューナーの取扱説明書をご覧ください。

3 スピーカーを選びます

4 本機の入力を切り替えます

FM/AMチューナーを接続した端子に応じた入力に切り替えます。
入力を切り替えると、本体のディスプレイに選んだ入力名と入力モードが数秒間表示されます。

5 放送局を選びます

詳しくはFM/AMチューナーの取扱説明書をご覧ください。

6 音場プログラムを選びます

おすすめ！

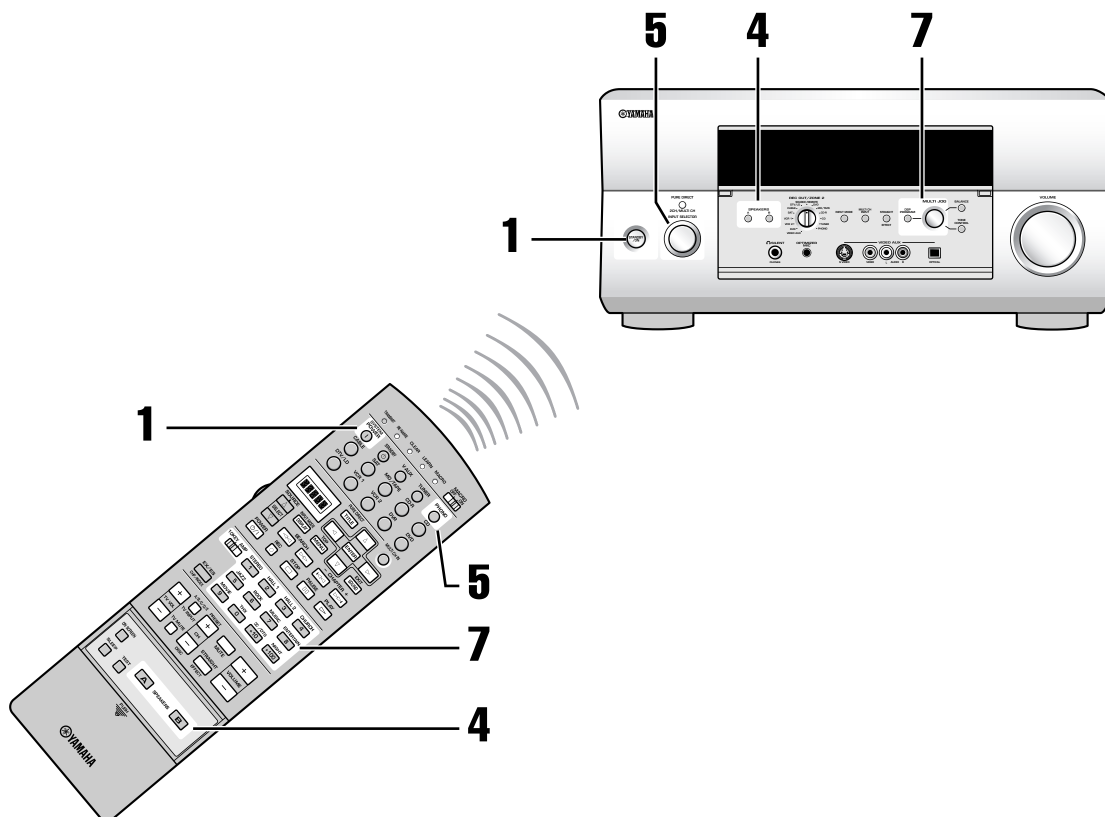
おすすめの音場プログラムについて、ご紹介します(3ページ)。なお、それぞれの音場の特長など、詳しくは応用操作編91～101ページをご覧ください。

- HALL 1 [2] コンサートホール1
- HALL 2 [3] コンサートホール2
- CHURCH [4] チャーチ
- JAZZ [5] ジャズクラブ
- ROCK [6] ロックコンサート
- STEREO [1] ステレオ
- ENTERTAIN [8] エンターテイメント/ディスコ
- ENTERTAIN [8] エンターテイメント/パーティー



- 音の大きさを調節するには？(7ページ)
- 本機の使用を終了するには？(7ページ)
- メーカーコードを設定すると、本機のリモコンでFM/AMチューナーを操作することができます。詳しくは応用操作編57ページをご覧ください。

レコードを再生する



1 本機の電源を入れます

2 レコードプレーヤーの電源を入れます

詳しくはレコードプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

3 レコードをセットします

レコードプレーヤーのターンテーブルにレコードをのせます。
レコードのセットのしかたについて詳しくは、レコードプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

4 スピーカーを選びます

5 本機の入力を切り替えます

レコードプレーヤーを接続した端子に応じた入力に切り替えます。
入力を切り替えると、本体のディスプレイに選んだ入力名と入力モードが数秒間表示されます。

6 再生を始めます

詳しくはレコードプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

7 音場プログラムを選びます

おすすめ！

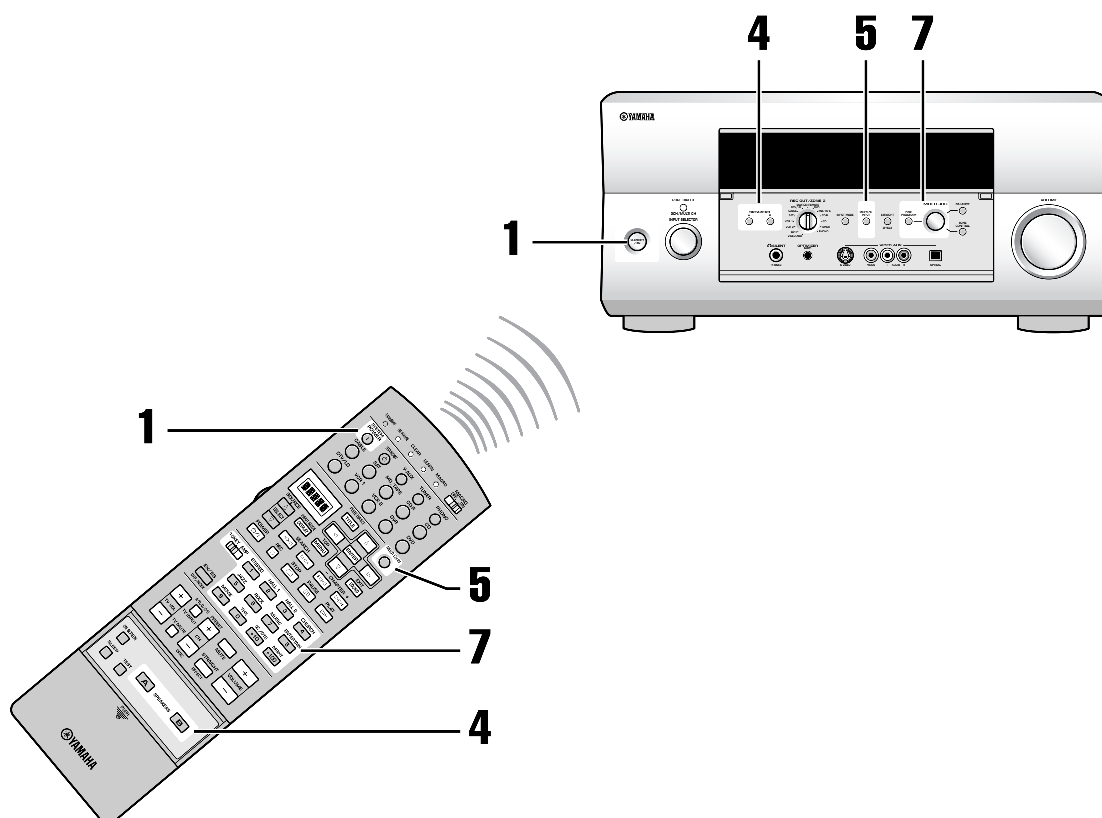
おすすめの音場プログラムについて、ご紹介します（3ページ）。なお、それぞれの音場の特長など、詳しくは応用操作編91～101ページをご覧ください。

- HALL 1 2 コンサートホール1
- HALL 2 3 コンサートホール2
- CHURCH 4 チャーチ
- JAZZ 5 ジャズクラブ
- ROCK 6 ロックコンサート
- STEREO 1 ステレオ
- ENTERTAIN 8 エンターテイメント/ディスコ
- ENTERTAIN 8 エンターテイメント/パーティー

ヒント

- 音の大きさを調節するには？（7ページ）
- 本機の使用を終了するには？（7ページ）

スーパーオーディオCD/DVDオーディオを再生する



1 本機の電源を入れます

2 スーパーオーディオCD/DVDオーディオプレーヤーの電源を入れます

詳しくはスーパーオーディオCD/DVDオーディオプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

3 スーパーオーディオCDディスクまたはDVDオーディオディスクをセットします

スーパーオーディオCD/DVDオーディオプレーヤーのディスクトレイを開き、ディスクレーベル(印刷面)のある面を上にして、ディスクをディスクトレイにのせます。
ディスクにのせたら、ディスクトレイを閉めます。
スーパーオーディオCD/DVDオーディオプレーヤーのディスクトレイの開け方について詳しくは、スーパーオーディオCD/DVDオーディオプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

4 スピーカーを選びます

5 本機の入力を切り替えます

スーパーオーディオCD/DVDオーディオプレーヤーを接続した端子に応じた入力に切り替えます。
入力を切り替えると、本体のディスプレイに選んだ入力名と入力モードが数秒間表示されます。

6 再生を始めます

詳しくはスーパーオーディオCD/DVDオーディオプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

7 音場プログラムを選びます

おすすめ！

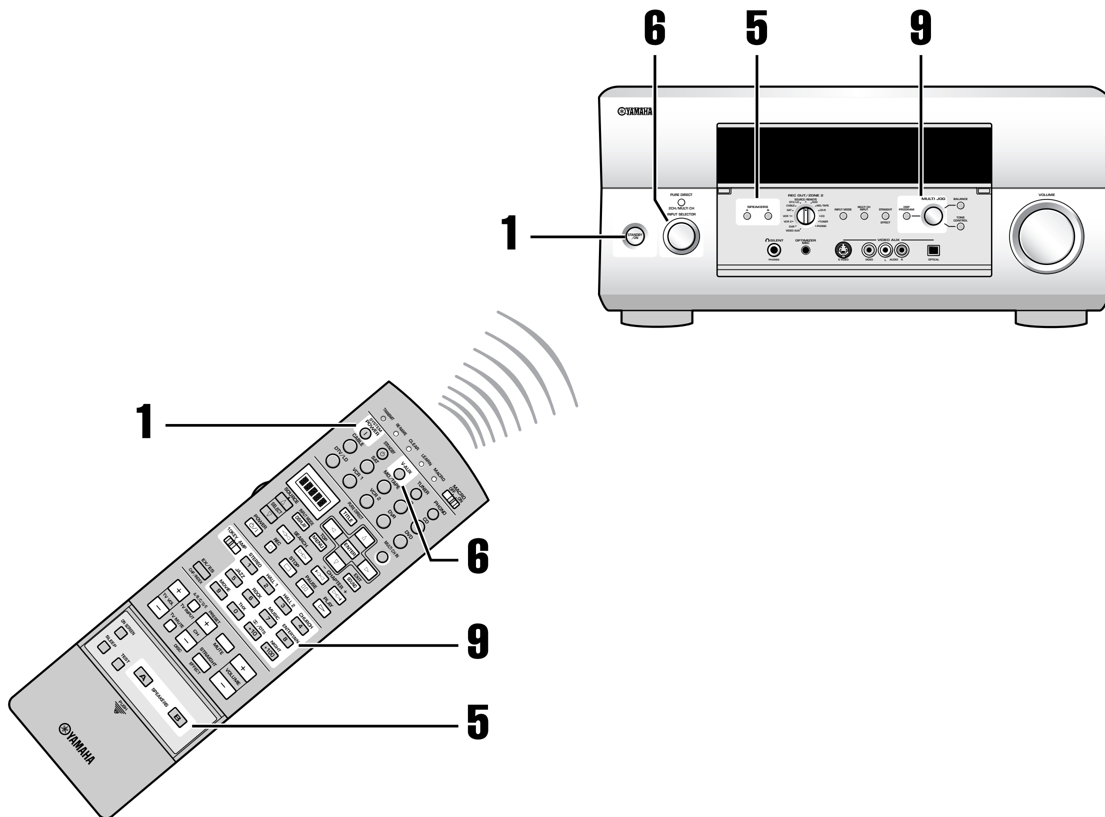
おすすめの音場プログラムについて、ご紹介します(3ページ)。なお、それぞれの音場の特長など、詳しくは応用操作編91～101ページをご覧ください。

- HALL 1 [2] コンサートホール1
- HALL 2 [3] コンサートホール2
- CHURCH [4] チャーチ
- JAZZ [5] ジャズクラブ
- ROCK [6] ロックコンサート
- STEREO [1] ステレオ
- THX [0] THX/ミュージック
- STEREO [1] ステレオ/ダイレクト
- ENTERTAIN [8] エンターテイメント/ディスコ
- ENTERTAIN [8] エンターテイメント/パーティー

ヒント

- 音の大きさを調節するには？(7ページ)
- 本機の使用を終了するには？(7ページ)
- メーカーコードを設定すると、リモコンでスーパーオーディオCD/DVDオーディオプレーヤーを操作することができます。詳しくは応用操作編57ページをご覧ください。

ゲームを楽しむ



1 本機の電源を入れます

2 テレビの電源を入れます

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

3 ゲーム機の電源を入れます

詳しくはゲーム機の取扱説明書をご覧ください。

4 ゲームソフトをセットします

詳しくはゲーム機の取扱説明書をご覧ください。

5 スピーカーを選びます

6 本機の入力を切り替えます

ゲーム機を接続した端子に応じた入力に切り替えます。
入力を切り替えると、本体のディスプレイに選んだ入力名と入力モードが数秒間表示されます。

7 テレビの入力を切り替えます

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

8 プレイを始めます

詳しくはゲーム機の取扱説明書をご覧ください。

9 音場プログラムを選びます

おすすめ！

おすすめの音場プログラムについて、ご紹介します（3ページ）。なお、それぞれの音場の特長など、詳しくは応用操作編91～101ページをご覧ください。

ENTERTAIN 8　エンターテイメント/ゲーム



サラウンド/スタンダード（PLIIxゲーム、PLIIゲーム）

ヒント

- 音の大きさを調節するには？（7ページ）
- 本機の使用を終了するには？（7ページ）

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。
このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

● **保証期間**
お買い上げ日より1年間です。

● **保証期間中の修理**
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● **保証期間が過ぎているとき**
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● **修理料金の仕組み**
◆ **技術料** 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
◆ **部品代** 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
◆ **出張料** 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● **補修用性能部品の最低保有期間**
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● **持ち込み修理のお願い**
故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

● **製品の状態は詳しく**
サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号はAV製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● **スピーカーの修理**
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● **摩耗部品の交換について**
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお薦めします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

■ ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問合せは

お客様ご相談センター
TEL （0570）01 − 1808（ナビダイヤル）
全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。
TEL （053）460 − 3409

FAX （053）460 − 3489
住所 〒430-8650
静岡県浜松市中沢町10-1

ご相談受付時間 10:00〜12:00, 13:00〜18:00
（日･祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。）

■ ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問合せは

（ヤマハ電気音響製品サービス拠点）

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108

仙 台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F
TEL (022) 236 - 0249

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1番1号 京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
TEL (03) 5762 - 2121

浜 松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
TEL (053) 465 - 6711

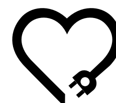
名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL (052) 652 - 2230

大 阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL (06) 6877 - 5262

四 国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7 (株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
TEL (087) 822 - 3045

九 州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検



★永年ご使用のAV製品の点検を！

こんな症状はありませんか？

● 電源コード・プラグが異常に熱い。
● コゲくさい臭いがする。
● 電源コードに深いキズか変形がある。
● 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
● 電源を入れても正常に作動しない。
● その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハオーディオ＆ビジュアルホームページ
http://www.yamaha.co.jp/audio/

ヤマハ株式会社
〒430-8650 浜松市中沢町10-1




この取扱説明書はエコパルプ(ECF:無塩素系漂白パルプ)を使用しています。



この取扱説明書は大豆油インクで印刷しています。

ヤマハ株式会社

Printed in Japan WC01740-1

YAMAHA

DSP AVアンプ

DSP-Z9

取扱説明書





応用操作編

本機の性能をフルに活用していただくためのものです。様々な設定や操作について説明しています。

■ 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

安全上のご注意

本機をお使いいただく前に、準備・接続編に記載されている「安全上のご注意(安全に正しくお使いいただくために)」をお読みのうえ、正しくお使いください。

もくじ

本機について

いろいろな再生のしかた

設定を変更する

オリジナルのリスニング環境をつくる

リモコンを使いこなす

便利な機能

その他の情報

本機の特長

高音質9チャンネルパワーアンプ搭載

バランスの良い、9チャンネルパワーアンプを搭載しています。

- フロントL/R：　170W+170W*
- センター：　170W*
- サラウンドL/R：　170W+170W*
- サラウンドバックL/R：　170W+170W*
- プレゼンスL/R：　50W+50W

*定格出力時

高音質設計

DSD/PCM対応24ビットD/Aコンバーターを、全チャンネルに採用しています。
また、スーパーオーディオCDやDVDオーディオの音声を、専用のアナログ入力端子に入力し、信号経路を最短にして高音質を実現する「ピュアダイレクト回路」を搭載しています。

THX Ultra2規格対応



THX社が提唱する劇場用音響の最高品質規格に準拠。映画製作者の製作意図をご家庭でも忠実に再現します。またTHX SURROUND EXデコーダーを搭載し、ドルビーデジタルEX方式で収録された映像ソフトを、映画館上映時と同等の臨場感で再生することができます。

デジタルサウンドフィールドプロセッサー(DSP)搭載

各種デコーダーと、ヤマハ独自のDSPによる、効果的な音場再生を実現します。ヤマハが誇るDSPを、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTS、AACに融合させて、音場効果を向上させています。

- バリエーション豊かな音場プログラムを用意しています。
- 「バーチャルシネマDSP」：サラウンドL/Rスピーカーなしでも、音場効果を楽しめます。
- 「サイレントシアター」：ヘッドホン使用時でも、音場効果を楽しめます。

デジタルビデオコンバージョン機能

コンポジットビデオ、Sビデオ、コンポーネントビデオの各信号を、相互に変換します。

多機能リモコン

付属リモコンは14面の機器操作エリアを持っており、内蔵プリセットコードやラーニング機能を利用して、他のAV機器の操作を本機のリモコンで行うことができます。

視聴環境最適化システム「YPAO」搭載

YPAO(Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer)により、耳で聞くだけでは、正確な調整が難しかったマルチチャンネル用のセットアップを、高性能測定用マイクを使用して、自動で行います。お使いになるお部屋や、スピーカーシステムの構成に合わせて、最適な視聴空間を作り出します。

ファロージャDCDi™回路搭載

インターレースのコンポーネントビデオ信号を、プログレッシブに変換して出力します。変換時のギザギザをなくし、滑らかで、自然なプログレッシブ映像を楽しむことができます。

高品位な操作画面&専用リモコン採用

設定などの操作を、GUI(グラフィカル・ユーザー・インターフェース)画面でサポート。わかりやすいGUI画面上で、やりたいことをたどっていけば簡単に設定できます。また、操作にはシンプルな専用リモコンを採用。操作性を向上させています。

i.LINK端子搭載

i.LINK(AUDIO)端子を持つ機器を接続できます。従来デジタル出力端子から伝送していた2チャンネルのリニアPCM信号やマルチチャンネルの圧縮オーディオ信号に加え、いままでアナログでしか伝送できなかったDVDオーディオ/スーパーオーディオCDなどのマルチチャンネル信号をデジタルのまま伝送することが可能です。

*i.LINKとi.LINKロゴ はソニー株式会社の商標です。

最新の音響技術に対応

以下の信号方式に対応したデコーダーを搭載しています。



■ドルビーデジタル
■ドルビーデジタルEX
専用のマトリクスデコーダーを使用して、5.1チャンネルソフトのサラウンドL/Rチャンネルからサラウンドバックチャンネルを抽出し、6.1/7.1チャンネルで再生します。
■ドルビープロロジック
■ドルビープロロジックIIx、ドルビープロロジックII
2チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ちながら5.1/6.1/7.1チャンネル音声に変換します。音楽用のMusicモードと、映画のサウンドトラック用のMovieモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。従来の2チャンネル音声(モノラル音声を除く)だけで記録されたソースも、マルチチャンネルの迫力ある音声で楽しめます。



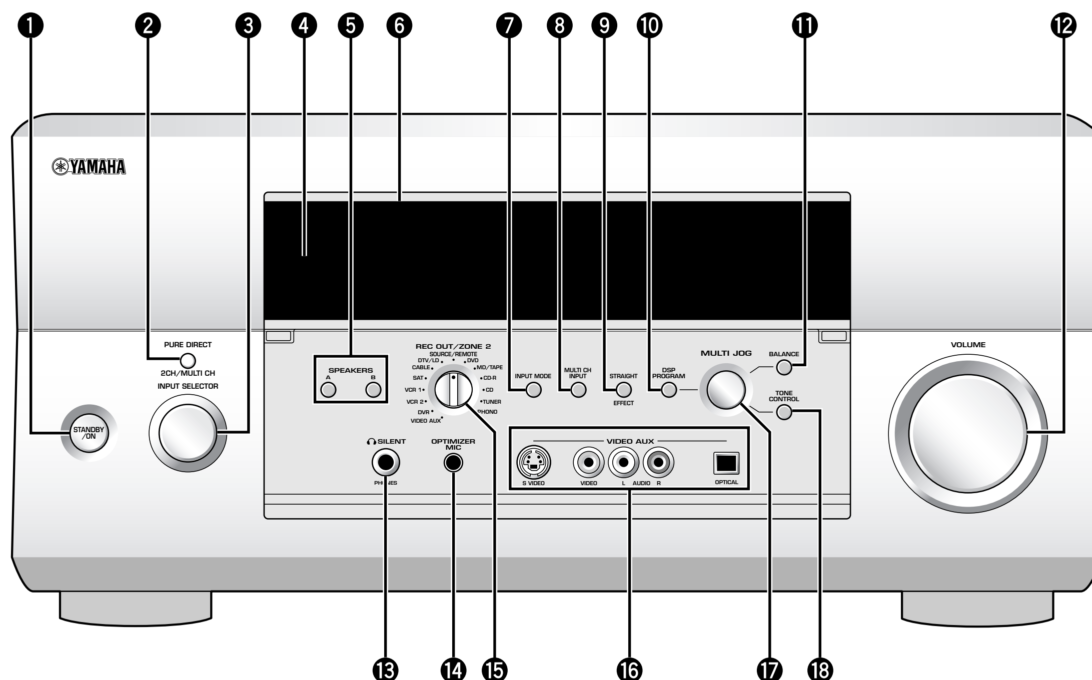
■DTS
■DTS-ES(エクステンディッド・サラウンド)
フロント3チャンネル、リア2チャンネル、低音チャンネルLFE(ロー・フリークエンシー・エフェクト)という従来の5.1チャンネル構成に、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネルとし、さらにこれらのチャンネルを独立させて収録したディスクリート6.1方式に対応しています。またマトリクス回路により、5.1チャンネルで収録されたソフトからサラウンドバックチャンネルを抽出するマトリクス6.1方式にも対応しています。
■DTS Neo：6(ネオ・シックス)
2チャンネル音源から最大6チャンネルを抽出し、再生します。ソースに合わせ、音楽用のMusicモードと、映画のサウンドトラック用のCinemaモードが用意されています。
■DTS 96/24
5.1チャンネルすべてを「サンプリング周波数96kHz/量子化ビット数24bit」の高音質での再生を実現します。



■AAC(アドバンスド・オーディオ・コーディング)
BSデジタル放送が採用している音声フォーマット。高圧縮率と高音質が特長で、通常の2チャンネルステレオ音声に加え、5.1チャンネルのサラウンド音声や、多言語放送を可能にしています。

各部の名称とはたらき

前面(フロントパネル)



❶ STANDBY/ONスイッチ

本機の電源の入/待機(スタンバイ)を切り替えます。
なお、電源を入れてから数秒間は音が出ません。
スタンバイ状態になっているときは、リモコンからの赤外線信号を受信するために、少量ながら電力を消費します。

❷ PURE DIRECT 2CH/MULTI CHキー

背面のMULTI CH INPUT端子および2CH IN端子に入力されたアナログ信号を、最良の音質で出力します。このキーを押すと、使わないビデオ回路や、DSP回路の動作が止まります。また、ディスプレイの表示も消えます(18ページ)。

❸ INPUT SELECTOR

再生したい入力ソースを選びます。

❹ リモコン受光窓

リモコンからの信号を受信します。

❺ SPEAKERS A/Bスイッチ

FRONT A/B SPEAKERS端子に接続されたフロントL/Rスピーカーのうち、音声を出力するフロントL/Rスピーカーを選びます。

❻ ディスプレイ

音場プログラムの名前や、設定値などを表示します(11ページ)。

❼ INPUT MODEキー

ひとつの機器をデジタル/アナログ両方の端子に接続しているときに、入力信号の優先順位を設定します(71ページ)。

❽ MULTI CH INPUTキー

MULTI CH INPUT端子に入力されている信号を選びます(基本操作編12 ページ)。INPUT SELECTOR、またはリモコンの入力選択キーで選んだ入力ソースよりも優先されます。

❾ STRAIGHT/EFFECTキー

音場効果を加えた音声と、音場効果を加えない音声とを切り替えます。「STRAIGHT」を選ぶと、入力信号のチャンネル数に関わらず、そのままの音声を再生します(20ページ)。

❿ DSP PROGRAMキー

音場プログラムを選ぶときに押します。このキーを押した後に、MULTI JOG(⓱)で、音場プログラムを選びます。

⓫ BALANCEキー

フロント/サラウンド/サラウンドバック/プレゼンスの各スピーカーの、左側と右側の音量バランスを調節するときに押します。このキーを押した後に、MULTI JOG(⓱)で、左右のスピーカーの音量バランスを調節します。

⑫ VOLUME(ボリューム)コントロール

本機の音量を調節します。

⑬ PHONES(フォンズ)端子

ヘッドホンを接続します。ヘッドホンを接続すると、すべてのスピーカーから音が出ませんので、深夜に音声を楽しむ際は、ヘッドホンをお使いくださるようお勧めします。ヘッドホンを接続時は、「サイレントシアター」で音声を楽しむことができます(15ページ)。

⑭ OPTIMIZER(オプティマイザー) MIC(マイク)端子

自動音場補正用のマイクを接続します(準備・接続編33ページ)。

⑮ REC(レック) OUT(アウト)/ZONE(ゾーン) 2セレクター

録音/録画するソースを選んだり、ZONE 2出力端子から出力するソースを選びます(79、81ページ)。

⑯ VIDEO(ビデオ) AUX(エーユーエックス)端子

ゲーム機やビデオカメラなどを接続する、予備入力端子です。
この端子に入力された信号を再生するには、INPUTセレクター、またはリモコンの入力選択キーで「V-AUX」を選びます。

⑰ MULTI(マルチ) JOG(ジョグ)

音場プログラムを選んだり、左右のスピーカーの音量バランスや音声の音色を調節します。

⑱ TONE(トーン) CONTROL(コントロール)キー

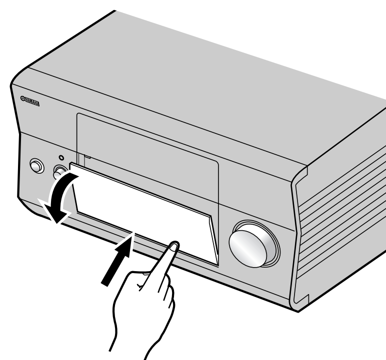
フロントL/R スピーカー、センタースピーカー、およびサブウーファーから出力される音声の音色を調節するときに押します。キーを押すごとに、BASS(低音域)とTRBL(高音域)が切り替わります。このキーを押した後に、MULTI JOG(⑰)で、音色を調節します。
トーンコントロールを無効にする場合は、このキーを繰り返し押して、OFFに切り替えます。

ご注意

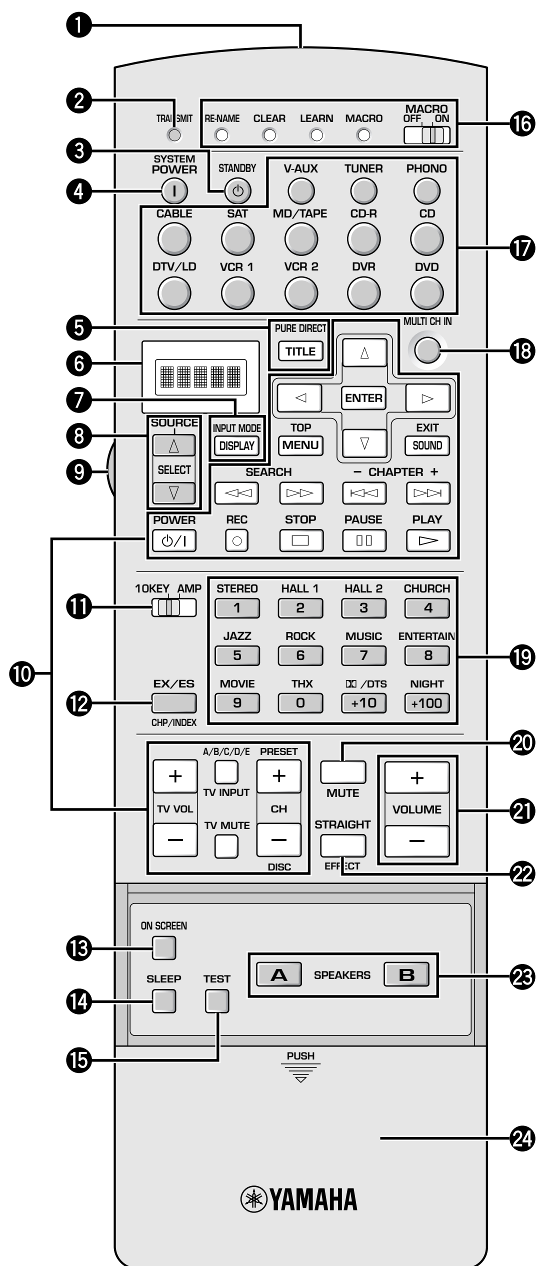
- トーンコントロールにより、音声を極端に調節した場合、他のスピーカーとの音のつながりが悪くなることがあります。
- THXサラウンドモード(14ページ)で再生しているときは、トーンコントロールで音色を調節できません。
- ヘッドホン接続時は、ヘッドホン用に独立して、音色を調節することができます。

前面ドアの開閉

前面ドアの中にあるスイッチやキーを使うときは、ドアの下の部分を押すと、ドアが開きます。前面ドアの中にあるスイッチやキーを使わないときは、ドアを閉めておきます。



リモコン



❶ 赤外線送受信部

リモコン操作用の赤外線信号を送受信します。

❷ TRANSMIT(トランスミット)インジケーター

リモコン操作用の赤外線信号を送信しているときに、点灯します。

❸ STANDBY(スタンバイ)キー

本機の電源を待機状態(スタンバイ)にします。

❹ SYSTEM(システム) POWER(パワー)キー

本機の電源を入れます。

❺ PURE(ピュア) DIRECT(ダイレクト)キー

背面のMULTI CH INPUT端子および2CH IN端子に入力されたアナログ信号を、最良の音質で出力します。このキーを押すと、使わないビデオ回路や、DSP回路の動作が止まります。また、ディスプレイの表示も消えます(18ページ)。

❻ リモコンディスプレイ

操作できる機器の名前を表示します。

❼ INPUT(インプット) MODE(モード)キー

ひとつの機器をデジタル/アナログ両方の端子に接続しているときに、入力信号の優先順位を設定します(71ページ)。

❽ SOURCE(ソース) SELECT(セレクト) △/▽キー

入力ソースを切り替えずに、リモコンで操作したい機器を切り替えたいときに押して、操作したい機器の名前を表示させます。

❾ LIGHT(ライト)キー

操作できるキーとリモコンディスプレイを、10秒間点灯させます。すぐに消したいときは、もう一度押します。

❿ オペレーションセクション

入力選択キーで選んだ機器の、基本操作を行います(61〜64ページ)。

⓫ 10KEY(キー)/AMP(アンプ)スイッチ

本機を操作するときは、「AMP」に合わせます。音場プログラムを選ぶことができます。他の機器を操作するときは、「10KEY」に合わせます。

⓬ EX/ESキー

5.1チャンネルソフトを6.1または7.1チャンネルで再生するときに押します(12ページ)。

⑬ ON SCREENキー
接続したテレビの画面に、本機の操作状態などを表示します(75ページ)。

⑭ SLEEPキー
オフタイマーを設定します(74ページ)。

⑮ TESTキー
テストトーンを出力します(72ページ)。

⑯ 学習機能ボタン/MACROスイッチ
他の機器のリモコン信号を学習させたり(59ページ)、リモコンディスプレイに表示される入力ソースの名前を変更する(68ページ)ときに押します。また、マクロ機能のオン/オフを切り替えます(66ページ)。

⑰ 入力選択キー
再生したい入力ソースを選びます。入力ソースに合わせて、リモコンの機能も切り替わります。

⑱ MULTI CH INキー
MULTI CH INPUT端子に入力されている信号を選びます(基本操作編12ページ)。
本体のINPUT SELECTOR、またはリモコンの入力選択キーで選んだ入力ソースよりも優先されます。

⑲ 数字/音場プログラムキー
10KEY/AMPスイッチ(⓫)が「10KEY」に設定されているときは、数字を入力します。
「AMP」に設定されているときは、音場プログラムを選びます。

⑳ MUTEキー
音量を下げます(基本操作編7ページ)。音量を下げている間は、ディスプレイのMUTEインジケーターが点滅します。
もう一度押すと、元の音量に戻ります。

㉑ VOLUME +/−キー
本機の音量を調節します。

㉒ STRAIGHT/EFFECTキー
音場効果を加えた音声と、音場効果を加えない音声とを切り替えます。「STRAIGHT」を選ぶと、入力信号のチャンネル数に関わらず、そのままの音声を再生します(20ページ)。

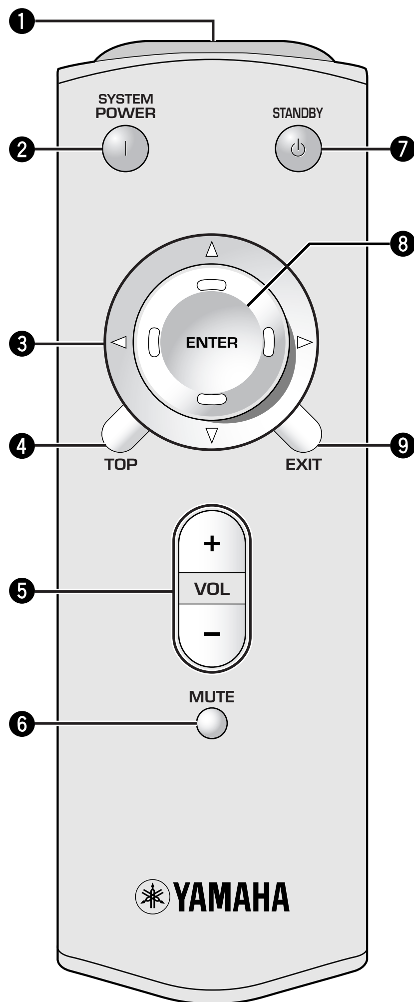
㉓ SPEAKERS A/Bキー
FRONT A/B SPEAKERS端子に接続されたフロントL/Rスピーカーのうち、音声を出力するフロントL/Rスピーカーを選びます。

㉔ スライドカバー
手前にスライドすると、ON SCREENキー、SLEEPキー、TESTキーやカーソルキーなどが出ます。これらのキーを使わないときは、スライドカバーを上にスライドさせて、閉じておくことができます。

GUI操作対応キー
10KEY/AMPスイッチ(⓫)を「AMP」に設定すると、オペレーションセクション(❿)内のキーで、GUIを操作できます。

- **カーソル(△/▽/◁/▷)キー**
  設定する項目を選んだり、設定値を変更したりします。
- **TOPキー**
  GUIのトップ(先頭)画面を表示します。
- **ENTERキー**
  選んだ項目の設定に入ったり、設定値を決定したりします。
- **EXITキー**
  GUIメニューから抜けます。

GUIリモコン



❶ 赤外線送信部

リモコン操作用の赤外線信号を送信します。

❷ SYSTEM POWER（システム パワー）キー

本機の電源を入れます。

❸ カーソル(△/▽/◁/▷)キー

設定する項目を選んだり、設定値を変更したりします。

❹ TOP（トップ）キー

GUIのトップ(先頭)画面を表示します。

❺ VOL（ボリューム） +/−キー

本機の音量を調節します。

❻ MUTE（ミュート）キー

音量を下げます(基本操作編7ページ)。音量を下げている間は、ディスプレイのMUTEインジケーターが点滅します。

もう一度押すと、元の音量に戻ります。

❼ STANDBY（スタンバイ）キー

本機の電源を待機状態(スタンバイ)にします。

❽ ENTER（エンター）キー

選んだ項目の設定に入ったり、設定値を決定します。

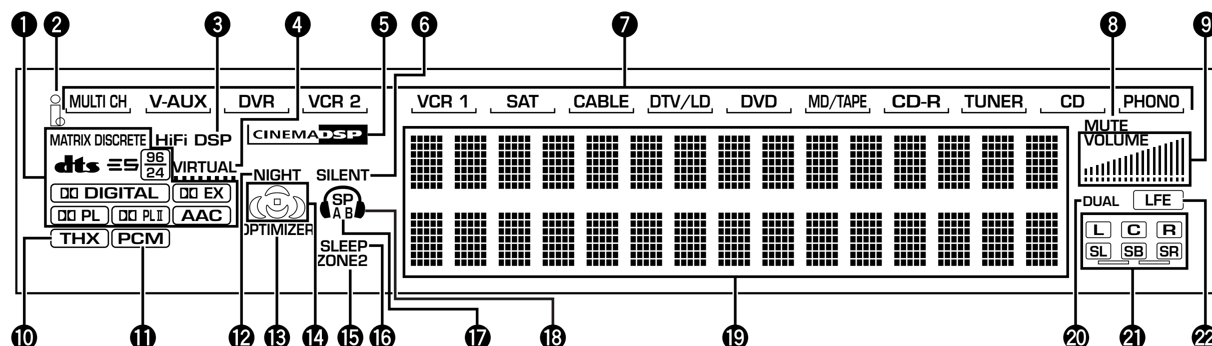
❾ EXIT（エグジット）キー

GUIメニューから抜けます。

ヒント

• GUIリモコンでの操作を、通常のリモコンで行うこともできます(9ページ)。

ディスプレイ



❶ **デコーダーインジケーター**
本機内蔵のデコーダーが作動しているときに、それぞれのインジケーターが点灯します。

❷ **i.LINKインジケーター**
i.LINK（AUDIO）機器からの信号を再生しているときに点灯します。

❸ **HiFi DSPインジケーター**
Hi-Fi DSP音場プログラムを選んでいるときに点灯します。

❹ **VIRTUALインジケーター**
バーチャルシネマDSPモードで再生しているときに点灯します。

❺ **CINEMA DSPインジケーター**
CINEMA DSP音場プログラムを選んでいるときに点灯します。

❻ **SILENT THEATERインジケーター**
「サイレントシアター」モードで再生しているときに点灯します。

❼ **入力ソースインジケーター**
現在選んでいる入力ソースの名前の下に、＿＿＿が点灯します。

❽ **MUTEインジケーター**
MUTEキーを押して、音量を下げている間点滅します。

❾ **VOLUMEインジケーター**
現在の音量を表示します。音量が大きくなるにつれて、右側にインジケーターが増えていきます。

❿ **THXインジケーター**
THXサラウンドモードで再生しているときに点灯します。

⓫ **PCMインジケーター**
PCM信号を再生しているときに点灯します。

⓬ **NIGHTインジケーター**
ナイトリスニングモードで再生しているときに点灯します。

⓭ **OPTIMIZERインジケーター**
「自動測定メニュー」での設定がセットされている状態で常時点灯します。

⓮ **音場インジケーター**
DSP音場プログラムを使っているときに、本機がどのように音場を処理しているかを表示します。

⓯ **ZONE 2インジケーター**
ゾーン2出力の電源が入っているときに点灯します。

⓰ **SLEEPインジケーター**
オフタイマーが作動しているときに点灯します。

⓱ **SP A/Bインジケーター**
選んでいるフロントL/Rスピーカー(A、B)を表示します。

⓲ **ヘッドホンインジケーター**
PHONES端子に、ヘッドホンを接続すると点灯します。

⓳ **マルチインフォメーションディスプレイ**
音場プログラムの名前や、設定値などが表示されます。

⓴ **DUALインジケーター**
ドルビーデジタル、DTSおよびAACのDUAL MONOまたはMULTI MONOなど、音声多重モノラルのデジタル信号が入力されているときに点灯します。

㉑ **入力信号チャンネルインジケーター**
入力されているデジタル信号に含まれている、チャンネルの数に合わせて点灯します。

㉒ **LFEインジケーター**
入力されているデジタル信号に、LFE(低域効果音)チャンネルが含まれているときに点灯します。

サラウンド再生を楽しむ

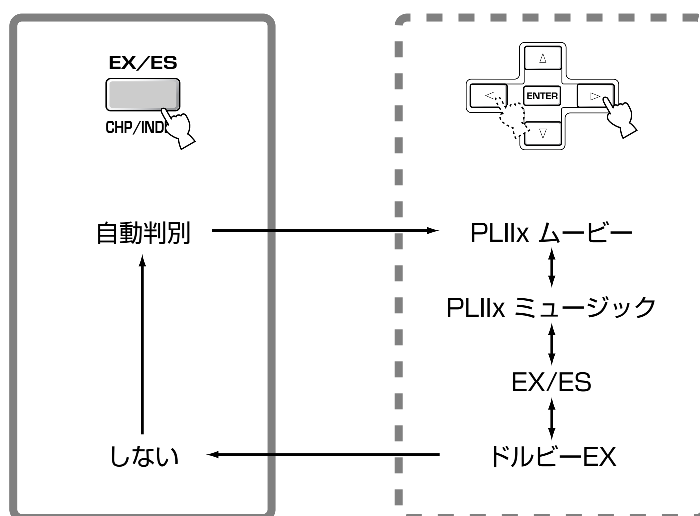
マルチチャンネルソフトを再生する

5.1チャンネルで再生する

ドルビーデジタル、DTS信号が入力されると、本機は自動的にそれらの信号フォーマットに適した、デコーダーおよび音場プログラムを選んで、再生します。

6.1または7.1チャンネルで再生する

ドルビーデジタルEXやDTS-ESなど、サラウンドL/R成分があるソースや、MULTI CH INPUT端子に入力された5.1チャンネルのアナログソースは、サラウンドバックスピーカーの音声を加えて、6.1または7.1チャンネルで再生することができます。6.1または7.1チャンネルで再生することで、よりダイナミックでリアルな音声を楽しむことができます。
EX/ESキーと⊲/⊳キーで再生モード(デコーダー)を切り替えます。



自動判別
本機が認識できる信号(フラグ)が記録されているソースが入力されると、信号に応じて最適なデコーダーを自動的に選び、6.1または7.1チャンネルで再生します。
本機がフラグを認識できない、またはソース自体にフラグが記録されていない場合は、6.1または7.1チャンネルで再生されません。

PLIIxムービー
ドルビーデジタル、DTS、AACや5.1チャンネルのアナログソースを、プロロジックIIxデコーダーにより、7.1チャンネルで再生します。

PLIIxミュージック
ドルビーデジタル、DTS、AACや5.1チャンネルのアナログソースを、プロロジックIIxデコーダーにより、6.1または7.1チャンネルで再生します。

EX/ES
ドルビーデジタル、AACや5.1チャンネルのアナログソースを、ドルビーデジタルEXデコーダーにより、6.1チャンネルで再生します。
またDTSを、DTS ESマトリクスデコーダーにより、6.1チャンネルで再生します。

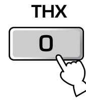
ドルビーEX
ドルビーデジタル、DTS、AACや5.1チャンネルのアナログソースを、ドルビーデジタルEXデコーダーにより、6.1チャンネルで再生します。

オフ
6.1または7.1チャンネルでの再生はしません。5.1チャンネルで再生されます。

ご注意
- 以下の場合は、EX/ESキーを押しても、6.1または7.1チャンネルで再生されません。
  - マニュアル設定メニュー「基本設定：スピーカーの設定」の「サラウンド」を、「無」に設定しているとき(27ページ)。
  - マニュアル設定メニュー「基本設定：スピーカーの設定」の「サラウンドバック」を「無」に設定して(27ページ)、「サラウンドスタンダード」または「ストレートデコード」モードで再生しているとき。
  - ヘッドホンを接続して、「サラウンドスタンダード」または「ストレートデコード」モードで再生しているとき。
  - 「2chステレオ」、「ダイレクト」、「9chステレオ」を、音場プログラムとして選んでいるとき。
  - サラウンドL/R成分のないソース(2チャンネルのPCM、アナログ信号など)を再生しているとき。
  - i.LINK端子から入力した、マルチチャンネルPCM信号およびマルチチャンネルDSD信号を再生しているとき。
- 以下の場合は、「PLIIxムービー」を選べません。
  - マニュアル設定メニュー「基本設定：スピーカーの設定」の「サラウンド」を、「無」に設定しているとき(27ページ)。
  - マニュアル設定メニュー「基本設定：スピーカーの設定」の「サラウンドバック」を、「大1台」、「小1台」または「無」に設定しているとき(27ページ)。
- 以下の場合は、「PLIIxミュージック」を選べません。
  - マニュアル設定メニュー「基本設定：スピーカーの設定」の「サラウンド」を、「無」に設定しているとき(27ページ)。
  - マニュアル設定メニュー「基本設定：スピーカーの設定」の「サラウンドバック」を、「無」に設定しているとき(27ページ)。
- ヘッドホンを接続しているときは、「PLIIxムービー」と「PLIIxミュージック」を選ぶことはできますが、プロロジックIIxデコーダーははたらきません(入力信号や設定によっては、ドルビーデジタルEXデコーダーがはたらく場合があります)。
- MULTI CH INPUT端子に入力された5.1チャンネルのアナログ音声を6.1または7.1チャンネルで再生する場合は、入力選択・設定メニュー「マルチCH入力：入力チャンネル」を「5.1チャンネル」に設定してください(47ページ)。
- 本機をスタンバイ状態にすると、モードは自動的に「自動判別」になります。
- DTS 96/24ソフトをESディスクリート方式で、6.1または7.1チャンネルで再生しているときは、DTS 96/24デコーダーは作動しません。

THXサラウンドモードで再生する

THXサラウンドモードでは、映画のサウンドトラックを、一般家庭でリアルに再現することができます。どのようなソフトに対しても効果的ですが、ドルビーデジタル、DTSソフトを再生するときには、特に威力を発揮します。リモコンのTHXキーを押すと、THXサラウンドモードで再生します。



2チャンネルソースを再生する

マルチチャンネル化してから、THX処理をして再生します。マルチチャンネル化するためのデコーダーを、以下の3つのなかから選びます。「デコーダ選択」パラメーターでデコーダーを切り替えることができます（106ページ）。

THXシネマ：プロロジック
THXシネマ：プロロジックII
THXシネマ：ネオ6
THXシネマ：プロロジックIIx

マルチチャンネルソースを再生する

入力信号の種類により、最適なデコーダーで忠実にデコードしてから、THX処理をして再生します。

THXシネマ
あらゆるソフトの再生に適しています。

THXウルトラ2シネマ
5.1チャンネルの映画ソフトを再生するときに適しています。Advanced Speaker Array（117ページ）により、サラウンドバックL/Rチャンネルを生成して、7.1チャンネルで再生します。「THXシネマ」を選んだ状態で、再生条件（下記「ご注意」参照）を満たすと自動的に有効になります。

THXミュージック
5.1チャンネルの音楽ソフトを再生するときに適しています。Advanced Speaker Array（117ページ）により、サラウンドバックL/Rチャンネルを生成して、7.1チャンネルで再生します。「THXミュージック」を選んだ状態で、再生条件（下記「ご注意」参照）を満たすと自動的に有効になります。

THXサラウンドEX
ドルビーデジタル、AACや5.1チャンネルのアナログソースを、サラウンドバックチャンネルを加えた、計6.1または7.1チャンネルで再生します。ドルビーEXデコーダーをオンにしてください(12ページ)。

ご注意

- 「THXウルトラ2シネマ」と「THXミュージック」は、下記条件を満たすと自動的に有効になります。
  - マニュアル設定メニュー「基本設定：スピーカーの設定」の「サラウンドバック」を、「大2台」または「小2台」に設定しているとき（27ページ）。
  - 入力信号にサラウンドL/R成分が含まれているとき。

  この条件を満たさない場合は、「THXシネマ」での再生になります。
- 「THXミュージック」を選んでいる場合は、ドルビーEXデコーダーをオンにして「THXサラウンドEX」で再生できません。「THXシネマ」を選んだ状態でドルビーデジタルEXデコーダーをオンにしてください。

2チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しむ

ドルビープロロジック、ドルビープロロジックII、ドルビープロロジックIIx、またはDTS Neo:6デコーダーを選ぶと、2チャンネルソースを、マルチチャンネル化してお楽しみいただけます。
リモコンの□□/DTSキーを押してから、「デコーダ選択」パラメーターでデコーダーを切り替えます（106ページ）。



「サラウンド/スタンダード」で再生する

「デコーダ選択」パラメーターで下記のデコーダーから選びます。

- プロロジック
- PLIIムービー
- PLIIミュージック
- PLIIゲーム
- ネオ6シネマ
- ネオ6ミュージック
- PLIIxムービー
- PLIIxミュージック
- PLIIxゲーム

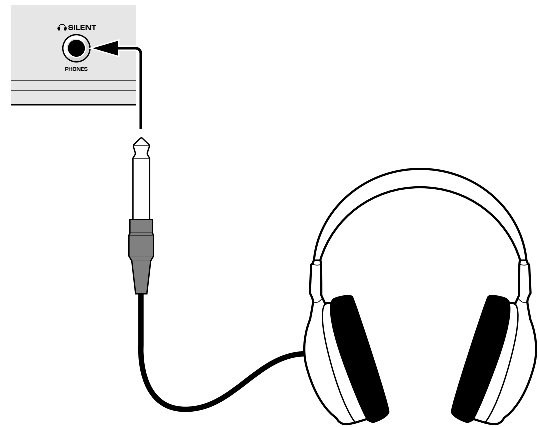
「サラウンド/エンハンスト」で再生する

「デコーダ選択」パラメーターで下記のデコーダーから選びます。

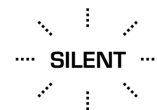
- プロロジック
- プロロジックII
- ネオ6
- プロロジックIIx

ヘッドホンで音場プログラムを楽しむ(サイレントシアター)

音場効果が入っている状態で、ヘッドホンを本体のPHONES端子に接続すると、「サイレントシアター」モードで再生を楽しめます。



「サイレントシアター」モードでは、マルチスピーカーによる音場プログラムの効果を、ヘッドホンで擬似的に再現します。「サイレントシアター」モードで再生している間は、本体ディスプレイのSILENT THEATERインジケーターが点灯します。



ご注意

- 以下の場合は、ヘッドホンを接続しても、「サイレントシアター」モードには切り替わりません。
  – 「2chステレオ」、「ダイレクト」を音場プログラムとして選んでいるとき。
  – THXサラウンドモードで再生しているとき。
  – STRAIGHT/EFFECTキーを押して、音場効果を切って再生しているとき。

サラウンドL/Rスピーカーなしで音場プログラムを楽しむ(バーチャルシネマDSP)

サラウンドL/Rスピーカーがない場合でも、バーチャルシネマDSPモードにより、臨場感あふれる再生を楽しめます。
マニュアル設定メニュー「基本設定：スピーカーの設定」の「サラウンド」を、「無」に設定する(27ページ)と、バーチャルシネマDSPモードで再生を楽しめます。

バーチャルシネマDSPモードでは、入力ソースの音声に、選んだ音場プログラムの音場効果を付加して、フロントL/Rスピーカー、センタースピーカーとサブウーファーから出力します。バーチャルシネマDSPモードで再生している間は、本体ディスプレイのVIRTUALインジケーターが点灯します。

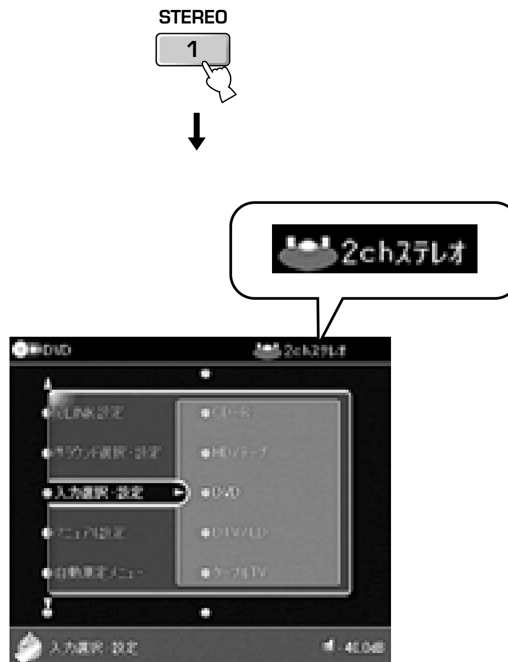


ご注意

- 以下の場合は、マニュアル設定メニュー「基本設定：スピーカーの設定」の「サラウンド」を、「無」に設定しても、バーチャルシネマDSPモードには切り替わりません。
  - 「2chステレオ」、「ダイレクト」、「9chステレオ」、「サラウンドスタンダード」のどれかを、音場プログラムとして選んでいるとき。
  - THXサラウンドモードで再生しているとき。
  - STRAIGHT/EFFECTキーを押して、音場効果を切って再生しているとき。
  - ヘッドホンを接続しているとき。

ステレオ再生を楽しむ

フロントL/Rスピーカーからステレオ音声で再生します。
リモコンのSTEREOキーを繰り返し押して、「2chステレオ」を選びます。



2チャンネルソースの場合：
フロントL/Rスピーカーからステレオ音声で再生します。

マルチチャンネルソースの場合：
フロントL/Rチャンネル以外の音声をフロントL/Rチャンネルにミックスして、フロントL/Rスピーカーからステレオ音声で再生します。

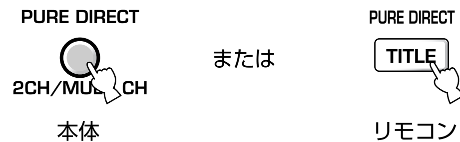


- マニュアル設定メニュー「基本設定：サブウーファー設定」の「低音出力先」を、「フロントとサブウーファー」または「サブウーファーのみ」に設定している場合は、LFE信号の有無やフロントL/Rスピーカーのサイズ設定によってはサブウーファーからも音が出ます（26ページ）。

元の音をそのまま高音質で再生する (ピュアダイレクトモード)

スーパーオーディオCDやDVDオーディオなどのマルチチャンネルソースや、CDなどの2チャンネルソースを、アナログのままで聴くときに、高音質で楽しむことができます。MULTI CH INPUT端子、または2CH INPUT端子に接続したスーパーオーディオCD/DVDプレーヤーなどで、最良の音を聴くときに適しています。

PURE DIRECTキーを押すと、ピュアダイレクトモードで再生します。



PURE DIRECTキーのオン/オフと、MULTI CH INPUTキーのオン/オフの組み合わせにより、以下のように再生されるソースが変わります。

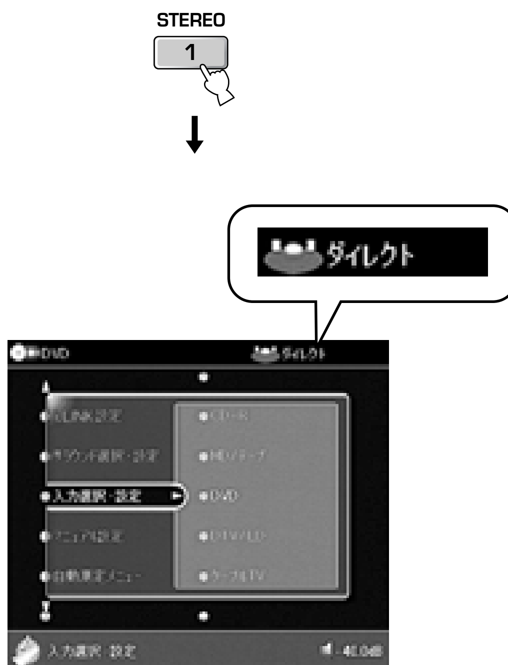
	MULTI CH INPUTオフ	MULTI CH INPUTオン
PURE DIRECTオフ	INPUT SELECTORで選んだソースを再生	MULTI CH INPUT端子に接続したソースを再生
PURE DIRECTオン	2CH IN端子に接続したソースを高音質アナログ再生 （本体のPURE DIRECTキーが青色で点灯）	MULTI CH IMPUT端子に接続したソースを高音質アナログ再生 （本体のPURE DIRECTキーが緑色で点灯）

ご注意

- ピュアダイレクトモードで再生中は、マニュアル設定メニューでの設定や、トーンコントロールによる音声設定が無効になります。
- ピュアダイレクトモードでは、アナログ音声を高音質で再生するために、使用しないビデオ回路を停止したり、ディスプレイの表示を消します。

高音質で再生する(ダイレクト)

アナログ信号、PCM信号(2チャンネル/マルチチャンネル)、DSD信号(2チャンネル/マルチチャンネル)を、原音に忠実な高音質ステレオ音声で再生します。
リモコンのSTEREOキーを繰り返し押して、「ダイレクト」を選びます。



再生するソースにより本体ディスプレイの表示が変わります。

アナログ信号の場合：
Direct Analog

PCM信号の場合：
Direct PCM

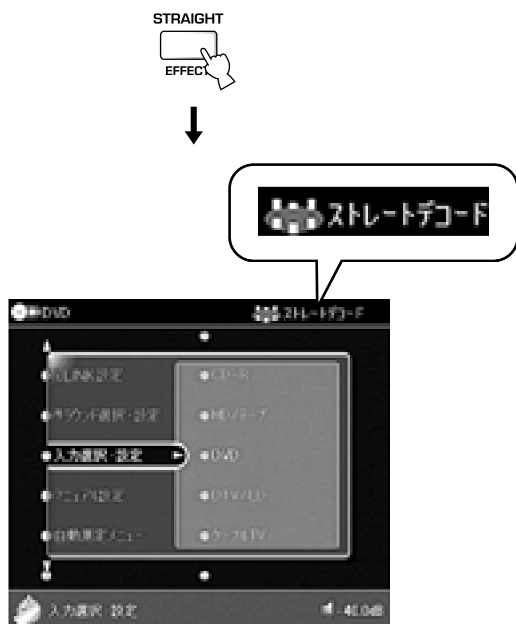
DSD信号の場合：
Direct DSD

ご注意
- 「ダイレクト」でDTS-CDを再生しないでください。ノイズが出力されることがあります。
- ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネルソースを再生しているときに「ダイレクト」を選ぶと、同じ入力の、アナログ音声入力端子に入力されている音声を出力します。デジタル接続のみの場合は、音声は出力されません。
- 入力モードを「LD-RF固定」、「DTS固定」または「AAC固定」に設定している場合は、音声は出力されません(71ページ)。
- 「ダイレクト」で再生中は、マニュアル設定メニューでの設定や、トーンコントロールによる音色設定が無効になります。
- 「ダイレクト」で再生中は、本体ディスプレイが自動的に暗くなります。

その他の再生のしかた

音場効果をかけずに再生する（ストレートデコード）

入力された信号を、音場効果をかけずにそのまま再生します。リモコンのSTRAIGHT/EFFECTキーを押すと、「ストレートデコード」モードで再生します。



2チャンネルソースの場合：
フロントL/Rスピーカーからステレオ音声で再生します。

マルチチャンネルソースの場合：
入力信号により、適切なデコーダーでデコードしたあと、マルチチャンネル音声で再生します。

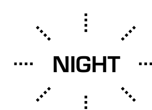
元の状態(音場効果をかけた状態)に戻るには、もう一度STRAIGHT/EFFECTキーを押します。

夜間に小音量で音声を楽しむ（ナイトリスニングモード）

ナイトリスニングモードを設定すると、夜間でも音量を気にせずに再生を楽しめます。
ナイトリスニングモードでは、セリフなどは明瞭に、大きな効果音は抑えて再生します。
リモコンのNIGHTキーを押すと、ナイトリスニングモードで再生します。



ナイトリスニングモードで再生している間は、本体ディスプレイのNIGHTインジケーターが点灯します。

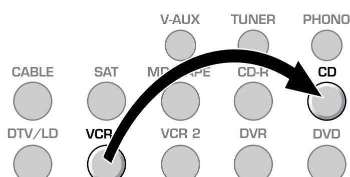


ヒント

- 「ダイレクト」以外の音場プログラムに対して、ナイトリスニングモードで再生することができます。また、ナイトリスニングモードで再生中に「ダイレクト」を選ぶと、ナイトリスニングモードは解除されます。
- 本機をスタンバイ状態にすると、ナイトリスニングモードは解除されます。
- 入力ソースにより、効果に違いが生じる場合があります。

音楽と映像で異なるソースを楽しむ(バックグラウンドビデオ機能)

バックグラウンドビデオ機能とは、ビデオ系ソースの映像と、オーディオ系ソースの音声を組み合わせて楽しむ機能です(例えばビデオを観ながら、クラシック音楽を楽しむことができます)。
ビデオ系ソースを選んでから、リモコンの入力選択キーでオーディオ系ソースを選びます。





- MULTI CH INPUT端子に入力された音声に、映像を組み合わせて再生する場合は、入力選択・設定メニューでビデオ系ソースを選んでください(47ページ)。

ご注意

- ピュアダイレクトモードのオン/オフを切り替えると、バックグラウンドビデオ機能は解除されます。

マニュアル設定メニューで設定を変更する

本機には、お使いのシステムで最適な音声や映像をお楽しみいただけるように、マニュアル設定メニューで設定を変更することができます。お使いのシステムに合わせて設定を変更してください。

メニュー一覧

マニュアル設定メニューは、以下のように用途、機能別に以下のようにカテゴリーに分類されています。

音の設定

音質や音色の調節など、音声の出力に関して以下のメニューを設定/変更できます。

項目	内容	参照ページ
シネマEQ	フロントL/センター/フロントRチャンネル、サラウンドL/Rチャンネル、サラウンドバックL/Rチャンネル、プレゼンスL/Rチャンネルの音色を調節します。	30
グラフィックEQ	グラフィックイコライザーを使って、各スピーカーの音色を調節します。	31
トーンコントロール	スピーカーまたはヘッドホンの低音域と高音域を調節します。	32
LFEレベル	ドルビーデジタル、DTSおよびAACでのLFE信号の再生レベルを調節します。	32
ダイナミックレンジ	ドルビーデジタル、DTSおよびAAC再生時のダイナミックレンジを調節します。	33
その他の音声の設定	音声と映像のずれ補正や、AACモノラル音声の設定をします。	33

基本設定

お使いのスピーカーシステムに合わせ、以下のメニューを設定/変更できます。

項目	内容	参照ページ
THXの設定	THXサラウンドモードについての設定をします。	26
サブウーファー設定	ご使用になるサブウーファーに合わせて、数や配置などを設定します。	26
スピーカーの設定	ご使用になるスピーカーに合わせて、サイズや有無などを設定します。	27
スピーカーの音量	各スピーカーからの出力レベルを設定します。	28
スピーカーの距離	各スピーカーからリスニングポジションまでの距離に合わせて、音の到達するタイミングを設定します。	29

映像の設定

画質の調節など、映像の出力に関して以下のメニューを設定/変更できます。

項目	内容	参照ページ
デジタル映像処理	デジタル映像処理回路のオン/オフを切り替えます。	34
映像モード	出力する映像の画質を調整します。	34
解像度	出力する映像の解像度を設定します。	35
アスペクト	出力する映像のアスペクト比を設定します。	36
クロスカラー除去	クロスカラー除去機能のオン/オフを切り替えます。	38
TV方式	映像信号の出力方式を設定します。	38
Sビデオ	ご使用になるテレビに合わせて、Sビデオ信号の方式を設定します。	39

ご注意

- プログレッシブ方式の映像や、ハイビジョン映像が入力されている場合、「デジタル映像処理」、「映像モード」、「解像度」、「アスペクト」および「クロスカラー除去」の設定は無効になります。
- ゲーム機等からの非標準信号では、映像処理回路が無効になる場合があります。

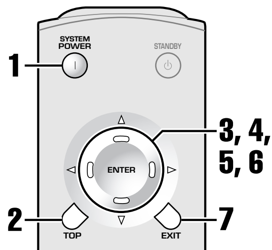
その他の設定

その他便利な機能に関して以下のメニューを設定/変更できます。

項目	内容	参照ページ
サラウンド初期化	音場プログラムパラメーターを初期設定に戻します。	40
入力モード初期値	電源をいれたときの接続機器の入力モードを設定します。	40
表示の設定	本体ディスプレイの明るさ、オンスクリーン画面の背景や表示位置などを調節します。	41
マルチゾーン	別の部屋で音声を楽しむときの出力に関してを設定します。	41

マニュアル設定メニューの表示と操作方法

操作には、GUIリモコンを使います。



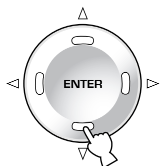
1 本機とテレビの電源を入れる

2 TOPキーを押して、GUI画面を表示する



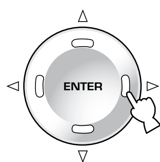


3 ▽キーを押して、「マニュアル設定」を選び、▷キーを押す



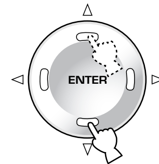






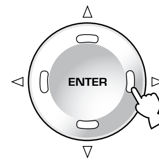


4 △/▽キーを押して、設定するカテゴリーを選び、▷キーを押す







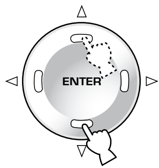




選ぶことのできるカテゴリーは以下のとおりです。

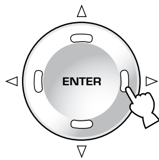
- 「音の設定」→30ページ
- 「基本設定」→26ページ
- 「映像の設定」→34ページ
- 「その他の設定」→40ページ

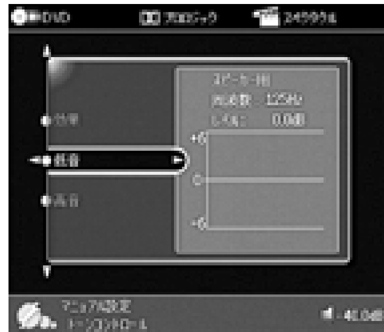
5 ∆/∇キーを押して、設定するメニューを選び、▷キーを押す





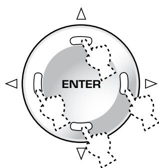






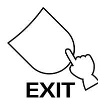
メニューによっては、∆/∇/◁/▷サブメニューを選ぶ必要があります。

6 ∆/∇/◁/▷キーを押して、選んだメニューの設定を変更する





7 変更し終わったら、EXITキーを押して、終了する





- GUIリモコンでの操作を、通常のリモコンで行うこともできます(9ページ)。

基本設定

お使いのスピーカーシステムに合わせた設定を行います。

THXの設定

THX Ultra2準拠のサブウーファーの低域出力や、サラウンドバックL/Rスピーカー間の距離を調節して、最適なTHXサラウンドモードの視聴空間を設定します。
(「マニュアル設定」→「基本設定」→「THXの設定」)



THX Ultra 2サブウーファー

お使いのサブウーファーに合わせて、ウルトラ2対応か、非対応かを設定します(「サブウーファー設定：構成」を、「前後配置」、「ステレオ」、「モノラル」に設定したときのみ)。

選択項目：ウルトラ2対応、ウルトラ2非対応



• THX Ultra 2の認定を受けているサブウーファーや、低域再生能力が20Hz以下まで伸びているサブウーファーをお使いの場合は、「ウルトラ2対応」に設定してください。

BGC

Boundary Gain Compensation機能(117ページ)のオン/オフを設定します(「THX Ultra 2サブウーファー」を「ウルトラ2対応」に設定したときのみ)。

選択項目：オン、オフ

SBスピーカーの間隔

サラウンドバックLスピーカーとサラウンドバックRスピーカーとの間の距離を設定します(「スピーカーの設定：サラウンドバック」を、「大2台」または「小2台」に設定したときのみ)。

選択項目：0.3m以下、0.3～1.2m、1.2m以上

サブウーファー設定

ご使用になるサブウーファーに合わせて、数や配置などを設定します。
(「マニュアル設定」→「基本設定」→「サブウーファー設定」)



構成

ご使用になるサブウーファーの数と、配置方法を設定します。

選択項目：前後配置、ステレオ、モノラル、使用しない



• サブウーファーを1台のみ使う場合は、「モノラル」に設定してください。

位相

ご使用になるサブウーファーの位相を設定します。低音が物足りない場合などにお試しください。

選択項目：正相、Lを逆相、Rを逆相、L、Rを逆相

低音出力先

低域成分を出力するスピーカーを設定します。

選択項目：フロントとサブウーファー、サブウーファーのみ、フロントに出力

「フロントとサブウーファー」：
フロントL/Rスピーカーのサイズ設定に関わりなく、フロントL/Rチャンネルの低音域をLFEチャンネルにミックスします。フロントL/Rスピーカーの低音域がフロントL/Rスピーカーとサブウーファーの両方に出力されます。フロントL/Rチャンネル以外のチャンネルの低音域は、スピーカーサイズ設定により、フロントL/Rスピーカーとサブウーファーの両方に出力されます。

「サブウーファーのみ」：
LFEチャンネルと、スピーカーサイズ設定により、他チャンネルの低音域がサブウーファーに出力されます。

「フロントに出力」：
LFEチャンネルと、スピーカーサイズ設定により、他チャンネルの低音域がフロントL/Rスピーカーに出力されます。



• 「サブウーファー設定：構成」を「使用しない」に設定した場合は、自動的に「フロントに出力」に設定されます。反対に、「前後配置」、「ステレオ」、「モノラル」に設定すると、「フロントに出力」は選べません。

スピーカーの設定

ご使用になるスピーカーに合わせて、スピーカーの有り無しなどを設定します。
(「マニュアル設定」→「基本設定」→「スピーカーの設定」)



- 目安として、ウーファーの口径が16cm以下のスピーカーをお使いの場合は「小」、それ以上の口径の場合は「大」に設定することをおすすめします。



フロント

フロントL/Rのスピーカーのサイズを設定します。

選択項目：大、小

センター

センタースピーカーのサイズ、有無を設定します。

選択項目：大、小、無



- 「無」に設定した場合は、センターチャンネルはフロントL/Rスピーカーに振り分けられて出力されます。

サラウンド

サラウンドL/Rスピーカーのサイズ、有無を設定します。

選択項目：大、小、無



- 「無」に設定した場合は、「サラウンドバック」も自動的に「無」に設定されます。

サラウンドバック

サラウンドバックスピーカーのサイズと本数、有無を設定します。

選択項目：大2台、小2台、大1台、小1台、無



- 「無」に設定した場合は、サラウンドバックチャンネルはサラウンドL/Rスピーカーに振り分けられて出力されます。

プレゼンス

プレゼンスL/Rスピーカーを使うか、使わないかを設定します。

選択項目：使用する、使用しない



- 「使用しない」に設定した場合は、プレゼンスチャンネルはフロントL/Rスピーカーに振り分けられて出力されます。
- 「マルチゾーン：ゾーン2アンプ」を、「本機を使用」に設定すると、自動的に「使用しない」に設定されます(41ページ)。

クロスオーバー

サブウーファーに出力する低音成分の、周波数の上限を設定します。
設定した周波数以下の低音成分が、サブウーファーに出力されます。

選択項目：40Hz、60Hz、80Hz(THX)、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz、160Hz、200Hz



- THXシステムを使うときは、「80Hz(THX)」に設定してください。
- 「小」に設定したチャンネルの低域成分は、「サブウーファー設定：低音出力先」の設定にしたがって出力されます(26ページ)。

スピーカーの音量

各スピーカーからの音量が同じになるように、それぞれのスピーカーの音量を個別に調節します。

(「マニュアル設定」→「基本設定」→「スピーカーの音量」)

ヒント

- 実際に音声を再生しながら、調節することをおすすめします。
- THXシステムをお使いの場合、正確に調節するためにテストトーンを使って音量を調節してください(72ページ)。



フロント左

フロントLスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0～＋10.0dB

フロント右

フロントRスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0～＋10.0dB

センター

センタースピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0～＋10.0dB

サラウンド左

サラウンドLスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0～＋10.0dB

サラウンド右

サラウンドRスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0～＋10.0dB

サラウンドバック左

サラウンドバックLスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0～＋10.0dB

ヒント

- サラウンドバックスピーカーを1台のみ使っている場合は、音量は「サラウンド左」で調節してください。

サラウンドバック右

サラウンドバックRスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0～＋10.0dB

プレゼンス左

プレゼンスLスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0～＋10.0dB

プレゼンス右

プレゼンスRスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0～＋10.0dB

サブウーファー左

左側のサブウーファーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0～＋10.0dB

サブウーファー右

右側のサブウーファーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0～＋10.0dB

ヒント

- 2台のサブウーファーを前後に設置して使っている場合は、前側のサブウーファーの音量は「サブウーファー左」で、後ろ側のサブウーファーの音量は「サブウーファー右」で調節してください。

ご注意

- 「スピーカーの設定」で「無」に設定されているスピーカーの音量は調節できません。
- 「サブウーファー設定」の「構成」を、「使用しない」に設定している場合は、サブウーファーの音量は調節できません。

スピーカーの距離

各スピーカーからの音が同時にリスニングポジションに届くように、スピーカーからの音の出力を遅らせます。遅らせる時間は、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を入力して、その差から自動的に算出されます。

(「マニュアル設定」→「基本設定」→「スピーカーの距離」)



フロント左

フロントLスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.30〜24.00m/1.0〜80.0ft

フロント右

フロントRスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.30〜24.00m/1.0〜80.0ft

センター

センタースピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.30〜24.00m/1.0〜80.0ft

サラウンド左

サラウンドLスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.30〜24.00m/1.0〜80.0ft

サラウンド右

サラウンドRスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.30〜24.00m/1.0〜80.0ft

サラウンドバック左

サラウンドバックLスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.30〜24.00m/1.0〜80.0ft

サラウンドバック右

サラウンドバックRスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.30〜24.00m/1.0〜80.0ft

プレゼンス左

プレゼンスLスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.30〜24.00m/1.0〜80.0ft

プレゼンス右

プレゼンスRスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.30〜24.00m/1.0〜80.0ft

サブウーファー左

左側のサブウーファーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.30〜24.00m/1.0〜80.0ft

サブウーファー右

右側のサブウーファーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.30〜24.00m/1.0〜80.0ft

ヒント

- 2台のサブウーファーを前後に設置して使っている場合は、前側のサブウーファーの距離は「サブウーファー左」で、後ろ側のサブウーファーの距離は「サブウーファー右」で設定してください。

距離の単位

表示する距離の単位を切り替えます。

選択項目：メートル、フィート

ご注意

- 単位を切り替えると、それぞれの設定値がリセットされてしまいますのでご注意ください。

音の設定

音質や音色の調節など、音声の出力に関する設定を行います。

シネマEQ

フロントL/センター/フロントRチャンネル、サラウンドL/Rチャンネル、サラウンドバックL/Rチャンネル、プレゼンスL/Rチャンネルを、それぞれ個別に音色を調整できます。パラメトリックイコライザーと高域フィルターを組み合わせて調整しますので、きめ細かい調整ができます。

(「マニュアル設定」→「音の設定」→「シネマEQ」)



1 △/▽キーを押して、調整するチャンネルを選び、▷キーを押す

選択項目：フロント&センター、サラウンド、サラウンドバック、プレゼンス

2 △/▽キーを押して、「オン」を選ぶ

3 △/▽キーを押して、「PEQ」を選び、ENTERキーを押す



4 ◁/▷キーを押して、調整する周波数を選ぶ

可変範囲：1.0kHz〜12.7kHz

5 △/▽キーを押して、選んだ周波数のレベルを調整する

可変範囲：−9dB〜+3dB

6 調整し終わったら、ENTERキーを押す

7 △/▽キーを押して、「高音」を選び、ENTERキーを押す



8 ◁/▷キーを押して、調整する周波数を選ぶ

可変範囲：1.0kHz〜12.7kHz

9 △/▽キーを押して、選んだ周波数のレベルを調節する

可変範囲：−9dB〜+3dB

10 調整が終わったら、ENTERキーを押す

ご注意

- ヘッドホンを接続して再生している場合、再生音には「シネマEQ」の調整内容は反映されません。

グラフィックEQ

グラフィックイコライザーを使用して、それぞれのスピーカーの音色を合わせます。

(「マニュアル設定」→「音の設定」→「グラフィックEQ」)



1 △/▽キーを押して、「イコライザー選択」を選び、▷キーを押す

2 △/▽キーを押して、「グラフィックEQ」を選び、◁キーを押す

ヒント

- 「自動補正EQ」を選ぶと、自動測定メニューのパラメトリックイコライザーでの設定を有効にします。

3 △/▽キーを押して、調整するスピーカーを選び、▷キーを押す

選んだスピーカーのグラフィックイコライザー画面が表示されます。



4 ◁/▷キーを押して、レベルを調整する周波数帯を選ぶ

選択項目：63Hz、125Hz、250Hz、500Hz、1kHz、2kHz、4kHz、8kHz、16kHz

5 △/▽キーを押して、レベルを調整する

可変範囲：−6dB〜+6dB

6 調整が終わったら、ENTERキーを押す

ご注意

- ヘッドホンを接続して再生している場合、再生音には「グラフィックEQ」の調整内容は反映されません。

トーンコントロール

スピーカーまたはヘッドホンから出力される音声の、低音域と高音域を調節します。

(「マニュアル設定」→「音の設定」→「トーンコントロール」)



効果

スピーカーから出力される音声を調節するのか、ヘッドホンから出力される音声を調節するのかを選びます。

選択項目：スピーカー用、ヘッドホン用、使用しない

低音

低音域の音色を調節します。ターンオーバー周波数は、125Hz、350Hz、500Hzのいずれかを選ぶことができます。

可変範囲：－6dB～＋6dB

高音

高音域の音色を調節します。ターンオーバー周波数は、2.5kHz、3.5kHz、8.0kHzのいずれかを選ぶことができます。

可変範囲：－6dB～＋6dB

ご注意

- THXサラウンドモード(14ページ)で再生しているときは、トーンコントロールで音色を調節できません。

LFEレベル

ドルビーデジタル、DTSおよびAAC信号に含まれる、LFE(低域効果音)の音量を調節します。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に調節できます。

(「マニュアル設定」→「音の設定」→「LFEレベル」)



スピーカー用

スピーカーで音を聴く場合の、LFEの音量を調節します。

可変範囲：－20dB～0dB

ヘッドホン用

ヘッドホンで音を聴く場合の、LFEの音量を調節します。

可変範囲：－20dB～0dB

LFE(低域効果音)とは？

映画の爆発シーンなど、意図されたシーンでのみ出力される、重低音による効果音です。

ダイナミックレンジ

ドルビーデジタル、DTSおよびAAC再生時のダイナミックレンジを、3段階から選びます。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に選べます。

(「マニュアル設定」→「音の設定」→「ダイナミックレンジ」)



スピーカー用

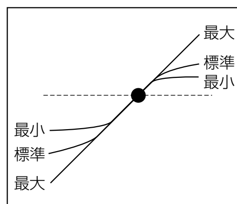
スピーカーで音を聴く場合の、ダイナミックレンジを選びます。

選択項目：最大、標準、最小

ヘッドホン用

ヘッドホンで音を聴く場合の、ダイナミックレンジを選びます。

選択項目：最大、標準、最小



「最大」：
入力された信号を最大に再生するダイナミックレンジです。

「標準」：
一般的な家庭用として推奨するダイナミックレンジです。

「最小」：
小音量でも聴きやすく、夜間に音声を楽しむのに適したダイナミックレンジです。

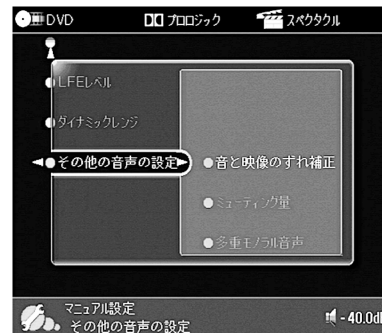
ダイナミックレンジとは？

どれだけ小さな音から、どれだけ大きな音までを雑音や歪みなく再生できるかを表わしたものです。

その他の音声の設定

音声と映像のずれを補正したり、AACモノラル音声の出力を設定します。

(「マニュアル設定」→「音声の設定」→「その他の音声の設定」)



音と映像のずれ補正

デジタル処理された映像が、音声よりも遅れて出力されることがあります。この出力タイミングのずれを、音声を遅らせて出力することにより補正します。
音を遅らせる時間を設定します。

可変範囲： 0〜200ms

ミューティング量

ミュート(消音)時に下げる音量を調節します。

選択項目： フルミュート、−20dB

「フルミュート」：
完全に消音し、無音にします。

「−20dB」：
いま聴いている音量よりも、20dB下げて再生します。

多重モノラル音声

BSデジタル放送などで使われている、モノラル二重音声入力時に、どの音声を出力するか設定します。

選択項目： 主音声、副音声、主＋副

「主音声」：
主音声のみをフロントL/Rスピーカーから出力します。

「副音声」：
副音声のみをフロントL/Rスピーカーから出力します。

「主＋副」：
主音声と副音声をフロントL/Rスピーカーから出力します。

映像の設定

画質の調節や解像度、アスペクトの変換など、映像の出力に関する設定を行います。

ご注意
- プログレッシブ方式の映像や、ハイビジョン映像が入力されている場合、映像処理回路は無効になります。
- ゲーム機等からの非標準信号では、映像処理回路が無効になる場合があります。

デジタル映像処理

デジタル映像処理をするか、しないかを設定します。

(「マニュアル設定」→「映像の設定」→「デジタル映像処理」)



選択項目： する、しない

「する」：
ビデオ処理回路が有効になります。

「しない」：
ビデオ処理回路が無効になります。映像信号はＩＮＰＵＴ SELECTORで選ばれた信号がそのまま出力されます。

ご注意
- THXシステムをお使いの場合は、「しない」に設定することをおすすめします。
- 文字放送など、付加信号を含む映像を「する」に設定して再生すると、付加信号が消去される場合があります。このような場合は、「しない」に設定してお使いください。
- 映像機器と再生するソフトの組み合わせによっては、映像が正常に出力されない場合があります。このような場合は、「しない」に設定してお使いください。
- 「しない」に設定しても、GUIリモコンのTOPキーを押すと、ビデオ処理回路が有効になり、GUI画面が表示されます。

映像モード

出力する映像の画質パターンを選びます。また、それぞれの画質パターンについて画質を調節することができます。

(「マニュアル設定」→「映像の設定」→「映像モード」)



選択項目： シネマ、スタンダード、ダイナミック

画質パターンを選んだ状態で⊳キーを押すと、以下のパラメーターで画質を調節できます。
- ∆/∇キーでパラメーターを選びます。
- ⊲/⊳キーで設定を変更します。
- ENTERキーで決定します。

輪郭強調

映像の輪郭の鮮明さを調整します。
数値が小さいほど柔かい映像になり、数値が大きいほど鮮明な映像になります。

可変範囲： 0～+24



ノイズ除去

映像のノイズやざらつきを抑えます。
数値が大きいほど、ノイズやざらつきを抑えた、より鮮明な映像になります。

可変範囲： 0～+10



明るさ

映像全体の明るさを調整します。
数値が強い差異ほど映像は暗くなり、数値が大きいほど映像は明るくなります。

可変範囲： －24～＋24



コントラスト

映像の暗い部分(黒レベル)は変えずに、映像の明るい部分(白レベル)の明るさを調整します。
数値が小さいほどコントラストは下がり、数値が大きいほどコントラストは上がります。

可変範囲： －24～＋24



色の濃さ

映像の色の濃さを調整します。
数値が小さいほど色は薄くなり、数値が大きいほど色は濃くなります。

可変範囲： －24～＋24



リセット

調整した項目を元に戻します。▷キーを押してください。



ご注意

- 複数のパラメーターを極端に調整すると、お使いのテレビによっては映像が乱れる場合があります。このような場合は、本機の調整をリセットし、テレビ側で画質調整をしてください。

解像度

ビデオ処理回路で変換する出力映像の解像度を設定します。

(「マニュアル設定」→「映像の設定」→「解像度」)



選択項目：480p/576p、480i/576i、1080i、720p

「480p/576p」：
480p/576p(プログレッシブ)の解像度で出力します。
「480i/576i」：
480i/576i(インターレース)の解像度で出力します。
「1080i」：
1080i(インターレース)の解像度で出力します。
「720p」：
720p(プログレッシブ)の解像度で出力します。

ご注意

- 設定はコンポーネントビデオ出力信号に対してのみ有効です。Sビデオ出力信号やコンポジット出力信号は480i/576i相当の解像度でしか出力されません。
- 「1080i」または「720p」に設定しても、著作権保護された映像信号は、480p/576pの解像度で出力されます。
- ご使用になるテレビが対応していない解像度に設定すると、画面が見えなくなります、このような場合は、GUIリモコンのEXITキーを5秒間押し続けることにより、設定を解除できます。

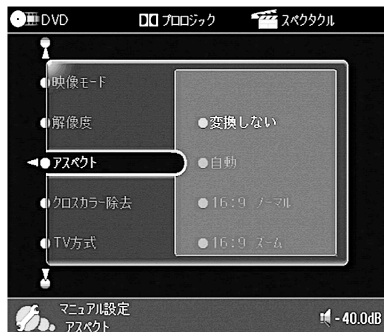
インターレース/プログレッシブとは？

一画面を構成する走査線の走査方式のことです。インターレース方式では、一画面の走査線を2つにわけ、それらを交互に表示させます。プログレッシブ方式では、一画面のすべての走査線を一度に表示させるため、インターレース方式よりもちらつきの少ない映像を映し出します。

アスペクト

ビデオ処理回路で変換する出力映像のアスペクト比を設定します。

(「マニュアル設定」→「映像の設定」→「アスペクト」)



選択項目：変換しない、自動、16：9ノーマル、16：9ズーム

「変換しない」：
入力された映像のアスペクト比のまま出力します。

「自動」：
入力された映像のアスペクト比を自動判別し、お使いのテレビで最適な映像になるように出力します。

「16：9ノーマル」：
4：3の映像の左右に黒い帯をつけ、16：9のテレビで最適な映像になるように出力します。

「16：9ズーム」：
4：3(レターボックス)の映像の上下の黒い帯をカットし、16：9のテレビで最適な映像になるように出力します。

→アスペクトの変換イメージ(次ページ)

ご注意

- 「映像の設定：解像度」を、「480i/576i」に設定しているときは、アスペクト比を変更できません(35ページ)。

アスペクトの変換イメージ

太枠は、入力信号とお使いのテレビに対する、最適な設定を表わしています。

入力信号のアスペクト比	お使いのテレビ	設定		
		変換しない	16：9ノーマル	16：9ズーム
4：3	4：3のテレビ			
	16：9のテレビ			
4：3（レターボックス）	4：3のテレビ			
	16：9のテレビ			
16：9	4：3のテレビ			
	16：9のテレビ			

ご注意

- 16：9の映像を、4：3のテレビで楽しむ場合は、テレビ側でアスペクト比を設定してください。

クロスカラー除去

クロスカラー(細かい縦模様などに発生する色のちらつき)を除去します。

(「マニュアル設定」→「映像の設定」→「クロスカラー除去」)



選択項目：する、しない

TV方式

映像信号が入力されていないときの、映像信号の出力方式を選びます。

(「マニュアル設定」→「映像の設定」→「TV方式」)



選択項目： NTSC、PAL

- ビデオ端子およびSビデオ端子には、選んだ方式で出力されます。
- コンポーネントビデオ端子には、「解像度」の設定にしたがって出力されます。「解像度」の設定が「480i/576i」の場合は、NTSC方式は480iの解像度で、PAL方式は576iの解像度で出力されます。同様に「480p/576p」の場合は、NTSC方式は480pの解像度で、PAL方式は576pの解像度で出力されます。

ご注意

- NTSC対応のテレビをご使用の場合に、「PAL」に設定すると、画面が見えなくなります。誤って「PAL」に設定してしまった場合は、GUIリモコンのEXITキーを5秒間押し続けることにより、設定を解除できます。

Sビデオ

ご使用になるテレビのS端子に合わせて、出力するSビデオ信号の方式を設定します。

(「マニュアル設定」→「映像の設定」→「Sビデオ」)



選択項目： S、S1、S2

「S」：
テレビがS1/S2に対応していない場合に選びます。

「S1」：
テレビがS1のみに対応している場合に選びます。

「S2」：
テレビがS1/S2に対応している場合に選びます。

S1/S2とは？

Sビデオ信号の方式です。S1では、4：3に圧縮されたワイドソフトを、自動的に16：9のサイズに戻して映し出すことができます。S2では、S1の機能に加え、レターボックス式で収録されたソフトを、自動的にワイド画面いっぱいに映し出すことができます。

その他の設定

音場プログラムの初期化や、表示の設定などを行います。

サラウンド初期化

変更した音場プログラムパラメーターを、初期設定に戻します。
(「マニュアル設定」→「その他の設定」→「サラウンド初期化」)



△/▽/◁/▷キーで、初期設定に戻したいプログラム番号を選び、ENTERキーを押します。

選択項目：全部、1～11

「全部」：
すべてのパラメーターを、初期設定に戻します。
「1～11」：
音場プログラムごとにパラメーターを、初期設定に戻します。リモコンの数字/音場プログラムキーで、パラメーターを初期設定に戻したい音場プログラムを選んでください。



- パラメーターが変更されている音場プログラムは、番号ボックスが青色で表示されます。

ご注意
- 設定の保護メニュー「サラウンド設定」が、「保護」に設定されている場合、音場プログラムパラメーターを、初期設定に戻せません。
- 「デコーダ選択」パラメーターは初期設定には戻りません(106ページ)。

入力モードの初期値

電源をいれたときに適用する入力モードを設定します。
(「マニュアル設定」→「その他の設定」→「入力モードの初期値」)

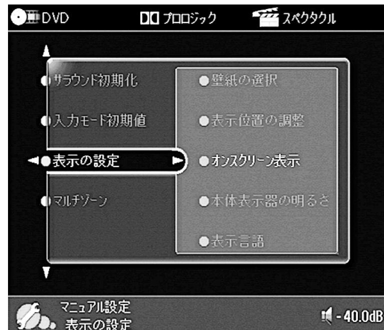


選択項目：自動判別、前回設定

「自動判別」：
自動的に入力モードを「自動判別」に設定します。
「前回設定」：
前回使っていた入力モードを適用します。

表示の設定

本体ディスプレイの明るさや、GUI画面の背景や表示位置などを調節します。
(「マニュアル設定」→「その他の設定」→「表示の設定」)



壁紙の選択
映像が入力されていないときに表示する、壁紙を選びます。

選択項目：使用しない、1(DSP-Z9)、2(ホルン)、3(ピアノ)、4(灰色無地)

ご注意
- 「映像の設定：デジタル映像処理」を、「しない」に設定しているときは、映像信号が入力されていない場合でも、壁紙は表示されません。

表示位置の調整
GUI画面を表示する位置を調節します。

可変範囲：－5～＋5(上下)、－5～＋5(左右)

オンスクリーン表示
オンスクリーン表示を表示するか、表示しないかを設定します。

選択項目：表示する、表示しない

ご注意
- 「映像の設定：アスペクト」を、「16：9ズーム」に設定しているときは、「表示する」に設定してもオンスクリーン表示は出ません(36ページ)。
- プログレッシブ方式の映像や、ハイビジョン映像が入力されている場合、オンスクリーン表示は出ません。

本体表示器の明るさ
前面のディスプレイ表示の明るさを調節します。
数値が小さいほど、表示が暗くなり、数値が大きいほど、表示が明るくなります。

可変範囲：－4～0

表示言語
GUI画面で使う言語を設定します。

選択項目：日本語、英語

マルチゾーン

別の部屋で音声を楽しむときの出力に関する項目を設定します。
(「マニュアル設定」→「その他の設定」→「マルチゾーン」)



ゾーン2の音量
ゾーン2への音量を、本体の音量に固定するか、独立して可変させるかを設定します。

選択項目：固定、可変

「固定」：
ゾーン2へ出力する音量は、本体の音量に固定されます。
「可変」：
リモコンのVOLUME＋/－キーで、ゾーン2へ出力する音量を、本体の音量とは別に調節できます。

ゾーン2アンプ
ゾーン2への音声出力に使用するアンプを設定します。

選択項目：本機を使用、外部アンプ、使用しない

「本機を使用」：
本機の内部アンプを使って、音声出力します。背面のPRESENCE/ZONE 2 SPEAKER端子に、ゾーン2で使うスピーカーを接続するときに選びます。
「外部アンプ」：
本機の内部アンプを使わずに、外部アンプを使って、音声出力します。背面のZONE 2 OUT端子に、ゾーン2で使うアンプを接続するときに選びます。
「使用しない」：
マルチゾーン機能を使わないときに選びます。

ご注意
- 「本機を使用」に設定すると、「基本設定：スピーカーの設定」の「プレゼンス」が、自動的に「使用しない」に設定されます(27ページ)。また、「ゾーン2の音量」が、自動的に「可変」に設定されます。

スピーカーB

背面のSPEAKERS B端子に接続したスピーカー(スピーカーB)の使用方法を設定します。

選択項目：A/Bで使用、ゾーンBで使用

「A/Bで使用」：

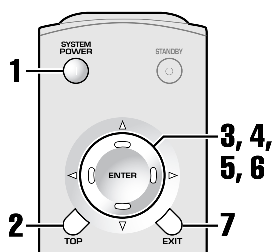
スピーカーAとスピーカーBの出力のオン/オフは、SPEAKERS A/Bスイッチ(SPEAKER A/Bキー)で切り替えます。

「ゾーンBで使用」：

スピーカーAの出力をオフ、スピーカーBの出力をオンにすると、メインルームに設置しているすべてのスピーカーから、音が出なくなります。

入力設定を変更する

各入力の選択および、選んだ入力に関する設定を行います。
操作には、GUIリモコンを使います。



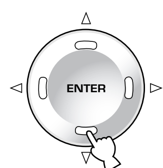
1 本機とテレビの電源を入れる

2 TOPキーを押して、GUI画面を表示する



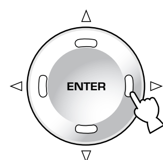


3 ▽キーを押して、「入力選択・設定」を選び、▷キーを押す



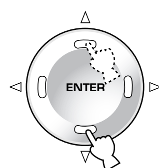






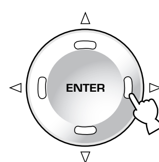


4 △/▽キーを押して、設定する入力を選び、▷キーを押す



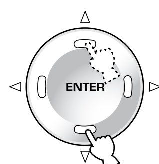






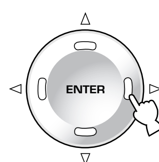


5 △/▽キーを押して、メニューを選び、▷キーを押す







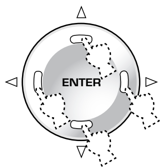




選ぶことのできるメニューは以下のとおりです。

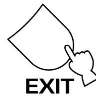
- **「入力モード」**→44ページ
- **「再生レベル補正」**→45ページ
- **「端子のわりあて」**→45ページ
- **「入力名変更」**→46ページ
- **「アナログ入力レベル」**→46ページ
- **「映像選択」**(「マルチCH入力」を選んだときのみ)→47ページ
- **「入力チャンネル」**(「マルチCH入力」を選んだときのみ)→47ページ

6 △/▽/◁/▷キーを押して、選んだメニューの設定を変更する





7 変更し終わったら、EXITキーを押して、終了する



ヒント

- GUIリモコンでの操作を、通常のリモコンで行うこともできます(9ページ)。

入力モード

選んでいる入力の入力モードを選びます。

(「入力選択・設定」→入力ソース→「入力モード」)



選択項目：自動判別、LD-RF固定、DTS固定、AAC固定、デジタル系、i.LINK固定、アナログ固定

ヒント

- デジタル端子が割り当てられている入力を選んでいるときのみ、このメニューを使えます。
- 「i.LINK固定」はi.LINK機器を接続し、端子の割り当てを指定したあとでのみ、選べます。
- 「LD-RF固定」はDTV/LDを入力ソースとして選び、同軸デジタル端子の割り当てを「LD-RF」に指定したときのみ、選べます(45ページ)。

再生レベル補正

選んでいる入力の再生レベルを補正します。接続している機器ごとに異なる再生レベルを、同じレベルに補正すれば、入力を切り替えるたびに音量を微調整する必要がなくなります。

(「入力選択・設定」→入力ソース→「再生レベル補正」)



補正範囲：−6dB～+6dB

端子のわりあて

選んでいる入力が使用する端子の割り当てを変更します。「デジタル同軸入力」、「デジタル光入力」、「デジタル光出力」、「コンポーネント映像」の4つの端子群で、選んでいる入力が使う端子をそれぞれ指定します。

(「入力選択・設定」→入力ソース→「端子のわりあて」)



選択項目：デジタル同軸入力①～④、デジタル光入力⑤～⑪、デジタル光出力⑫～⑭、コンポーネント映像[A]～[F]

例： **DVDプレーヤーが使う同軸デジタル端子の割り当てを変更する**

DVDプレーヤー用の同軸デジタル端子は初期設定で③に設定されています。

これを②に変更したい場合は、「DVD：デジタル同軸入力」で②を選び、ENTERキーを押します。

「②CD」が「②DVD」へと変わり、割り当てが変更されます。

（このときCDプレーヤーの割り当ては、DVDプレーヤーの割り当てと入れ替わり「③CD」となります）

ご注意

- 「マルチCH入力」を選んでいる場合は、このメニューを使用できません。

ヒント

- ①～⑭の数字と、[A]～[F]のアルファベットは、実際にリアパネルの端子に印字されていて、それと対応しています。
- どの端子にも割り当てない場合には、∆キーを押して、「接続しない」を選びます。
- 「コンポーネント映像」は映像系の入力を選んでいるときのみ、端子の割り当てを変更できます。
- 「補助入力」を選んでいる場合は、「デジタル光入力」はフロントに固定のため端子の割り当てを変更できません。
- LDプレーヤーからドルビーデジタルRF信号を入力する場合は、「DTV/LD：デジタル同軸入力」の①の設定を変更する必要があります。①を選んだ状態で、⊳キーを押して、設定を「LD-RF」に変更します。

入力名変更

GUI画面上に表示される入力名を変更します。
(「入力選択・設定」→入力ソース→「入力名変更」)



1 ◁/▷キーで文字の入力位置を選ぶ

2 ENTERキーを繰り返し押して、入力する文字群を選ぶ

以下の文字群から選ぶことができます。

- 漢字(主要メーカー名)
- カタカナ
- 英数字
- 特殊文字(ー、!など)

3 ∆/∇キーで入力する文字を選ぶ

文字は最大8文字まで入力できます。手順1〜3を繰り返してください。

4 文字を入力し終わったら、▷ キーで「決定」を選び、ENTERキーを押す



- GUI画面の表示を英語に設定している場合、入力できる文字は英大文字、英小文字、数字、特殊文字です。

ご注意

- 本体ディスプレイでの表示は英語のままです。日本語で変更した内容は反映されません。

アナログ入力レベル

選んだ入力のアナログ入力端子に入力された信号のレベルを補正します。
(「入力選択・設定」→入力ソース→「アナログ入力レベル」)



選択項目:標準、高い

「標準」:
通常のアナログ入力レベルのときに選びます。

「高い」:
アナログ入力レベルが大きすぎて、再生音が歪んでいるときに選びます。

映像選択

MULTI CH INPUT端子に入力されている音声と組み合わせて再生する映像が入力されている入力を選びます。
(「入力選択・設定」→「マルチCH入力」→「映像選択」)



選択項目：DVD、DTV/LD、ケーブルTV、衛星放送機器、ビデオデッキ1、ビデオデッキ2、ビデオレコーダー、補助入力、前の映像保持、映像無し

「前の映像保持」：
前回選んだ映像入力を選びます。
「映像無し」：
映像を組み合わせません。

ご注意
- 「マルチCH入力」を選んでいるときのみ、このメニューを使用できます。
- 「前の映像保持」を選んでも、電源の入/スタンバイ切り替えやピュアダイレクトモードのオン/オフ切り替えなどの操作をすると、前回選んだ映像入力は選ばれません。

入力チャンネル

MULTI CH INPUT端子に入力する音声のチャンネル数を指定します。
(「入力選択・設定」→「マルチCH入力」→「入力チャンネル」)

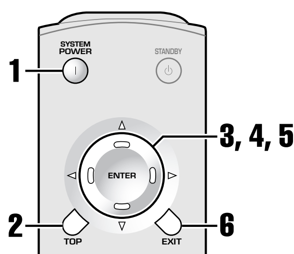


選択項目：2チャンネル、5.1チャンネル、7.1チャンネル

「2チャンネル」：
FRONT L/R端子のみを使って、ステレオ音声を入力するときに設定します。
「5.1チャンネル」：
FRONT L/R、CENTER、SURROUND L/R、SUBWOOFER端子を使って、5.1チャンネル音声を入力するときに設定します。
「7.1チャンネル」：
すべての端子を使って、7.1チャンネル音声を入力するときに設定します。

設定を保護する

変更した各設定内容を誤操作で変えてしまわないように、設定値を保護します。
操作には、GUIリモコンを使います。



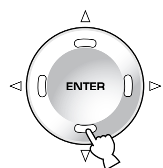
1 本機とテレビの電源を入れる

2 TOPキーを押して、GUI画面を表示する



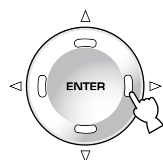


3 ▽キーを押して、「設定の保護」を選び、▷キーを押す



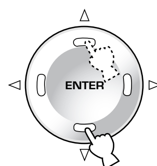






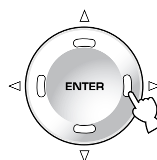


4 △/▽キーを押して、保護する項目を選び、▷キーを押す







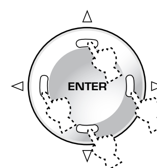




保護できる項目は以下のとおりです。

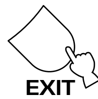
- 「i.LINK設定」→49ページ
- 「サラウンド設定」→49ページ
- 「入力設定」→50ページ
- 「マニュアル設定」→50ページ
- 「自動測定の設定」→50ページ

5 △/▽/◁/▷キーを押して、選んだ項目の設定を変更する





6 変更し終わったら、EXITキーを押して、終了する



ヒント

- GUIリモコンでの操作を、通常のリモコンで行うこともできます（9ページ）。

i.LINK設定

i.LINK設定メニューでの設定変更を禁止します。
（「設定の保護」→「i.LINK設定」）



選択項目：保護、可変

ヒント

- i.LINK設定メニュー「新規接続時の応答」を、「する」に設定している場合は、新規接続時の登録はできます（88ページ）。

サラウンド設定

サラウンド選択・設定メニューでの音場パラメーターの設定変更を禁止します。
（「設定の保護」→「サラウンド設定」）



選択項目：保護、可変

ヒント

- 音場プログラムを選ぶことはできます。

入力設定

入力選択・設定メニューでの各入力の設定変更を禁止します。

(「設定の保護」→「入力設定」)



選択項目：保護、可変



• 入力を選ぶことはできます

自動測定の設定

自動測定メニューでの設定変更や新規測定を禁止します。

(「設定の保護」→「自動測定の設定」)



選択項目: 保護、可変

マニュアル設定

マニュアル設定メニューでのすべての設定変更を禁止します。

(「設定の保護」→「マニュアル設定」)

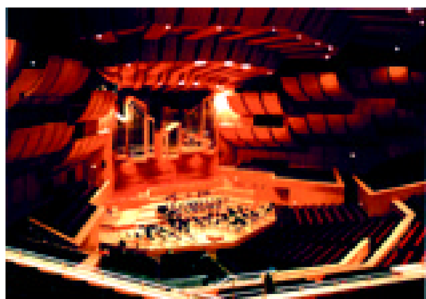


選択項目：保護、可変



• マニュアル設定メニュー「映像の設定：映像モード」で、映像モードを選ぶことはできます(34ページ)。

音場とは？



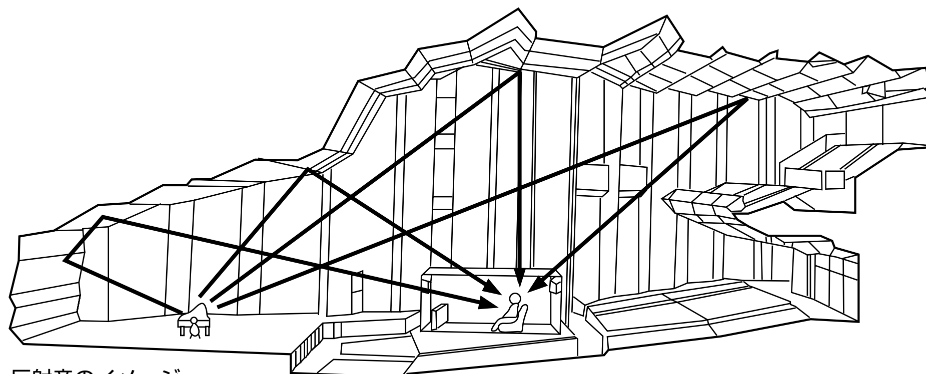
「その空間が持つ特有の音の響き」を音場と呼んでいます。
コンサートホールなどで、私達は、楽器の音や歌手の声が直接聴こえてくる「直接音」の他に、床や壁・天井などに一回反射してから聴こえてくる「初期反射音」、さらに何回も反射を繰り返しながら次第に減衰してゆく「後部残響音」を聴くことになります。建物内部の形状や広さ、それに内装材料の種類等によって、初期反射音や残響音の構成が異なり、そのホール特有の響きが生まれます。それが「音場」です。
ヤマハでは、世界の著名なコンサートホールやオペラハウスなどで、反射音の方向・強さ・帯域特性・遅延時間等の音場情報を実際に測定し、その膨大なデータをROMに蓄積しています。本機では、この音場測定の実測データを基に作成された、音場プログラムを自由に選択し、著名ホールやライブハウス等の音場をリスニングルームに再現することができます。

初期反射音

1つの表面（壁や天井など）に反射してから、極めて急速（直接音が発生してから50msから80ms後）にリスナーの耳に到達する反射音です。初期反射音により、直接音に明瞭さが付加されます。

後部残響音

2つ以上の表面（壁や天井、部屋の後部など）に何回も反射を繰り返しながら、多数の反響音がひとまとめになり、連続した音響の余韻となる音です。これらの反射音は方向性がなく、直接音の鮮明さを劣化させます。



反射音のイメージ

ご注意

- 本機の音場プログラムは、世界各地の実在のホールなどの音響特性を測定した結果に基づいて設計されています。そのため、前後左右で響きの強さや音量差が異なると感じられる場合がありますが、故障ではありません。
- 音場プログラムの名前や説明にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。

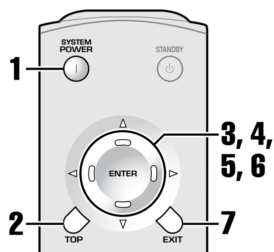
パラメーターを変更する

各音場プログラムのパラメーターは、初期設定のままで十分お楽しみいただけます。基本的に設定を変更する必要はありませんが、音場プログラムの一部のパラメーターを変更することにより、ソースやリスニングルームの音響に合わせて、音場プログラムをアレンジできます。

ご注意

- 設定の保護メニューの「サラウンド設定」を、「保護」に設定しているとパラメーターを変更できません。変更する前に、「可変」に設定してください(49ページ)。

操作には、GUIリモコンを使います



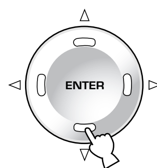
1 本機とテレビの電源を入れる

2 TOPキーを押して、GUI画面を表示する



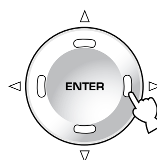


3 ▽キーを押して、「サラウンド選択・設定」を選び、▷キーを押す



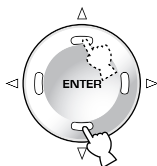


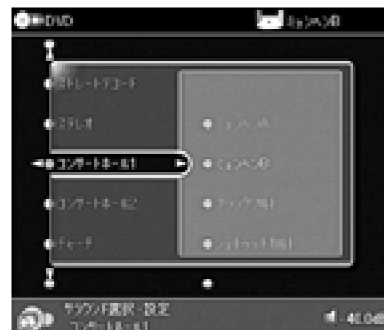




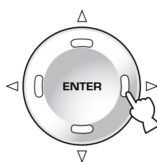


4 △/▽キーを押して、音場プログラムを選び、▷キーを押す



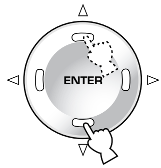


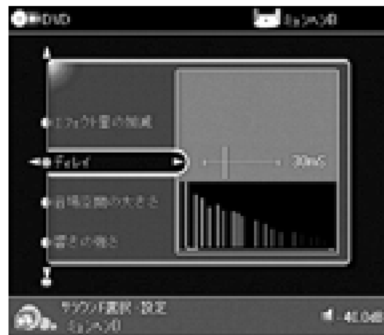


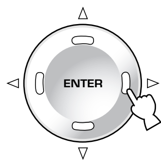




5 △/▽キーを押して、変更したいパラメーターを選び、▷キーを押す

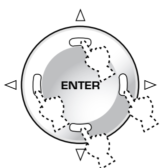




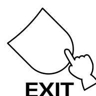


6 △/▽/◁/▷キーを押して、選んだパラメーターの設定を変更する





7 変更し終わったら、EXITキーを押して、終了する





- GUIリモコンでの操作を、通常のリモコンで行うこともできます(9ページ)。

パラメーターを初期設定に戻す

マニュアル設定メニュー「その他の設定：サラウンド初期化」で、音場プログラムごとに、「デコーダ選択」を除くすべてのパラメーターを初期設定に戻せます(40ページ)。

パラメーター一覧

項目	内容	参照ページ
エフェクト量の加減	エフェクトレベル(効果音)の微調節を行います。	102
ディレイ	音源と壁面との距離感を調節します。	102
音場空間の大きさ	広がり感を調節します。	102
響きの強さ	響き具合を調節します。	103
残響時間	余韻の長さを調節します。	103
残響音の遅れ	残響音の遅延時間を調節します。	104
残響音の強さ	余韻の強さを調節します。	104
サラウンドの遅れ	サラウンド信号の遅延時間を調節します。	104
初期化	音場プログラムパラメーターを初期化します。	104
サラウンド音場の遅れ	サラウンド音場の遅延時間を調節します。	104
サラウンド音場の広さ	サラウンド音場の広がり感を調節します。	104
サラウンド音場の響き	サラウンド音場の響き具合を調節します。	105
*[1]サラウンドバックの遅れ	サラウンドバック音場の遅延時間を調節します。	105
*[1]サラウンドバックの広さ	サラウンドバック音場の広がり感を調節します。	105
*[1]サラウンドバックの響き	サラウンドバック音場の響き具合を調節します。	105
センター音量	「9chステレオ」でのセンターチャンネルの出力レベルを調節します。	105
サラウンド左音量	「9chステレオ」でのサラウンドLチャンネルの出力レベルを調節します。	105
サラウンド右音量	「9chステレオ」でのサラウンドRチャンネルの出力レベルを調節します。	105
サラウンドバック左音量	「9chステレオ」でのサラウンドバックLチャンネルの出力レベルを調節します。	105
サラウンドバック右音量	「9chステレオ」でのサラウンドバックRチャンネルの出力レベルを調節します。	105
*[2]サラウンドバック音量	「9chステレオ」でのサラウンドバックチャンネルの出力レベルを調節します。	105
プレゼンス左音量	「9chステレオ」でのプレゼンスLチャンネルの出力レベルを調節します。	106
プレゼンス右音量	「9chステレオ」でのプレゼンスRチャンネルの出力レベルを調節します。	106
パノラマ	「プロロジックIIミュージック」および「プロロジックIIxミュージック」でのフロント音場の広がり感を調節します。	106
センターの広がり	「プロロジックII ミュージック」および「プロロジックIIxミュージック」でのセンター音声左右への広がり感を調節します。	106
ディメンション	「プロロジックII ミュージック」および「プロロジックIIxミュージック」でのサラウンド音場のフロント側とリア側のレベル差を調節します。	106
センターイメージ	「ネオ6 ミュージック」でのフロント音場の広がり感を調節します。	106
セリフの位置調整	会話など中央に定位する音の上下位置を調節します。	106
デコーダ選択	「ムービーシアター」、「THXシネマ」および「サラウンド」で再生するときに、2チャンネルソースをデコードするデコーダーを選びます。	106

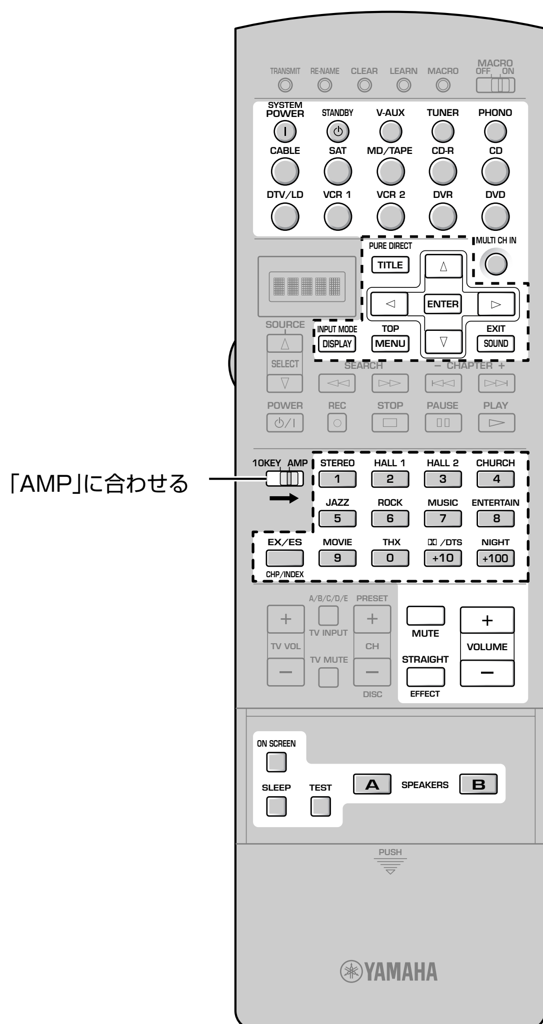
*[1] 6.1/7.1チャンネル再生時のみ有効
*[2] サラウンドバックスピーカーを1台だけ使用時のみ有効

リモコン操作範囲

他の機器のリモコン信号を学習したり、メーカーコードを設定することにより、本機のリモコンでDVDプレーヤーやCDプレーヤー、テレビなど本機以外のAV機器を操作することができます。また、マクロ機能を使うと、一連のキー操作を1つのキーでできるようになり、操作性が格段に向上します。

本機を操作する

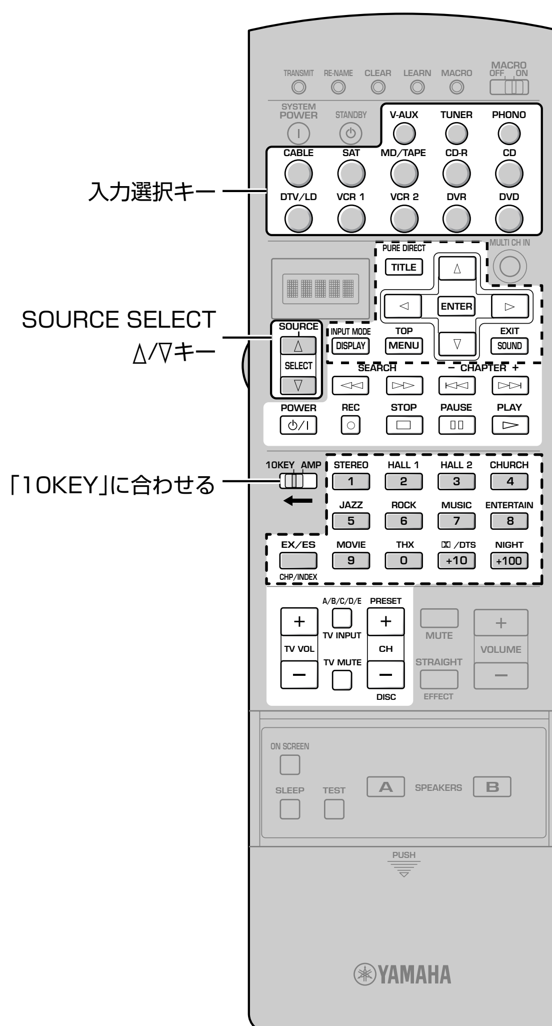
本機の操作に使うキーは、下図の白色で示した部分です。点線部分内のキーを使って本機を操作するには、10KEY/AMPスイッチをAMP側に切り替えます。



他の機器を操作する

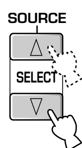
他の機器の操作に使うキーは、下図の白色で示した部分です。入力選択キーまたはSOURCE SELECT ∆/∇キーで選んだ機器によって、各キーの機能が変わります。リモコンディスプレイには、選んだ機器の名前が表示されます。

点線部分内のキーを使って他の機器を操作するには、10KEY/AMPスイッチを10KEY側に切り替えます。



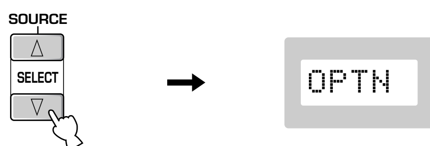
操作する機器を切り替える

SOURCE SELECT∆/∇キーを押すと、入力ソースは切り替えずに、リモコンで操作する機器だけを切り替えることができます。操作できる機器は、リモコンディスプレイに表示されます。



OPTN(オプション)モード

入力選択キーでの切り替えに関係なく操作したい機能をラーニングする場合は、OPTNにラーニングすると便利です。
SOURCE SELECT∇キーを押して「OPTN」を選ぶと、ラーニングした機器を操作することができます。



ヒント

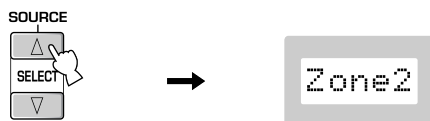
- マクロ機能(66ページ)だけに使うリモコン信号は、OPTNモードにしてラーニングすることをおすすめします。

ご注意

- OPTNモードには、メーカーコードを登録できません。

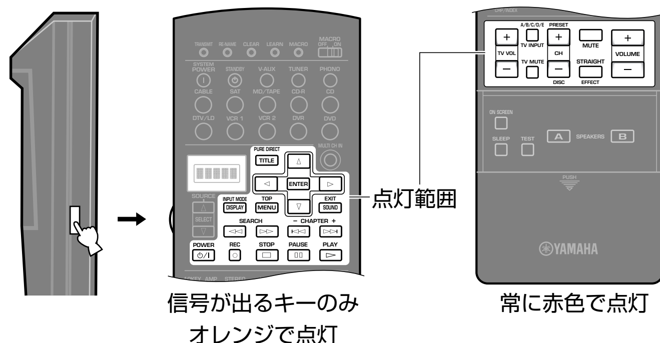
Zone2(ゾーン2)モード

SOURCE SELECT∆キーを押して「Zone2」を選ぶと、リスニングルームの機器をセカンドルームで鑑賞することができます。
詳しくは81ページをご覧ください。



点灯機能

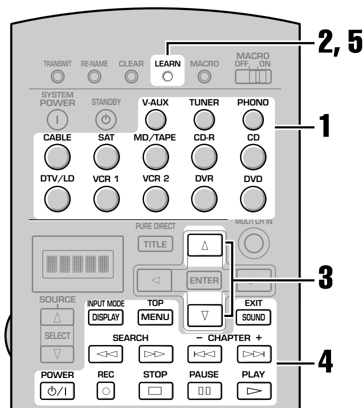
LIGHTキーを押すと、操作できるキーとリモコンディスプレイが約10秒間点灯します。すぐに消したいときは、LIGHTキーをもう一度押します。



リモコンで操作できる機器を指定する

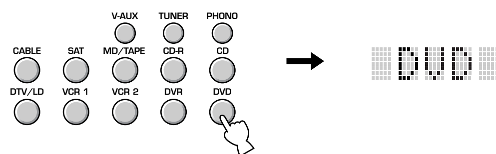
メーカーコードを設定することにより、本機のリモコンで他のメーカーの機器を操作することができます。メーカーコードはOPTN以外の各機器操作キーに設定することができます。TUNER、MD/TAPE、CD-R、CD、DVDの機器操作キーには工場出荷時にあらかじめヤマハのメーカーコードが設定されています。詳しくは本書末に記載の「メーカーコード一覧」（123ページ）を参照してください。

入力選択キー	ライブラリー	メーカーコード
V-AUX	VCR	–
TUNER	TUN	Yamaha-1
PHONO	TV	–
CABLE	CAB	–
SAT	SAT	–
MD/TAPE	MD	Yamaha-1
CD-R	CDR	Yamaha
CD	CD	Yamaha-1
DTV/LD	TV	–
VCR1	VCR	–
VCR2	VCR	–
DVR	DVD	–
DVD	DVD	Yamaha-1



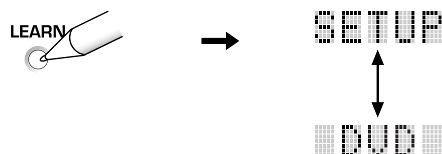
ご注意
- お使いのヤマハ機器によっては、初期設定されているヤマハのメーカーコードでは、操作できない場合があります。この場合は、ヤマハの別のメーカーコードをお試しください。

1 設定を変更したい入力選択キーを押す



2 LEARNボタンを3秒以上押し続ける

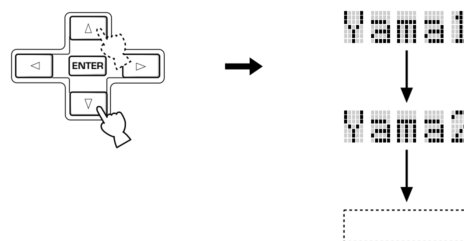
ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「SETUP」と、選んだ入力ソースの名前が交互に表示されます。



ご注意
- LEARNボタンは3秒以上押しつづけてください。短く押して離すと、ラーニングモードに切り替わります。

3 △または▽キーを押して、メーカーコードを選ぶ

5文字以上のメーカーコードはスクロールして表示されます。



4 動作確認をする

POWERやPLAYなどの各キーで、お使いの機器が正しく動作するか確認してください。正しく動作しないときは、手順3で同じメーカーの別のメーカーコードを選んでみてください。

5 LEARNボタンを押して、メーカーコードの設定を終了する

リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意
- 手順2以降の操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくとメーカーコード設定が自動的に中止されます。この場合は、手順2から操作しなおしてください。
- 付属のリモコンは、市販されているすべてのAV機器(ヤマハAV機器を含む)のメーカーコードを内蔵しているわけではありませんので、お手持ちのAV機器を操作できない場合があります。いずれのメーカーコードでも操作ができない場合は、ラーニング機能(59ページ)を利用するか、お使いの機器に付属のリモコンをお使いください。
- 1つの入力選択キーに対して、1つのメーカーコードしか設定できません。
- すでにラーニングやマクロを設定している場合、ラーニングまたはマクロによる機能が、メーカーコードの機能より優先されます。
- 手順で指定されたキー/スイッチ以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

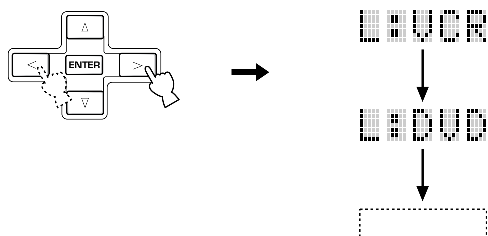
機器の種類(ライブラリー)を変更する

あらかじめ各入力選択キーに設定されている対応する機器の種類(ライブラリー)を変更することができます。例えば、V-AUXキーにはあらかじめ「VCR」が設定されていますが、「V-AUXでTVを操作したい」という場合には、ライブラリーを「TV」に変更できます。

1 **「リモコンで操作できる機器を指定する」の手順1と2の操作をする**

2 **◁または▷キーを押して、使いたい機器の種類(ライブラリー)を選ぶ**

本機のリモコンには、AMP、TV、CAB(CABLE)、DBS、SAT、VCR、DVD、LD、CD、CDR(CD-R)、MD、TAP(TAPE)、TUN(TUNER)の13種類のライブラリーが用意されています。



3 **「リモコンで操作できる機器を指定する」の手順3から操作する**

ご注意
- 国内BSデジタルチューナー用のメーカーコードは、L:DBSのPanasonic、Sony、Toshiba−2の3種類です。

アンプライブラリー(L:AMP)

ヤマハ以外のアンプを本機のリモコンで操作する場合など、必要に応じてアンプのライブラリーを変更することができます。
なお、本機のリモコンには、あらかじめ本機の操作用コードが設定されています。

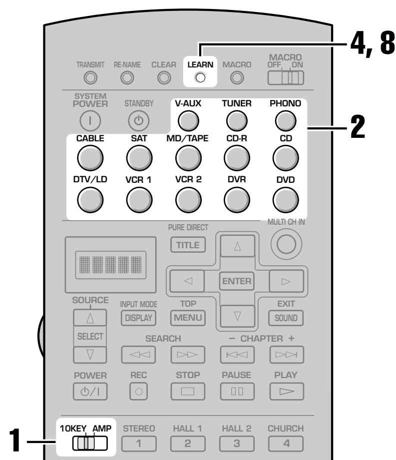
アンプのライブラリーは以下の4種類です。
YPC：　本機のコード(マルチゾーン機能含まず)
Zone：　本機のコード(マルチゾーン機能含む)
DSP：　YPC(本機のコード)で操作できない、ヤマハDSPアンプのコード
No：　ヤマハ以外のアンプを本機のリモコンで操作するとき



- 工場出荷時は、「YPC」に設定されています。マルチゾーン機能(80ページ)を使う場合には、「Zone」に設定してください。

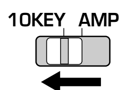
新しいリモコン機能を学習する(ラーニング)

メーカーコードに対応していない機器を使用する場合や、メーカーコードが用意されていない場合は、リモコンに機能を学習(ラーニング)させることができます。入力選択した機器ごとに別の機能をラーニングさせることができます。



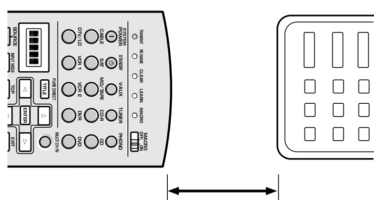
1 10KEY/AMPスイッチを「10KEY」に合わせる

10KEY/AMPスイッチを「AMP」に合わせると、アンプ操作エリア(55ページ)にもラーニングすることができますが、本機を操作できなくなったり、音場プログラムを選べなくなります。



2 操作したい機器の入力選択キーを押す

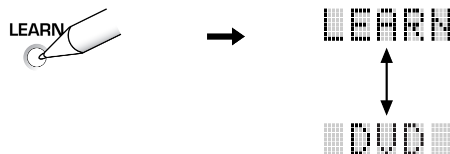
3 本機のリモコンと、外部機器のリモコンを約5〜10cm離し、赤外線送受信部が互いに対向するように置く



5〜10cmの間隔をあける

4 LEARNボタンを押す

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「LEARN」と、選んだ入力ソースの名前が交互に表示されます。



ご注意

- LEARNボタンを3秒以上押すと、メーカーコード設定モードに切り替わります。

5 新しい機能をラーニングさせたい、本機のリモコンのキーを押す

リモコンディスプレイに「LEARN」と表示されます。

6 リモコンディスプレイに「OK」と表示されるまで、外部機器のリモコンのラーニングさせたい機能のキーを押し続ける

ご注意

- 「NG」と表示されたときは、ラーニングが正しく行われていません。手順5から操作をやりなおしてください。
- メモリー容量がいっぱいになっている場合は、リモコンディスプレイに「FULL」が表示され、それ以上のラーニングはできません。新しいラーニングをするときは、ラーニング済みのキーから不要なものを消去してください。

7 別の機能をラーニングするには、続けて手順5〜6を繰り返す

別の機器に機能をラーニングさせる場合は、手順4の状態でSOURCE SELECT∆/∇キーを押して、機器を変更します。

8 LEARNボタンを押して、ラーニングを終了する

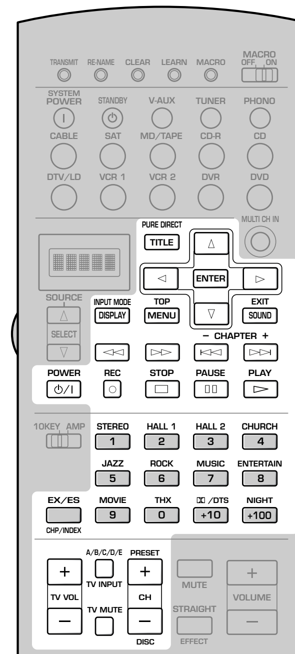
リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

- 手順4以降の操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくとラーニングが自動的に中止されます。この場合は、手順4から操作しなおしてください。
- 以下の場合は、ラーニングできないことがあります。
  - 本機のリモコンまたは外部機器のリモコンの乾電池が消耗している場合
  - 2台のリモコンの間隔が近すぎる、または離れすぎている場合
  - リモコンの受光部の角度が適切でない場合
  - リモコンに直射日光が当たっている場合
  - 特殊な信号や連続した信号の場合
- 手順で指定されたキー/スイッチ以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

ラーニングに対応しているキー

下図の白色で示した部分のキーに、ラーニングすることができます。

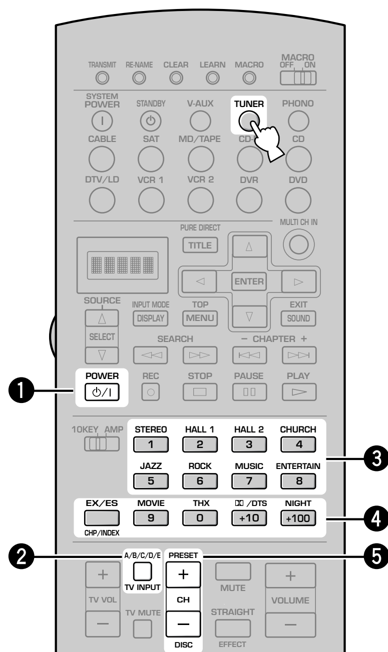


機器別の操作をする

操作する機器別に、基本操作に使用するキーを説明します。

- 本機のリモコンキーで、操作できない機器があります。このような場合には、ラーニングをするか、もしくはご使用の機器に付属のリモコンを使用してください。
- ご使用の機器によっては、キー操作と説明が一致しないことがあります。
- 本機以外の機器を操作する場合には、あらかじめメーカーコードを設定しておく必要があります。TUNER、CD、MD/TAPE、DVD、CD-Rには、工場出荷時にヤマハメーカーコードが設定されていますが、動作しない場合は他のメーカーコードに設定しなおしてください。

FM/AMチューナーを操作する

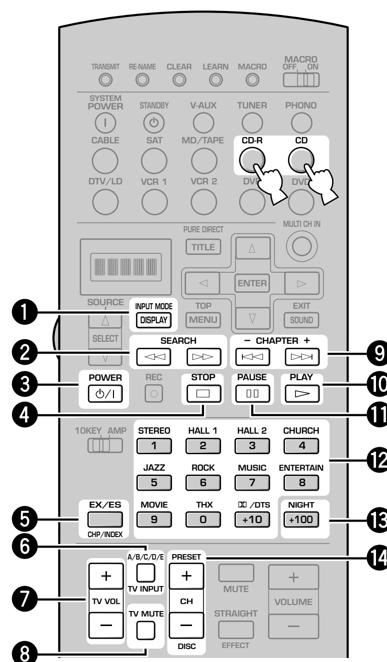


入力選択キーのTUNERキーを押すと、チューナーを操作できます。

操作例

❶ 電源を入/切する
❷ プリセットグループ(A/B/C/D/E)や受信バンド(AM/FM)を切り替える
❸ プリセット番号を直接指定する
❹ プリセットグループを直接指定する(左から順にA、B、C、D、E)
❺ プリセット局を切り替える

CDプレーヤー/CDレコーダーを操作する



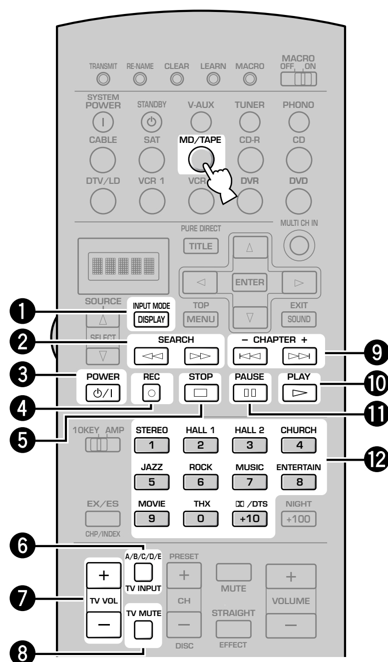
入力選択キーのCDキーを押すとCDプレーヤーを、CD-Rキーを押すとCDレコーダーを操作できます。

操作例

❶ ディスプレイ表示を切り替える
❷ 早送り/早戻しをする
❸ 電源を入/切する
❹ 停止する
❺ インデックスを表示する
❻ (テレビ)入力を切り替える*
❼ (テレビ)音量を調節する*
❽ (テレビ)消音する*
❾ 次/前の曲の頭出しをする
❿ 再生を開始する
⓫ 再生を一時停止する
⓬ 数字を入力する
⓭ 入力値を取り消す
⓮ (CDチェンジャー)ディスクを選ぶ

* DTV/LDにテレビのメーカーコードを設定しているときのみ(64ページ)。

MDレコーダーを操作する



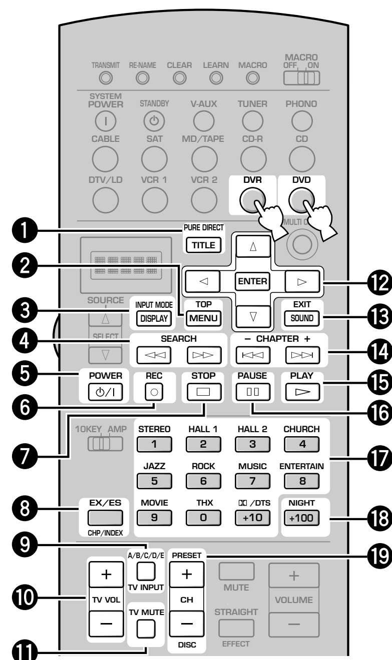
入力選択キーのMD/TAPEキーを押すと、MDレコーダーを操作できます。

操作例

❶ ディスプレイ表示を切り替える
❷ 早送り/早戻しをする
❸ 電源を入/切する
❹ 録音を開始する
❺ 停止する
❻ （テレビ）入力を切り替える*
❼ （テレビ）音量を調節する*
❽ （テレビ）消音する*
❾ 次/前の曲の頭出しをする
❿ 再生を開始する
⓫ 再生/録音を一時停止する
⓬ 数字を入力する

* DTV/LDにテレビのメーカーコードを設定しているときのみ（64ページ）。

DVDプレーヤー/DVDレコーダーを操作する



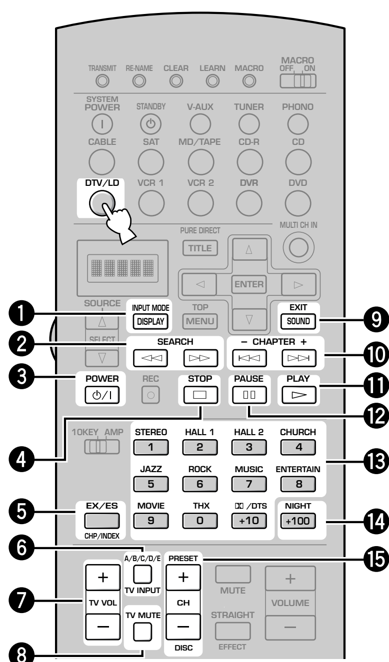
入力選択キーのDVDキーを押すと、DVDプレーヤーを操作できます。また、メーカーコードを設定してから、入力選択キーのDVRキーを押すと、DVDレコーダーを操作できます。

操作例

❶ タイトルメニュー（トップメニュー）を表示する
❷ DVDメニューを表示する
❸ ディスプレイ表示を切り替える
❹ 早送り/早戻しをする
❺ 電源を入/切する
❻ 前の画面に戻る
❼ 停止する
❽ タイトル/インデックスを表示する
❾ （テレビ）入力を切り替える*
❿ （テレビ）音量を調節する*
⓫ （テレビ）消音する*
⓬ メニュー項目を選択する/決定する
⓭ オーディオメニューを表示する
⓮ 次/前のチャプターの頭出しをする
⓯ 再生を開始する
⓰ 再生を一時停止する
⓱ 数字を入力する
⓲ 入力値を取り消す
⓳ （DVDチェンジャー）ディスクを選ぶ

* DTV/LDにテレビのメーカーコードを設定しているときのみ（64ページ）。

LDプレーヤーを操作する



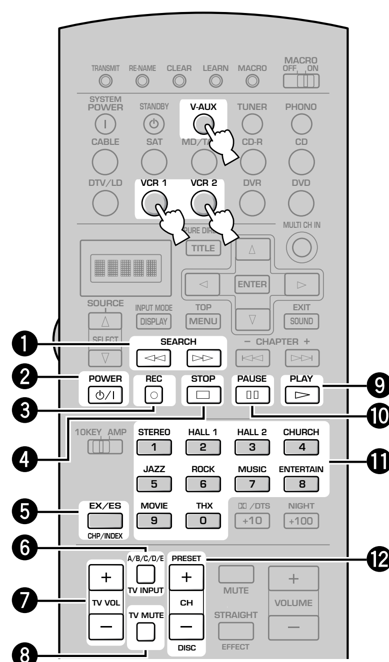
ライブラリー/メーカーコードを設定してから、入力選択キーのDTV/LDキーを押すと、LDプレーヤーを操作できます。

操作例

❶ ディスプレイ表示を切り替える
❷ 早送り/早戻しをする
❸ 電源を入/切する
❹ 停止する
❺ チャプター/時間を表示する
❻ (テレビ)入力を切り替える*
❼ (テレビ)音量を調節する*
❽ (テレビ)消音する*
❾ サウンドメニューを表示する
❿ 次/前のチャプターの頭出しをする
⓫ 再生を開始する
⓬ 再生を一時停止する
⓭ 数字を入力する
⓮ 入力値を取り消す
⓯ (テレビ)チャンネルを切り替える

* PHONOにテレビのメーカーコードを設定しているときのみ(64ページ)。

ビデオデッキを操作する



メーカーコードを設定してから、入力選択キーのV-AUXキー、VCR1キー、VCR2キーを押すと、ビデオデッキを操作できます。

操作例

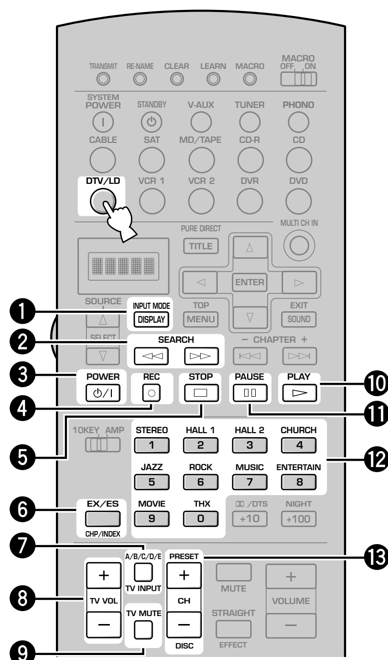
❶ 早送り/巻戻しをする
❷ 電源を入/切する
❸ 録画を開始する(2回押すと録画を開始します)
❹ 停止する
❺ テレビ/ビデオを切り替える
❻ (テレビ)入力を切り替える*
❼ (テレビ)音量を調節する*
❽ (テレビ)消音する*
❾ 再生を開始する
❿ 再生/録画を一時停止する
⓫ 数字を入力する
⓬ チャンネルを切り替える

* DTV/LDにテレビのメーカーコードを設定しているときのみ(64ページ)。



• VCR 1にビデオデッキのメーカーコードを設定している場合は、テレビ/ケーブルTVチューナー/衛星放送チューナーの操作モードで、ビデオデッキを操作できます。

テレビを操作する



メーカーコードを設定してから、入力選択キーのDTV/LDキーを押すと、テレビを操作できます。

操作例

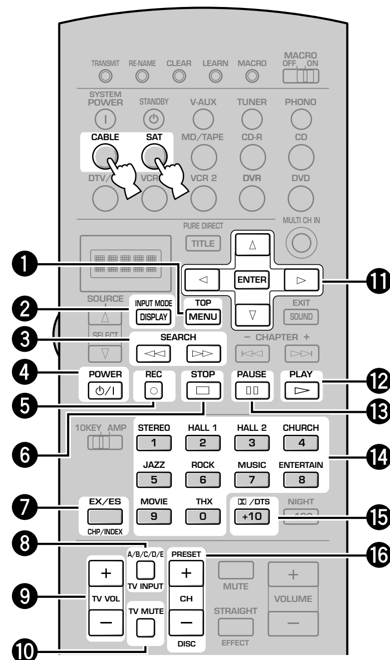
❶ ディスプレイ表示を切り替える
❷ (ビデオ)早送り/巻戻しをする*
❸ 電源を入/切する
❹ (ビデオ)録画を開始する*
❺ (ビデオ)再生/録画を停止する*
❻ チャンネルを決定する
❼ 入力を切り替える
❽ 音量を調節する
❾ 消音する
❿ (ビデオ)再生を開始する*
⓫ (ビデオ)再生/録画を一時停止する*
⓬ チャンネルを直接指定する
⓭ チャンネルを切り替える

* VCR 1にビデオデッキのメーカーコードを設定しているときのみ(63ページ)。



- DTV/LDにテレビのメーカーコードを設定している場合は、他の機器の操作モードで、テレビを操作できます。DTV/LDにテレビ以外の機器のメーカーコードを設定している場合は、PHONOにテレビのメーカーコードを設定することにより、テレビを操作できます。
- DTV/LDとPHONOの両方にテレビのメーカーコードを設定している場合、他の機器の操作モードでは、DTV/LDに設定したメーカーコードが有効になります。

ケーブルTVチューナー/衛星放送チューナーを操作する



ライブラリー/メーカーコードを設定してから、入力選択キーのCABLEキーまたはSATキーを押すと、衛星放送のチューナーを操作できます。

操作例

❶ メニューを表示する
❷ ディスプレイ表示を切り替える
❸ (ビデオ)早送り/巻戻しをする*[2]
❹ 電源を入/切する
❺ (ビデオ)録画を開始する*[2]
❻ (ビデオ)再生/録画を停止する*[2]
❼ チャンネルを決定する
❽ (テレビ)入力を切り替える*[1]
❾ (テレビ)音量を調節する*[1]
❿ (テレビ)消音する*[1]
⓫ メニュー項目を選ぶ/決定する
⓬ (ビデオ)再生を開始する*[2]
⓭ (ビデオ)再生/録画を一時停止する*[2]
⓮ チャンネルを直接指定する
⓯ リコールする
⓰ チャンネルを切り替える

*[1]DTV/LDにテレビのメーカーコードを設定しているときのみ(64ページ)。
*[2]VCR 1にビデオデッキのメーカーコードを設定しているときのみ(63ページ)。

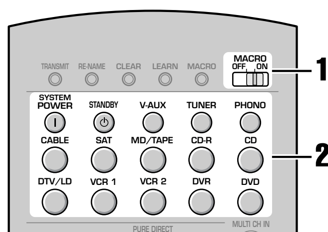
マクロ機能を使う

マクロ機能とは、ソースを再生するときに行う一連のキー操作を、1つのキーでできるようにする機能です。
例えばCDを再生する場合、通常、(1)システムの電源を入れる→(2)入力ソースをCDに切り替える→(3)再生を開始する…などの操作が必要です。マクロ機能を使うと、マクロキーのCDキーを押すだけで、このような一連の操作を済ますことができます。
本リモコンのマクロキー(入力選択キーおよびSYSTEM POWERキー、STANDBYキー)には、マクロ機能があらかじめ登録されていますが、オリジナルのマクロ操作を設定することもできます。

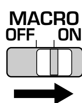
マクロキー	1番目	2番目	3番目
SYSTEM POWER	本機の電源が入る(接続した機器の電源が入る)*1	テレビの電源が入る(DTV/LDキーとPHONOキー両方にメーカーコードを設定した場合は、DTV/LDキーに設定したメーカーコードのテレビ)*2	—
STANDBY	本機がスタンバイ状態になる	—	—
V-AUX	本機の電源が入る(接続した機器の電源が入る)*1	入力ソースの切り替え(V-AUX)	—
TUNER		入力ソースの切り替え(TUNER)*4	—
PHONO		入力ソースの切り替え(PHONO)	—
CABLE		入力ソースの切り替え(CABLE)	—
SAT		入力ソースの切り替え(SAT)	—
MD/TAPE		入力ソースの切り替え(MD/TAPE)	MD/TAPEの再生が始まる*3
CD-R		入力ソースの切り替え(CD-R)	CD-Rの再生が始まる*3
CD		入力ソースの切り替え(CD)	CDの再生が始まる*3
DTV/LD		入力ソースの切り替え(DTV/LD)	—
VCR1		入力ソースの切り替え(VCR1)	VCR1の再生が始まる*3
VCR2		入力ソースの切り替え(VCR2)	VCR2の再生が始まる*3
DVR		入力ソースの切り替え(DVR)	DVRの再生が始まる*3
DVD		入力ソースの切り替え(DVD)	DVDの再生が始まる*3

*1 本機に同期させて接続した機器の電源を入れるためには、接続機器の電源プラグを本機のACアウトレットに接続します(機器によっては電源の入/切が本機に同期しないものもあります。接続する機器の取扱説明書を参照してください)。
*2 キーを押すごとに電源の入/切が切り替わるテレビやビデオデッキの場合は、希望の操作にならないことがあります(例:すでに電源の入っているテレビでは、SYSTEM POWERキーを押すと電源が切れます)。
*3 再生が始まるのは、PLAYキーを含むライブラリー(DVD、LD、CD、CDR、MD、TAP、VCR)が設定されていて、かつメーカーコード設定やラーニングにより、PLAYキーに信号が登録されている場合です。初期設定では、ヤマハ製のMDレコーダー、CDプレーヤー、CDレコーダー、DVDプレーヤーにのみ対応しています。これら以外の機器をマクロ操作する場合は、登録したい機器のライブラリーのPLAYキーにラーニング機能を割り当てる(59ページ)か、メーカーコードやライブラリーを登録する(57ページ)必要があります。
*4 入力ソースがTUNERに切り替わると、ヤマハ製チューナーはスタンバイ状態になる前に受信していた局を受信します。

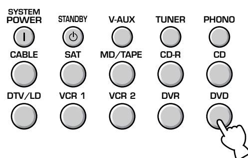
マクロ機能を使う



1 MACRO ON/OFFスイッチを「ON」に合わせる



2 希望のマクロキーを押す

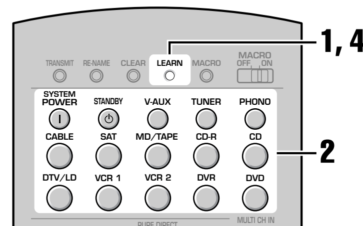


ご注意

- マクロ操作が終わったら、MACRO ON/OFFスイッチを「OFF」に合わせてください。
- マクロ操作中は、すべてのマクロ信号の出力が終わるまで（TRANSMITインジケーターが消灯するまで）、他のキーの操作を受け付けません。
- マクロ操作中は、すべてのマクロ信号の出力が終わるまで、本リモコンの赤外線送受信部を、本体および操作する機器のリモコン受光窓の方向に向け続けてください。

マクロを設定する

オリジナルのマクロを設定します。

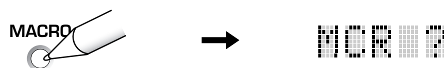


ご注意

- 新しいマクロを設定しても、工場出荷時に登録されているマクロは消去されません。新しく設定したマクロの内容を消去すると、工場出荷時に登録されているマクロを使うことができます。
- 工場出荷時に登録されているマクロに新しい信号を追加することはできません。マクロを設定すると、すべて新しい内容に変わります。
- マクロ設定は、本リモコンにラーニングや登録済み（またはヤマハプリセット）のキー信号をマクロキーに設定（転送）させて行います。必要に応じて、あらかじめ他の機器のキーをラーニングしておいてください。
- 音量の操作など、連続的に操作するキー信号は、本リモコンは短時間のコードとしてラーニングします。したがって、そのようなキーのマクロ設定はおすすめしません。

1 MACROボタンを押す

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「MCR ?」と表示されます。

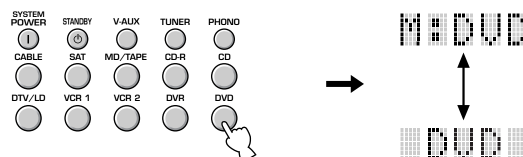


2 設定したいマクロキーを押す

リモコンディスプレイにマクロ設定するキーと、今選んだ入力ソースの名前が交互に表示されます。

例： DVDキーのマクロを設定する

「M：DVD」と「DVD」が交互に表示されます。

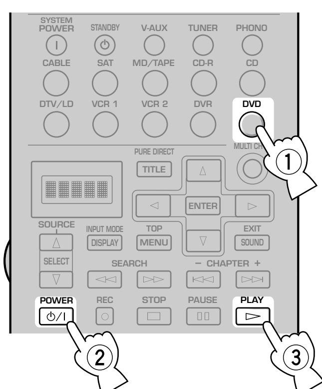


ご注意

- マクロキー以外のキーを押すと、「AGAIN」と表示されます。

3 マクロの内容を設定する

例： DVDを再生するまでの一連の操作をマクロ設定する

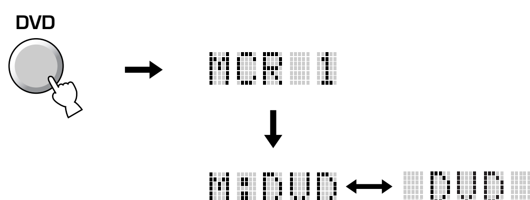


① 入力をDVDに切り替える
② DVDプレーヤーの電源を入れる
③ DVDの再生を開始する

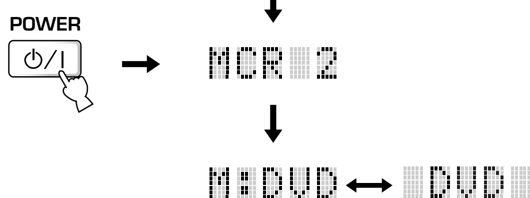
上記①～③の操作を、DVDキーを押すだけでできるようにマクロ設定します。

リモコンディスプレイの表示が以下のように変わっていきます。

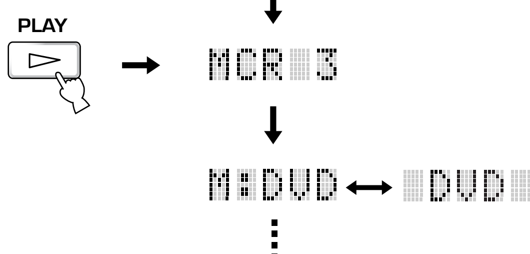
① DVDキーを押す



② POWERキーを押す



③ PLAYキーを押す



最大10種類のキー信号を設定することができます。10個目のキー信号を設定すると「FULL」と表示され、マクロ設定が自動的に中止されます。

ご注意
- 「NG」と表示されたときは、設定が正しく行われていません。手順2から操作をやりなおしてください。
- 機器を変更したいときは、入力選択キーやSOURCE SELECT∆/∇キーで機器を選択しなおします。入力選択キーで機器を選択すると、本機の入力切り替えが一連のマクロ設定に組み込まれ、機器操作キーも入力機器に応じて切り替わります。SELECT∆/∇キーで機器を選択すると、入力ソースは変わらずに、機器操作キーは選択した機器に合わせて切り替わります。

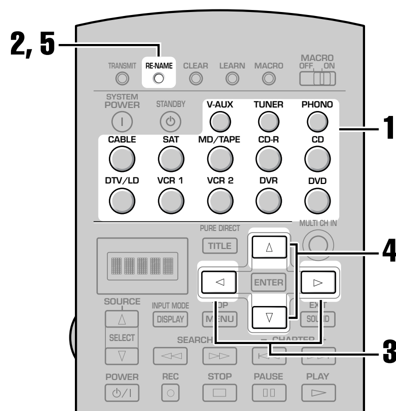
4 MACROボタンを押して、マクロ設定を終了する

リモコンが通常の状態に戻ります。

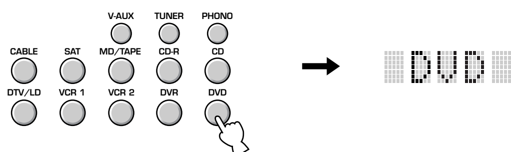
ご注意
- 手順1以降操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくとマクロ設定が自動的に中止されます。この場合は、手順1から操作しなおしてください。
- 手順で指定されたキー/スイッチ以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

リモコンに表示される入力ソースの名前を変更する

入力選択キーを押してリモコンのディスプレイに表示される入力ソース名は、入力機器を接続した端子名に対応しています。端子名と異なった機器を本機に接続したときや、お使いのシステムにあったわかりやすい名前をつけたいときなどに、リモコンに表示される入力ソース名を変更することができます。

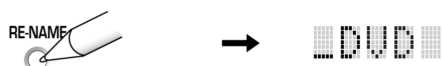


1 名前を変更したい機器の入力選択キーを押す

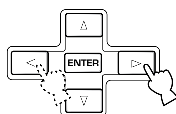


2 RE-NAMEボタンを押す

ボールペンなど先の細いもので押します。左端にカーソルが点滅します。



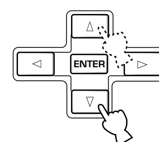
3 ◁または▷キーを押して、文字を入力したい位置にカーソルを移動する



4 △または▽キーを押して、入力する文字を選ぶ

入力できる文字は以下のとおりです。

- アルファベット大文字：A〜Z
- アルファベット小文字：a〜z
- 数字：0〜9
- スペース（空白）
- 記号：/、－



必要に応じて手順3と4を繰り返します。文字は最大5文字まで入力できます。
引き続き、他の機器の名前を変更する場合は、ENTERキーを押して、手順1、3〜4を繰り返します

5 RE-NAMEボタンを押して、名前の変更を終了する

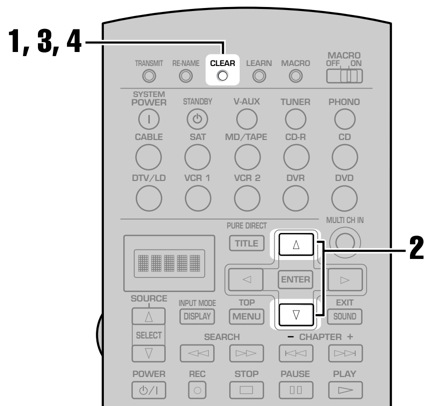
リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

- 手順で指定されたキー/スイッチ以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

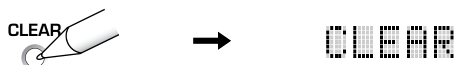
リモコンを初期化する

登録したライブラリーやマクロ操作、メーカーコードやラーニングした操作を取り消して、工場出荷時の設定に戻すことができます。

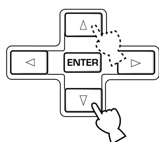


1 CLEARボタンを押す

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「CLEAR」と表示されます。



2 △または▽キーを押して、消去モードを選ぶ

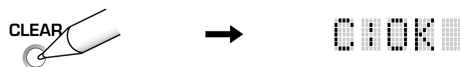


消去モードは以下の6種類です。

L：(機器名)：	表示されている入力機器の操作キーにラーニングされた機能をすべて消去します。入力選択キー、またはSOURCE SELECT△/▽キーで消去する入力機器を選択してください。
L：AMP：	本機の操作キーにラーニングされた機能をすべて消去します。
L：ALL：	入力機器に関わらず、ラーニングされた機能をすべて消去します。
M：ALL：	入力機器に関わらず、登録したマクロをすべて消去します。
RNAME：	変更した入力ソースの名前をすべて工場出荷時の設定に戻します。
FCTRY：	メーカーコードを含む、すべてのリモコンの設定を工場出荷時の設定に戻します。

3 CLEARボタンを3秒以上押し続ける

リモコンディスプレイに「C：OK」と表示され、手順2で選択した機能や設定が消去されます。



ご注意

- 「C：NG」と表示されたときは、消去が正しく行われていません。手順2から操作しなおしてください。

4 CLEARボタンを押して、消去を終了する

リモコンが通常の状態に戻ります。

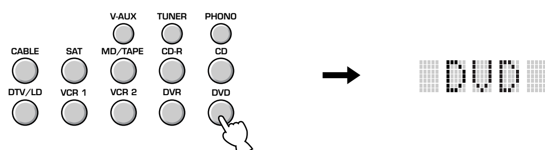
ご注意

- 手順1以降の操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくと消去が自動的に中止されます。この場合は、手順1から操作しなおしてください。
- 手順で指定されたキー/スイッチ以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

ラーニングされた機能を消去する

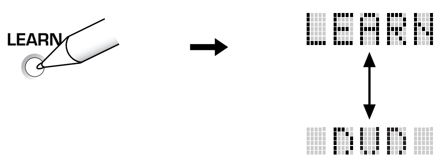
ラーニングされた機能のうち、特定のキーに割り当てた機能だけを消去することができます。

1 取り消したい機器の入力選択キーを押す



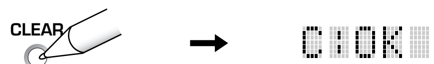
2 LEARNボタンを押す

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「LEARN」と選択した入力ソース名が交互に表示されます。



3 CLEARボタンを押しながら、機能を消去したいキーを3秒以上押す

リモコンディスプレイに「C：OK」と表示されます。



引き続き消去したいキーがある場合は、「C：OK」の表示が消えてから、手順3の操作を繰り返してください。

ご注意

- 「C：NG」と表示されたときは、消去が正しく行われていません。もう一度CLEARボタンを押しながら、消去したいキーを押してください。

4 LEARNボタンを押して、消去を終了する

リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

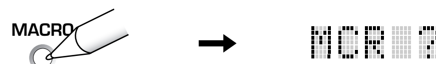
- 手順2以降の操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくと消去が自動的に中止されます。この場合は、手順2から操作しなおしてください。
- 手順で指定されたキー/スイッチ以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は、手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

マクロに設定された機能を消去する

マクロに設定された機能のうち、特定のキーに割り当てた機能だけを消去することができます。

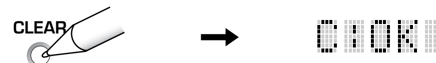
1 MACROボタンを押す

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「MCR ?」と表示されます。



2 CLEARボタンを押しながら、機能を消去したいキーを3秒以上押す

リモコンディスプレイに「C：OK」と表示されます。



引き続き消去したいキーがある場合は、「C：OK」の表示が消えてから、手順2の操作を繰り返してください。

ご注意

- 「C：NG」と表示されたときは、消去が正しく行われていません。もう一度CLEARボタンを押しながら、消去したいキーを押してください。

3 MACROボタンを押して、消去を終了する

リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

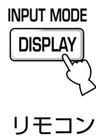
- 手順1以降の操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくと消去が自動的に中止されます。この場合は、手順1から操作しなおしてください。
- 手順で指定されたキー/スイッチ以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は、手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

デジタル信号/アナログ信号を切り替える（入力モード切り替え）

本機は、多彩な入力端子を装備しています。入力モードを切り替えることにより、入力信号のアナログ/デジタルの優先順位を設定したり、DTSなどの特定の信号に固定したりすることができます。
INPUT MODEキーを押すと、現在の入力モードを表示します。入力モード表示中にもう一度押すと、入力モードが切り替わります。



本体



リモコン

自動判別：
以下の順序で入力信号が選ばれます。
① i.LINK信号
② ドルビーデジタルRF信号
③ デジタル信号
④ アナログ信号

LD-RF固定：
ドルビーデジタルRF信号に固定されます。

DTS固定：
DTS信号に固定されます。DTS信号以外の信号が入力されても再生されません。

AAC固定：
AAC信号に固定されます。AAC信号以外の信号が入力されても再生されません。

デジタル系：
デジタル信号（i.LINK端子から入力された信号およびドルビーデジタルRF信号を除く）に固定されます。

アナログ固定：
アナログ信号に固定されます。デジタル信号が同時に入力されても再生されません。

i.LINK固定：
i.LINK信号に固定されます。i.LINK信号以外の信号が入力されても再生されません。

ご注意
- マニュアル設定メニュー「その他の設定：入力モードの初期値」の設定で、本機の電源を入れたときに、前回使っていた入力モードをそのまま使うか、「自動判別」に戻すかを設定できます（40ページ）。
- 同軸デジタル入力端子と光デジタル入力端子へ同時にデジタル信号が入力されると、同軸デジタル入力端子への入力信号が優先されます。
- 「LD-RF固定」はDTV/LDを入力ソースとして選び、同軸デジタル端子の割り当てを「LD-RF」に指定したときのみ選べます（45ページ）。

デジタル信号に関するご注意

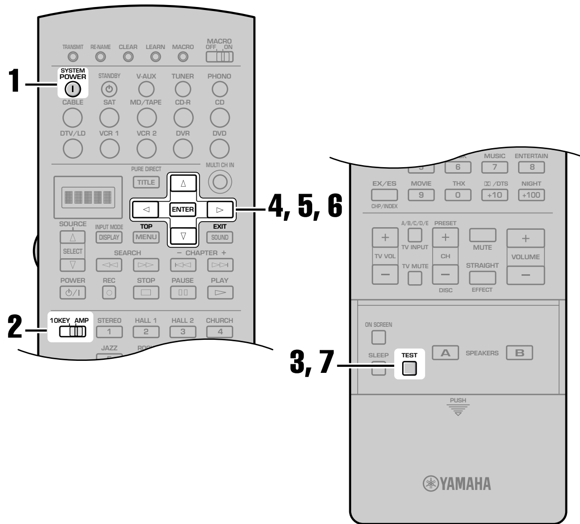
本機のデジタル入力端子は、サンプリング周波数１９２ｋＨｚまでのデジタル信号に対応しています。96kHzを超えるデジタル信号を入力する場合は、以下の点にご注意ください。
- Hi-Fi DSPおよびCINEMA DSP音場プログラムの音場効果は、サンプリング周波数を96kHz以下に変換したあと付加します。THXサラウンドモードについても、サンプリング周波数を96kHz以下に変換したあとTHX処理を行います。
- 「ダイレクト」については、そのままのサンプリング周波数で再生することができます。
- i.LINK機器から入力されたDSD信号については、PCM（サンプリング周波数88.2kHz）に変換されてから、音場効果が付加されます。

DTS CD/LD再生時のご注意

- DTS音声を「自動判別」または「デジタル系」に設定して再生すると、本機はDTS信号を検出して、自動的にDTS再生モードに切り替えます。
  ただし、DTS音声の再生が終わったり、再生中にサーチ、スキップまたは一時停止などの操作をして、2秒以上DTS信号が途切れると、DTS再生モードをいったん解除します。DTS再生モードが解除された状態でDTS信号を入力すると、一瞬ノイズが出力される場合がありますので、DTS CD/LDを再生する場合は、「DTS固定」モードに設定してお楽しみください。
- プレーヤーから出力されるデジタル信号に、音量可変などの処理がされている場合は、本機とプレーヤーをデジタル接続しても、DTS音声は再生されません。

テストトーンを使ってスピーカーの音量を調節する

テストトーンを使って、リスニングポジションで聞こえる各スピーカーからの音量が、すべて同じになるように調節します。

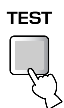


1 本機とテレビの電源を入れる

2 10KEY/AMPスイッチを「AMP」に合わせる

3 リモコンのTESTキーを押す

GUI画面が表示され、テストトーンが出力されます。





4 △/▽キーを押して、調節したいスピーカーを選ぶ

「L⇔R」：
フロントLスピーカーと、フロントRスピーカーとの音量バランスを調節

「L⇔C」：
フロントLスピーカーと、センタースピーカーとの音量バランスを調節

「L⇔SL」：
フロントLスピーカーと、サラウンドLスピーカーとの音量バランスを調節

「SL⇔SR」：
サラウンドLスピーカーと、サラウンドRスピーカーとの音量バランスを調節

*1「SL⇔SB」：
サラウンドLスピーカーと、サラウンドバックスピーカーとの音量バランスを調節

「SL⇔SBL」：
サラウンドLスピーカーと、サラウンドバックLスピーカーとの音量バランスを調節

「SBL⇔SBR」：
サラウンドバックLスピーカーと、サラウンドバックRスピーカーとの音量バランスを調節

「L⇔PL」：
フロントLスピーカーと、プレゼンスLスピーカーとの音量バランスを調節

「PL⇔PR」：
プレゼンスLスピーカーと、プレゼンスRスピーカーとの音量バランスを調節

「L⇔SWL」：
フロントLスピーカーと、サブウーファーLとの音量バランスを調節

*2「L⇔SWR」：
フロントLスピーカーと、サブウーファーRとの音量バランスを調節

「SWL⇔SWR」：
サブウーファーLと、サブウーファーRとの音量バランスを調節

*1 サラウンドバックスピーカーを1台だけ使う場合の調節です。
*2 マニュアル設定メニュー「基本設定：サブウーファーの設定」の「構成」を、「モノラル」に設定した場合の調節です。

ヒント

- テストトーンの出力中にENTERキーを押すと、選んでいるスピーカー間で、テストトーンを出力するスピーカーを切り替えることができます。また、ENTERキーを2秒以上押し続けると、テストトーンを出力するスピーカーを固定することができます。
  画面右上の表示が以下のように変わります。

ENTER:移動 ○○○○ 固定

↓ 2秒以上押し続けると・・・

ENTER:移動 ■■■■ 固定

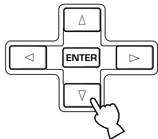
この状態で出力するスピーカーが固定されます。

5 ◁/▷キーを押して、音量バランスを調節する

手順4と5を繰り返し、各スピーカーの音量バランスを調節します。

6 ひととおり調節が終わったら、▽キーを押して、「ALL」を選ぶ

テストトーンが自動巡回し、すべてのスピーカーから出力されます。全体的な音量バランスを確認してください。





7 音量バランスを確認したら、リモコンのTESTキーを押す。

テストトーンが止まります。

ヒント

- 音圧計をお持ちの場合は、音圧計をCウェイト/スローモードに設定したうえで、各スピーカーからの音量がリスニングポジションで75dB SPLになるよう調節してください。
- 音量を0dBにして調節することをおすすめします。

ご注意

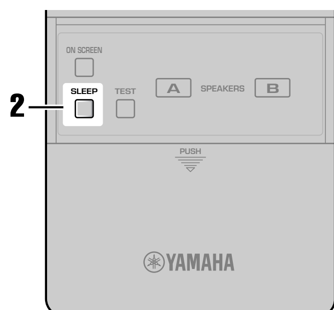
- ヘッドホンを接続していると、テストトーンを使えません。PHONES端子からヘッドホンを外してください。
- マニュアル設定メニュー「基本設定：スピーカーの設定」で、「無」または「使わない」に設定したスピーカーの音量は調節できません（27ページ）。
- マニュアル設定メニュー「基本設定：サブウーファー設定」の「低音出力先」を、「フロントに出力」に設定している場合、サブウーファーの調節はできません（26ページ）。

一定時間後に自動的に電源を切る(オフタイマー)

設定した時間が経過すると、自動的にスタンバイ状態になるように設定します。聴きながら、または録音しながらおやすみになりたいときに便利です。オフタイマーが作動すると、本機背面のACアウトレットに接続した機器(ソース)の電源も切れます。
オフタイマーの設定は、リモコンで行います。



- タイマー再生したいときは、市販のタイマーを使います。本機では再生したい入力ソースを選び、音量を調節しておきます。再生機器やタイマーの取扱説明書もあわせて参照してください。

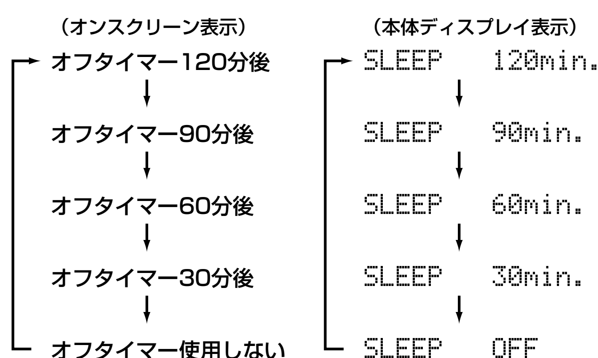


オフタイマーを設定する

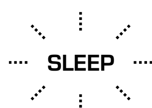
1 ソースを選んで、再生する

2 SLEEPキーを繰り返し押して、スタンバイ状態になるまでの時間を選ぶ

SLEEPキーを押すごとに、下記のように時間が切り替わります。お好みの時間が表示されたら、押すのをやめます。



操作中は本体ディスプレイのSLEEPインジケーターが点滅します。SLEEPインジケーターが点灯に変わると、オフタイマーの時間設定が完了します。



オフタイマーを解除する

「オフタイマー使用しない(SLEEP OFF)」の表示が出るまで、SLEEPキーを押します。「オフタイマー使用しない(SLEEP OFF)」が数秒表示されたあと、SLEEPインジケーターも消灯します。

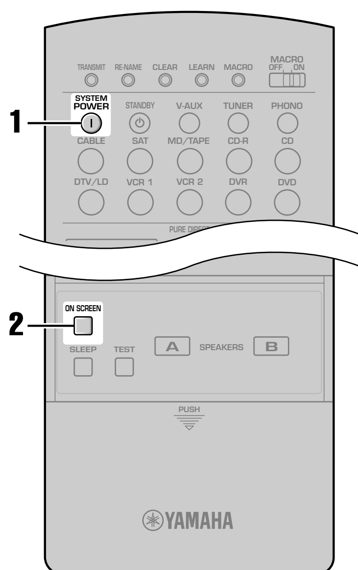
(オンスクリーン表示)	(本体ディスプレイ表示)
オフタイマー使用しない	SLEEP OFF



- リモコンのSTANDBYキー、または本体のSTANDBY/ONスイッチを押すか、電源コードを抜くと、オフタイマーは解除されます。

操作内容を表示する(オンスクリーン表示)

選択している入力ソースや、音量をテレビ画面の下部に表示させることができます。



1 本機とテレビの電源を入れる

2 リモコンのON SCREENキーを押す

押すごとにオンスクリーン表示の表示/非表示が切り替わります。



（オンスクリーン表示）

オンスクリーン オン

↕

オンスクリーン オフ

ヒント

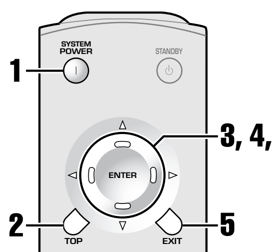
- 映像信号が入力されているときは、映像に重ねて表示されます。
- オンスクリーン表示は、VCR 1 OUT端子、VCR 2 OUT端子、DVR OUT端子に出力されませんので、映像と一緒に録画されることはありません。
- マニュアル設定メニュー「その他の設定：表示の設定」の「オンスクリーン表示」でも、表示/非表示を設定することができます(41ページ)。

ご注意

- コピーガード信号が入ったビデオソフトを再生したり、ノイズの多い映像信号を再生した場合、表示がブレることがありますが、本機の故障ではありません。
- マニュアル設定メニュー「映像の設定：アスペクト」を、「16：9ズーム」に設定しているときは、オンスクリーン表示は出ません(36ページ)。
- プログレッシブ方式の映像や、ハイビジョン映像が入力されている場合、オンスクリーン表示は出ません。

入力信号の情報を確認する

フォーマット(信号方式)やサンプリング周波数、音声チャンネル数など、本機に入力されている信号情報を表示します。
操作には、GUIリモコンを使います。



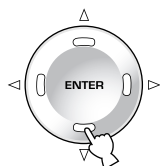
1 本機とテレビの電源を入れる

2 TOPキーを押して、GUI画面を表示する





3 ▽キーを押して、「信号の情報」を選ぶ

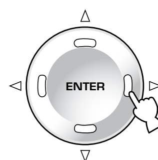




4 ▻キーを押して、「音声の情報」と「映像の情報」を切り替える

▻キーを押すたびに、切り替わります。

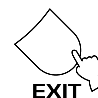








5 確認し終わったら、EXITキーを押して、終了する



ヒント

- GUIリモコンでの操作を、通常のリモコンで行うこともできます(9ページ)。

音声の情報

入力されている音声信号の情報を表示します。
（「信号の情報」→「音声の情報」）



信号方式
音声入力信号のフォーマット(信号方式)を表示します。

表示	信号方式
アナログ	アナログ信号
PCM	PCM信号
DSD	DSD信号
DD デジタル	ドルビーデジタル信号
dts	DTS信号
AAC	AAC信号
_ _ _	圧縮オーディオ(非リニアPCM)信号
???	不明なデジタル信号

サンプリング
音声入力信号のサンプリング周波数を表示します。
サンプリング周波数が不明な場合は、「?」と表示されます。

チャンネル
音声入力信号のチャンネル数を表示します。
左から、「フロントチャンネル数/サラウンドチャンネル数/LFEチャンネル」を表わしています。例えば、「3/2/0.1」と表示された場合は、「フロント3チャンネル/サラウンド2チャンネル/LFE0.1チャンネル」の信号が入力されています。
また、「1＋1」と表示された場合は、二カ国語放送などの主＋副の2チャンネルの信号が入力されています。

ビットレート
音声入力信号の1秒あたりのデータ量(ビットレート)を表示します。
ビットレートが不明な場合は、「---」と表示されます。

ご注意
- AAC信号のビットレートは、再生中に変化することがありますが、正常な動作です。

ダイアローグ
ドルビーデジタル信号入力時に、音量が異なるさまざまなソフトに対し、自動的に一定の音量で再生されるように調節するダイアログ・ノーマライゼーション機能がはたらきます。この機能がはたらいている場合に、調節しているレベル量を表示します。

フラグ1/フラグ2
音声入力信号に含まれている、ある動作をさせるための識別信号(フラグ)を表示します。

表示	フラグ
プリエンファシス	プリエンファシス処理されたPCM信号入力時に表示されます。
カラオケ	ドルビーデジタルカラオケ信号入力時に表示されます。
EX	ドルビーデジタルEX信号入力時に表示されます。
DPLエンコード	プロロジックエンコードされたドルビーデジタル信号入力時に表示されます。
ESマトリクス	DTS ESマトリクス信号入力時に表示されます。
DTS ESディスクリート	DTS ESディスクリート信号入力時に表示されます。
DTS 96/24	DTS 96/24信号入力時に表示されます。
_ _ _	フラグが認識できない場合に表示されます。

映像の情報

入力されている映像信号の情報を表示します。
（「信号の情報」→「映像の情報」）



解像度

映像入力/出力信号の解像度を表示します。
解像度が不明の場合は、「---」と表示されます。



- 表示は「入力解像度 → 出力解像度」のように対比して表示されます。

アスペクト比

映像入力/出力信号のアスペクト比を表示します。
アスペクト比が不明の場合は、「---」と表示されます。



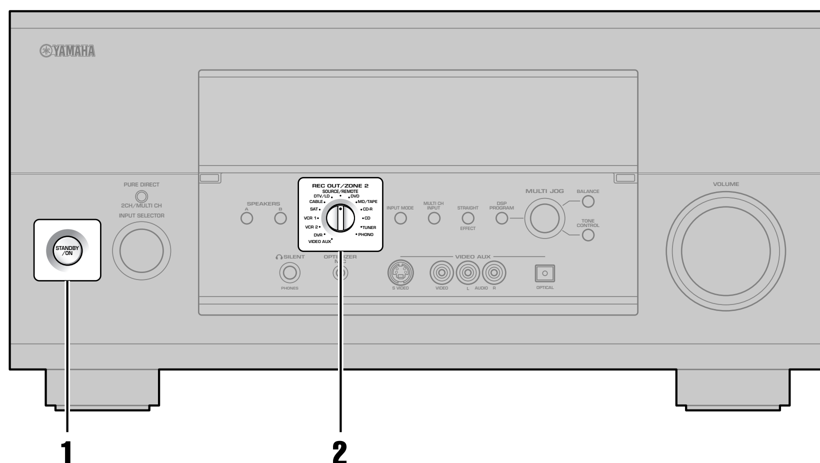
- 表示は「入力アスペクト比 → 出力アスペクト比」のように対比して表示されます。

著作権保護

映像入力信号に含まれる、著作権保護信号の有り無しを表示します。
不明の場合は、「不明」と表示されます。

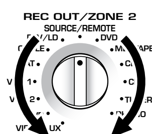
外部機器で録音/録画する

本機はREC OUT/ZONE 2セレクターを装備しています。再生中のソースを録音/録画したり、または再生中のソースとは別のソースを録音/録画することができます。



1 **本機および本機に接続されている、すべての機器の電源を入れる**

2 **REC OUT/ZONE 2セレクターを回して、録音/録画したいソースを選ぶ**



見ている(聴いている)ソースを録音/録画する場合：
REC OUT/ZONE 2セレクターを、「SOURCE/REMOTE」の位置に合わせます。

見ている(聴いている)ソースとは別のソースを録音/録画する場合：
REC OUT/ZONE 2セレクターを、録音/録画したいソースの位置に合わせます。

3 **ソースを再生する**
再生する機器の取扱説明書を参照してください。

4 **録音/録画を開始する**
録音/録画する機器の取扱説明書を参照してください。

録音/録画中に、見ている(聴いている)ソースを、別のソースに切り替える場合は、INPUT SELECTORでソースを切り替えます(REC OUT/ZONE 2セレクターが、「SOURCE/REMOTE」以外に設定されているときのみ)。

ご注意

- 録音/録画する前に、あらかじめ「試し録音」「試し録画」をしてください。
- 本機をスタンバイ状態にすると、接続した機器間で録音/録画できません。
- 入力ソースの出力端子からは、信号は出力されません(例：VCR 1 入力端子へ入力された信号は、VCR 1出力端子から出力されません)。
- 本機のDSP処理による音場効果は、録音できません。
- 録音中に、音量や音質を調節したり、音場プログラムを変更しても、録音される音声には影響しません。
- i.LINK端子から入力された信号は、REC OUT/ZONE 2セレクターが「SOURCE/REMOTE」に設定されているときのみ、光デジタルおよび同軸デジタル出力端子から出力されます(アナログ音声出力端子からは出力されません)。また著作権保護されている信号は出力されません。
- ドルビーデジタルRF信号は、録音できません。
- MULTI CH INPUT端子に入力された信号は、録音できません。
- アナログ音声出力端子から、アナログで録音する場合は、録音したい入力ソースをアナログで接続します。また、光デジタル出力端子から、デジタルで録音する場合は、録音したい入力ソースをデジタルで接続します。
- Sビデオ入力端子に入力されたSビデオ信号は、Sビデオ出力端子からのみ録画できます。同様に、ビデオ入力端子に入力されたビデオ信号は、ビデオ出力端子からのみ録画できます。
- あなたが録音したものは、個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。

DTSソフトの録音に関するご注意

DTS信号は、デジタルビットストリームで伝送されるため、DTS信号をデジタルで録音しても、ノイズだけが録音されます。DTS対応のCD、DVD、LDから録音する場合は、お使いのプレーヤー側で、アナログ信号で出力するように設定し、2チャンネルのアナログ信号で録音してください。詳しくは、お使いのプレーヤーの取扱説明書を参照ください。

本機について
いろいろな再生のしかた
設定を変更する
オリジナルのリスニング環境をつくる
リモコンを使いこなす
便利な機能
その他の情報

マルチゾーン機能

本機を使って、 本機を設置した部屋(メインルーム)と他の部屋(セカンドルーム)で、異なるソースを楽しむことができます。例えば、メインルームでCDを聞いているときに、セカンドルームではDVDを見ることができます。

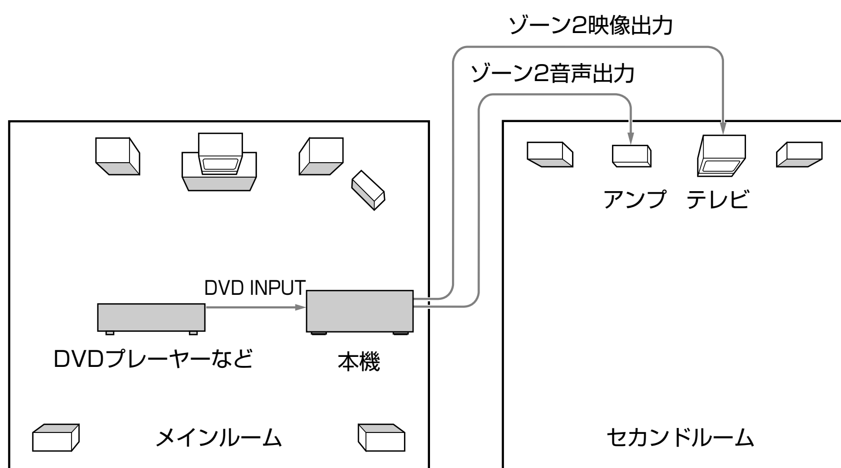
セカンドルームへの接続

マルチゾーン機能を使うには、以下の機器が必要です。

- アンプとスピーカー (セカンドルームに設置します)
- テレビ (セカンドルームに設置します)

外部アンプを使用した接続例

マニュアル設定メニュー「その他の設定: マルチゾーン」の「ゾーン2アンプ」を、「外部アンプ」に設定しておきます(41ページ)。

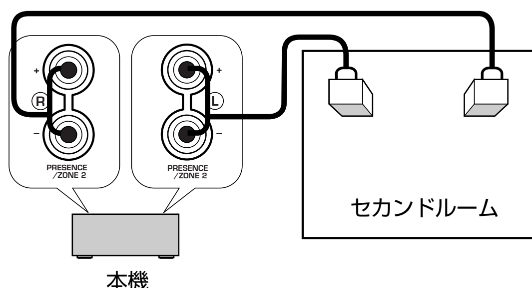


ご注意

- メインルームで本機を使用していないときは、音量を下げてください。セカンドルームでの音量は、セカンドルームに設置したアンプで調節してください。
- DTS信号は、デジタルビットストリームで伝送されるため、アナログ音声出力端子からセカンドルームにDTS信号を出力した場合、ノイズだけが再生されます。DTS信号を正しくセカンドルームで再生するには、同軸デジタル出力端子から、DTS信号を出力してください。また、セカンドルームで使うアンプにDTSデコーダーが搭載されている必要があります。
- i.LINK端子から入力された信号や、ドルビーデジタルRF信号は同軸デジタル出力端子からは出力されません。
- 同軸デジタル出力端子から出力される音声の音量は変えることができません。

本機の内部アンプを使用した接続例

マニュアル設定メニュー「その他の設定: マルチゾーン」の「ゾーン2アンプ」を、「本機を使用」に設定しておきます(41ページ)。



リモコンで操作する

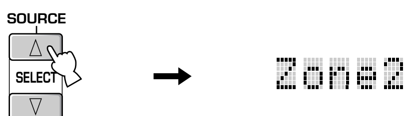
リモコンのアンプライブラリー(L:AMP)を「Zone」に設定すると、セカンドルームで再生する機器を、メインルームで再生する機器とは独立して操作することができます。

ご注意
- リモコンは、メインルームで操作してください。

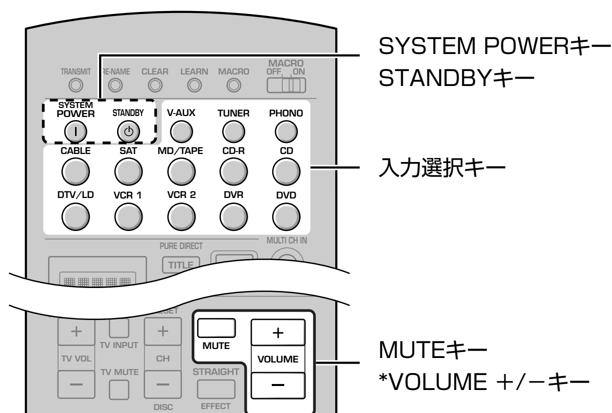
1 本体のREC OUT/ZONE 2セレクターを、「SOURCE/REMOTE」の位置に合わせる



2 SOURCE SELECT△キーを押して、「Zone2」を選ぶ



SYSTEM POWERキー、STANDBYキー、VOLUME +/−キー、MUTEキー、および入力選択キーが、ゾーン2専用のキーとしてはたらきます。



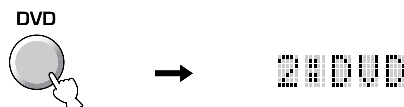
*マニュアル設定メニュー「その他の設定：マルチゾーン」の「ゾーン2の音量」を、「可変」に設定しているときのみ有効です(41ページ)。

3 SYSTEM POWERキーを押して、ゾーン2出力の電源を入れる



4 入力選択キーで、セカンドルームで再生する機器を選ぶ

リモコンディスプレイには、「2：選択機器名」が表示されます。



5 ゾーン2 モードから抜けるには、SOURCE SELECT△/▽キーを押す

電源の入/スタンバイについて

リモコンをマルチゾーンの設定にしている場合は、メインルームとゾーン2の電源を独立して入/スタンバイにすることができます。

- メインモードに切り替えるには、機器名が表示されるまでSOURCE SELECT △/▽キーを押します。
- システムモードに切り替えるには、SOURCE SELECT ▽キーを押します。

	リモコンディスプレイの表示	SYSTEM POWERキー/STANDBYキーの機能
メインモード	機器名* (例:「DVD」)	メインルーム出力の電源を、入/スタンバイにする
ゾーン2モード	「Zone2」または「2:選択機器名」 (例:「2:DVD」)	ゾーン2出力の電源を、入/スタンバイにする
システムモード	「SYSTM」	メインルーム出力とゾーン2出力の両方の電源を、入/スタンバイにする

* SYSTEM POWERキーまたはSTANDBYキーを押して数秒間は、「MAIN」と表示されます。

本機について いろいろな再生のしかた 設定を変更する オリジナルのリスニング環境をつくる リモコンを使いこなす 便利な機能 その他の情報

i.LINK機器を活用する

本機は、i.LINK(AUDIO)端子を搭載しています。i.LINK(AUDIO)対応機器を接続すれば、2chリニアPCM信号やマルチチャンネルの圧縮オーディオ信号に加え、従来アナログでしか伝送できなかった、DVDオーディオやスーパーオーディオCDなどのマルチチャンネル信号をデジタルのまま伝送することができます。

i.LINKについて

i.LINKとは、世界業界標準規格であるIEEE1394規格に準じた、高速かつ双方向のデジタルインターフェースです。

- 本機は、i.LINK(AUDIO)に対応しており、i.LINK(AUDIO)対応機器をIEEE1394ケーブル1本で接続すれば、従来の2チャンネルのPCM信号や、マルチチャンネルの圧縮オーディオ信号に加え、DVDオーディオ(マルチチャンネルPCM信号)や、スーパーオーディオCD(DSD信号)などのマルチチャンネルオーディオ信号を、デジタルのまま伝送することができます。
- 伝送フォーマットは、A&Mプロトコル(Audio and Music Data Transmission Protocol)に対応しています。
- 転送速度は、S400まで対応しています。
- 著作権保護技術(DTCP: Digital Transmission Content Protection)に対応しているため、デジタルオーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく伝送できます。

i.LINKについての詳細情報は、109ページをご覧ください。

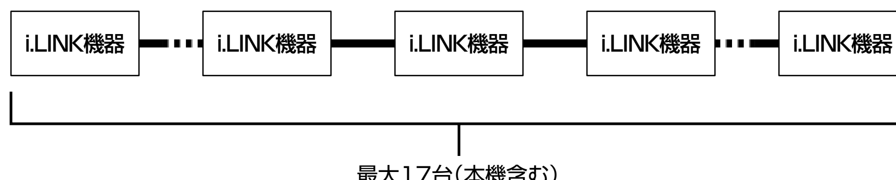
この機器のi.LINKインターフェースは、以下の規格に基づいて設計されています。
1) IEEE Std 1394a-2000，Standard for a High Performance Serial Bus
2) Audio and Music Data Transmission Protocol 2.0
この規格のAM824 sequence adaptation layersの中の、IEC60958 bitstream、DVD-Audio、SACDに対応しています。

i.LINK機器を接続する

本機には、ディジーチェーン(数珠つなぎ)接続とツリー(枝分かれ)接続の2種類の方法で、i.LINK機器を接続することができます。

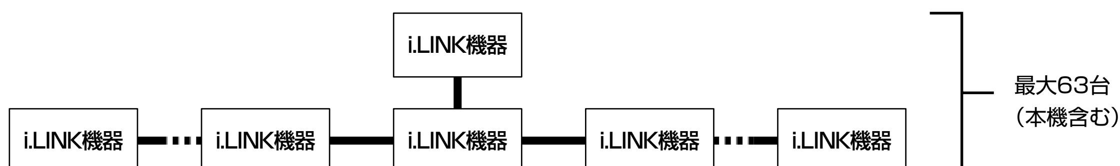
ディジーチェーン接続

数珠つなぎにして、一列に接続する方法です。接続できる機器の台数は、本機を含め17台までです。



ツリー接続

3つ以上のi.LINK端子がある場合に、枝分かれして接続する方法です。接続できる機器の台数は、本機を含め63台までです。





- 接続には、4ピンのIEEE1394ケーブルで、転送速度S400対応のものを使ってください。また、長さ3.0m以下のものを使うことをおすすめします。
- 各機器の電源が入ったままでもIEEE1394ケーブルを抜き差しして、接続または取り外しができる、ホットプラグ機能に対応しています。

ご注意

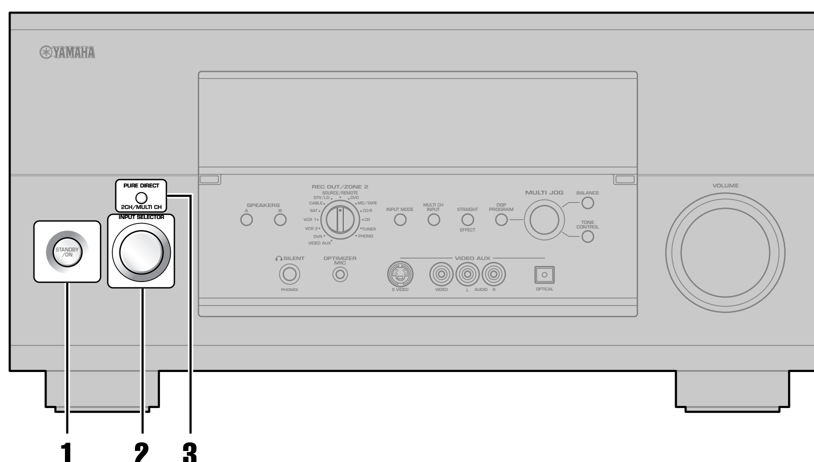
- 本機はi.LINK（AUDIO）機器以外のi.LINK機器には対応していません。
- 信号を出力した機器に、同じ信号が戻ってしまうような接続(ループ接続)をすると動作しません。i.LINK機器を複数台接続する場合は、ループ接続しないよう注意してください。ループ接続した場合には、「Loop Connect」と本体ディスプレイに表示されます。IEEE1394ケーブルを外して、接続しなおしてください。
- データ転送中に、IEEE1394ケーブルを抜き差ししたり、他のi.LINK機器の接続や取り外しはしないでください。再生音が途切れたり、ノイズが出力される場合があります。
- データ転送中に、接続しているi.LINK機器の電源を入/切すると、音が出なくなる場合があります。このような場合は、本機をいったんスタンバイ状態にして、電源を入れなおしてください。
- i.LINK端子にIEEE1394ケーブルを差し込むときは、端子の向きをよく確認したうえで差し込んでください。誤った向きで無理に差し込むと、端子が破損する原因となります。

i.LINK機器を入力に割り当てる

i.LINK機器が接続されると、本機は自動的にi.LINK機器を認識し、登録します。
登録されたi.LINK機器は、CD、DVDなどの入力を指定して割り当てることができます。ある特定の入力にi.LINK機器を割り当てることで、その機器からのビデオ入力信号とi.LINK経由のオーディオ入力信号とを同時に選んで、再生することができます。

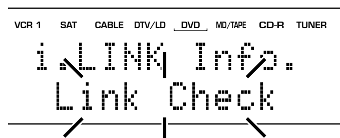
ご注意

- i.LINK(AUDIO)以外のi.LINK機器や、オーディオ信号を伝送できないi.LINK機器を接続した場合は、登録はされますが、入力に割り当てることはできません。
- IEEE1394リピーター/ハブなど、メーカー名やモデル名を持たないi.LINK機器は登録されません。
- 接続する機器によっては、正しく認識されないことがあります。

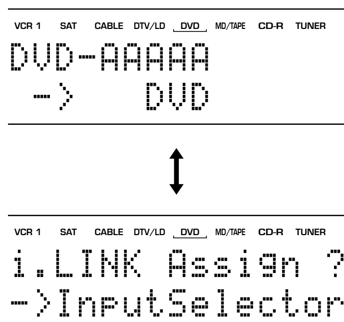


1 本機とi.LINK機器の電源を入れる

i.LINK機器の認識が自動的にはじまります。認識中は、本体ディスプレイに「Link Check」が点滅表示されます。



認識が終わると、接続したi.LINK機器名(品番)と、割り当て先の入力名が表示されます。



2 INPUT SELECTORを回して、割り当て先の入力を選ぶ

3 割り当て先の入力が決まったら、PURE DIRECTキーを押す

選んだ入力に、i.LINK機器が割り当てられます。
同時に2台以上のi.LINK機器を接続した場合は、手順2、3を繰り返し、割り当てていきます。

ヒント

- ある特定の入力に割り当てない場合は、手順2で「MULTI CH」を選び、PURE DIRECTキーを押します。この場合は、接続したi.LINK機器は、MULTI CH INPUT(マルチCH入力)に割り当てられます。また、特定の入力に割り当てたあとでも、MULTI CH INPUTではINPUT SELECTORで再生可能なi.LINK（AUDIO）機器を選ぶことができます。
- 手順1で認識が終わった後、10秒間操作せずに放置しておくと、自動的にMULTI CH INPUTに割り当てられます。
- i.LINK設定メニューで、後から割り当てを変更することもできます(89ページ)。

i.LINK機器を再生する

登録されたi.LINK機器を、以下のように選んで再生します。

i.LINK機器をある特定の入力に割り当てた場合

1 INPUT SELECTORを回して、i.LINK機器を割り当てた入力を選ぶ

2 INPUT MODEキーを繰り返し押して、入力モードを「Auto」または「i.LINK」に設定する

```
VCR 1  SAT  CABLE  DTV/LD  DVD  MD/TAPE  CD-R  TUNER
Input    DVD
Auto:---
```

または

```
VCR 1  SAT  CABLE  DTV/LD  DVD  MD/TAPE  CD-R  TUNER
Input    DVD
i.LINK:---
```

3 i.LINK機器の再生を始める

再生方法については、i.LINK機器の取扱説明書をご覧ください。

i.LINK機器をMULTI CH INPUT(マルチCH入力)に割り当てた場合

1 MULTI CH INPUTキーを押す

2 INPUT MODEキーを繰り返し押して、入力モードを「Auto」または「i.LINK」に設定する

```
VCR 1  SAT  CABLE  DTV/LD  DVD  MD/TAPE  CD-R  TUNER
Input  MULTI CH
Auto:---
```

または

```
VCR 1  SAT  CABLE  DTV/LD  DVD  MD/TAPE  CD-R  TUNER
Input  MULTI CH
i.LINK:---
```

3 i.LINK機器の再生を始める

再生方法については、i.LINK機器の取扱説明書をご覧ください。



- i.LINK機器を複数台接続している場合は、手順2の後でINPUT SELECTORを回して、再生する機器を選びます。

自動再生機能を使って再生する

接続したi.LINK機器が再生連動機能に対応している場合は、自動再生機能を使って再生を楽しめます。自動再生機能の再生モードには、以下の2種類があります。

自動再生：
本機のINPUT SELECTORで、i.LINK機器を選ぶと、選んだi.LINK機器で自動的に再生が始まります。

再生連動：
i.LINK機器で再生を始める(PLAYキーを押す)と、本機が自動的に入力を切り替えて、i.LINK機器を選びます。

ご注意
- 再生連動は、入力モードを「Digital」または「Analog」に設定していると、はたらきません。
- 自動再生機能で使用する再生モードは、i.LINK設定メニューの「自動再生」で設定できます(89ページ)。

i.LINKインジケーターについて

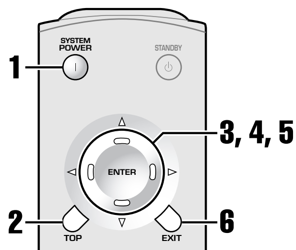
点灯しているとき：
i.LINK端子に入力された信号を再生しています。

点滅しているとき：
i.LINK機器は接続されていますが、i.LINK端子以外の入力端子に入力された信号を再生しています。

消灯しているとき：
i.LINK機器が接続されていません。またはi.LINK機器を割り当てた入力以外の入力を選んでいます。

i.LINK設定を変更する

登録されたi.LINK機器の情報を表示したり、登録を削除したりします。またi.LINK機器を接続したときの本機の動作設定や、再生に関する設定を変更できます。
操作には、GUIリモコンを使います。



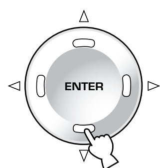
1 本機とテレビの電源を入れる

2 TOPキーを押して、GUI画面を表示する

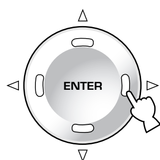




3 ▽キーを押して、「i.LINK設定」を選び、▷キーを押す

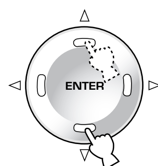






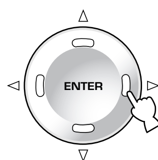


4 △/▽キーを押して、設定するメニューを選び、▷キーを押す







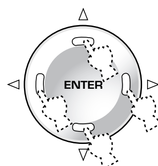




選ぶことのできるメニューは以下のとおりです。

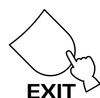
- 「接続情報」→87ページ
- 「選択」→88ページ
- 「新規接続時の応答」→88ページ
- 「入力のわりあて」→89ページ
- 「自動再生」→89ページ

5 △/▽/◁/▷キーを押して、選んだメニューの設定を変更する





6 変更し終わったら、EXITキーを押して、終了する



ヒント

- GUIリモコンでの操作を、通常のリモコンで行うこともできます(9ページ)。

接続情報

登録されているi.LINK機器の情報を表示したり、登録を削除したりします。
(「i.LINK設定」→「接続情報」)



詳細
選んだi.LINK機器の状態を表示します。

「メーカー名」:
i.LINK機器のメーカーが表示されます。
「モデル名」:
i.LINK機器の品番が表示されます。
「接続」または「非接続」:
選んだi.LINK機器の接続状態(接続されている/接続されていない)が表示されます。
「オーディオ」または「非オーディオ」:
選んだi.LINK機器がi.LINK(AUDIO)に対応しているかしていないかが表示されます。
「入力わりあて」:
選んだi.LINK機器が割り当てられている入力名が表示されます。

削除
選んだi.LINK機器を登録から削除します。削除するにはENTERキーを押してください。

ご注意
- 実際に接続されているi.LINK機器や、保護されているi.LINK機器は削除できません。

保護
誤って、選んだ機器を削除しないように保護します。

選択項目:する、しない

i.LINKの状態
登録されているi.LINK機器の数、実際に接続しているi.LINK機器の数、保護されているi.LINK機器の数、削除可能なi.LINK機器の数を表示します。また、エラーがある場合は、その内容を表示します。

ヒント

- ▷キーで「全て削除?」を「はい」に切り替えてENTERキーを押すと、削除可能な機器をすべて削除できます。

本機について
いろいろな再生のしかた
設定を変更する
オリジナルのリスニング環境をつくる
リモコンを使いこなす
便利な機能
その他の情報

選択

登録されたi.LINK機器のうち、オーディオ信号を伝送するi.LINK機器から、再生する機器を選びます。
(「i.LINK設定」→「選択」)



1 △/▽キーを押して、再生する機器を選び、ENTERキーを押す

画面の右側には、選んだ機器のメーカー名、モデル名、割り当てられている入力名が表示されます。

新規接続時の応答

新規にi.LINK機器を接続したときに、接続されたi.LINK機器を入力に割り当てる機能に入るか入らないかを設定します。
(「i.LINK設定」→「新規接続時の応答」)



選択項目：する、しない

「する」：
新規接続時に、どの入力に割り当てるかを問い合わせるメッセージを表示して、割り当てる機能に入ります。
「しない」：
新規接続時に、入力に割り当てる機能には入らず、MULTI CH INPUT(マルチCH入力)に割り当てます。

入力のわりあて

登録されているi.LINK機器を、入力に割り当てます。各入力(フォノ〜補助入力)とマルチCH入力に割り当てることができます。
(「i.LINK設定」→「入力のわりあて」)



1 △/▽キーを押して、入力を割り当てる機器を選び、▷キーを押す

2 △/▽キーを押して、入力を選び、ENTERキーを押す

選択項目：フォノ、チューナー、CD、CD-R、MD/テープ、DVD、DTV/LD、ケーブルTV、衛星放送機器、ビデオデッキ1、ビデオデッキ2、ビデオレコーダー、補助入力、マルチCH入力

自動再生

INPUT SELECTORでi.LINK機器を選んだときに、その機器を自動再生するかしないかを設定します。また、i.LINK機器側で再生を始めたときに、本機の入力を自動的に切り替えるかどうかを設定します。
(「i.LINK設定」→「自動再生」)



選択項目：Z9⇔プレーヤー、Z9→プレーヤー、Z9←プレーヤー、Z9×プレーヤー

「Z9⇔プレーヤー」：
INPUT SELECTORで選んだi.LINK機器を自動再生します。また、i.LINK機器を再生すると、自動的に本機の入力を切り替えます。

「Z9→プレーヤー」：
INPUT SELECTORで選んだi.LINK機器を自動再生します。

「Z9←プレーヤー」：
i.LINK機器を再生すると、自動的に本機の入力を切り替えます。

「Z9×プレーヤー」：
INPUT SELECTORで選んだi.LINK機器を自動再生しません。また、i.LINK機器を再生しても、自動的に本機の入力を切り替えません。

表示メッセージについて

状態表示メッセージ

本機の状態を本体ディスプレイに表示します。

メッセージ	内容
Link Check	i.LINK機器を認識中に表示されます。
No Name	接続したi.LINK機器からモデル名が取得できない場合に表示されます。
No Vendor Name	接続したi.LINK機器からメーカー名が取得できない場合に表示されます。

エラーメッセージ

接続や登録時に、問題がある場合に本体ディスプレイに表示されます。

メッセージ	原因	対策
Bus Full	1394バスの伝送帯域がいっぱいな状態で、データの送受信ができない状態です。	使っていないi.LINK機器を取り外すと、解消される場合があります。
		本機と、再生したいi.LINK(AUDIO)機器との間に、データ転送速度が遅い(S100またはS200)i.LINK機器が接続されている場合は、本機とi.LINK(AUDIO)機器を直接接続するように、i.LINK機器の接続順を変更すると、解消される場合があります。
Cannot Link	接続が不完全なため、接続したi.LINK機器を認識できません。	すべてのi.LINK機器に、正しくIEEE1394ケーブルが接続されているか確認してください。
Hop Over	ディジーチェーン接続をしている場合に、両端のi.LINK機器間の接続台数が、15台を超えています。	両端のi.LINK機器間の接続台数が、15台以下になるように、i.LINK機器を取り外してください。
		ツリー接続にしてみてください。
Loop Connect	i.LINK機器との接続がループ接続(信号を出力した機器に同じ信号が戻ってくるような接続)になっています。	IEEE1394ケーブルを取り外し、接続しなおしてください。
Node Over	i.LINK機器の接続台数が、本機を含めて63台を超えています。	i.LINK機器の接続台数が、本機を含めて63台以下になるように、i.LINK機器を取り外してください。

音場プログラムについて

Hi-Fi DSP音場プログラム

プログラムと特長

- CDなどのステレオ音楽ソースに最適なプログラムです。
- フロントL/Rスピーカーの他に4本のエフェクトスピーカー（プレゼンスL/プレゼンスR/サラウンドL/サラウンドR）で音場を再現します。
- 入力信号に応じて各種デコーダーが使用されます。

キー	プログラム	サブプログラム	特長または最適ソース
STEREO 1	ステレオ	9chステレオ	広いエリアで音楽を楽しめる音場
HALL 1 2	コンサートホール1	ミュンヘンA	広く奥行きのあるホールの音場
		ミュンヘンB	天井が高いシューボックス型ホールの音場
		フランクフルト	縦長で力強い響きがあるホールの音場
		シュトゥットガルト	大胆な左右非対称形のホールの音場
		ウィーン	響きが豊かな古典的な中ホールの音場
		アムステルダム	響きが豊かな古典的な大ホールの音場
HALL 2 3	コンサートホール2	USAホールA	中高域の響きが豊かな大ホールの音場
		USAホールB	半円形のドーム型天井を持つ大ホールの音場
		ライブコンサート	響きが豊かな、広大な円形ホールの音場
CHURCH 4	チャーチ	東京	適度な残響感を伴う教会の音場
		フライブルグ	非常に長い残響時間を持つ教会特有の音場
		ロワイヨーモン	中世の美しいゴシック建築の修道院食堂大広間の音場
JAZZ 5	ジャズクラブ	ビレッジゲート	広いフロアを持つニューヨークの著名なライブハウスの音場
		ビレッジバンガード	ニューヨークの著名なジャズクラブの音場
		ボトムライン	ニューヨークで話題のライブハウス「ザ・ボトム・ライン」の音場
ROCK 6	ロックコンサート	ロキシーシアター	ロサンゼルスのホットなロックライブハウスの音場
		ロフト	コンクリート造りの倉庫の音場
		アリーナ	広大なアリーナの音場
ENTERTAIN 8	エンターテイメント	ディスコ	ホットなディスコの雰囲気を再現する音場
		パーティ	ホームパーティーでのBGMを、自然に演出する音場

ステレオ

サブプログラムと特長	仮想音源分布	エコーパターン
9ch ステレオ 後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特徴のホームパーティーを演出する音場プログラムです。スピーカーの設定により、最大9つのスピーカーから音が出力されます。	————	————

コンサートホール1

サブプログラムと特長	仮想音源分布	エコーパターン
ミュンヘンA ヨーロッパに多くみられる内装材にシックな木の内張りが使われた、ミュンヘンにある2500席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに拡がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席の位置は、1階の中央左寄りです。		
ミュンヘンB 欧米のオーケストラの録音にしばしば使われる、1300席程度のシューボックス型コンサートホールです。大理石で造られているため、響きがフラットで、また天井が高いため、残響時間が比較的長いのが特長です。		
フランクフルト 内装材が木製のフランクフルトにある2400席程度のシューボックス型コンサートホールです。ステージ上方のマホガニー色に塗装された幾層もの反射板によって、ステージ方向からの反射音が強く、直接音が増強される傾向にあり、力強い響きが特長です。座席の位置は1階中央右寄りです。		
シュトゥットガルト 大胆な非対称形の、シュトゥットガルトの中心街にある2000席程度の大型コンサートホールです。ステージに向かって左側にコンクリートの壁があり、その方向からの反射音が強く感じられます。		
ウィーン 1700席程度のウィーンの伝統的なシューボックス型の中規模コンサートホールです。周囲の柱や彫刻により、全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きが特長です。		
アムステルダム アムステルダムの広幅化したシューボックス型の大ホールで、サークルステージ、ステージバック席があり客席は2200程です。		

コンサートホール2

サブプログラムと特長	仮想音源分布	エコーパターン
USAホールA ヨーロッパの伝統をふまえて設計された、ボストンにある大規模なコンサートホールです。客席数は2600席程度で、内装はよりシンプルにまとめられ、アメリカ的な処理が感じられます。中高音の豊かな響きが特長です。		
USAホールB シカゴにある2600席程度の半円形ドーム型天井を持つ大型コンサートホールです。残響時間が長めで、豊かな残響を感じることができます。またステージ上方につり下げられた反射板により、ステージ方向からの反射音が強くなっています。		
ライブコンサート 円形ホールをイメージさせる広大な音場で、全周囲に反射音が拡がり、サラウンド感が強く、豊麗な響きが特長です。		

チャーチ

サブプログラムと特長	仮想音源分布	エコーパターン
東京 残響時間2.5秒と適度な残響音を伴う教会の音場感です。パイプオルガンや教会音楽などの再生に適しています。		
フライブルグ ドイツ南部の120m近い尖塔を持つ大きな教会です。石を積み上げて造られており、天井が高く、細長い空間を持っています。残響時間は非常に長くなりますが、逆に初期反射は少なくなります。そのため、直接音の厚みは余りありませんが、響きが多く、教会特有の音場を再現します。		
ロワイヨーモン パリ近郊ロワイヨーモンにある美しい中世ゴシック建築の修道院の食堂大広間の音場です。天井をささえる石柱ごとに構成されるドーム状の多くの天井空間に残響が響きあい、余韻の美しい音場です。		

ジャズクラブ

サブプログラムと特長	仮想音源分布	エコーパターン
ビレッジゲート ニューヨークにあるライブハウスで、比較的広いことから小ホールのような響きです。ステージに向かい中央左寄りの音場です。		
ビレッジバンガード ニューヨークの7番街にあるジャズクラブです。天井が低く、狭い室内の角にあるステージ付近に強い反射音が集中しています。		
ボトムライン ニューヨークで話題のライブハウス「ザ・ボトム・ライン」のステージ正面の音場です。フロアは300席ある左右に幅広い客席で占められ、リアルでライブな音場です。		

ロックコンサート

サブプログラムと特長	仮想音源分布	エコーパターン
ロキシーシアター ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約460程です。客席中央左寄りの音場です。		
ロフト ソーホーのロフトを思わせるコンクリートの空間です。壁面からの反射音は比較的明瞭で、エネルギッシュな音場です。		
アリーナ 広いアリーナの音場です。		

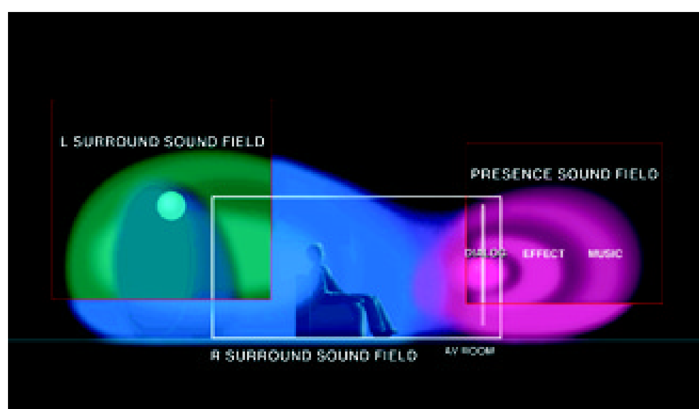
エンターテイメント

サブプログラムと特長	仮想音源分布	エコーパターン
ディスコ ディスコミュージックに包まれる、乗りの良い音場空間を演出するプログラムです。		
パーティ 後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特徴のホームパーティを演出する音場プログラムです		

CINEMA DSP音場プログラム

CINEMA DSP音場プログラムのサウンドデザイン

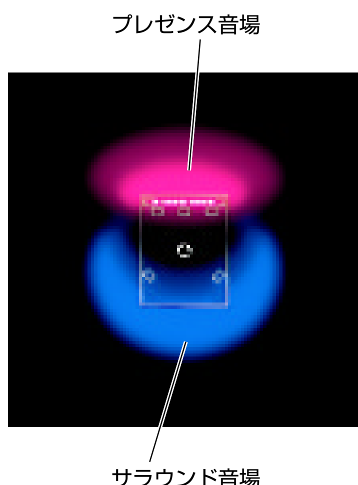
映画製作者の意図するサウンドは、セリフは明瞭にスクリーン上に定位し、効果音はその奥に、音楽はさらにその奥に拡がり、そしてサラウンドは視聴者を取り囲んでスクリーンの映像と一体になるようにデザインされています。
ヤマハDSPをAV再生用に進化させたプログラムが「CINEMA DSP音場プログラム」です。映画サラウンドデコーダーであるドルビープロロジック、ドルビーデジタルやDTS、またBSデジタル放送の音声フォーマットであるAACなどの各デコーダーとヤマハDSPを融合し、映画のサウンドを最良の状態でデザインするダビングステージ（最終的な映画のサウンドデザインを完成させるファイナルミックス）でのクオリティをAVルームに再現するサラウンド音場です。
CINEMA DSP音場プログラムでは、フロントL/センター/フロントRチャンネルにもヤマハDSP処理を加えることで、視聴者はセリフの実在感や効果音、音楽の奥行き感とともに、スムーズな音源の移動感とスクリーンまで回り込むサラウンド音場に包まれます。

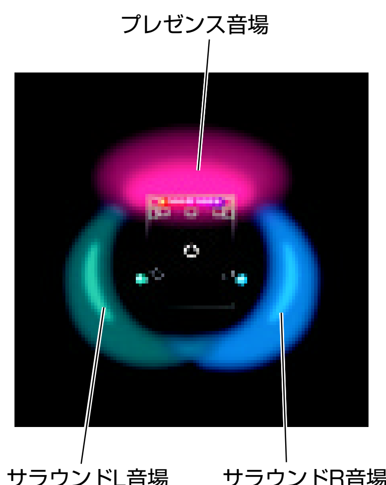


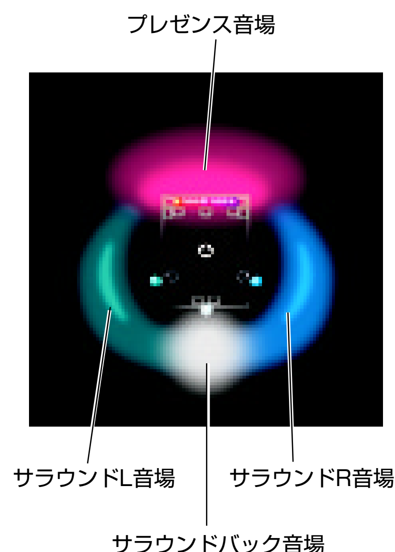
2音場
CDやビデオテープなどの、ステレオソースをマトリクス処理し、前方のプレゼンス音場、後方のサラウンド音場を付加します。

3音場
ドルビーデジタル、DTSなどの5.1チャンネルソースに対して、前方のプレゼンス音場と、後方の左右それぞれに独立したサラウンド音場を付加します。

4音場
ドルビーデジタルEX、DTS-ESなど最新の6.1チャンネルソースに対応して、3音場にサラウンドバック音場を加えた、4つの音場を付加します。







プログラムと特長

- 入力信号に応じて、各デコーダーおよび方向性強調回路が使用されます。
- センタースピーカーを使用した場合は、良好なセンター定位が得られます。
- フロントL/Rスピーカーも方向性強調に信号処理された出力になります。
- プレゼンス音場処理によって画面奥行きへの音場表現が得られます。さらに、サラウンド音場処理によってスケールの大きなサラウンド感が得られます。
- 入力モードが「自動判別」に設定されている場合、「ムービーシアター」プログラムと「サラウンド」プログラムでは、ドルビーデジタル、DTSまたはAAC信号が入力されると、音場プログラムは自動的にドルビーデジタル再生用音場、DTS再生用音場またはAAC再生用音場に切り替わります。

キー	プログラム	サブプログラム	特長または最適ソース
MUSIC 7	ミュージックビデオ	ポップ/ロック	ロック、ジャズなどのライブコンサートを再現する音場
		DJ	DJのトークをクリアに再現する音場
		クラシック/オペラ	ステージの臨場感と、音楽の美しさを演出する音場
		パビリオン	丸天井の大きな空間を持つ音場
ENTERTAIN 8	エンターテイメント	TVスポーツ	バラエティやスポーツ中継番組に適用範囲の広い音場
		モノムービー	往年のモノラル映画を自然に再生する音場
		ゲーム	TVゲームの軽快なノリをさらに加速させる、痛快なテンポの音場
MOVIE 9	ムービーシアター	スペクタクル	70mm大画面のスペクタクルな音場
		サイファイ	最新のSFX映画をクールに楽しめる音場
		アドベンチャー	アドベンチャー映画を大迫力で楽しめる音場
		ジェネラル	情緒的な映画を柔かく再現する音場
DD /DTS +10	サラウンド	エンハンスト	ドルビーデジタル、DTS、AAC信号に音場効果を与える

ミュージックビデオ

サブプログラムと特長	ステレオ入力時	ドルビーデジタル、DTS及びAAC入力時
ポップ/ロック ロック、ジャズ等のライブコンサート会場のイメージです。サラウンド音場に広いホールのデータを使用しているため、間接音成分が豊かに回り込み、スクリーン周囲への映像空間、音場空間がいっぱいに拡がり、熱狂的な雰囲気にひたれます。		
DJ プレゼンス音場にオペラハウス系、サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用しています。ディスクジョッキーのトークはクリアに、音楽は音場感豊かに楽しめます。		
クラシック/オペラ 響きの量を適度に抑えてあり、声の奥行き感、明瞭度に優れています。オペラではステージでの定位や臨場感とともに、オーケストラボックスの響きが眼前にくり広げられます。サラウンド音場は控えめながら、コンサートホールのデータを使用することで音楽の美しさを演出。長時間のオペラものでも疲れません。		
パビリオン ボーカルは明瞭で実在感があり、大きく拡がりのある空間を感じさせる音場です。やや遅れてくる多くの残響は、パビリオン独特のライブ感ある音場を再現し、熱狂的なコンサートシーンを盛り上げます。		

エンターテイメント

サブプログラムと特長	ステレオ入力時	ドルビーデジタル、DTS及びAAC入力時
TVスポーツ プレゼンス音場は狭めてあるが、サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用しており、様々なバラエティや中継番組に、適用範囲の広い音場効果を再現。スポーツ中継のステレオ放送では、解説者は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲へと拡がります。後方回り込みは適度に抑えてあるので、長時間使用しても違和感がありません。		
モノムービー 古いモノラル名作映画専用のポジションです。オペラハウス系のプレゼンス音場と適度な残響処理により、往年の名作映画のモノラル音声が臨場感を持って再生されます。		
ゲーム モノラル、ステレオを問わず、ゲームサウンドにビビッドな奥行きとサラウンド感を与え、迫力と臨場感のあるゲームが楽しめます	———	———

ムービーシアター

サブプログラムと特長	ステレオ入力時	ドルビーデジタル､DTS及びAAC入力時
スペクタクル 70mm映画の大画面シアターそのものの超ワイドな空間に映画の空気がそのまま存在するようなスペクタクルな音場です。微妙な音の響きまでも再現する表現力をもち、映像と空間に今までにないリアリティを生み出します。70mm映画初期の作品から最新のドルビーデジタルソフトおよびDTSソフトまで、幅広くスペクタクルな世界が楽しめます。		
サイファイ 最新のSFX映画のサウンドデザインをセリフと音楽効果音にクールに描き分け、静けさの中に広大なシネマ空間を演出します。高度なテクニックを駆使したドルビーステレオ、ドルビーデジタル、DTSソフトまで、サイエンス・フィクションの世界を仮想空間音場で楽しめます。		
アドベンチャー 最新の映画サウンドデザインを最高に再現するプログラムです。70mm/ドルビーデジタル、DTSおよびAACマルチトラックにデザインされた演出を忠実に再現するとともに音場プログラム自体の響きをできるだけ抑え、響きをデッドにした最新の映画館とコンセプトを同じにしています。プレゼンス音場に、オペラハウス音場データを使用。会話の定位、立体感に優れています。サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用、力強い響きとともにアクション、アドベンチャーなどのデザインされたサウンドを明確に再現し、痛快な臨場感をもたらします。		
ジェネラル 70mm/ドルビーデジタル、DTSおよびAACマルチトラックのサウンドを再現するプログラムで、全体に柔らかい拡がり感のある響きが特長です。プレゼンス音場はやや狭い印象で、セリフの響きを抑え明瞭度を損なわずにスクリーン周囲とスクリーンの奥に立体的に再現されます。サラウンド音場は後方の広い空間に音楽やコーラス等のハーモニーが美しく響く印象です。		

サラウンド

サブプログラムと特長	ステレオ入力時	ドルビーデジタル､DTS及びAAC入力時
エンハンスト ドルビーサラウンド、DTSサラウンドまたはAACサラウンドのオリジナル定位を乱すことなく、正確なデコード動作とDSP処理を行います。35mm映画館のマルチサウンドスピーカーを、より理想的なものへシミュレーションした音場です。サラウンド音場は、視聴者を左右後方から美しい響きで包み込みます。そのため、音の移動は後方から左右、スクリーンに自然につながり、映画制作側の意図する効果を再現します。		

ストレートデコード

本機には下記のデコーダーが搭載されています。

- マルチチャンネルソース用の、ドルビーデジタル、DTS、AACデコーダー
- サラウンドバックチャンネル音声再生用の、ドルビーデジタルEX、ドルビープロロジックIIx、DTS-ESデコーダー
- 96kHz/24bitの高音質再生用のDTS 96/24デコーダー
- ドルビーサラウンドと2チャンネルソース用の、ドルビープロロジック、ドルビープロロジックII、ドルビープロロジックIIx、DTS Neo：6デコーダー

音場効果をかけずに、元の音で再生したい場合は、「サラウンド」プログラムの、「スタンダード」モードを選んでください。

キー	プログラム	サブプログラム	特長または最適ソース
DD /DTS +10	サラウンド	スタンダード	ドルビーデジタル、DTS、AAC信号を忠実に再現

ヒント

- リモコンのSTRAIGHT/EFFECTキーを押して、ストレートデコードモードに切り替えることもできます(20ページ)。

音場プログラムパラメーターについて

パラメーターガイド

音場プログラムごとにDSP処理の構造が違います。以下のパラメーターはすべての音場プログラムで設定できるわけではありません。

エフェクト量の加減

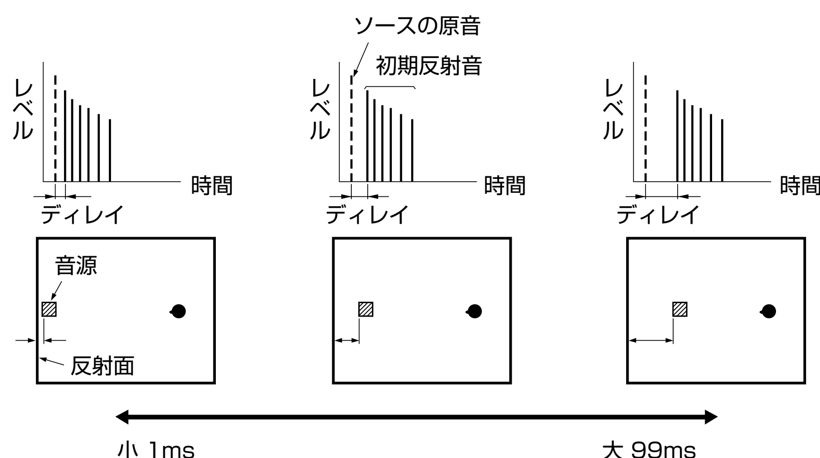
エフェクト音全体のレベルを微調節するパラメーターです。

可変範囲：−6〜+3dB

ディレイ

直接音から初期反射音が始まるまでの時間（遅延時間）をコントロールするパラメーターです。初期反射音の遅れは、音源と反射面との距離によって決まります。つまり、遅延時間を短くすると、音源が壁面に近づいた感じになり、逆に遅延時間を長くすると、音源は壁面から離れた感じになります。ディレイを調節することにより、ソースの原音から周りの壁までの距離感、空間の大きさ感、音像のできかた等がコントロールできます。

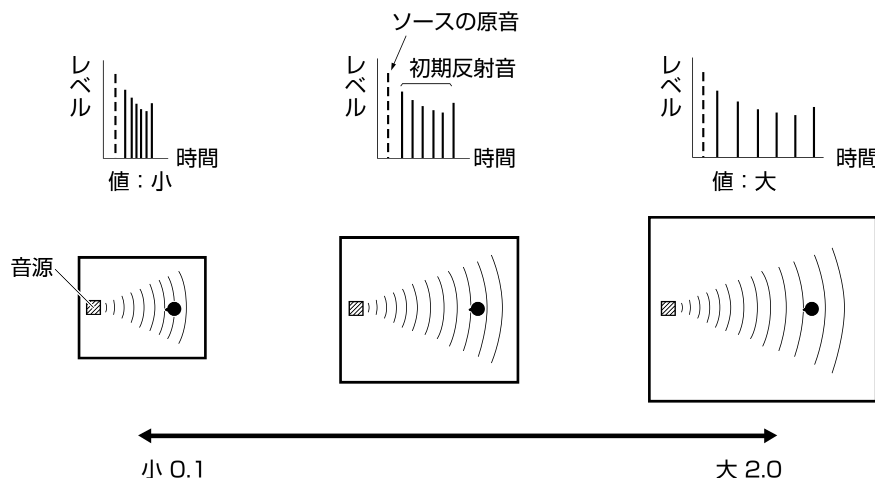
可変範囲：1〜99ms



音場空間の大きさ

空間の拡がり感をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど広い空間（部屋）になり、値を小さくするほど狭い空間になります。音が反射を繰り返すとき、壁と壁の間が広い大きなホールほど、反射音と反射音の時間的な間隔が長くなります。このことから、反射音同士の時間間隔をコントロールすれば、拡がり感を変えることができるということになります。1.0で実測値そのまま、2.0にすると、一辺の長さが倍の空間になります。

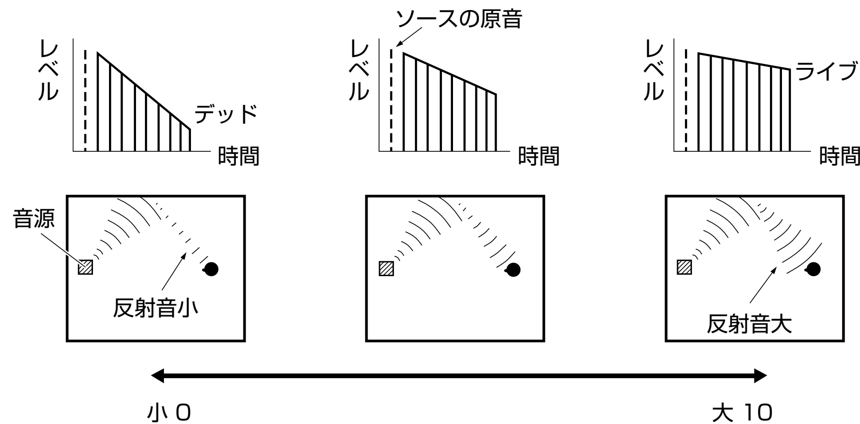
可変範囲：0.1〜2.0



響きの強さ

初期反射音の減衰特性を決めるパラメーターです。値を大きくするほど、反響が多くライブな音場になり、値を小さくするほど反響が少ないデッドな音場になります。実際のホールでのライブ感/デッド感は、反射面の吸音特性によって決定され、反射音の減衰が早ければデッドに、遅ければライブに感じられます。

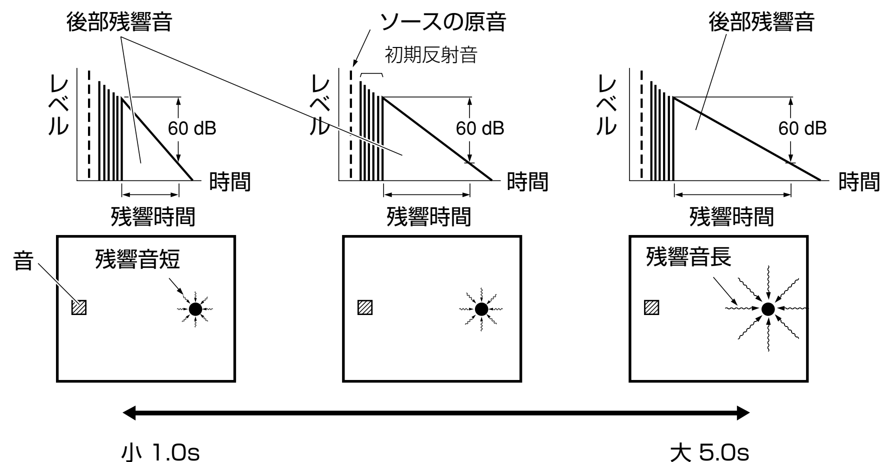
可変範囲：0〜10



残響時間

後部残響音が減衰していく時間をコントロールするパラメーターです。約1kHzの残響音が60dB減衰するのにかかる時間を基準にしています。値を小さくするほど、残響音が早く減衰します。残響時間を調節することにより、デッド気味のソースやリスニングルームに少し長めの残響時間を設定したり、逆にライブ気味のソースやリスニングルームには、短い残響時間を設定して自然な残響音となるようにコントロールすることができます。

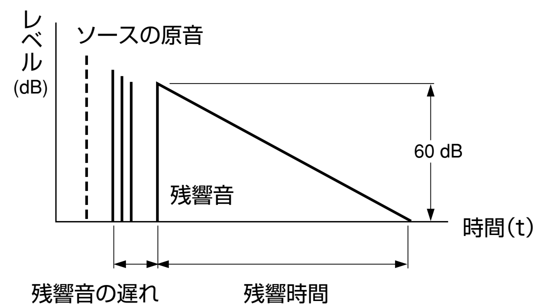
可変範囲：1.0〜5.0s



残響音の遅れ

残響音が発生し始めるまでの時間です。値を大きくするほど、残響音が最初の初期反射音より遅れて発生するようになります。同じ残響時間でも、残響音の遅れを長くしていくと大きな空間の残響感になります。

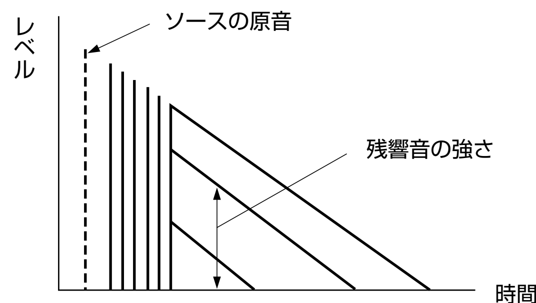
可変範囲：0〜250ms



残響音の強さ

後部残響音のレベルをコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど後部残響音のレベルが大きくなり、余韻が強く感じられます。値を小さくするほど後部残響音のレベルが小さくなり、余韻が弱く感じられます。

可変範囲：0〜100%



サラウンドの遅れ

サラウンド信号の遅延時間を調節します。

可変範囲：0〜15ms

初期化

変更したパラメーター(「デコーダ選択」パラメーターを除く)の設定値を、元に戻します。

選択項目：する、しない

サラウンド音場の遅れ

直接音とサラウンド音場との時間遅れをコントロールするパラメーターです。値を大きくするほどサラウンド音場が遅れて発生します。

可変範囲：1〜49ms

サラウンド音場の広さ

サラウンド音場の拡がり感をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンドの音場空間が拡がります。

可変範囲：0.1〜2.0

サラウンド音場の響き

サラウンド音場の減衰量をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンド音場の響きが強くなります。

可変範囲：0～10

サラウンドバックの遅れ

直接音とサラウンドバック音場との時間遅れをコントロールするパラメーターです。値を大きくするほどサラウンドバック音場が遅れて発生します。

可変範囲：1～49ms

サラウンドバックの広さ

サラウンドバック音場の拡がり感をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンドバックの音場空間が拡がります。
EX/ESデコーダーがオンのときのみ有効です。

可変範囲：0.1～2.0

サラウンドバックの響き

サラウンドバック音場の減衰量をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンドバック音場の響きがつよくなります。
EX/ESデコーダーがオンのときのみ有効です。

可変範囲：0～10

センター音量

「9chステレオ」でのセンターチャンネルの出力レベルを調節します。

可変範囲：0～100%

サラウンド左音量

「9chステレオ」でのサラウンドLチャンネルの出力レベルを調節します。

可変範囲：0～100%

サラウンド右音量

「9chステレオ」でのサラウンドRチャンネルの出力レベルを調節します。

可変範囲：0～100%

サラウンドバック左音量

「9chステレオ」でのサラウンドバックLチャンネルの出力レベルを調節します。

可変範囲: 0～100%

サラウンドバック右音量

「9chステレオ」でのサラウンドバックRチャンネルの出力レベルを調節します。

可変範囲: 0～100%

サラウンドバック音量

「9chステレオ」でのサラウンドバックチャンネルの出力レベルを調節します（サラウンドバックスピーカーを1台だけ使う場合のパラメーターです）。

可変範囲: 0～100%

プレゼンス左音量

「9chステレオ」でのプレゼンスLチャンネルの出力レベルを調節します。

可変範囲：0～100%

プレゼンス右音量

「9chステレオ」でのプレゼンスRチャンネルの出力レベルを調節します。

可変範囲: 0～100%

パノラマ

「プロロジックⅡミュージック」および「プロロジックⅡxミュージック」でのフロント音場の拡がり感を調節するパラメーターです。フロントL/Rの音声を左右に大きく回り込ませることで、サラウンド音場につながるような拡がり感を得ることができます。

可変範囲：オン/オフ

センターの広がり

「プロロジックⅡミュージック」および「プロロジックⅡxミュージック」でのセンター音声の左右への拡がりを調節するパラメーターです。センターからの音声を、好みに合わせて左右に振り分けることができます。0にするとセンターのみ、7にするとフロントL/Rのみからセンター音声が出力されます。

可変範囲：0～7

ディメンション

「プロロジックⅡミュージック」および「プロロジックⅡxミュージック」でのフロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節するパラメーターです。再生するソフトによって生じる、フロントとサラウンドのレベル差を調節して、好みのバランスにすることができます。－にするとサラウンド側、＋にするとフロント側が強くなります。

可変範囲：－3～STD～＋3

センターイメージ

「ネオ6ミュージック」でのフロント音場の拡がり感を調節するパラメーターです。値を小さくするとフロント音場の拡がりが大きくなり、大きくすると狭く(センターへの定位が強く)なります。

可変範囲：0～1.0

セリフの位置調整

会話など、中央に定位する音の、定位位置(上下方向)を調節するパラメーターです。値を小さくすると音が下方に定位し、大きくすると上方に定位します。

可変範囲：0～5

デコーダ選択

「ムービーシアター」、「THXシネマ」および「サラウンド」で再生するときに、2チャンネルソースをマルチチャンネル化するためのデコーダーを選びます。

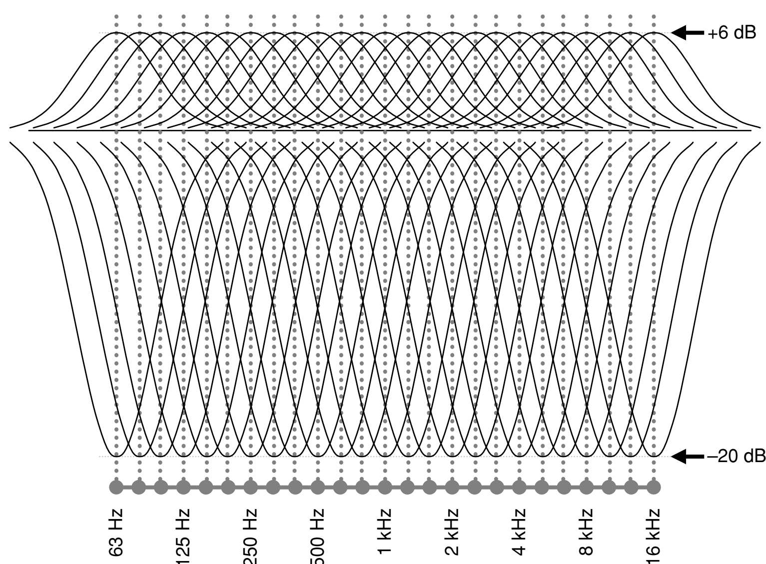
選択項目： プロロジック、プロロジックⅡ、ネオ6、プロロジックⅡx(「ムービーシアター」、「THXシネマ」および「サラウンド/エンハンスト」で再生時)
プロロジック、PLⅡムービー、PLⅡミュージック、PLⅡゲーム、ネオ6シネマ、ネオ6ミュージック、PLⅡxムービー、PLⅡxミュージック、PLⅡxゲーム(「サラウンド/スタンダード」で再生時)

パラメトリックイコライザーについて

本機に搭載の視聴環境最適化システム「YPAO」(Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer)では、パラメトリックイコライザーを使用して周波数特性を補正しています。周波数、レベル、Qファクターの3つのパラメーターを組み合わせて、より精度の高い周波数特性の補正を行っています。

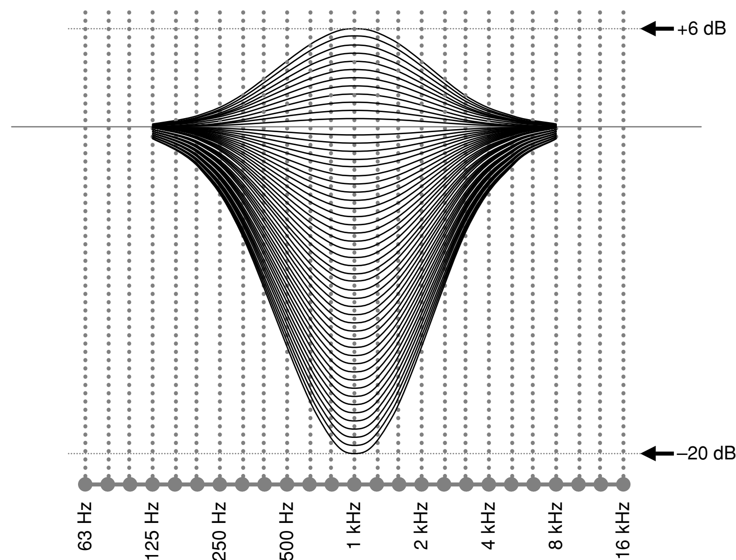
パラメーター1:周波数

1/3オクターブごとに、63Hzから16kHzの間で、可変させることができます。



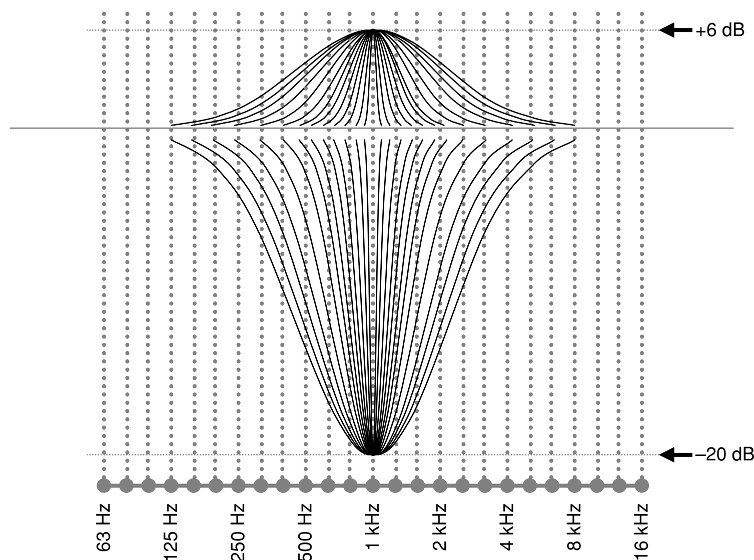
パラメーター2:レベル

0.5dBごとに、−20dBから+6dBの間で、可変させることができます。



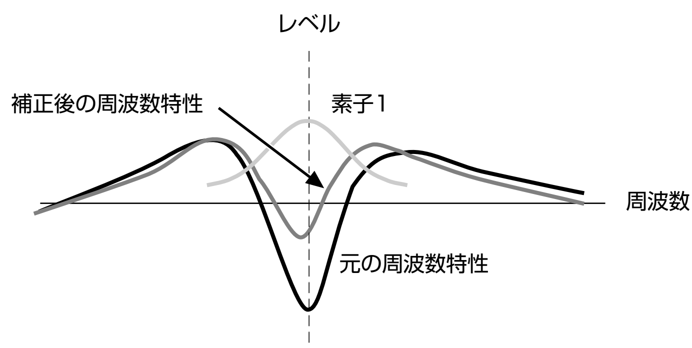
パラメーター3:Qファクター

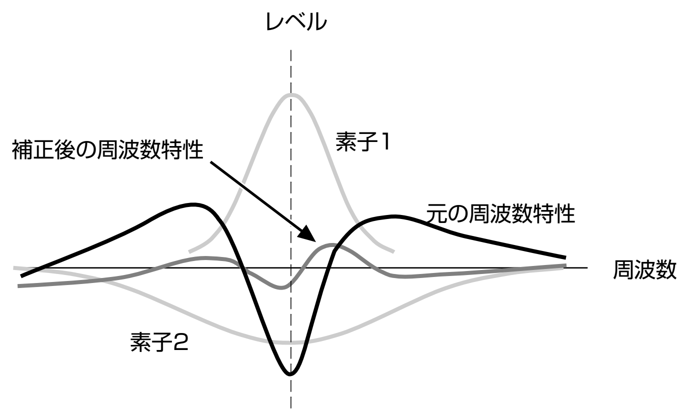
Qファクターとは指定された周波数帯域の、帯域幅のことです。0.5から10の間で、可変させることができます。



3つのパラメーター(周波数、レベル、Qファクター)を組み合わせて設定できるイコライザー素子により、周波数特性を最適に補正します。本機は、このイコライザー素子を、1チャンネルにつき10個持っています。

複数のイコライザー素子を使うことで、1個のイコライザー素子では補正しきれない周波数特性(図-1)も、最適に補正することができます(図-2)。





i.LINKについて

iLINKとは、世界業界標準規格であるIEEE1394規格に準じた、高速かつ双方向のデジタルインターフェースです。本機は「i.LINK(AUDIO)」(i.LINKを使用したオーディオ信号)に対応しています。

本機とi.LINK(AUDIO)対応機器とをIEEE1394ケーブルで接続することで、DVDオーディオやスーパーオーディオCDなどの高品位マルチチャンネルオーディオ信号や、S/P DIFによる2チャンネルのリニアPCMおよびマルチチャンネルの圧縮オーディオ信号、さらにドルビーデジタル、DTSなどのサラウンドフォーマットのオーディオ信号を、すべて一本のケーブルだけでやりとりすることができます。

i.LINKでは、デジタル化されたデータを、デジタルのまま劣化させることなく他の機器に伝送できるため、著作権保護技術(DTCP: Digital Transmission Content Protection)が用いられています。この著作権保護技術により、従来S/P DIFなどでデジタル伝送していなかったDVDオーディオやスーパーオーディオCDといったマルチチャンネルの高品位な非圧縮(リニアPCM)オーディオのデジタル伝送を可能にしました。
著作権保護システムは、本機とi.LINK(AUDIO)対応機器との間で機器認証を行い、対応機器からの暗号化されたオーディオ信号を、本機で暗号を解除することにより受信します。



- IEEE1394は、標準化組織である米国電子電気技術協会(IEEE: The Institute of Electrical and Electrics Engineers, Inc)で標準化された国際標準規格の番号で、高速シリアルインターフェースの名称です。

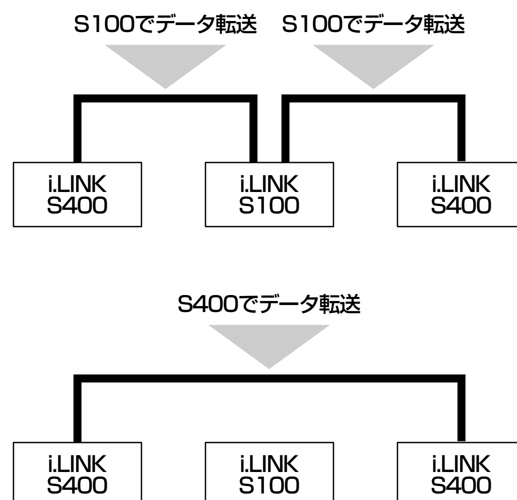
ご注意

- 本機では、ビデオ信号に対応している機器のデータのやりとりを行うことはできません。ビデオ信号に対応している機器には、「i.LINK(VIDEO)」や「DV」と表記されています。
- 著作権保護されたコンテンツを本機で受信するためには、再生する対応機器がDTCP方式の著作権保護技術に対応している必要があります。

データ転送速度について

本機は、IEEE1394a規格であるS100(100Mbps)、S200(200Mbps)、S400 (400Mbps)の3種類の転送レートに対応しています。S100/S200/S400の異なったデータの転送速度は、接続した機器間で混在することが可能です。ただし、転送速度が遅い機器を経由する場合は、その機器の転送速度の制限を受けます。

例えば、3台のi.LINK(AUDIO)対応機器を接続している場合に、両側の機器がS400まで対応しており、間の機器がS100しか対応していないときは、両側の機器同士を直接接続すればS400でのデータ転送が可能ですが、間のS100対応機器を経由して接続した場合には、機器間のデータ転送は、すべてS100で行われます。できるだけ最大転送速度が同じ機器同士を並べて接続することをおすすめします。



データ転送プロトコルについて

本機の転送プロトコルは、AV機器のためのAVプロトコル(A&Mプロトコル含む)に対応しています。
AVプロトコルの伝送フォーマットには、オーディオストリームを扱うA&Mプロトコルと、AVストリームを扱うDVフォーマットやTSフォーマット(MPEG-2 TS)があり、本機ではA&Mプロトコルに対応しています。

A&Mプロトコル (Audio and Music Data Transmission Protocol)は、高音質のオーディオ信号および電子楽器のリアルタイムデータ(MIDIデータ)をIEEE1394で接続された機器間でリアルタイムにやりとりするための規格です。

ご注意

- DVDビデオの場合、ビデオ/オーディオ信号はTSフォーマットで伝送されます。本機は、TSフォーマットに対応していないので、映像はもとより、音声も再生することができません。

デジタル音声出力について

i.LINKで受信したオーディオ信号の内、IEC60958フォーマットの2chリニアPCM信号(量子化ビット数16bit/サンプリング周波数48kHz以下)、およびIEC61937フォーマットの圧縮オーディオ信号(非リニアPCM)を受信した場合は、デジタル出力することができます。

- 著作権保護(暗号化して伝送)されていないS/P DIFフォーマットのデータは、すべてデジタル出力可能です。
- 著作権保護(暗号化して伝送)されたS/P DIFフォーマットのデータは、量子化ビット数16bit/サンプリング周波数48kHzを超えるリニアPCM信号を除いてデジタル出力可能です。量子化ビット数16bit/サンプリング周波数48kHzを超えるリニアPCM信号は、著作権保護のためデジタル出力を禁止しています。

ご注意

- DVDオーディオフォーマット(マルチチャンネルPCM)、およびスーパーオーディオCDフォーマットの信号は、デジタル出力できません。

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記の点をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や、対処しても正常に動作しない場合は、本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いて、お買上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせ、サービスをご依頼ください。

全般

症状	原因	対策	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れてしまう	電源コードの接続が不完全。	電源コードをACコンセントおよび本体AC IN端子にしっかりと差し込んでください。	—
	(再度電源を入れたときに、「CHECK SP WIRES!」と表示されるとき)スピーカーケーブルがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されているか確認してください。	準備・接続編 16、17
	内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	—
STANDBY/ONスイッチ(SYSTEM POWERキー)を押しても電源が入らない	電源コードの接続が不完全。	電源コードをACコンセントおよび本体AC IN端子にしっかりと差し込んでください。	準備・接続編 30
	内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	—
使用中に突然電源が切れる	機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。	温度が下がるのを待って、電源を入れなおしてください。	—
	オフタイマーが作動した。	電源を入れて、ソースを再生しなおしてください。	—
オンスクリーン画面が表示されない	オンスクリーン画面を表示しない設定にしている。	マニュアル設定メニュー「その他の設定：表示の設定」の「オンスクリーン表示」を、「表示する」に設定してください。	応用操作編 41
音声や画像が出ない	接続が不完全。	接続を確認してください。	準備・接続編 14〜29
	再生したいソースが、正しく選ばれていない。	INPUTセレクターやMULTI CH INPUTキーで、再生したいソースを正しく選んでください。	基本操作編 4〜13
	スピーカーの接続が不完全。	接続を確認してください。	準備・接続編 16、17
	音を出すスピーカーが、正しく選ばれていない。	SPEAKERS A/Bスイッチ(SPEAKERS A/Bキー)で、スピーカーを正しく選んでください。	基本操作編 5
	音量が絞られている。	音量を大きくしてください。	基本操作編7
	消音されている。	リモコンのMUTEキーまたはVOLUME＋/－キーを押して消音を解除し、音量を調節してください。	基本操作編 7
	CD-ROMなど、本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。	—
	オプティマイザーマイクが接続されている。	オプティマイザーマイクを外してください。	—
音声が突然出なくなる	消音した。	リモコンのMUTEキーまたはVOLUME＋/－キーを押して消音を解除し、音量を調節してください	基本操作編 7
片側のチャンネルの音声がほとんど出ない	接続が不完全。	接続を確認してください。また、スピーカーケーブルが断線していないか確認してください。	準備・接続編 14〜29

症状	原因	対策	参照ページ
エフェクトスピーカー（センター、サラウンドL/R、サラウンドバックL/R）から音声が出ない	「2chステレオ」または「ダイレクト」で再生している。	別の音場プログラムを選んでください。	基本操作編 4～13
	ドルビーデジタル、DTSおよびAAC信号でエフェクトチャンネル信号が入っていないソースを再生している。	別の音場プログラムを選んでください。	基本操作編 4～13
センタースピーカーから音声が出ない	センタースピーカーの音量が絞られている。	センタースピーカーの音量を調節してください。	応用操作編 28、72
	マニュアル設定メニュー「基本設定：スピーカーの設定」の「センター」を、「無」に設定している。	お使いのセンタースピーカーに合わせて、「大」または「小」に設定してください。	応用操作編 27
	Hi-Fi DSP音場プログラムを選んでいる。	DSP処理の仕様により、入力信号のフォーマットによっては、センタースピーカーからの音声出力がない場合があります。	—
サラウンドL/Rスピーカーから音声が出ない	サラウンドL/Rスピーカーの音量が絞られている。	サラウンドL/Rスピーカーの音量を調節してください。	応用操作編 28、72
	マニュアル設定メニュー「基本設定：スピーカーの設定」の「サラウンド」を、「無」に設定している。	お使いのサラウンドL/Rスピーカーに合わせて、「大」または「小」に設定してください。	応用操作編 27
	「サラウンド」プログラムで、モノラルソースを再生している。	別の音場プログラムを選択してください。	基本操作編 4～13
サラウンドバックスピーカーから音声が出ない	サラウンドバックスピーカーの音量が絞られている。	サラウンドバックスピーカーの音量を調節してください。	応用操作編 28、72
	マニュアル設定メニュー「基本設定：スピーカーの設定」の「サラウンド」を、「無」に設定している。	「サラウンド」を「無」に設定すると、自動的に「サラウンドバック」も「無」に設定されます。「サラウンド」の設定を、「大」または「小」に設定してください。	応用操作編 27
	マニュアル設定メニュー「基本設定：スピーカーの設定」の「サラウンドバック」を、「無」に設定している。	お使いのサラウンドバックスピーカーに合わせて、「大2台」、「小2台」、「大1台」、「小1台」のいずれかに設定してください。	応用操作編 27
プレゼンスL/Rスピーカーから音声が出ない	プレゼンスL/Rスピーカーの音量が絞られている。	プレゼンスL/Rスピーカーの音量を調節してください。	応用操作編 28、72
	マニュアル設定メニュー「基本設定：スピーカーの設定」の「プレゼンス」を、「使用しない」に設定している。	「使用する」に設定してください。	応用操作編 27
サブウーファーから音声が出ない	マニュアル設定メニュー「基本設定：サブウーファー設定」の「低音出力先」を「フロントに出力」に設定したまま、ドルビーデジタル、DTSおよびAAC信号を再生している。	「サブウーファーのみ」または「フロントとサブウーファー」に設定してください。	応用操作編 26
	マニュアル設定メニュー「基本設定：サブウーファー設定」の「低音出力先」を「サブウーファーのみ」または「フロントに出力」に設定したまま、2チャンネル信号を再生している。	「フロントとサブウーファー」に設定してください。	応用操作編 26
	再生しているソースにLFEや低音信号が含まれていない。		—
ドルビーデジタルまたはDTSソフトの再生ができない（本機のディスプレイのドルビーデジタルまたはDTSインジケーターが点灯しない）	接続したプレーヤーなどの設定が「デジタル出力」かつ「ドルビーデジタルまたはDTS」に設定されていない。	お使いのプレーヤーの取扱説明書を参照し、正しく設定してください。	—
低音の再生不良	マニュアル設定メニュー「基本設定：スピーカーの設定」の「クロスオーバー」が、正しく設定されていない。	お使いのスピーカーシステムに合わせて、正しく設定してください。	応用操作編 27
	マニュアル設定メニュー「基本設定：スピーカーの設定」の設定が、実際のスピーカーシステムの構成と一致していない。	お使いのスピーカーシステムに合わせて、各スピーカーを正しく設定してください。	応用操作編 27

症状	原因	対策	参照ページ
ハム音が出る	ステレオピンケーブルの接続が不完全。	ステレオピンケーブルをしっかり差し込んでください。	準備・接続編 18〜29
	レコードプレーヤーのアースがSIGNAL GND端子に接続されていない。	アースコードを本機のSIGNAL GND端子に接続してください。	準備・接続編 22
レコードの再生音が小さい	MCカートリッジが装着されたレコードプレーヤーで再生している。	MCヘッドアンプまたはMCトランスを介してレコードプレーヤーを本機に接続してください。	準備・接続編 22
音量を上げることができない、または音が歪んでいる	本機のOUT（REC）端子に接続された機器の電源が入っていない。	AVアンプという製品ジャンルの特性上、OUT（REC）端子に接続している機器の電源が切れている場合に、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。本機に接続しているすべての機器の電源を入れてください。	—
サラウンドと音場効果を付加した音を録音できない	サラウンドと音場効果を付加した音は録音できません。		—
録音できない	デジタル録音時にアナログで信号を入力している。	デジタルで信号を入力してください。	—
	本機と再生機器および録音機器がデジタル接続されていない。	デジタル接続をしてください。	準備・接続編 18〜29
	アナログ録音時にデジタルで信号を入力している。	アナログで信号を入力してください。	—
	本機と再生機器および録音機器がアナログ接続されていない。	アナログ接続をしてください。	準備・接続編 18〜29
	録音機器によっては、ドルビーデジタル、DTSおよびAACなどのデジタルデータを録音できません。		—
音場プログラムパラメーターなど、設定を変更できない	設定の保護メニューで、設定が保護されている。	設定の保護メニューで、設定を変更したい項目を、「可変」に設定します。	応用操作編 48〜50
セットメニューなどの設定内容が消えている	1週間以上電源コンセントを抜いていたり、外部タイマーが切れたままになっていた。	1週間以上電源コンセントを抜いたままにしておくと、内蔵メモリの内容が消えてしまうことがあります。もう一度設定しなおしてください。	—
本機が正常に作動しない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	—
本機に接続している機器にヘッドホンを接続して聴いていると、音が歪む	本機の電源がスタンバイ状態になっている。	本機の電源を入れてください。	基本操作編 4〜13
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機をそれらの機器から離して設置してください。	—
ファンが回る音がときどき聞える	放熱のため、本機内部にはファンが取り付けられています。本機内部の温度が上昇したとき、または電源を入れたときなどに動作します。		—

リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
リモコンで操作できない	リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光部から6ｍ以内、角度30°以内の範囲で操作してください。	準備・接続編 10
	受光部に日光や照明(インバーター蛍光灯やストロボライトなど)が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	—
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて交換してください。	準備・接続編 9、10
外部機器がリモコンで操作できない	操作する機器が選ばれていない。	入力選択キーを押して、操作したい機器を選ぶ。	応用操作編 61～64
	メーカーコードが正しく設定されていない。	メーカーコードを設定しなおすか、同じメーカーのコードの中から別のコードを設定してください。	応用操作編 57
	メーカーコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合があります。	メーカーコードで操作できない機能は、機器のリモコンから本機のリモコンにラーニング(学習)してください。	応用操作編 59
リモコンが新しい機能をラーニング(学習)しない	本機のリモコンまたは他の機器のリモコンの電池が消耗している。	電池を交換してください。	準備・接続編 9、10
	2台のリモコン間の距離が離れすぎているか、近すぎる。	2台のリモコンを5～10cmの距離に配置してください。	応用操作編 59
	他の機器のリモコンの信号コードと本機のリモコンとの互換性がない。	ラーニング(学習)はできません。	—
	メモリ容量がいっぱいになっている。	ラーニングされている機能のうち、不要なものを消去して、メモリ容量に空きを作ってください。	応用操作編 70

音声フォーマット編

ドルビーサラウンド

ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、フロントL/Rチャンネル(ステレオ音声)、会話などを再生するセンターチャンネル(モノラル音声)、効果音のサラウンドチャンネル(モノラル音声)の、アナログ4チャンネル方式を採用しています。サラウンドチャンネルの再生域は狭くなっています。
現在、ほとんどのソフトに普及している方式です。本機内蔵のドルビープロロジックデコーダーは、各チャンネルの音量を自動的に調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理を行います。

ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロント3チャンネル(フロントL/R、センター)と、サラウンド2チャンネル(サラウンドL/R)、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1チャンネルで構成されます。
サラウンド2チャンネルがステレオで収録されているため、ドルビーサラウンドと比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の5チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。

ドルビーデジタルサラウンドEX

本機は5.1チャンネルのソースに、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にする、ドルビーデジタルサラウンドEXソフト対応のドルビーデジタルEXデコーダーを内蔵しています(サラウンドバックチャンネルはサラウンドLとサラウンドRチャンネルから作られます)。
ドルビーデジタルサラウンドEXで録音された映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。この追加チャンネルにより、特に飛び越えたり飛び回ったりといった動きのあるシーンで、よりダイナミックでリアルな動作音をお楽しみいただけます。

ドルビープロロジックII

2チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま5.1チャンネル音声に変換します。映画用のMovieモード、音楽用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。従来の2チャンネル音声(モノラル音声を除く)だけで記録された古い映画も、5.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

ドルビープロロジックIIx

2チャンネルで記録された音声はもちろん、マルチチャンネルで記録された音声をも信号処理し、自然な7.1チャンネル音声をフルレンジで再生します。映画用のMovieモード、音楽用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。

DTS(デジタル・シアター・システムズ)デジタルサラウンド

DTSデジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる5.1チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。この技術を家庭用に調整したものが、本機で採用しているDTSシステムです。
極めて劣化が少なく、クリアな音質の6チャンネル(フロントL/R、センター、サラウンドL/Rチャンネル、サブウーファー用LFE0.1チャンネルを加えた5.1チャンネル)で構成されています。

DTS-ES

本機は5.1チャンネルのソースに、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にする、DTS ESデコーダーを内蔵しています。5.1チャンネルの信号と独立して記録されたサラウンドバックチャンネル信号を再生する、ディスクリート方式と、サラウンドL/Rチャンネル信号からサラウンドバックチャンネル信号を生成して再生する、マトリクス方式の2つの方式に対応しています。
DTS-ESで録音された音楽や、映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。

DTS Neo：6

2チャンネル信号のソースを、サラウンドバックを含めた6チャンネルで再生できます。再生するソースに合わせて、音楽用のMusicモードと、映画用のCinemaモードが用意されています。すべてのチャンネルを全帯域で再生できるだけでなく、ディスクリート方式で記録されたソースのようなチャンネルの分離感を体感できます。

DTS 96/24

DTS 96/24フォーマットで収録されたソフトに記録されている、DTS信号の拡張用データを使用して「サンプリング周波数96kHz/量子化ビット数24ビット」の高音質での5.1チャンネル再生が可能です。

AAC(アドバンスト・オーディオ・コーディング)

MPEG-2オーディオ規格の1つで、BSデジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で7チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。
本機はAACデコーダーを搭載しているので、BSデジタルチューナーで受信した番組の5.1チャンネル音声をデコード(復号)して再生できます。

音場プログラム編

シネマDSP(デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー)

ドルビーサラウンドやDTSのシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。
ヤマハシネマDSPは、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTSのシステムと組み合わせて音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

バーチャルシネマDSP

サラウンドL/Rスピーカーを設置していなくとも、仮想的にサラウンドL/Rスピーカーの音場を再現することで、音場プログラムを楽しめます。
センタースピーカーを設置できない場合でも、フロントL/Rスピーカーだけで、バーチャルシネマDSPをお楽しみいただけます。

サイレントシアター

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

THX

THXは、世界的に有名な映画制作会社であるルーカスフィルム社が開発した独自規格と技術を集約したものです。「映画館でも家庭でも、映画監督の思い描いたサウンドトラックをできる限り忠実に再現したい」という、ジョージ・ルーカス監督の情熱により開発されました。

THX Ultra2

THX Ultra2の認証を取得したホーム・シアター・コンポーネントは、いずれも一連の厳しい品質/性能試験に合格しています。このような製品にのみ付与されているTHX Ultra2のロゴは、ご購入いただいたホーム・シアター製品が、長期間にわたって卓越した性能を発揮することを保証するものです。THXウルトラ2の要件には、パワーアンプ性能、プリアンプ性能、デジタル/アナログ空間での動作などをはじめとする、何百ものパラメーターが定義されています。
従来のTHX Ultra規格に対して、パワーアンプ部の向上を図るとともに、THX Ultra2 CinemaとTHX MusicModeの2つのモードが新たに追加されました。

THX Cinema

映画のサウンドトラックは、ダビングステージと呼ばれるミキシング専用の大型映画館で制作されます。これらのサウンドトラックは、同じ装置を備える映画館での上映のために制作されていますが、DVDなどに収録する際も、一切変更を加えず、そのまま収録されています。
THX Cinemaは、映画館向けのサウンドトラックを、映画館と家庭との空間的な違いによる音色の差を補正することで、一般家庭でも映画館と同等の臨場感で再生します。

THX Surround EX

THX Surround EXは、ドルビーラボラトリーズとルーカスフィルム社THX部門の共同開発です。
映画館では、ドルビーデジタルサラウンドEX技術でエンコードされたサウンドトラックにより、ミキシング時に追加されたサラウンドバックチャンネルを再現することが可能です。従来のフロントL/R、センター、サラウンドL/R、サブウーファーという5.1チャンネルに、サラウンドバックチャンネルを加えることにより、後方部の拡がり感をより緻密に再現し、音の定位感ももたらします。
THX Surround EXは、ドルビーデジタルサラウンドEX技術でエンコードされたサウンドトラックを、映画館で上映されたときの臨場感のまま、一般家庭で再生します。
ドルビーデジタルサラウンドEX技術を使って制作された映画は、DVDなどで市場で販売される際、そのパッケージに効果に関する説明を表示しているものがあります。ドルビーデジタルサラウンドEX技術を使って制作された映画の一覧、およびドルビーデジタルサラウンドEX技術を使ってエンコードされたDVDタイトルの一覧は、それぞれ下記のウェブサイトでご覧になれます。
映画一覧：http://www.dolby.com
DVDタイトル一覧：http://www.thx.com

THX Ultra2 Cinema

THX Ultra2 Cinemaは、8本のスピーカーを使用して5.1チャンネルの映画ソースを再生する場合に最適なサラウンドモードです。このモードでは、2本のサラウンドスピーカーと2本のサラウンドバックスピーカーの音をブレンドする新しいTHX処理により、サラウンドの広がり感と方向感を同時に再現し、最適なサラウンド空間を生み出します。
THX Ultra2 Cinemaで再生中は、DTS ES(マトリクスおよびディスクリート)や、ドルビーデジタルサラウンドEXでエンコードされたサウンドトラックに認識信号(フラグ)が含まれている場合には、自動的に識別されます。
ドルビーデジタルサラウンドEXでエンコードされたサウンドトラックには、このようなフラグが含まれていないものがあります。このようなソースを再生する場合は、ソースがドルビーデジタルサラウンドEXでエンコードされているかどうかをパッケージなどで確認したうえで、手動でSurround EXモードに切り替えることができます。ソースがドルビーデジタルサラウンドEXでエンコードされていない場合は、THX Ultra2 Cinemaで再生します。

THX MusicMode

THX MusicModeは、5.1チャンネルの音楽ソースを再生する場合に最適なサラウンドモードです。DTS、ドルビーデジタルなどで収録された5.1チャンネルの音楽ソースに対して、Advanced Speaker Arrayの処理をすることにより、広がりのある安定したサラウンド空間を再現します。

Re-Equalization(リ・イコライゼーション)

映画のサウンドトラックは、映画館での上映用に制作されているため、家庭用の機器で再生すると、明るすぎたり、うるさく聞こえてしまいます。リ・イコライゼーションは、このような映画のサウンドトラックを小型のホームシアターで、最適な音のバランスを再現して再生します。

Timbre Matching(ティンバー・マッチング)

人間の耳は、音の来る方向によって音の感じ方が変わります。映画館では、サラウンドスピーカーが聴衆を囲むように配置されているため、音が全方向から来ますが、ホームシアターでは、リスナーの両側2本のみが使われます。ティンバー・マッチングは、サラウンドスピーカーからの音を、フロントスピーカーの音の特性に合わせることで、フロントーサラウンド間の音のつながりをスムーズにし、拡がりがあるサウンドを再現します。

Adaptive Decorrelation(アダプティブ・デコリレーション)

映画館では、多数のサラウンドスピーカーが創り出す、包み込むようなサラウンドサウンドが体験できます。しかし、ホームシアターでは通常2本のスピーカーしか使われないため、空間的な拡がりや、サラウンド感に欠けてしまったり、また近接したスピーカーにサラウンドサウンドを取り込まれてしまいます。アダプティブ・デコリレーションは、サラウンドチャンネル間の時間と位相を微妙に変化させることにより、2本のスピーカーだけを使って、映画館と同様の拡がりがあるサウンドを再現します。

Advanced Speaker Array (アドバンスト・スピーカー・アレイ)

最適なサラウンド空間を再現するために、2本のサラウンドスピーカーと2本のサラウンドバックスピーカーへ出力される音を処理する、THX独自の技術です。8つのスピーカー(フロントL、センター、フロントR、サラウンドR、サラウンドバックR、サラウンドバックL、サラウンドL、サブウーファー)でホームシアターシステムをセットアップしている場合に、2本のサラウンドバックスピーカーを近接して、部屋の前方に向かって設置することにより、もっとも広い視聴エリアを得ることができます。2本のサラウンドバックスピーカーを離して設置しなければならない場合は、「THXの設定」メニューで、実際のスピーカー配置にもっとも近い設定を選ぶ必要があります。これにより、サラウンド空間が最適化されます。
Advanced Speaker Arrayは、新しい2つのサラウンドモードであるTHX Ultra2 CinemaとTHX MusicModeで使用されます。

Boundary Gain Compensation (バウンダリー・ゲイン・コンペンセーション)

THX Ultra2対応のサブウーファーや、低域再生能力がある(周波数特性が20Hz程度まで伸びている)サブウーファーを使用しているときに、壁面の影響で、低音のレベルが大きくなる場合があります。Boundary Gain Compensationは、このように持ち上がってしまう低域のレベルを、聴感上、フラットに補正する技術です。

音声編

PCM(リニアPCM)

MP3形式やATRAC形式のようにアナログ音声信号を圧縮せずに、そのまま符号化して録音・伝送する方式です。
「PCM」は、パルス・コード・モジュレーションの略で、デジタル信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。
音楽CDや、DVDオーディオの録音方法などで採用されています。PCM方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える(サンプリング)手法を用いています。

LFE(ロー・フリケンシー・エフェクト)0.1チャンネル

音声成分の帯域が20～120Hzの、低音域専用チャンネルです。
ドルビーデジタルとDTS、AACで、全帯域用の5チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているので、0.1と表現されます。

サンプリング周波数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1秒間にサンプリング(信号の大きさを数値に置き換えること)を行う回数をサンプリング周波数といいます。
再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がることになります。

量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、音の大きさを数値化するときのきめ細かさを量子化ビット数といいます。
音量の差を表わすダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できることになります。

映像編

コンポジットビデオ信号

輝度を表すY信号と、色を表すC信号をひとつにまとめて伝送する方式です。テレビのNTSC信号などが採用しています。

Sビデオ信号

映像信号を、輝度を表すY信号と、色を表すC信号に分けて伝送する方式です。S ビデオ端子で接続すると、より美しい映像で録画/再生をお楽しみいただけます。

コンポーネントビデオ信号

映像信号を、輝度を表すY信号と、色を表すPB/CB信号およびPR/CR信号の3系統に分けて伝送する方式です。それぞれの信号を独立して伝送するため、色をより忠実に再現できます。また、コンポーネントビデオ信号は、色を表わす信号から輝度を表わす信号を引いているので、色差信号とも呼ばれます。

S1/S2端子

4：3に圧縮されたワイドソフトを、自動的に16：9のサイズに戻して映し出します。これに加え、レターボックス方式で収録されたソフトを、自動的にワイド画面いっぱいに映し出すこともできます。

D端子

最新のAV機器間での映像信号の伝送に用いられる端子で、コンポーネントビデオ信号とコントロール信号(走査線、アスペクト比、インターレース/プログレッシブの情報)を、一本の専用ケーブルで接続できます。その性能に応じてランクがD1からD5に分けられています。本機にはD5 VIDEO端子が装備されており、D1からD5の規格に対応しています。

DCDi™回路

Directional Correlational Deinterlacingの略で、ファロージャ社が開発した、高画質回路のことです。最先端のエッジカッティング技術により、インターレース方式の信号を、プログレッシブ方式に変換するときに発生するジャギー(ギザギザ感)をなくし、滑らかで自然な映像を再現します。

インターレース

一画面の走査線を奇数段、偶数段にわけ、交互に表示する走査方式です。通常のテレビなどに使われています。

プログレッシブ

一画面すべての走査線を、一度に表示する走査方式です。走査線をわけて交互に表示するインターレース方式に比べ、ちらつきの少ない、滑らかな映像を映し出すことができます。

TrueLife™ Enhancer by Faroudja

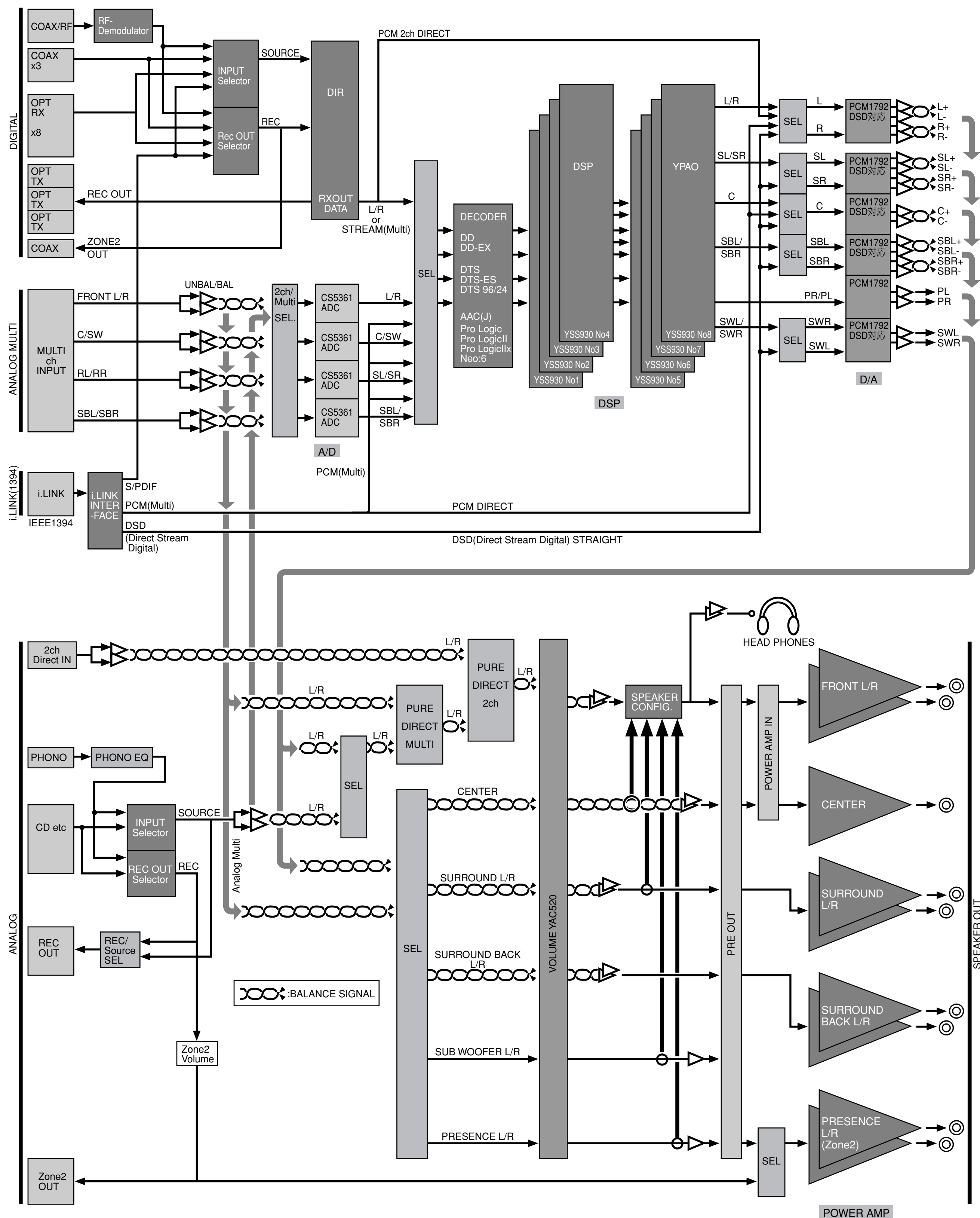
ファロージャ社が開発した、ビデオエンハンサーのことです。肌の質感や、髪の毛など細部に至るまできめの細かい映像と、より生き生きとした映像を再現することができます。

Time Base Corrector (タイム・ベース・コレクター)

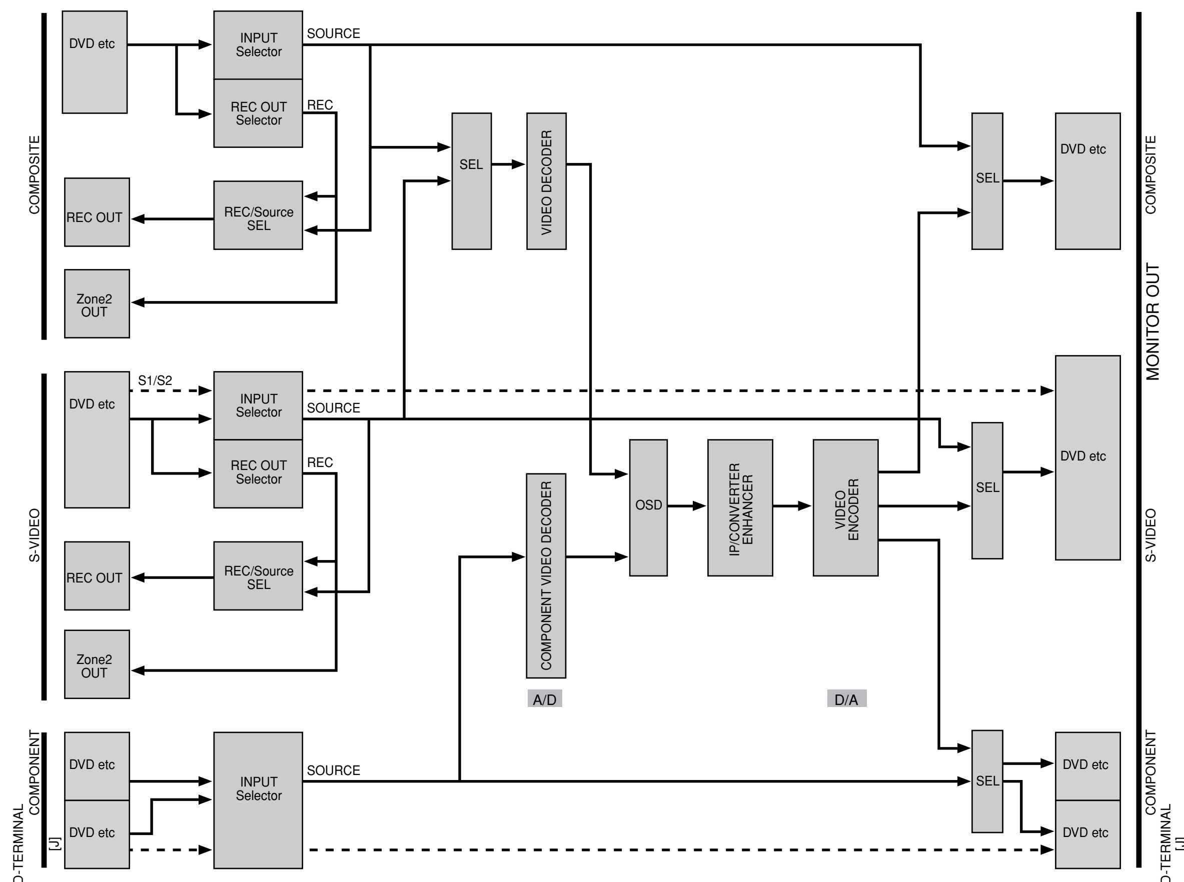
ビデオテープの走行ムラなどに起因する、映像信号の時間軸の誤差を補正して、画面の横ゆれ、色の変動を防ぐ機能です。

ブロックダイアグラム

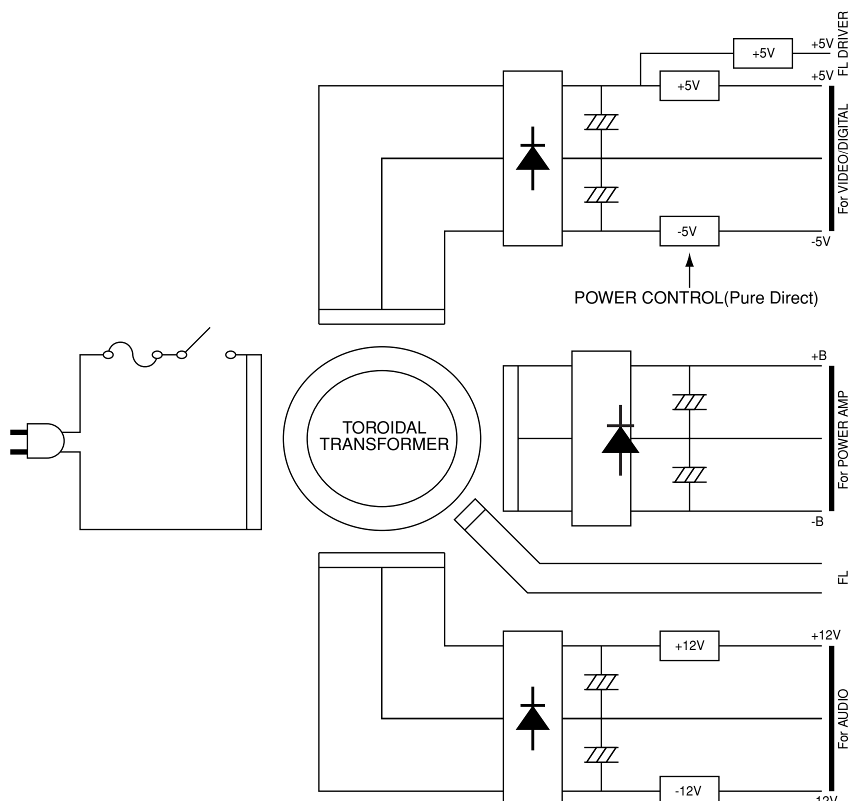
オーディオ系



ビデオ系


COMPOSITE
DVD etc
INPUT Selector
SOURCE
REC OUT Selector
REC
REC OUT
REC/Source SEL
Zone2 OUT
SEL
VIDEO DECODER
S-VIDEO
S1/S2
OSD
IP/CONVERTER ENHANCER
VIDEO ENCODER
COMPONENT VIDEO DECODER
A/D
D/A
COMPONENT
D-TERMINAL
[J]
MONITOR OUT

電源部


+5V
FL DRIVER
For VIDEO/DIGITAL
-5V
POWER CONTROL(Pure Direct)
TOROIDAL TRANSFORMER
+B
For POWER AMP
-B
FL
+12V
For AUDIO
-12V

主な仕様

オーディオ部

定格出力(6Ω、20Hz〜20kHz、0.015% THD)
フロントL/R .... 170W+170W
センター 170W
サラウンドL/R .... 170W+170W
サラウンドバックL/R .... 170W+170W
プレゼンスL/R(6Ω、20Hz〜20kHz、0.05% THD)
.... 50W+50W

実用最大出力(EIAJ、6Ω、1kHz、10% THD)
フロントL/R .... 250W+250W
センター 250W
サラウンドL/R .... 250W+250W
サラウンドバック 200W
プレゼンスL/R .... 70W+70W

ダンピングファクター (8Ω、20Hz〜20kHz)
フロントL/センター/フロントR 200以上

入力感度/インピーダンス
CD他 200mV/47kΩ
PHONO(MM) 2.5mV/47kΩ
FRONT IN 1V/47kΩ

出力電圧/インピーダンス
REC OUT 200mV/0.5kΩ
PRE OUT 1.0V/0.5kΩ
SUBWOOFER(SPLIT) 2.0V/1.5kΩ
SUBWOOFER(MONO) 4.0V/1.5kΩ

ヘッドホン出力/インピーダンス 200mV/100Ω

周波数特性(10Hz〜100kHz)
CD他−フロントL/R .... −3.0dB

トーンコントロール
BASS .... ±6dB
(ターンオーバー周波数：125/350/500Hz)
TREBLE .... ±6dB
(ターンオーバー周波数：2.5k/3.5k/8.0kHz)

クロスオーバー特性
SUBWOOFER
.... 40/60/80/90/100/110/120/160/200Hz

全高調波歪率(20Hz〜20kHz)
PHONO(MM)−REC OUT 0.01%以下
CD他−FRONT OUT 0.005%以下
FRONT/CENTER IN−フロントL/センター/フロントR SP OUT
.... 0.008%以下

S/N比(IHF-Aネットワーク、入力ショート)
PHONO(MM)(2.5mV入力) 80dB以上
CD他(200mV入力) 98dB以上

残留ノイズ(IHF-Aネットワーク)
フロントL/R SP OUT 150μV以下

チャンネルセパレーション(1kHz/10kHz)
PHONO(MM)(入力ショート) 70dB以上/60dB以上
CD他(5.1kΩ入力ショート) 70dB以上/60dB以上

A/Dコンバーター 192kHz対応24ビットA/Dコンバーター

D/Aコンバーター DSD/PCM対応24ビットD/Aコンバーター

ビデオ部

対応テレビ方式 .... NTSC(PALに設定可能)

コンポジットビデオ信号レベル 1Vp-p/75Ω

Sビデオ信号レベル
Y 1Vp-p/75Ω
C 0.286Vp-p/75Ω

コンポーネントビデオ信号レベル
Y 1Vp-p/75Ω
PB/CB、PR/CR 0.7Vp-p/75Ω

S/N比(プロセッサーオフ時) 70dB以上

MONITOR OUT周波数帯域(プロセッサーオフ時)
VIDEO .... 5Hz〜10MHz、−3dB
S VIDEO .... 5Hz〜10MHz、−3dB
COMPONENT VIDEO .... 5Hz〜100MHz、−3dB
D5 VIDEO .... 5Hz〜100MHz、−3dB

総合

電源電圧 .... AC 100V、50Hz/60Hz

消費電力 700W

待機時消費電力 0.85W

ACアウトレット(電源スイッチ連動×2) 合計120W

寸法(幅×高さ×奥行き) .... 435×211×471mm

質量 30.0kg

※仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

メーカーコード一覧

本機のリモコンに内蔵のライブラリーは全世界対応です。下表は主に日本で流通しているメーカーのコードを抜粋したものです。下表のメーカー製品であっても形式、年式によって使用できないものがあります。他社のメーカーコードを設定した場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。この場合は、お使いの機器専用のリモコンをご利用ください。設定方法については「リモコンで操作できる機器を指定する」(57ページ)を参照してください。

メーカー名	短縮表示	フル表示
TV		
AIWA	Aiwa	–
DAEWOO	Daew1～6	Daewoo-1～6
FUNAI	Funai	–
GOLDSTAR	Gold1～6	Goldstar-1～6
HITACHI	Hita1～4	Hitachi-1～4
MITSUBISHI	Mits1～4	Mitsubishi-1～4
NEC	NEC-1～3	–
PANASONIC	Pana1～4	Panasonic-1～4
PHILIPS	Phip1～2	Philips-1～2
PIONEER	Pion1～4	Pioneer-1～2
SAMSUNG	Sams1～6	Samsung-1～6
SANYO	Sany1～3	Sanyo-1～3
SHARP	Shar1～3	Sharp-1～3
SONY	Sony	–
TOSHIBA	Tosh1～4	Toshiba-1～4
VICTOR	JVC-1～4	–
YAMAHA	Yama1～3	Yamaha-1～3
ケーブルTVチューナー		
PIONEER	Pion1～2	Pioneer-1～2
BSデジタルチューナー		
PANASONIC	Pana1～2	Panasonic-1～2
SONY	Sony1～2	–
TOSHIBA	Tosh1～2	Toshiba-1～2
テープデッキ		
DENON	DENO1～4	DENON-1～4
KENWOOD	Kenw1～6	Kenwood-1～6
ONKYO	Onky1～7	Onkyo-1～7
PIONEER	Pion1～5	Pioneer-1～5
SONY	Sony1～2	Sony-1～2
TEAC	Teac1～4	Teac-1～4
TECHNICS	Tech1～2	Technics-1～2
VICTOR	JVC-1～4	–
YAMAHA	Yama1～2	Yamaha-1～2

メーカー名	短縮表示	フル表示
ビデオデッキ		
AIWA	Aiwa1～2	Aiwa-1～2
DAEWOO	Daew1～4	Daewoo-1～4
FUNAI	Funai	–
GOLDSTAR	Golds	Goldstar
HITACHI	Hita1～5	Hitachi-1～5
MITSUBISHI	Mits1～5	Mitsubishi-1～5
NEC	NEC-1～2	–
PANASONIC	Pana1～6	Panasonic-1～6
SAMSUNG	Sams1～6	Samsung-1～6
SANYO	Sany1～3	Sanyo-1～3
SHARP	Shar1～3	Sharp-1～3
SONY	Sony1～3	Sony-1～3
TOSHIBA	Tosh1～3	Toshiba-1～3
VICTOR	JVC-1～6	–
YAMAHA	Yama1～4	Yamaha-1～4
DVDプレーヤー		
DENON	DENO1～2	DENON-1～2
FUNAI	Funai	–
HITACHI	Hitac	Hitachi
KENWOOD	Kenwo	Kenwood
MITSUBISHI	Mitsu	Mitsubishi
ONKYO	Onky1～2	Onkyo-1～2
PANASONIC	Pana1～2	Panasonic-1～2
PHILIPS	Phil1～2	Philips-1～2
PIONEER	Pion1～3	Pioneer-1～3
SAMSUNG	Samsu	Samsung
SHARP	Sharp	–
SONY	Sony	–
TOSHIBA	Toshi	Toshiba
VICTOR	JVC	–
YAMAHA	Yama1～4	Yamaha-1～4
LDプレーヤー		
DENON	DENON	–
KENWOOD	Kenwo	Kenwood
PANASONIC	Panas	Panasonic
PHILIPS	Phil1～2	Philips-1～2
PIONEER	Pion1～2	Pioneer-1～2
SONY	Sony	–
YAMAHA	Yamah	Yamaha

メーカー名	短縮表示	フル表示
CDプレーヤー		
DENON	DENON	–
KENWOOD	Kenw1～3	Kenwood-1～3
ONKYO	Onkyo	–
PANASONIC	Pana1～2	Panasonic-1～2
PHILIPS	Phil1～3	Philips-1～3
PIONEER	Pione	Pioneer
SANYO	Sanyo	–
SHARP	Sharp	–
SONY	Sony	–
TEAC	Teac1～3	Teac-1～3
TECHNICS	Tech1～2	Technics-1～2
VICTOR	JVC-1～2	–
YAMAHA	Yama1～2	Yamaha-1～2
CDレコーダー		
DENON	DENO1～2	DENON-1～2
HITACHI	Hitch	Hitachi
MARANTZ	Maran	Marantz
PHILIPS	Phili	Philips
PIONEER	Pione	Pioneer
SONY	Sony	–
TEAC	Teac	–
VICTOR	JVC-1～2	–
YAMAHA	Yamah	Yamaha
MDレコーダー		
DENON	Denon	–
KENWOOD	Kenwo	Kenwood
ONKYO	Onkyo	–
PIONEER	Pione	Pioneer
SHARP	Sharp	–
SONY	Sony	–
TEAC	Teac	–
YAMAHA	Yama1～3	Yamaha-1～3

索引

(準):「準備・接続編」を参照ください。
(基):「基本操作編」を参照ください。
(応):「応用操作編」(本書)を参照ください。

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ラ行

A、B、C、D、E、F

G、H、I、J、K、L

M、N、O、P、Q、R

S、T、U、V、W、X、Y、Z

数字、記号

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。
このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

● **保証期間**
お買い上げ日より1年間です。

● **保証期間中の修理**
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● **保証期間が過ぎているとき**
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● **修理料金の仕組み**
◆ **技術料** 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
◆ **部品代** 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
◆ **出張料** 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● **補修用性能部品の最低保有期間**
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● **持ち込み修理のお願い**
故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

● **製品の状態は詳しく**
サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号はAV製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● **スピーカーの修理**
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● **摩耗部品の交換について**
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお薦めします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

■ ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問合せは

お客様ご相談センター
TEL (0570) 01 – 1808(ナビダイヤル)
全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。
TEL (053) 460 – 3409

FAX (053) 460 – 3489
住所 〒430-8650
静岡県浜松市中沢町10-1

ご相談受付時間 10:00〜12:00, 13:00〜18:00
(日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。)

■ ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問合せは

(ヤマハ電気音響製品サービス拠点)

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108

仙 台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F
TEL (022) 236 - 0249

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1番1号
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
TEL (03) 5762 - 2121

浜 松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
TEL (053) 465 - 6711

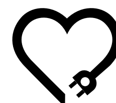
名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL (052) 652 - 2230

大 阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16
ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL (06) 6877 - 5262

四 国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7
(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
TEL (087) 822 - 3045

九 州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検



★永年ご使用のAV製品の点検を!

こんな症状はありませんか?
● 電源コード・プラグが異常に熱い。
● コゲくさい臭いがする。
● 電源コードに深いキズか変形がある。
● 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
● 電源を入れても正常に作動しない。
● その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。
事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ
http://www.yamaha.co.jp/audio/

ヤマハ株式会社
〒430-8650 浜松市中沢町10-1





この取扱説明書はエコパルプ(ECF:無塩素系漂白パルプ)を使用しています。



この取扱説明書は大豆油インクで印刷しています。

ヤマハ株式会社

Printed in Japan WC01750-2